

平成十六年度

幼児の原体験の生活背景と現代における保育課題

兵庫教育大学大学院修士課程

学校教育専攻 幼年教育コース

亀山秀郎

M03049B

目次

第一章 序論	1
第一節 問題の所在	2
第二節 目的	8
第三節 作業仮説	8
第二章 研究方法	10
第一節 質問紙調査の実施方法	11
第二節 事例研究	19
第三章 結果及び考察	22
第一節 質問紙調査の結果及び考察	23
第一項 幼児の原体験の現状	23
第二項 幼児の原体験と心身の健康状態	34
第三項 幼児の原体験と遊び状況	38
第四項 幼児の原体験と親の影響	43
第五項 幼児の原体験と住環境	53
第六項 幼児の原体験と生活背景との共分散構造分析	55
第二節 事例研究	58
第三節 現状の幼児の原体験と保育課題	72
終章 結論及び今後の課題	80
引用文献	83
巻末資料	89

第一章

序論

第一節 問題の所在

幼児の生活の中で仲間と共に遊び、周りの環境から体験することは、成長、発達の上で必要なものである。しかし、ベネッセ教育研究所（2000）¹⁾、中村（2002）²⁾の調査によると、都市化、核家族化そして少子化に伴い、年々幼児が仲間と共に外で遊ばなくなり、室内での遊びに移行していることが報告されている。こうした背景の1つに仙田（1992）は、子どもの身の回りから直接体験の豊富な遊び環境である自然スペースが急激に減少していることを指摘している³⁾。さらに、こうした遊びの変容が子どもの心身の健康に影響してきているという先行研究がある。例えば、子どものからだと心・連絡協議会（2003）によると⁴⁾、1985年を境に年々子どもの運動能力が減少しており、吉田ら（2002）によると、1997年の幼児の運動能力は1986年から比べ、3ヶ月から6ヶ月遅れていると述べている⁵⁾。また、杉原（1999）は、現在の子どもの運動能力の低下と共に、運動遊びで養われる有能感が低下しているという問題点も指摘している⁶⁾。前橋（2004）は、幼児の体温調節機能の低下、子ども遊びの変容によって、子どもの運動不足や身体の偏重の問題が起こっていると指摘している⁷⁾。

また、幼児の生活の中で情報機器によって現実感覚が希薄化し、間接体験の増加も多方面から指摘されている。谷村ら（1995）によると、長時間のメディア接触により生活時間の大半を奪われている実態が報告され、大人の配慮の欠落で、受動的・間接体験へ偏る可能性が述べられている⁸⁾。幼児のテレビ視聴に関するNHK放送文化研究所（2001）の調査によると、1990年と2000年を比べるとテレビ視聴は20分以上増加しており、母親のテレビ視聴時間と有意に関連することが指摘されている⁹⁾。テレビ視聴による幼児の影響に関して、服部ら（2004）は、テレビ視聴時間が長い幼児は戸外での遊びが減少していることや、生活習慣が乱れていることを明らかにしている¹⁰⁾。また、森上（1992）は、幼児の過度なテレビ視聴が、現実感覚の希薄化に繋がると指摘している¹¹⁾。このことから、幼児の長時間のテレビ視聴は、戸外での遊びを減少させ、活発な身体運動、さらには身体感覚を伴った直接体験の機会を奪ってしまう悪循環が推察される。

このような遊びや生活スタイルの変化を受け、1999年、生涯学習審議会は「生活体験・自然

体験が日本の子どもの心をはぐくむ―「青少年の〔生きる力〕をはぐくむ地域社会の環境の充実方策について」を答申し、子どもに対して多様な体験の機会を増やすことや遊び場を増やすことを提言している¹²⁾。さらに、歯止めがかからない体力低下の打開策として、2002年、中央教育審議会は「子どもの体力向上のための総合的な方策について」を答申し、体力向上に向けたキャンペーン「外遊びとスポーツのすすめ―体を動かそう全国キャンペーン―」の展開を打ち出し、地域、学校の取り組みの強化、生活習慣の改善を提言した¹³⁾。同答申においても自然体験活動の充実を挙げている。こうした方向性は幼児教育にも合致する。1998年の幼稚園教育要領では、幼稚園教育目標の中で「多様な体験を通じて豊かな感性を育て、創造力を豊かにするようになること」が明記されており¹⁴⁾、同年の中央教育審議会では、「幼児期からの心の教育の在り方について」の答申において幼児の心を育てるための幼稚園・保育所の取り組みについて、体験活動を積極的に取り入れることを提案している¹⁵⁾。

このような文教政策を受けて、生涯教育の根幹である幼児期の教育において、五感や体力、思考力、判断力、創造力を培うことができる様々な体験が改めて重要であることは明白である。しかし、1999年の幼稚園教育要領解説において自然体験や感動体験の必要性が盛んに述べられているが¹⁶⁾、幼児にとってどのような直接体験が必要であるかについては、具体的には述べられていない。

神宮（1996）は、多様な「直接体験」の重要性について、特に幼児期の戸外遊びの観点から、幼児の心理・社会的側面や運動能力の伸長に貢献することを実証的に明らかにしている¹⁷⁾。しかし、この戸外遊びも山本ら（1992）によると、大人の介在の仕方に影響を受けるため、大人の戸外遊びに対する理解がないと、幼児の心理・社会的側面や運動能力の伸長が阻害されることを指摘している¹⁸⁾。萩原（1990）は、幼児が家の近所で、ほぼ同年輩の他の幼児と戸外で遊ぶ「近所遊び」の状況と、「母親の遊びへの態度」、「社会的能力」、「幼児の有能感」との関連についての調査をしている¹⁹⁾。その結果、近所遊びなどを通して、幼児の有能感は育てられ、有能感が高まることによって、社会的能力として、「ことば」、「集団参加」、「自発性」、「自己統制」などを高めていくことを報告している。また、幼児を誉めたりしながら遊びに積極的に

関わる、母親の遊びへの支持的態度は子どもの有能感と関連を示すことを明らかにしている。また、梶木ら（2002）は、2年生と5年生児童の保護者を対象に調査を実施し、保護者の積極的な外遊びへの働きかけは、児童の外遊びの増加に繋がることを明らかにしている²⁰⁾。このように、子どもが活発に遊びを展開する為には、大人が積極的に幼児に戸外遊びを推奨し、直接体験を促進させる養育姿勢が重要であることを示唆している。

自然体験の効果については、前述の生涯学習審議会（1999）の答申において、小学校2、4、6年生に対する「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」により、自然体験が豊富な子どもほど、道徳観や正義感が充実していることを報告している¹²⁾。また、多くの自然体験を内包するキャンプが子どもに影響を及ぼすことが報告されている。例えば、平野ら（2002）は、小学生中学年を対象とした5泊6日のキャンプ開始の17日前、キャンプ初日、キャンプ最終日、キャンプの13日後と反復的にgo/no-go課題実験を行い、キャンプ経験が子どもの大脳活動に及ぼす効果を調べた²¹⁾。その結果、キャンプ中、子どもが自然の中で活発に身体活動し、他者との密接なコミュニケーションを行なうことで、脳の前頭連合野の抑制機能の発達に寄与する可能性を指摘している。また、岡村（2000）は、小中学生に対して、冒険教育プログラム、環境教育プログラム、そして冒険教育的要素と環境教育的要素を統合したプログラムのキャンプを実施し、キャンプに参加していない小中学生よりも自然に対する、認知的、感情的態度が向上し、キャンプ1ヶ月後まで維持される事を述べている²²⁾。しかし、これらの研究はいずれも小学校中学年以降の子どもを対象とした研究であり、幼児を対象としたものは皆無に等しい。唯一、幼児を対象とした研究として、若杉ら（1997）の研究があり、年長児42名を対象とした3泊4日の幼児キャンプを実施し、キャンプ参加群(実験群)と対照群を設定し、キャンプ開始前、キャンプ直後、キャンプ終了3ヶ月後の3回に渡り、体験、幼児の精神発達、感性との関わりについて質問紙による尺度調査を実施した²³⁾。その結果、キャンプ直後、キャンプ終了3ヶ月後において、実験群は、対照群に比べ、体験、精神発達、感性の尺度得点がキャンプ前後で有意に向上したことを報告している。また、体験、精神発達、感性とは相互に有意な関連性があり、体験が少ない幼児ほどキャンプ後の測定尺度得点の向上が顕著であることを報告して

いる。そして、子どもの感性を育む為には、子どもの様々な体験に対して、傍にいる大人が共感することの重要性を強調している。しかし、この研究も幼児にとっては、非日常であるキャンプ時の研究であり、普段の日常生活における自然体験が幼児に与える影響についてのものではない。

こうした中で、幼児の望ましい発達に貢献する自然との関わり体験として、1992年の環境教育辞典において山田は、原体験を提唱している²⁴⁾。この原体験は、教育心理学で用いている(Original experience)と区別するために、“原”を「原始的な」という“proto”という意味で捉え、“protoexperience”として、「生物やそのほかの自然物、あるいはそれらによって醸成される自然現象を触覚・嗅覚・味覚の基本感覚を伴う視覚・聴覚の五官(感)で知覚したもので、その他の事物・事象の認識に影響を及ぼす体験」と定義している。この原体験は、触・嗅・味の基本感覚を少なくとも1つでも含む体験であり、継続的に体験しないと忘れてしまう視・聴覚と違い、1度でも体験すれば一生残る長期記憶になるものである。この原体験の類型と具体的事例は表1-1に示すとおりである。

表 1-1 原体験の類型と具体的事例

原体験の類型	具体的事例
火体験	・熱さを感じる ・焦げるにおいをかぐ ・けむたさ・火をおこす ・火を保つ ・火を消す
石体験	・石を投げる ・石を積む ・きれいな石を探す ・石で書く ・石器をつくる ・火打ち石
土体験	・素足で土に触れる ・土のぬくもりと冷たさ ・土を掘る ・土をこねる ・土器づくり
水体験	・雨にぬれる ・自然水を飲む ・水かけ遊び ・浮かべる ・海で泳ぐ ・川を渡る
木体験	・木に触れる ・木におい ・棒を使いこなす ・木の葉、実を集める ・木・竹・実のおもちゃ
草体験	・草むらを歩く ・抜く ・ちぎる ・においをかぐ・食べる ・草で遊ぶ
動物体験	・捕まえる ・触る ・においをかぐ ・飼う ・見る・声を聞く ・食べる
ゼロ体験	・暗闇を歩く ・日の出を見る ・林を歩く ・飢え ・渇き

山田卓三 『ふるさとを感じる遊び辞典』 農文協 pp.344 1990 より抜粋

原体験を中核に位置づけた研究として、小林（2000）の実践研究がある²⁵⁾。小林は、身近な事物・現象から子ども自身に問題を発見させ、科学の方法を用いて探求させ、その過程において科学概念や自然界の規則性等に気づかせることを重視する問題解決能力を「科学的問題解決能力」と定義する。そして、中学3年生28名に対して18時間分の授業実践を行った。その結果、「原体験・基礎体験」と「観察・技能」、「プロセス・スキル」、「知識・理解」との間に正の相関関係があり、この結果から原体験・基礎体験が科学的問題解決能力の基盤となっている可能性を報告している。また、小林（2000）は、自然物や自然現象と触れる原体験を通して、好奇心、感性、探究する意欲などに関与する大脳新皮質の鍛錬、育成につながる教育的意義を指摘する²⁵⁾。さらに関連して、体験活動と指導のあり方に関する調査研究委員会（2004）の報告において、山田は原体験の第一義的な役割として、多様な五感刺激がヒトの大脳皮質のシナプス形成やネットワーク化に寄与することを述べ、それらが著しく促進され全体の90%が完成する「乳幼児期から小学校低学年」が最適であることを主張する²⁶⁾。さらに、原体験を通して体感する気持ち良さや快楽性はセロトニンの分泌を促進すること、また興味関心や探究心を誘発するドーパミンの分泌も促進することを指摘し、それが知性や感性を生み出す原動力となることを示唆する。

こうした効用が指摘される幼児期の観点から、幼児の原体験に関する過去の先行研究を概観すると、これまで数件の研究が実施されている。赤木（1991）は、幼児の保護者に対して「保護者がした原体験」と「幼児にさせたい原体験」について実態調査を行なった²⁷⁾。その結果、「子どもに経験させたい原体験」として、自宅近辺の自然物を取り入れた「身近な場所でできるような遊び」、小学校の理科教育に繋がる「教化的な遊び」、流行のアウトドア・ライフで行なう、野外での焚き火や野外料理などの「時代の流れに合った遊び」が多いことを明らかにしている。その上で、豊かな原体験によるヒトの発達や適応行動の基礎となる神経系の反射や反射の連鎖を行う機会を増やす必要性から、幼児に対して原体験を親を含めて積極的に推進する必要性を述べている。しかし、この研究においては、保護者側の子どもに体験させたい希望をとりまとめたに留まり、保護者と子どもとの関係性を検討するには至っていない。また、岡村ら

(1992) は、10代から60代の人々(10代-60名, 20代-43名, 30代-43名, 40代-55名, 50代-47名, 60代-60名)と生物教師(30名)を対象に、原体験の遊びを「野外あそび」と定義した上で、その野外あそび経験度について調査している²⁸⁾。その結果、50年間の変化として、生き物ではない「無生物関係遊び」が増加し、生き物と関わる「生物関係遊び」が減少していることや、遊びに性差が認められることを示した。その上で、幼児期の原体験は生涯の基盤づくりとなり、その後の理科教育、自然教育に貢献することを指摘した。さらに、幼児期に展開されたい原体験を具体的にして整理して、実行必要性を主張した。しかし、この研究では、対象者の過去を振り返るといふ回顧法で調査を実施しており、いつ経験した野外あそびなのかについての期間設定が明確でないという研究方法論上の問題がある。さらに、学童から成人までの回答結果から幼児期の原体験を推定したものであり、直接幼児を取り扱った研究ではなく、幼児の原体験の実態については十分把握されているとはいえない側面がある。一方、幼児を対象とした原体験調査がこれまで2つ実施されている。本間(1999)は、自然体験の指標として原体験を用いて、幼稚園の環境との関連性を分析した²⁹⁾。その結果、原体験に性差があること、また幼稚園を取り巻く自然環境の差異によって、保有量に差があることを明らかにしている。また、亀山ら(2004)は、現状の幼児の原体験について調査を行い、幼児の原体験の項目ごとの性差を明らかにし、そうした現状把握から原体験ができる環境整備、保育者自身の原体験機会の充実、さらに、野外キャンプや園外保育などで原体験を意図的に補完することの必要性を述べている³⁰⁾。

以上の原体験に関わる先行研究を外観すると、以下の4点の課題が浮上する。1点目は、原体験に関する研究は、現在のところ実態調査レベルの域に留まっている。2点目は、サンプルサイズが小さく、その抽出法や質問紙の構成に問題点が考えられる。3点目は、幼児の原体験に影響する父母や生活スタイルなどの背景要因を考察に入れた研究がない。4点目は、概念的に原体験の身体的、心理的効果は主張されているが、実際どのような関連があるか実証的に明らかにしているものがない点である。以上を勘案すると、幼児の心身状態やその背後にあるライフスタイル、さらには養育環境としての父母の影響を視野に入れて、原体験の生活背景を分析、

検討することが望まれる。そうした研究スタンスが、幼児の原体験機会の促進を具体的に探る方略とも考えられる。本研究は以上の先行研究からみえてくる課題を視野に入れて展開していく。

第二節 目的

本研究の目的は、幼児の原体験実態を把握すると共に、心身の健康状態との相互関連性を明らかにする。また、幼児の原体験に影響すると考えられる、日常の遊び状況、住環境、取り分け両親の影響力についてその生活背景を分析し、内部構造を明らかにする。さらに、幼稚園での関与観察を行い、量的調査、質的調査の双方から幼児の現状の問題点を探り、健やかな発達を保障する保育課題を明らかにすることを目的とする。

第三節 作業仮説

本研究は、具体的には以下の作業仮説に沿って、分析を進めた。

仮説① 現状の幼児の原体験は、男女差があり、両親の原体験よりも減少している。

仮説② 幼児の原体験は、幼児の心身の健康状態と相互に関連する。

仮説③ 幼児の原体験は、平日、休日の遊び状況と関連する。

仮説④ 幼児の原体験は、母親、父親それぞれの養育態度や意識と関連する。

仮説⑤ 幼児の原体験は、住環境と関連する。

仮説⑥ 幼児の原体験は、日常の遊び状況、母親、父親それぞれの養育態度や意識、住環境の因果的影響を受けている。

仮説⑦ 幼稚園において幼児は、家庭では体験できない原体験を行い、その中で多様な学びを獲得している。

以上の検討を踏まえた上で、原体験を保障する現代の保育課題について言及する（図 1-1）。

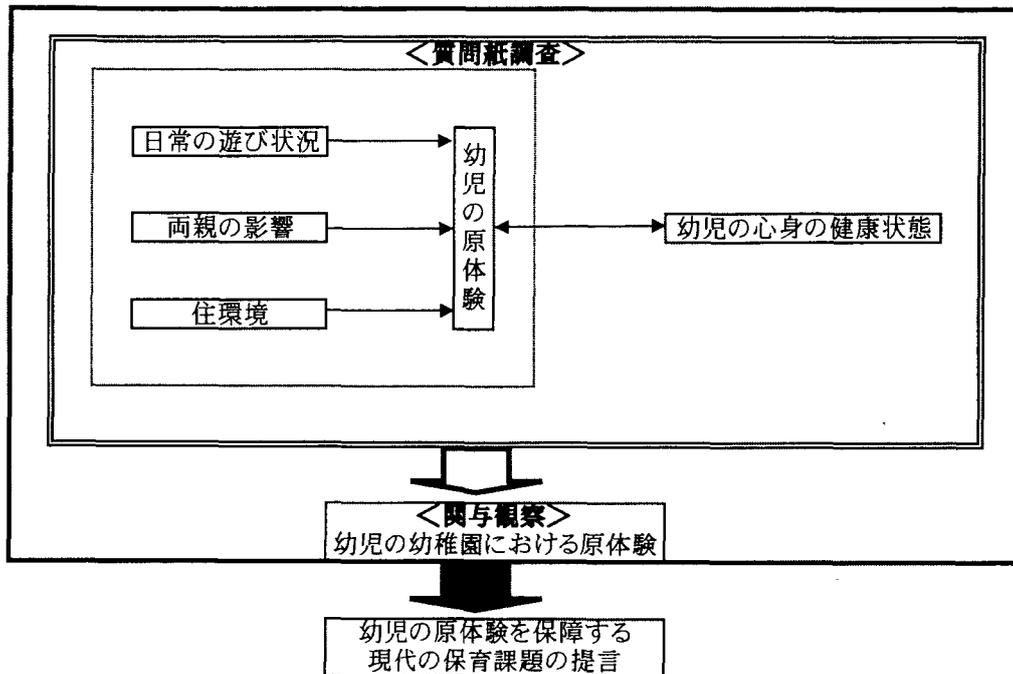


図1-1 作業仮説モデル

第二章

研究方法

第一節 質問紙調査の実施方法

【調査の手続き】

機縁法により、兵庫県 K 幼稚園と N 幼稚園の園長及び全担任教諭に「保護者の子育てとお子様
様の自然体験に関するアンケート」についての説明を行い、了承を得た後に各クラス必要調査
票部数を手渡した。調査票は、各担任教諭によって、配布回収が行なわれた。なお、質問紙調
査は無記名であり、普段の幼児の事情に詳しい保護者が記入した。

【対象者】

対象者は、兵庫県私立 K 幼稚園に在園する年少児、年中、年長児の計 411 名と兵庫県私立 N
幼稚園に在園する年少、年中、年長児計 305 名の母親、父親であった。配布数 716 部、回収部
数 520 部、有効回答は 484 部（年少児 80 名、年中児 184 名、年長児 220 名・有効回収率 67.6%）
であった。なお、調査対象の属性については以下のとおりである（表 2-1-1）。

表2-1-1 調査対象の属性

幼児の性別

男児女	児	無回答
45.5%	53.9%	0.6%
(220)	(261)	(3)

*サンプル数は484名

*カッコ内は人数

幼稚園別のクラスの内訳

	年少児	年中児	年長児	合計
K幼稚園	15.0%	36.6%	48.4%	
	(41)	(100)	(132)	(273)
N幼稚園	18.5%	39.8%	41.7%	
	(39)	(84)	(88)	(211)
幼稚園 合計	16.5%	38.0%	45.5%	
	(80)	(184)	(220)	(484)

両親の年齢

母親の 年齢	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	無回答	
	0.6%	9.6%	45.0%	34.9%	9.3%	0.4%	0.2%	
	(3)	(46)	(218)	(169)	(45)	(2)	(1)	
父親の 年齢	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	無回答
	0.2%	6.2%	31.4%	39.5%	16.1%	3.9%	2.1%	0.6%
	(1)	(30)	(152)	(191)	(78)	(19)	(10)	(3)

【調査対象幼稚園付近の概要】

調査対象である、K 幼稚園は、兵庫県神戸市の北区に位置し、約 10 年前に台地を切り開いてできたニュータウン内にある。自然環境については、ニュータウンの端に手の付けられていない森林などがあり、台地の下には田園風景が残っており、比較的自然環境の豊かな状況にある。

一方、調査対象である N 幼稚園は、兵庫県尼崎市の中心部に位置し、交通や産業が整備された環境にある。自然環境については都市部であるため、児童公園等でしか見受けられず、乏しい環境状況である。

【調査期間】

2004 年 6 月 30 日（水）～2004 年 7 月 6 日（火）（7 日間）。

【質問紙の構成】

1. 原体験に関する質問項目

幼児が普段の生活の中でどの程度、原体験を行っているか、4 件法（全くしない－1 点、少しある－2 点、よくある－3 点、大変よくある－4 点）で問い、それらを加算集計して、原体験得点を算出した。

原体験項目については、山田（1990）の原体験類型を参考に、「火」、「石」、「土」、「水」、「草」、「木」、「動物」、「ゼロ」といった項目で、幼児の実態に合わせて 26 項目を抽出した³¹⁾。抽出の際、幼児の健康教育に携わる者 3 名により、それぞれ印象に残っている各種体験を報告し、一致度の高さ、体験させたい内容を考慮して、質問項目を選定した。また、幼児と同様の同じ項目を母親、父親にも幼児期の頃に期間を設定し、その頃を回顧して体験頻度を問うた。

2. 使用尺度

① 幼児の心身の健康状態

幼児の心身の健康状態を把握するために、峰松ら（1985）が作成した幼児行動活性度指標（下位尺度は、対人関係レベル、課題遂行レベル、身体健康レベル、身体活動レベル、情動・睡眠レベルから構成されている。）の項目を参考に、保護者にわかる表現に書き換えて 29 項目作成した³²⁾。これを 5 件法（ほとんどない－1 点、少ない方－2 点、ふつう－3 点、やや多い－4 点、きわめて多い－5 点）で母親に対して問い、それらを加算集計して、心身の健康状態得点を算出した。

29 項目の幼児の心身の健康状態尺度に対する測定値をもとに因子分析（主因子法、varimax 回転）を行った。各質問項目における因子負荷量、因子の解釈可能性等を考慮しながら、因子抽出・回転及び解釈を繰り返し 8 項目削除し、最終的に 21 項目の中から 5 因子を抽出した（表 2-1-2）。

なお、尺度全体での Cronbach 信頼性係数 α は、0.8609 であり、抽出した 5 因子における説明率は、44.6%であった。

各因子の解釈について説明すると第 1 因子は、「他の人から言語的働きかけにさっと応答しようとする」、「積極的に自分の要求や気持ちを相手に言葉で伝えようとする」、「遊びやグループ活動のなかで、みんなにわかるような元気のよい声がだせる」、「課題へのさそいに許諾の反応がさっとできる」、「言葉による働きかけをお子様からしてくることが多い」、「笑顔がよく認められる」、「友達の動きによく対応できる」、「友達の遊びをよく見て、積極的に参加しようとする」であり、積極的に人や活動に関与するという状態から「対人関係因子」と命名した。第 2 因子については、「遊びの活動範囲が広い」、「そと遊びに、さっと出る」、「目的をもった活動をすることが多い」、「身のこなしに、弾むような躍動性が認められる」であり、幼児の活発な活動状態が表されていることから「活動因子」と命名した。第 3 因子については、「ひとつの遊びに深くかかわり、十分に遊びぬくことができる」、「次の作業（遊びや課題）に、短時間で無理なく自然に移行できる」であり、課題に集中して取り組むことのできる状態から、「課題集中因子」

と命名した。第4因子については、「薄着でいても平気である」、「顔の血色がよい」、「カゼなどの病気にかかりにくい」、「食欲旺盛である」であり、幼児の良好な身体の状態を表すことから「身体因子」と命名した。最後に、第5因子については、「メソメソした不機嫌な状態を見かけない」、「思いどおりにならなくて不機嫌になっても、それを早くきりかえることができる」であり、幼児の情動の状態を表すものと解釈し「情動因子」と命名した。

表 2-1-2 幼児の心身の健康状態の因子分析結果

項目内容	因子負荷量					共通性
	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子	第 5 因子	
他人から言語的働きかけにさっと応答しようとする	.710					.510
積極的に自分の要求や気持ちを相手に言葉で伝えようとする	.696					.444
遊びやグループ活動のなかで、みんなにわかるような元気のよい声が だせる	.683					.567
対人関係因子 課題へのさそいに許諾の反応がさっとできる（したいのかしたくない のか、はっきりしないような関わり方が少ない）	.635					.518
言葉による働きかけをお子様からしてくることが多い （あいさつ場面などで自分からする）	.617					.518
笑顔がよく認められる（表情が豊かである）	.587					.398
友達の動きによく対応できる（たとえば、困っている友だちなどを気 づかう余裕があるなど）	.519					.372
友達がよく加わってくるような面白い遊びを思いつく	.517					.343
活動因子 遊びの活動範囲が広い（ごろごろした状態や、室内になんとなくとど まっているような状態をほとんどみかけない）		.726				.602
そと遊びに、さっと出る（体を大きく動かす遊びを喜ぶ）		.624				.421
目的をもった活動をする事が多い（ぼんやりと人の遊びを見たり、 ぶらぶらしたりすることが少ない）		.609				.595
身のこなしに、弾むような躍動性が認められる（たとえば、急いで歩 くときにふと思わずスキップをしたり、楽しい時ふと鼻唄がでたりす るようなこと）		.466				.215
課題への集中力や持続力がある			.749			.541
ひとつの遊びに深くかかわり、十分に遊びぬくことができる（こちら のあそびからあちらの遊びへと短時間で移り歩いたり、参加してい ても、いつのまにか遊びからはずれてぼんやりしているようなことが少 ない）			.723			.334
課題集中因子 次の作業（遊びや課題）に、短時間で無理なく自然に移行できる			.463			.506
因身体 薄着でいても平気である（寒がりでない）				.652		.614
顔の血色がよい				.652		.502
カゼなどの病気にかかりにくい				.493		.505
食欲旺盛である				.419		.417
因情 子動 メソメソした不機嫌な状態を見かけない					.474	.270
思いどおりにならなくて不機嫌になっても、それを早くきりかえるこ とができる（すねてしまうことが少ない）					.437	.237
因子寄与率（%）	17.270	8.673	7.694	7.115	4.153	
累積寄与率（%）	17.270	25.943	33.637	40.752	44.904	
信頼性係数	α=0.8609					

注) 因子負荷量 0.4 以上を表記

②両親の遊びに対する養育態度に関する質問項目

子どもの遊びに対する大人の養育態度として、萩原（1990）が作成した子どもの遊びに対する両親の態度の12項目を使用した¹⁹⁾。これを5件法（そうはしない-1点、あまりそうはしない-2点、どちらともいえない-3点、たいていそうする-4点、いつもそうする-5点）で母親、父親に対して問い、それらを加算集計して、肯定的養育態度得点を算出した。

なお下位尺度は、子どもの行動を厳しく注意したり、禁止したり、制限する『抑制的態度』、子どもを励まし、手助けし、指導する『教示・指導的態度』、子どもを誉めたりしながら遊びに積極的に関わる『支持的態度』、子どもを注意したりせず、遊びにも直接かかわらず、基本的に見守る『受容的態度』から構成されている。各項目の合計得点を、遊びに対する肯定的養育態度得点とした。

③「原体験を妨げている要因に関する意識」についての質問項目

原体験を妨げている要因に関する意識については、藤田（2002）が行った調査の「自然体験を妨げている要因に関する意識」を参考に、筆者が独自に「原体験を妨げている要因に関する意識」尺度を21項目で作成した³³⁾。質問は、4件法（あてはまらない-1点、あまりあてはまらない-2点、まああてはまる-3点、あてはまる-4点）で問い、それらを加算集計して、原体験を妨げている要因に関する意識得点を算出した。

21項目の原体験を妨げている要因に関する意識尺度に対する測定値をもとに因子分析（主因子法、varimax回転）を行った。各質問項目における因子負荷量、因子の解釈可能性等を考慮しながら、因子抽出・回転及び解釈を繰り返し3項目削除し、最終的に18項目の中から5因子を抽出した。

なお、尺度全体でのCronbach信頼性係数 α は、0.7497あり、抽出した5因子における説明率は、57.8%であった。

各因子の解釈については表2-1-3に示すとおりである。第1因子は、「お子様に交通事故などの不安があるため」、「お子様が犯罪などに巻き込まれる恐れがあるため」、「お子様に怪我など

の不安があるため」、「お子様に病気などの不安があるため」であり、両親の幼児に対する不安が反映していると考え、『不安感因子』と命名した。第2因子については、「自然体験を教え合う年上の子ども達が近所にいないため」、「自然体験を一緒にする同年代の子ども達が近所にいないため」、「身近に自然体験をする場所がないため」、「自然体験ができる場所までの交通の便が悪いため」、「自然体験をする上での適当な指導者がいないため」であり、幼児の身近に物的、人的環境が無いことが表れていることから、『環境未存在感因子』と命名した。第3因子については、「保護者ご自身の時間的余裕がないため」、「保護者ご自身の手間がかかるため」、「保護者ご自身の金銭的余裕がないため」、「保護者ご自身が肉体的疲労を伴うため」であり、両親が負担を感じる状態を表していることから、『負担感因子』と命名した。第4因子については、「保護者ご自身の自然体験に関する知識があまり無いため」、「保護者ご自身の自然体験があまり無いため」であり、両親自身の知識・体験不足を表していることから『未体験危惧感因子』と命名した。最後に第5因子については、「お子様の習い事などが忙しいため」、「お子様の時間的余裕がないため」、「お子様にとってテレビやゲームなど他に自然体験より面白いものが多いため」であり、幼児の忙しい状況を表していることから、『幼児多忙感因子』と命名した。

なお、第1因子から第6因子まで各因子の項目の合計得点を、原体験を妨げている要因に関する意識得点とした。

表 2-1-3 原体験を妨げている要因に関する意識尺度の因子分析結果

	項目内容	因子負荷量					共通性
		第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子	第 5 因子	
不安 因子	お子様に交通事故などの不安があるため	.867					.781
	お子様が犯罪などに巻き込まれる恐れがあるため	.836					.751
	お子様に怪我などの不安があるため	.757					.659
	お子様に病気などの不安があるため	.477					.359
未 存 環 境 因 子	自然体験を教え合う年上の子ども達が近所にいないため		.760				.520
	自然体験と一緒にする同年代の子ども達が近所にいないため		.705				.576
	身近に自然体験をする場所がないため		.542				.381
	自然体験ができる場所までの交通の便が悪いため		.511				.470
	自然体験をする上での適当な指導者がいないため		.506				.428
負 担 感 因 子	保護者ご自身の時間的余裕がないため			.716			.908
	保護者ご自身の手間がかかるため			.673			.798
	保護者ご自身の金銭的余裕がないため			.536			.596
	保護者ご自身が肉体的疲労を伴うため			.468			.743
惧 未 感 体 験 因 子 危	保護者ご自身の自然体験に関する知識があまり無いため				.877		.647
	保護者ご自身の自然体験があまり無いため				.846		.538
幼 児 多 忙 感 因 子	お子様の習い事などが忙しいため					.789	.907
	お子様の時間的余裕がないため					.785	.600
	お子様にとってテレビやゲームなど 他に自然体験より面白いものが多くあるため					.429	.658
	因子寄与率 (%)	14.901	12.976	10.621	10.099	9.226	
	累積寄与率 (%)	14.901	27.876	38.497	48.596	57.822	
	信頼性係数	α=0.7497					

注) 因子負荷量 0.4 以上を表記

3. 日常の遊び状況

幼児の日常の遊び状況については、日常の生活に詳しい母親に一週間にわたり、「お子様の遊び日記」として記録を取ってもらった。記録の項目は、「屋外遊び時間」、「屋外遊び場所」、「屋外遊び仲間」、「屋外遊び人数」、「屋内遊び時間」、「屋内テレビ視聴時間」であった。なお、調査期間中 K 幼稚園、N 幼稚園付近では雨は観測されなかったため、一週間の記録をすべて採用した。

「屋外遊び時間」、「屋内遊び時間」、「屋内テレビ視聴時間」については、1 日の平均時間を算

出し、得点化した。「屋外遊び場所」については、人工的な遊び場から（その他の遊園地、自宅以外の屋内等－1点、自宅の庭、友だちの家の庭、近所の路地や道路、駐車場－2点、公園、団地の遊び場、幼稚園・児童館等の運動場－3点、空き地・河原・土手・野原等－4点）として一週間を通しての合計得点を算出した。「屋外遊び人数」については、（0人－1点、1人－2点、2～3人－3点、4～5人－4点、6人以上－5点）として一週間を通しての合計得点を算出した。

4. 住環境に関する質問項目

幼児の身の回りの住環境を把握するため、父親に「住宅形態」と「立地環境」について問うた。

【データ解析】

データ解析について使用したソフトは、SPSS 11.0J for Windows と Amos5.0 であった。

第二節 事例研究

【事例収集の手続き】

第一章で質問紙調査を行なった、同 K 幼稚園と N 幼稚園の園長及び全担任教諭に、保育への参加の了承を得て、事例収集した。記録については、筆記記録を取った。

【観察対象者】

兵庫県 K 幼稚園の不特定の年少、年中、年長児、N 幼稚園の年長児であった。

【観察期間】

K 幼稚園の観察期間は、2004 年 6 月 1 日～2004 年 11 月 4 日であった。時間帯は、8:30～9:30 の間の自由時間、園外保育中、クラブ保育時間中を中心に行った。

N 幼稚園の観察は、2004 年 6 月 9 日と 10 月 21 日に行った。

また、K 幼稚園の園外保育の観察については、2004 年 7 月 16 日に行われた「キャンプ」、2004 年 9 月 16 日年中児の「ぶどう狩り」、2004 年 10 月 26 日に行われた「芋掘り遠足」に同行して行い、N 幼稚園の園外保育の観察については、2004 年 10 月 21 日に行われた芋掘り遠足に同行して行った。

【観察方法】

自由時間中（朝 8 時 15 分から 9 時 30 分の間）の観察については、園庭、園庭周辺の樹木、ビオトープ池を中心に幼児の遊びを観察した。（写真 2-2）。

K 幼稚園の園外保育の観察については、2004 年 7 月 16 日に行われた「キャンプ」、2004 年 9 月 16 日年中児の「ぶどう狩り」、2004 年 10 月 26 日に行われた「芋掘り遠足」に同行して行った。

N 幼稚園の園外保育の観察については、2004 年 10 月 21 日に行われた芋掘り遠足に同行して行った。

また、K 幼稚園と N 幼稚園では年長児を対象に、設定保育中クラブ保育を行っており、『飼育・栽培クラブ』、『体操クラブ』、『音楽クラブ』、『絵画・制作クラブ』の 4 つのクラブがある。20～30 名の年長児は、年間を通して 1 つのクラブに所属して活動を行っている。今回は、『飼育・栽培クラブ』の活動を観察した。

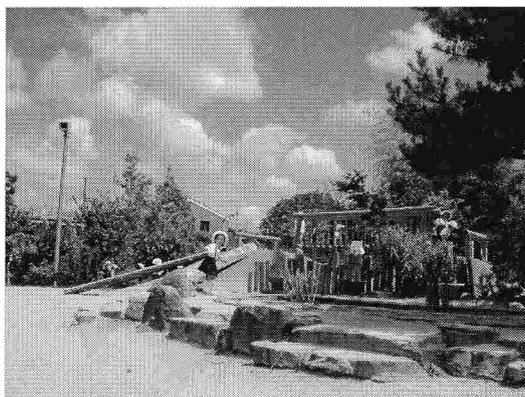


写真 2-2 K 幼稚園児の自然スペース

【観察者の観察スタンス】

観察の手法としては、関与観察を行った。実際には、幼児からの会話には、聞いてきたら端的に答える程度に抑え、積極的には関わらないようにした。しかし、原体験の機会があると判断した時は、幼児に関わっていくように心がけるようにした。

【事例分析方法】

事例分析については、原体験の遊びや活動をしている幼児の発言や行動について分析し、その背景にある背景にある生活や意識を解釈して考察を行った。

第三章

結果及び考察

第一節 質問紙調査の結果及び考察

第一項 幼児の原体験の現状

原体験現状については、記述統計によりそれぞれの体験の割合を算出した。

①「火体験」

「火体験」については、図 3-1-1 のとおりである。この結果、マッチを使う体験は皆無に等しい状況であった。たき火に関しては 70%弱の幼児が経験していない。これは、火の危険性や防火の意識から養育者が幼児を火に近づけないことや、たき火の出来る環境が幼稚園周辺にないことが考えられる。火の暖かさを感じたことは、男女共に約 20%が「全くしない」という結果となった。射場（1993）の 5 歳児に対する熱に関する調査によると、熱いものに触るとどうなるかの質問に対して、5 歳児の半数が「火傷する」と答えるが、実際に火傷をした経験があるのはその内の半数にも満たないことを報告している³⁴⁾。火の危険性を幼児自身の実体験を基に学ばせることは難しい。しかし、火の暖かさや恐さを体感することなく概念ばかりが先行し、身体で学習する機会とのギャップが大きくなることも危惧される。

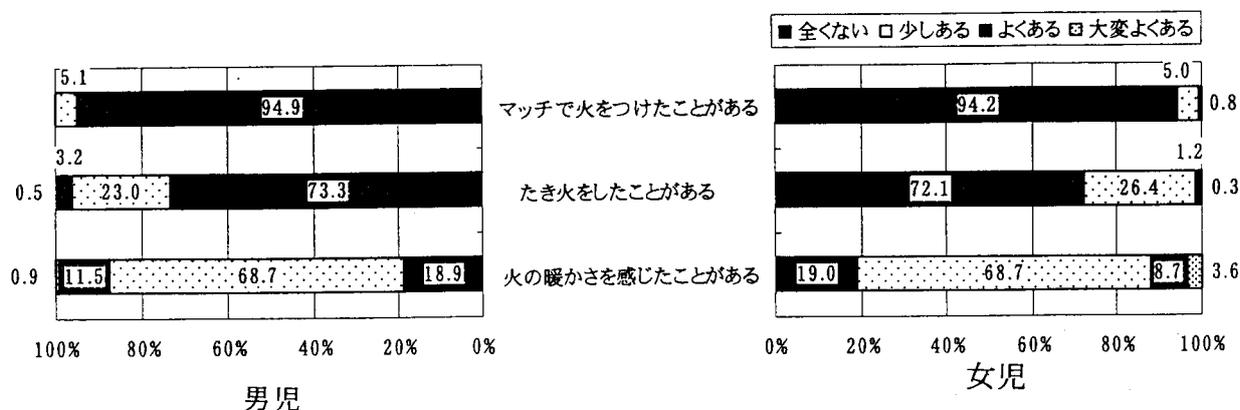


図3-1-1 幼児の火体験の現状

②「石体験」

「石体験」については、図 3-1-2 のとおりである。この図から、石を投げる行為については、「よくある」、「大変よくある」を合わせて、男児は約 34%であり、女児は約 17%であった。また、幼児の石を集める行為については「よくある」、「大変よくある」を合わせて、約 45%であった。そして、幼児の石で文字や絵を書く行為については、「よくある」、「大変よくある」を合わせて約 45%であった。「石体験」について収集や道具として使うという行為に比べ、投げる機会が少ないことが見てとれる。こうした背景には、居住環境や躰としての禁止が大きく反映しているものと考えられる。

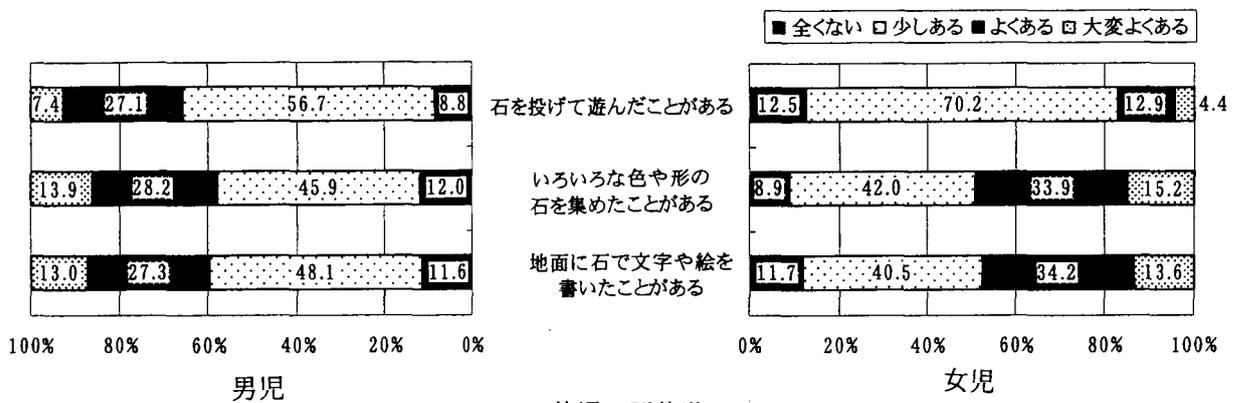


図3-1-2 幼児の石体験の現状

③「土体験」

「土体験」については、図3-1-3のとおりである。この結果、各項目で「全くない」の割合が男児、女児共に10%以下であり、体験率の高さが伺われる。しかし、幼稚園や公園の砂場において体験できる環境があるにも関わらず、各項目において男児女児それぞれ10名ほど「全くしない」幼児がいる。多様な原体験が、幼児期の基礎体験に重要であることを勘案すると、可塑性に富み幼児の創造性と想像性を育む「土」という素材に年長児の時点で触れていないことには、多くの問題が内在していると考えられる。この問題の1つとして、増山ら(1998)の幼児を持つ母親に対して行ったどろんこ遊び研修会の報告がある³⁵⁾。この参加者に対して調査を行なった結果、73.9%の母親が「砂場が汚い」と回答している。これら結果について子どもを取り巻く大人が、どのように受け止めるかにより、遊びの内容が大きく変化すると考えられる。土に触れることのない幼児の生活背景を知り、園においては農耕体験や芋ほりなどの行事を通して、また家庭においては、家庭菜園等を通して積極的に土と関われるように支援していくことが望まれる。

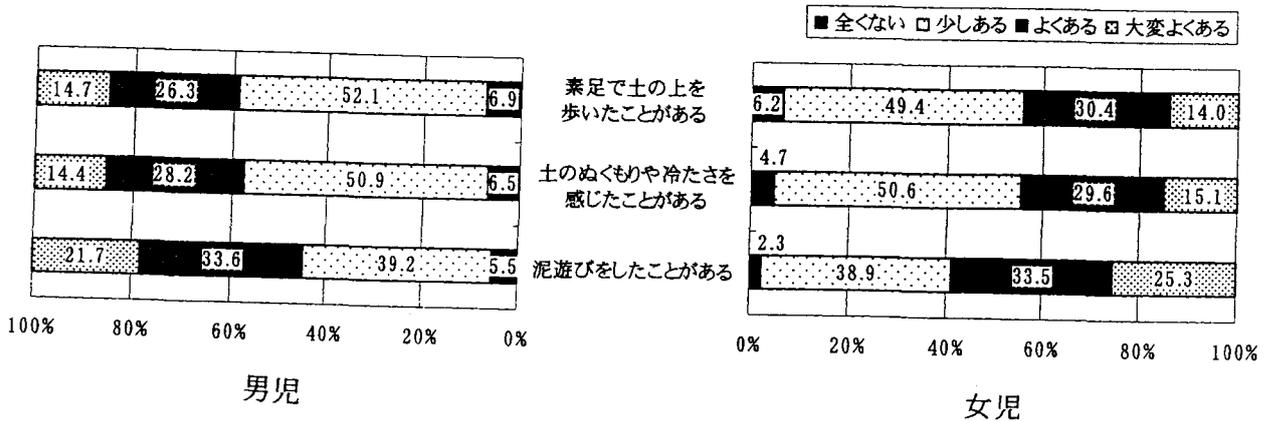


図3-1-3 幼児の土体験の現状

④「水体験」

「水体験」については、図3-1-4のとおりである。この中で、雨に濡れながら遊ぶ経験は幼児の約26%が「全くない」という結果となった。現在の幼児は、雨に濡れながらも没頭して遊び続けることは少ないようである。また、湧き水については79%弱の幼児が体験したことがなく、便利な水道水が一般に普及したこと、自然環境の悪化が湧き水空間を縮小させたこと、さらにそうした場が身近にあっても気に留めなくなったことが推察される。身近な環境から湧き水の存在が少なくなっていることが推察される。射場（1993）が5歳児に対して聞いた水質への関心についての調査によると、約32%が良質な水は、自然水よりも水道水であると回答し、それが最も高率であった³⁶⁾。水というものが、蛇口から出るのではなく、本来、山や川の恩恵の一つであることを伝える必要が伺える。水かけ遊びをしたことがあるかについては、3%以下が「全くしない」であり、相対的に高い体験率であった。これは、調査した時期が夏場であり、付近のプールなどで、水かけ遊びを経験していることが反映したものと考えられる。雨に濡れながら遊ぶことや、水かけ遊びは、幼児の身体機能の増進や健康管理能力に影響し、重要な原体験と考えられる。一方で、体温調節機能も諸生理機能が未熟な幼児にとっては、過度な水による刺激は幼児の健康を害する危険性もあり、幼児の発達段階も考慮に入れて、水との接触機会を保障していきたいものである。

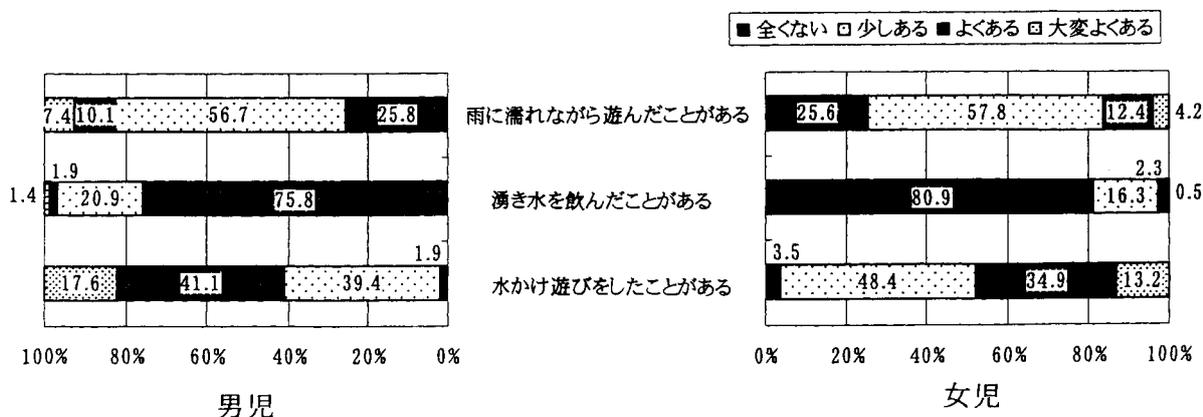


図3-1-4 幼児の水体験の現状

⑤ 「草体験」

「草体験」については、図 3-1-5 のとおりである。この中で、男児の約半数、女児の半数以上が草花で遊んだり、においをかいだりしている。しかし、幼児の約 84%が草で手を切るといふ不快体験を「全くない」、もしくは「少しある」という状態である。その背景には幼稚園、公園、マンションの敷地などの整備された人工的な環境で幼児は、草花と関わっていると考えられる。

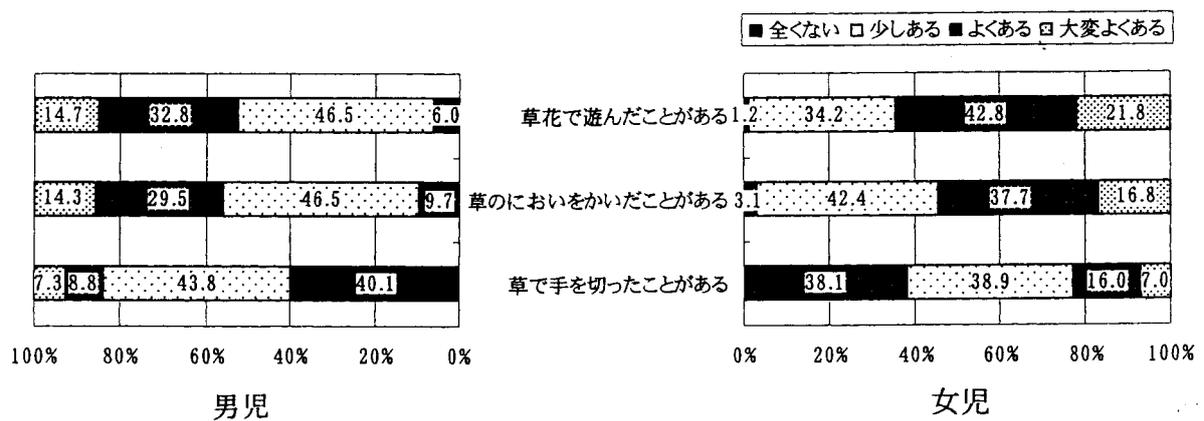


図3-1-5 幼児の草体験の現状

⑥「木体験」

「木体験」については、と図 3-1-6 のとおりである。この中で、木の葉や木の実を集めたことについて「大変よくある」、「よくある」を合わせて、男女児共に約 64%が体験している。しかし、実際に幼児自らが木から実を取り、それを食べるという体験率は低く、約 83%の幼児がそうした体験を全く持っていない。このことから、加工されたものを食べるのが一般化した現在において、幼児自らが木の実を採取して、食べるのが難しい現状が伺える。また、木をおもちゃにする幼児は「全くない」、「少しある」を合わせて男女共に半数以上に上る。このことは都市化により整備された環境下、幼児が木と触れ合うことが少なくなったことや、幼児の遊びの中に既製品の玩具が入り込み、幼児は創意工夫が出来る「木」という素材で遊ぶという状況が少なくなっていることが確認できる。

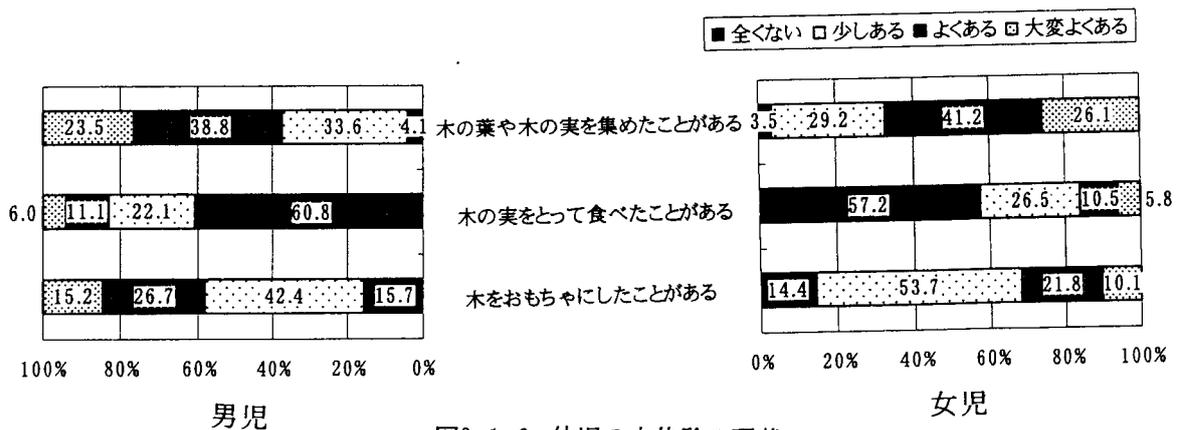


図3-1-6 幼児の木体験の現状

⑦「動物体験」

「動物体験」については、図3-1-7のとおりである。虫を取ったり、飼育したり、音色に耳を傾けることについては、「全くしない」、「少しある」を合わせると、各項目で男児は約50%、女児は60%以上である。特に女児の虫の飼育については約80%と飼育経験の少なさが目立つ。このことから、幼児の身の回りに虫がいるにも関わらず、養育者の清潔志向や保育者の虫嫌いから、虫との関わりが希少体験になっていると考えられる。また、川村学園女子大学子ども調査研究チーム（2004）の調査によると、「チョウやトンボをつかまえたこと」が1回も無い小学5年生は、約15%であり、成長と共に必ず増える体験ではない可能性がある³⁷⁾。幼児は、生活環境下でセミや秋の虫の音色を聞き季節を感じ、また虫に興味、関心を持って関わることで生き物の生命感や生態系について学ぶことが出来る。このような原体験を、幼児の生活の中で保障する必要があると考えられる。

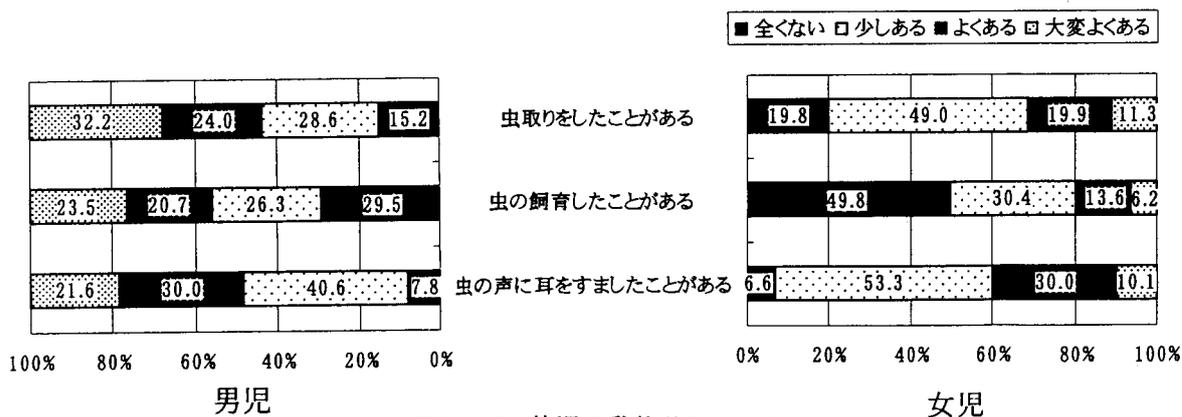


図3-1-7 幼児の動物体験の現状

⑧ 「ゼロ体験」

「ゼロ体験」については、と図 3-1-8 のとおりである。その項目の中で、空腹を我慢した体験を「全くしない」、「少しある」という幼児が合わせて約 80%いる。幼児は普段の生活において、食事について十分満たされた生活状態ではあることが推察され、我慢する体験が少なくなっている。また、80%弱の幼児が日の出を見る機会がなくなっていることが考えられる。このことは、幼児の生活リズムが夜型に移行することによる、起床時間の遅れや、機密な居住空間から幼児が日の出に対して、興味・関心を向けにくい環境であることなどが関連しているものと考えられる。また、約 50%の幼児が暗闇を歩く機会がない。これは、幼児を取り巻く住宅環境では、夜間常時電灯がともっていることや、真っ暗闇になるまで外で遊ぶことがなくなったため、幼児は「暗い」という状況を体験しにくくなっていることが考えられる。日の出や暗闇という体験は、幼稚園教育要領の「環境」領域において述べられている畏敬の念と関わってくるのではないだろうか。このような体験に幼児が目を向け、感じられるように養育者が環境を与える必要が求められる。また、30%程度の幼児が鳥肌を立てるほど寒い体験が全くないというのは、幼児の普段の生活環境が、空調設備の整った快適な温度設定下にあることが伺われる。最後に、ひたいから汗をダラダラかく体験については、「全くしない」、「少しある」という幼児が合わせて約 30%いる。このような空調の整った環境や汗をかく機会の減少から、正木（2002）、前橋（2004）は幼児の体温調節機能の低下や汗腺の発達の異常を問題としている³⁸⁾³⁹⁾。

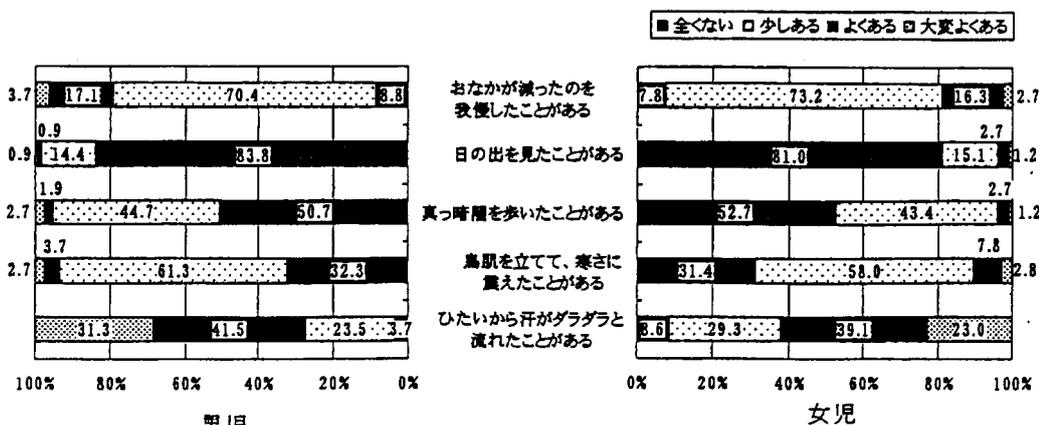


図3-1-8 幼児のゼロ体験の現状

⑨原体験の性差の検討

原体験に性差があるかどうかを検討する為、各原体験項目を得点化し、総合計得点、項目別に対応の無い t-test により検討した。その結果を示したものが、表 3-1-1 である。

原体験項目合計得点に、統計的に有意な差は認められなかったが、各項目別に男女差を検討すると、「石体験」、「水体験」、「草体験」、「木体験」、「動物体験」、「ゼロ体験」の項目の中で幾つかの有意差が確認できた。

「石体験」の石を投げる行為については男女間に有意差が認められた。賀川（2003）が、幼児に行なった調査によると「ボール投げ」の項目では性差が認められており、石を投げる行為についても、男児の方が普段の生活の中でボールなどを使って「投げる」という動作を多く体験していることに反映したものと推察される⁴⁰⁾。

「水体験」の水かけ遊びにおいて、男女間に有意差が認められた。安藤ら（2000）の水辺空間における子どもの遊び行為に関する調査によると、4～6歳の男児の遊びが多く確認され、その中でも「水を手で掻き飛ばす」行為を含んだ激しい動きを伴い、何かに挑戦する「挑戦型」の遊びが多かったことを報告している⁴¹⁾。逆に女兒は、「水の中を歩く」、「水の中にすわる」などのやすらぎを求める「休息型」が多かったとしている。ここでの男女差は、このような遊び行為の違いが反映したものと推察される。

「草体験」の草花遊びと草のにおいをかいだことがあるについて男女間に有意差が認められた。岡村ら（1992）の調査においても、女兒の方が「草体験」が高い結果となっている²⁸⁾。これは、女兒の方が園庭の草花を使いままごとや、首飾りをつくるなどして接触する機会が多いことから、こうした差が認められたものと考えられる。

「動物体験」については、全項目に男女差が認められた。落合（1996, 1997）、亀山（2004）によると、虫との関わりについては男女差があり、女兒は虫を嫌う傾向がある^{42) 43) 30)}。そのため、男児は女兒に比べて、積極的に虫に関わる機会を持っており、一方女兒は虫に対して関わりを敬遠する傾向が認められるのである。幼児にとってこれら小動物に触れる機会は、多様な学びがある。よってこの結果から、単に動物と触れる機会が少なくなるという表面的なもの

ではなく、多様な学びの機会が縮小することが懸念される。子どもを取り巻く大人はこのような男女差について考慮し、特に虫を観察したり、接触する機会の多い園生活では、保育者自身の虫嫌いがもたらす影響についても意識する必要がある。

「ゼロ体験」の、ひたいから汗がダラダラと流れたことがあるについて男女間に有意差が認められた。これは女兒に比べ男児は屋外での活発な遊びを展開しているため、汗をかく機会が多いことが推察される。

表 3-1-1 原体験の男女差

「原体験項目」		「原体験」得点			
		男児 (N=220)	女兒 (N=261)	t 値	危険率
		平均値 (SD)	平均値 (SD)		
火体験	マッチで火をつけたことがある	1.05 (.220)	1.07 (.278)	-.642	n.s.
	たき火をしたことがある	1.31 (.554)	1.30 (.507)	.212	n.s.
	火の暖かさを感じたことがある	1.94 (.583)	1.97 (.649)	-.411	n.s.
石体験	石を投げて遊んだことがある	2.33 (.739)	2.09 (.649)	3.741	***
	いろいろな色や形の石を集めたことがある	2.44 (.877)	2.55 (.856)	-1.411	n.s.
	地面に石で文字や絵を書いたことがある	2.42 (.859)	2.50 (0.871)	-1.019	n.s.
土体験	素足で土の上を歩いたことがある	2.49 (.828)	2.52 (.810)	-.436	n.s.
	土のぬくもりや冷たさを感じたことがある	2.50 (.818)	2.55 (.804)	-.640	n.s.
	泥遊びをしたことがある	2.71 (.867)	2.82 (.839)	1.309	n.s.
水体験	雨に濡れながら遊んだことがある	1.99 (.811)	1.95 (.742)	.523	n.s.
	湧き水を飲んだことがある	1.29 (.572)	1.22 (.494)	1.339	n.s.
	水かけ遊びをしたことがある	2.75 (.762)	2.58 (.761)	2.389	*
草体験	草花で遊んだことがある	2.56 (.815)	2.85 (.766)	-3.966	***
	草のおいをかいたことがある	2.48 (.856)	2.68 (.785)	-2.612	**
	草で手を切ったことがある	1.83 (.871)	1.92 (.904)	-1.027	n.s.
木体験	木の葉や木の実を集めたことがある	2.82 (.841)	2.90 (.827)	-1.082	n.s.
	木の実をとって食べたことがある	1.62 (.905)	1.65 (.889)	-.335	n.s.
	木をおもちゃにしたことがある	2.41 (.930)	2.28 (.832)	1.695	†
動物体験	虫とりをしたことがある	2.73 (1.073)	2.23 (.895)	5.527	***
	虫の飼育をしたことがある	2.38 (1.141)	1.76 (.911)	6.452	***
	虫の声に耳をすましたことがある	2.65 (.905)	2.44 (.763)	2.811	**
ゼロ体験	おなかが減ったのを我慢したことがある	2.16 (.620)	2.14 (.576)	.315	n.s.
	日の出を見たことがある	1.19 (.478)	1.24 (.555)	-1.064	n.s.
	真っ暗闇を歩いたことがある	1.57 (.672)	1.52 (.613)	.742	n.s.
	鳥肌を立てて、寒さに震えたことがある	1.77 (.647)	1.82 (.686)	-.810	n.s.
	ひたいから汗がダラダラと流れたことがある	3.00 (.836)	2.77 (.903)	2.986	**
「原体験」項目合計得点		57.5 (11.10)	56.80 (10.92)	.707	n.s.

†p<0.1 * p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

第二項 幼児の原体験と心身の健康状態

幼児の原体験と心身の健康状態の相互関連性を検討する前提として、原体験における性差と学年の影響を検討する為に幼児の原体験得点を従属変数として、性別と学年を独立変数とする2要因の分散分析を行った(表3-2-1)(表3-2-2)。この結果、主効果、交互作用が確認されなかった。よって、今後データを一括して分析を行うこととした。

表 3-2-1 性別・学年を要因とした幼児の原体験保有の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	
性別	0.6	1	0.6	0.01	n.s.
学年	513.2	2	256.6	2.15	n.s.
性別* 学年	529.7	2	264.8	2.21	n.s.
残差	52392.3	438	119.6		

表 3-2-2 性別・学年における平均値・標準偏差

性別	男児			女児		
	年少 (N=41)	年中 (N=76)	年長 (N=89)	年少 (N=32)	年中 (N=94)	年長 (N=112)
学年						
平均値	53.4	57.4	59.6	57.2	56.4	57.0
SD	12.10 1	0.80 1	0.44 1	1.77	9.28	11.97

幼児の原体験得点と心身の健康状態得点における相互関連性は、ピアソンの積率相関係数を算出した。この結果、1%未満の有意な正の相互関連性が認められた。このことから、多くの原体験を保有している幼児は、良好な心身の健康状態であることが示された。(図 3-2-1)。また、原体験得点と幼児の心身の健康状態尺度を下位尺度別に相関分析を行った結果、全ての下位尺度において、1%未満の有意な正の相互関連性が認められた。この結果、原体験を多く保有している幼児は、特に活動、対人関係、課題集中、身体について良好な状態であることが認められた(図 3-2-2)。

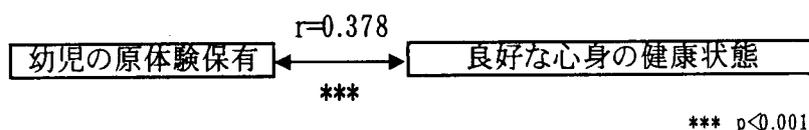


図3-2-1 幼児の原体験保有と心身の健康状態との相関関係

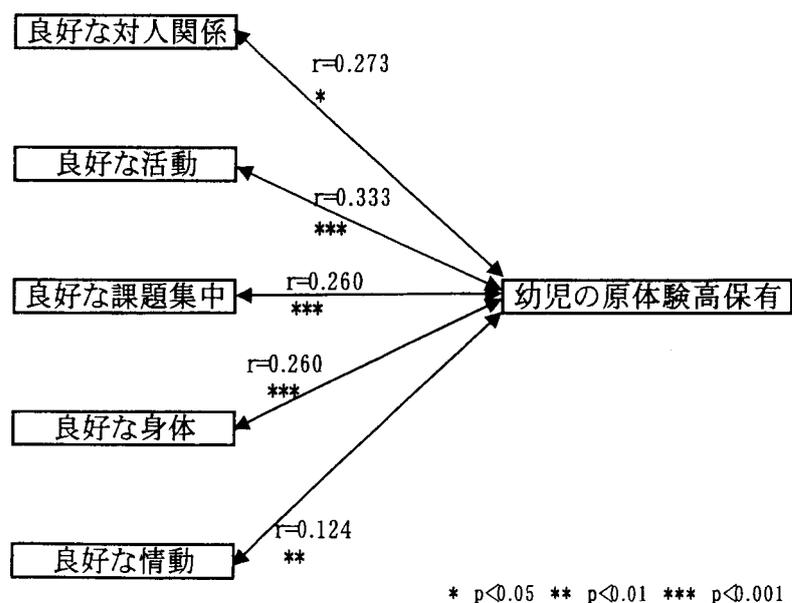


図3-2-2 幼児の原体験保有と心身の健康状態(下位尺度ごと)との相関関係

さらに検討を加えるため、原体験得点を 25%レンジで 4 層（得点の低い順に、A 群、B 群、C 群、D 群）に分類し、4 群間の幼児の心身の健康状態得点にどのような差異が認められるか、一元配置の分散分析を行った。なお、多重比較は LSD 法を用いた。

その結果、幼児の心身の健康状態に有意な主効果が認められた(表 3-2-1)。多重比較の結果、A・B 群と C・D 群間に差が認められ、多くの原体験を保有している C・D 群は、A・B 群と比べ心身の健康状態が良好であることが明らかとなった。また、下位尺度別についても、情動因子を除き、対人関係因子、活動因子、課題集中因子、身体因子において、すべて有意な主効果が認められ、少ない群に比べそれぞれの状態が良好であることが明らかとなった。

表 3-2-1 幼児の原体験保有と幼児の心身の健康状態尺度の一元配置の分散分析

尺度		A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較 (LSD 法)
幼児の心身の健康状態		(N=105)	(N=106)	(N=109)	(N=101)		
	平均値	69.4	71.3	76.1	77.4	15.81***	A 群<C 群・D 群 B 群<C 群・D 群
($\alpha=0.86$)	SD	8.69	9.40	9.41	11.50		
下位尺度		A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較 (LSD 法)
対人関係因子		(N=106)	(N=115)	(N=110)	(N=104)		
(8 項目)	平均値	26.6	27.4	29.7	29.6	10.16***	A 群<C 群・D 群 B 群<C 群・D 群
($\alpha=0.86$)	SD	4.78	5.18	4.88	5.70		
活動因子		(N=107)	(N=115)	(N=115)	(N=106)		
(4 項目)	平均値	14.2	14.8	15.8	16.4	13.03***	A 群<C 群・D 群 B 群<C 群・D 群
($\alpha=0.76$)	SD	2.79	2.83	2.85	2.95		
課題集中因子		(N=107)	(N=115)	(N=115)	(N=107)		
(3 項目)	平均値	9.5	9.9	10.1	10.9	8.30***	A 群<D 群 B 群<D 群 C 群<D 群
($\alpha=0.74$)	SD	1.96	2.05	2.11	2.49		
身体因子		(N=106)	(N=117)	(N=115)	(N=106)		
(4 項目)	平均値	13.0	13.0	13.6	14.3	6.17***	A 群<D 群 B 群<D 群
($\alpha=0.66$)	SD	2.18	2.41	2.55	3.05		
情動因子		(N=106)	(N=111)	(N=114)	(N=106)		
(2 項目)	平均値	6.1	6.3	6.5	6.4	2.91	n. s.
($\alpha=0.43$)	SD	1.41	1.53	1.59	1.55		

注)幼児の原体験保有の低い群から A 群・B 群・C 群・D 群としている。

*** : $P<0.001$

以上の結果から、多くの原体験を保有している幼児は、特に活動因子に差が大きく、豊富な活動量を示し、そうした活動量の多さが、多様な原体験を生み出すという循環が推察された。また、Gallahue (1982) は、幼児の豊富な身体活動が知性、社会性の発達に関連することを指摘している (図 3-2-3) ⁴⁴⁾。この結果においても身体活動因子について、社会的側面の対人関係因子、知的側面の課題集中因子に明確な差が認められていることから、原体験の保有は心身の健康状態と密接に関連していることが、明らかとなった。

以上を総合的に考察すると、自分の思いを行動に表出、表現できる身体状態が、多様な原体験を促し、それが、知性、社会性などの多面的な発達を促すサイクルとなっていることが示唆された。

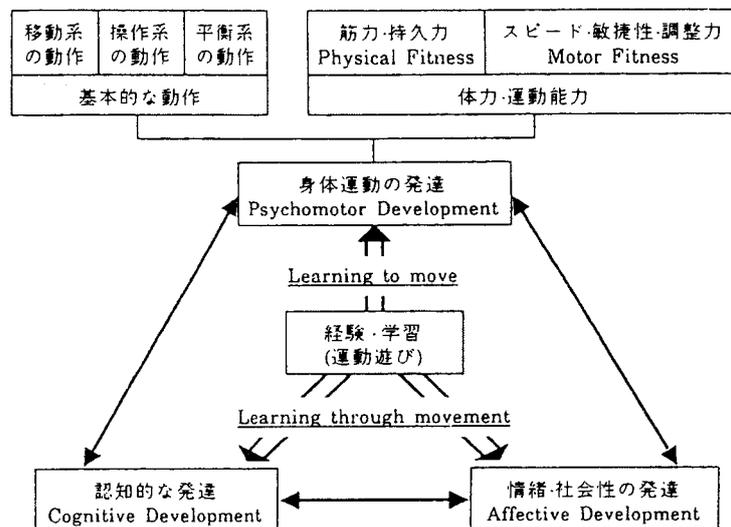


図 3-2-3 運動の経験や学習 (運動遊び) と各領域の発達との関係
David L. Gallahue; Development movement Experience for children, John WILEY & SONを宮丸 (1988) が改変 ⁴⁵⁾

第三項 幼児の原体験と遊び状況

①遊び状況

幼児の遊び状況については、記述統計によりそれぞれの体験の割合を算出した。幼児の遊び仲間に図 3-3-1 に示すとおりである。平日・休日問わず、「4人以上で遊んでいる子」は約30%であった。しかし、平日・休日において「誰とも遊ばない子ども」が5%みられ、「2～3人で遊んでいる子ども」が半数以上であった。現状の幼児の遊び仲間人数は、平日休日問わず、群れ遊びを作りにくい状態であると考えられる。日々の遊びの中で群れ遊びが、出来ないことから仲間と共に体験を共有し、社会性を身に付ける機会が失われることが懸念される。

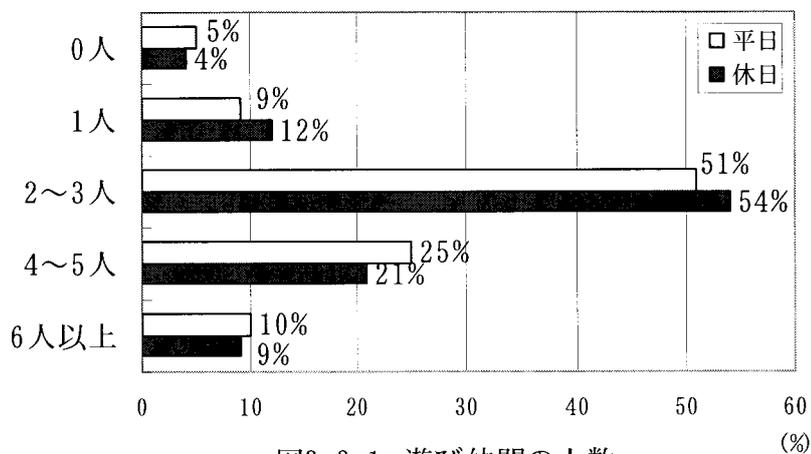


図3-3-1 遊び仲間の人数

また、幼児の遊び相手についての結果は、図 3-3-2 に示すとおりである。平日は50%以上が「子ども同士」、「きょうだい」が30%、そして「母親」が11%と続く。休日については、平日に比べ「友達」の割合が19%に減少し、「母親」より「父親」の割合が16%と増加している。後藤ら（1999）が行なった調査では、1983年と比べ幼児の遊び相手は、「近所の子ども達」から「兄弟姉妹」や「親」に変わっていていることを述べている⁴⁶⁾。また、ベネッセ教育研究所（2000）においても、平日の遊び相手が母親である場合が増加し、友達である場合が減少している¹⁾。今後一層少子化が進む中、大人が子どもの遊びへ関わっていく割合が増えていくと考えられる。

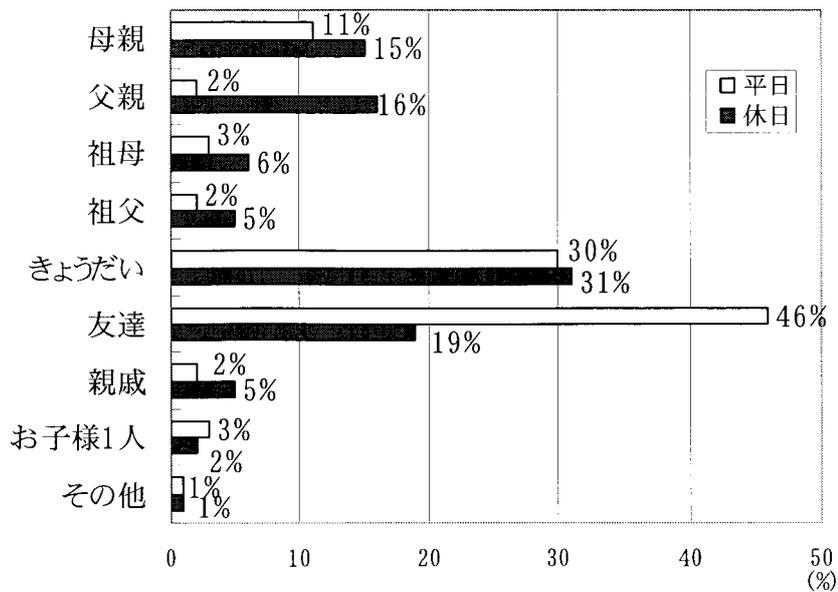


図3-3-2 遊び相手

幼児の遊び時間に図 3-3-3 に示すとおりである。平日・休日に関わらず「室内遊び」の時間が最も多い状況であった。本調査を行なった際、天候は一週間を通して雨は降っておらず、季節的にも外遊びを行なうのに適した時期であったが、「外遊び時間」が「屋内遊び時間」や「テレビ視聴時間」に割かれている現状が明らかとなった。

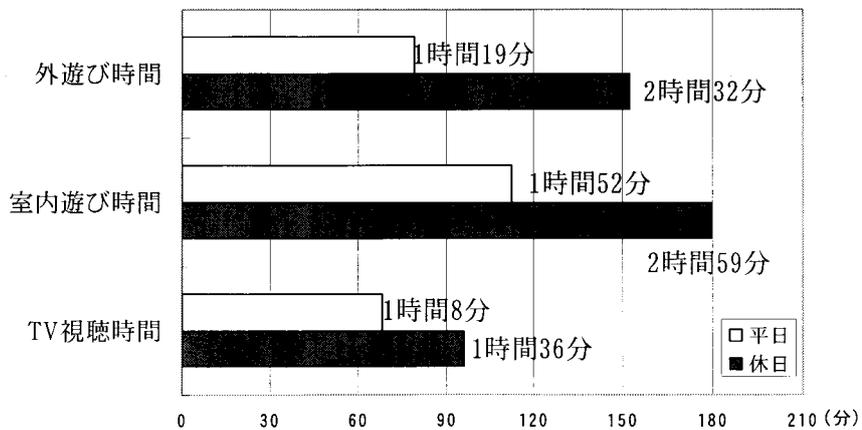


図3-3-3 平日・休日の外遊び、室内遊び、テレビ視聴時間の割合

幼児の遊び空間に図 3-3-4 に示すとおりである。平日・休日問わず公園や道路などの「人工的な遊び場」が最も多く、次いで「自宅近辺」であった。一方で、「空き地・河原・土手・野原など」の「自然的な場所」を遊び場としている子どもの割合は、5%程度であった。この結果は、中村（2002）の調査を比較すると、現状の幼児の身近な生活圏に自然的な場所が大幅に減少した結果と同様の傾向を示すものである²⁾。

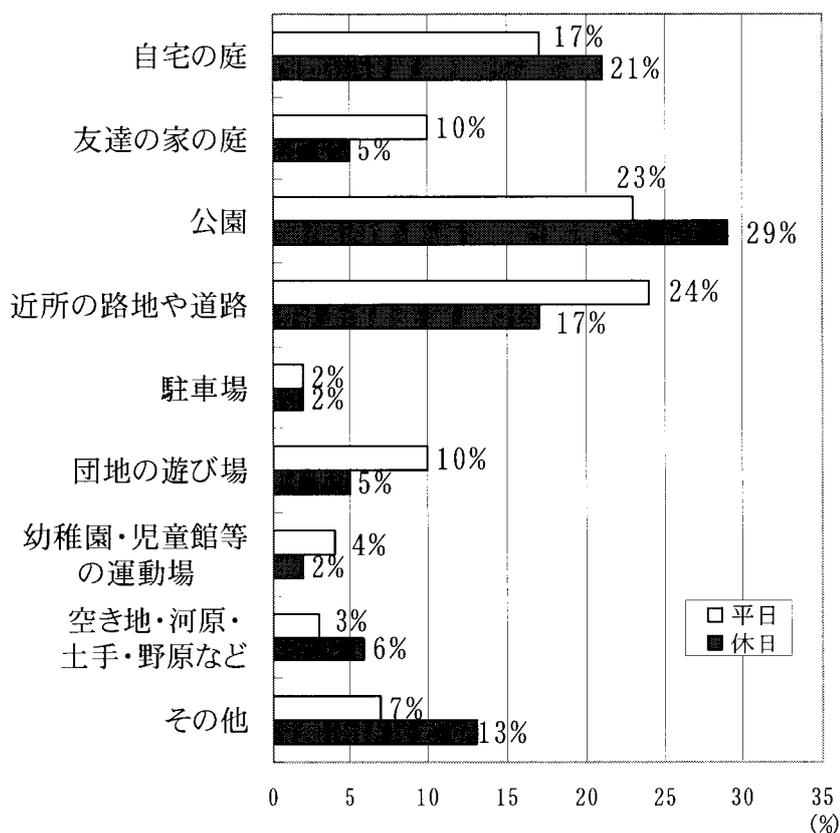
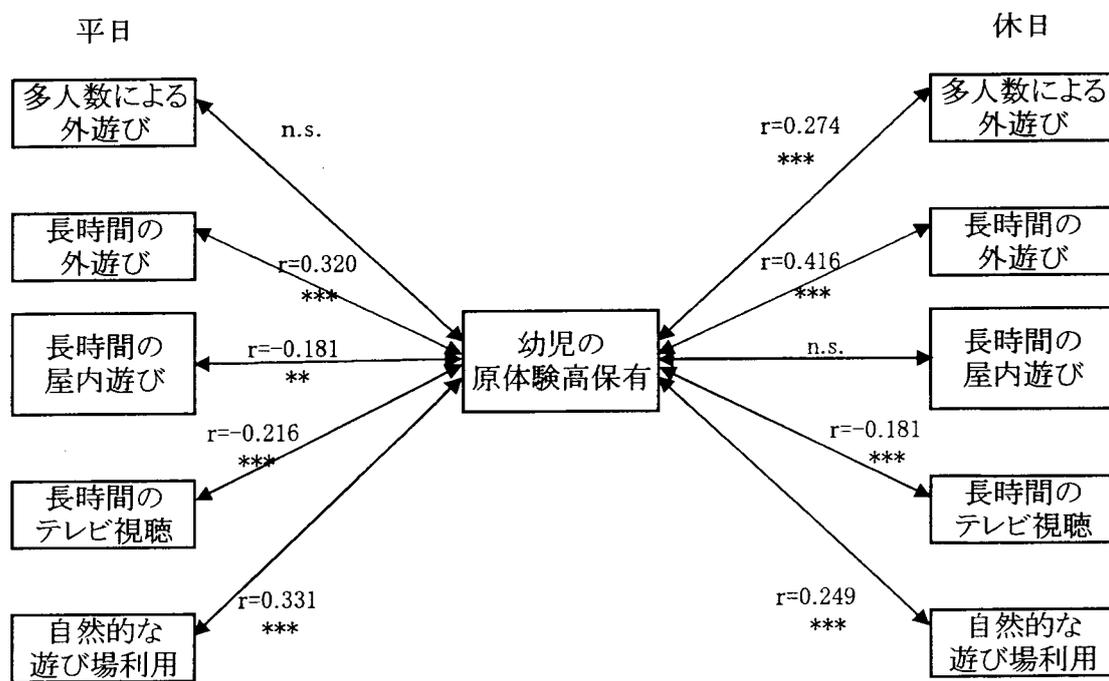


図3-3-4 平日・休日の遊び空間

② 幼児の原体験と遊び状況の相互関連性

幼児の原体験保有と遊び状況との相互関連性を検討する為、遊び状況の得点を算出した。遊び状況得点は、時間、空間、仲間の各データにそれぞれ得点を与え、ピアソンの積率相関係数を算出した。

その結果、平日の外遊び時間、遊び場について有意な正の相互関連性が認められ、一方で屋内遊び時間、テレビ視聴時間に有意な負の相互関連性が認められた。また、同様に休日においても外遊び人数、外遊び時間、遊び場について有意な正の相互関連性が認められ、一方でテレビ視聴時間に有意な負の相互関連性が認められた。この結果、原体験を多く保有している幼児は、平日、休日共にテレビ視聴時間が短く、長時間に渡る屋外遊びを自然的な遊び場で行っていることが確認された（図 3-3-5）。



* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

図3-3-5 幼児の原体験保有と遊び状況との相関関係

さらに分析を深める為、原体験得点を 25%レンジで 4 層（得点の低い順に、A 群、B 群、C 群、D 群）に分類し、4 群間の遊び状況にどのような差異が認められるか、一元配置の分散分析を行った。なお、多重比較は LSD 法を用いた。

その結果、平日においては、外遊び時間、屋内遊び時間、テレビ視聴時間、遊び場で、休日においては、外遊び人数、外遊び時間、テレビ視聴時間、遊び場に、有意な主効果が認められた(3-3-1)。

また、多重比較の結果を外観すると、総じて原体験量の多い群は、外遊び人数が多く、その時間が長く、屋内遊び時間は短く、テレビ視聴時間が短く、遊び場も人工的でなく自然的な遊び場であるという差が確認させる。

表 3-3-1 幼児の原体験保有と遊び状況の一元配置の分散分析

尺度		A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較 (LSD 法)
外遊び人数	平均値	3.3	3.4	3.4	3.5	1.17	n.s.
	SD	0.74	0.70	0.73	0.71		
外遊び時間	平均値	55.4	74.2	78.6	102.5	14.16***	A 群・B 群・C 群 < D 群 A 群 < C 群
	SD	39.79	46.96	44.57	46.38		
平日 屋内遊び時間	平均値	121.4	113.8	116.9	94.9	3.82*	D 群 < A 群・C 群
	SD	59.66	56.51	51.31	53.32		
テレビ視聴時間	平均値	80.9	70.1	65.1	56.6	4.95**	D 群 < A 群
	SD	52.58	44.00	38.26	38.70		
遊び場	平均値	10.0	10.9	12.1	15.9	17.47***	A 群・B 群・C 群 < D 群
	SD	6.13	6.02	6.94	6.19		
外遊び人数	平均値	2.8	3.2	3.2	3.4	7.80***	A 群 < B 群・C 群・D 群
	SD	0.73	0.60	0.81	0.78		
外遊び時間	平均値	105.6	127.3	155.1	207.7	16.98***	A 群・B 群・C 群 < D 群 A 群 < C 群
	SD	74.75	93.28	97.41	115.36		
休日 屋内遊び時間	平均値	176.0	195.4	187.5	158.6	1.85	n.s.
	SD	111.48	106.67	113.37	95.05		
テレビ視聴時間	平均値	105.8	103.0	92.9	77.0	3.76*	D 群 < A 群・B 群
	SD	82.22	68.22	53.38	52.18		
遊び場	平均値	4.5	4.8	5.6	6.7	8.25***	A 群・B 群 < D 群
	SD	3.10	3.31	3.97	3.78		

* : P<0.05 ** : P<0.01 *** : P<0.001

注) 幼児の原体験保有の低い群から A 群・B 群・C 群・D 群としている。

第四項 幼児の原体験と親の影響

① 幼児と両親の原体験の差異

幼児の原体験と親が子どもだった頃の原体験の世代間比較を検討する為、対応のある t-test により行った。親子の原体験得点は、表 3-4-1 に示すとおりである。

その結果、原体験総得点に統計的に有意な差が認められ、項目毎の検討においても多くの有意差が確認された。

項目ごとに見ると、「火体験」については、親世代に比べ現代の幼児の体験は有意に低下しており、日常生活の中で火を使った遊びや生活が少なくなっている。

「石体験」については、親世代に比べ「いろいろな色や形の石を集めたことがある」を除き各項目が有意に低下しており、石を使った遊びが少なくなっている。

「土体験」については、親世代に比べ有意に低下しており、清潔志向が進み、地肌が直接接触するような土との接触体験が少なくなっている。又、石体験にも関わるが、道路がアスファルトやコンクリートで舗装されたことにより、接触頻度が低下したことに反映したものと考えられる。

「水体験」については、親世代に比べ有意に低下している。これは、親の水難事故に対する危機意識の高まりや、幼児の身の回りの池や川などの水辺の減少及び悪化が反映したものと考えられる。

「草体験」については、親世代に比べ「草花で遊んだことがある」の男児を除いて、有意に低下している。これは、幼児の身の周りに人工的な遊び場が増え、先の考察同様、道路が舗装されたことから、身近で草花と関わる機会が減少していることが反映したものと推察される。

「木体験」については、親世代に比べ「木の葉や木の実を集めたことがある」という項目を除いて、有意に低下しており、幼児の身の回りから里山や自然林が減少したことが考えられる。

「動物体験」については、親世代に比べ有意に低下している。これは、自然環境の減少や清潔志向の向上、さらには居住環境の問題等により、虫と関わりを持たなくなっていることや関わりを持つ意欲が低下していると考えられる。

最後に「ゼロ体験」については、親世代に比べ「ひたいから汗がダラダラと流れたことがある」の男児を除く各項目において、有意に低下している。これは、近年の都市化、生活の夜型化、利便性の高まりや快適化のため、ゼロ体験が減少したことが考えられる。

一方で、男児の「木の葉や木の実を集めたことがある」体験が、親世代より有意に増加し、女児の「木の葉や木の実を集めたことがある」には有意差が出ていない。これは、現在の幼児教育において意図的に身近な自然物を保育に取り入れるようになったため、幼児の身近なものを収集する機会の増加が反映したものと推察される。

以上の結果から、各項目における現状の幼児の原体験差は、親世代より著しく減少していることが明らかとなった。

表 3-4-1 幼児と両親の原体験の差異

「原体験項目」		男児と父親の「原体験」得点				女兒と母親の「原体験」得点			
		男児 (N=220)	父親 (N=220)	t 値	危険率	女兒 (N=261)	母親 (N=261)	t 値	危険率
		平均値 (SD)	平均値 (SD)			平均値 (SD)	平均値 (SD)		
火 体 験	マッチで火をつけたことがある	1.05 (.220)	1.95 (.774)	-16.241	***	1.07 (.276)	1.74 (.732)	15.072	***
	たき火をしたことがある	1.29 (.549)	1.98 (.782)	-11.121	***	1.29 (.501)	1.90 (.748)	12.753	***
	火の暖かさを感じたことがある	1.95 (.595)	2.51 (.794)	-8.844	***	1.96 (.643)	2.43 (.746)	10.247	***
石 体 験	石を投げて遊んだことがある	2.35 (.758)	2.95 (.780)	-8.900	***	2.09 (.644)	2.55 (.753)	9.947	***
	いろいろな色や形の石を集めたことがある	2.43 (.881)	2.44 (.907)	.113	n.s.	2.54 (.861)	2.57 (.811)	.534	n.s.
	地面に石で文字や絵を書いたことがある	2.43 (.859)	2.98 (.771)	7.113	***	2.50 (.871)	3.07 (.768)	9.678	***
土 体 験	素足で土の上を歩いたことがある	2.48 (.823)	3.01 (.770)	7.498	***	2.53 (.815)	2.74 (.761)	4.276	***
	土のぬくもりや冷たさを感じたことがある	2.50 (.807)	3.00 (.769)	6.906	***	2.55 (.820)	2.83 (.745)	5.911	***
	泥遊びをしたことがある	2.70 (.865)	3.17 (.698)	6.648	***	2.81 (.844)	2.98 (.780)	3.410	**
水 体 験	雨に濡れながら遊んだことがある	1.98 (.811)	2.97 (.799)	14.206	***	1.96 (.756)	2.47 (.836)	9.935	***
	湧き水を飲んだことがある	1.29 (.573)	2.27 (.940)	14.064	***	1.22 (.487)	1.89 (.841)	14.263	***
	水かけ遊びをしたことがある	2.74 (.764)	2.96 (.708)	3.576	***	2.58 (.763)	2.70 (.766)	2.741	**
草 体 験	草花で遊んだことがある	2.58 (.819)	2.68 (.825)	1.455	n.s.	2.84 (.772)	3.16 (.712)	7.334	***
	草のにおいをかいだことがある	2.51 (.866)	2.78 (.820)	3.942	***	2.67 (.782)	3.11 (.712)	9.811	***
	草で手を切ったことがある	1.85 (.880)	2.74 (.811)	11.405	***	1.90 (.904)	2.78 (.852)	15.807	***
木 体 験	木の葉や木の実を集めたことがある	2.82 (.839)	2.54 (.855)	-3.731	***	2.90 (.829)	2.89 (.786)	-3.26	n.s.
	木の実をとって食べたことがある	1.61 (.892)	2.34 (.924)	8.639	***	1.67 (.905)	2.33 (.931)	11.201	***
	木をおもちゃにしたことがある	2.43 (.936)	2.68 (.831)	3.195	**	2.28 (.849)	2.51 (.842)	4.817	**
動 物 体 験	虫とりをしたことがある	2.72 (1.079)	3.27 (.807)	7.013	***	2.23 (.897)	2.71 (.832)	8.109	***
	虫の飼育をしたことがある	2.37 (1.151)	3.04 (.884)	7.744	***	1.79 (.919)	2.44 (.961)	10.619	***
	虫の声に耳をすましたことがある	2.65 (.906)	2.93 (.813)	3.853	***	2.45 (.766)	2.89 (.741)	9.375	***
ゼ ロ 体 験	おなかが減ったのを我慢したことがある	2.15 (.640)	2.51 (.807)	5.249	***	2.15 (.583)	2.50 (.759)	9.050	***
	日の出を見たことがある	1.18 (.472)	2.14 (.837)	15.567	***	1.24 (.549)	1.98 (.791)	15.483	***
	真っ暗闇を歩いたことがある	1.56 (.673)	2.13 (.802)	7.746	***	1.53 (.625)	2.07 (.766)	11.620	***
	鳥肌を立てて、寒さに震えたことがある	1.77 (.668)	2.21 (.832)	6.488	***	1.83 (.687)	2.30 (.802)	10.830	***
	汗がダラダラと流れたことがある	2.99 (.847)	2.87 (.888)	-1.529	n.s.	2.76 (.898)	2.88 (.855)	2.799	**
原体験項目合計得点		57.44 (11.12)	68.84 (13.69)	-10.647	***	56.94 (10.89)	64.94 (12.39)	-15.860	***

*** : P<0.01 ** : P<0.001

② 幼児の原体験と両親の原体験との相互関連性

両親の原体験と幼児の原体験との相互関連性を検討する為、ピアソンの積率相関係数を算出した（図 3-4-1）。

その結果、母親については 0.1%未満の有意な正の相互関連性が認められ、父親については 1%未満の有意な正の相互関連性が認められた。このことから、幼児が多くの原体験をしている時、その両親も原体験を多くしていることが示された。

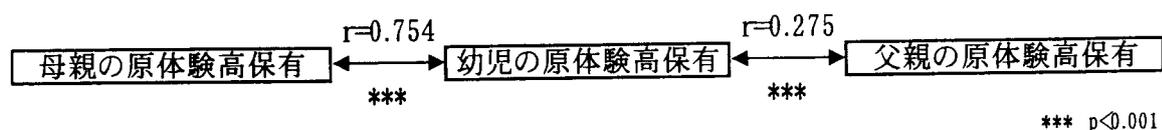


図3-4-1 幼児の原体験と両親の原体験保有との相関関係

さらに分析を深める為、幼児の原体験得点を 25%レンジで 4 層（得点の低い順に、A 群、B 群、C 群、D 群）に分類し、4 群間の母親、父親の原体験得点にどのような差異が認められるか、一元配置の分散分析を行った。なお、多重比較は LSD 法を用いた。

この結果、有意な主効果が認められ、原体験量の多い幼児は、その父母共に幼少期の原体験が多いことが明らかとなった（表 3-4-2）。

表 3-4-2 幼児の原体験と両親の原体験の一元配置の分散分析

尺度		A 群 (N=101)	B 群 (N=112)	C 群 (N=112)	D 群 (N=107)	F 値	多重比較(LSD 法)
母親の 原体験保有	平均値	52.7	60.6	67.2	75.7	125.51***	A 群<B 群・C 群・D 群
	SD	8.14	7.83	8.48	10.83		B 群<C 群・D 群 C 群<D 群
尺度		A 群 (N=105)	B 群 (N=110)	C 群 (N=112)	D 群 (N=101)	F 値	多重比較(LSD 法)
父親の 原体験保有	平均値	65.3	68.9	70.5	74.8	8.63***	A 群<C 群・D 群
	SD	13.98	13.88	13.11	12.96		B 群<D 群

*** : P<0.001

注) 幼児の原体験保有の低い群から A 群・B 群・C 群・D 群としている。

③ 幼児の原体験と両親の遊びに対する養育態度の相互関連性

母親、父親それぞれの遊びに対する養育態度と幼児の原体験との相互関連性を検討する為、ピアソンの積率相関係数を算出した。

その結果、母親については0.1%未満の有意な正の相互関連性が認められ、父親については1%未満の有意な正の相互関連性が認められた(図3-4-2)。このことから、両親の遊びに対する肯定的な養育態度は、幼児に豊富な原体験に関連することが明らかとなった。また、原体験得点と遊びに対する肯定的養育態度尺度を下位尺度別に相関分析を行った結果、母親、父親共に幼児を励まし、手助けし、指導するといった「教示・指導的な態度」の下位尺度において、0.1%未満の有意な負の相互関連性が認められた(図3-4-3)。さらに母親については、子どもを誉めたりしながら遊びに積極的に関わるといった「支持的態度」の下位尺度において1%未満の有意な正の相互関連性が認められた。このことから、教示的な養育態度を取る両親と、支持的な養育態度を取る母親が、特に幼児の原体験保有に関連することが明らかとなった。

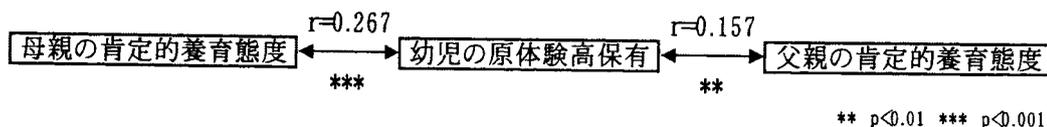


図3-4-2 幼児の原体験と両親の遊びに対する養育態度との相関関係

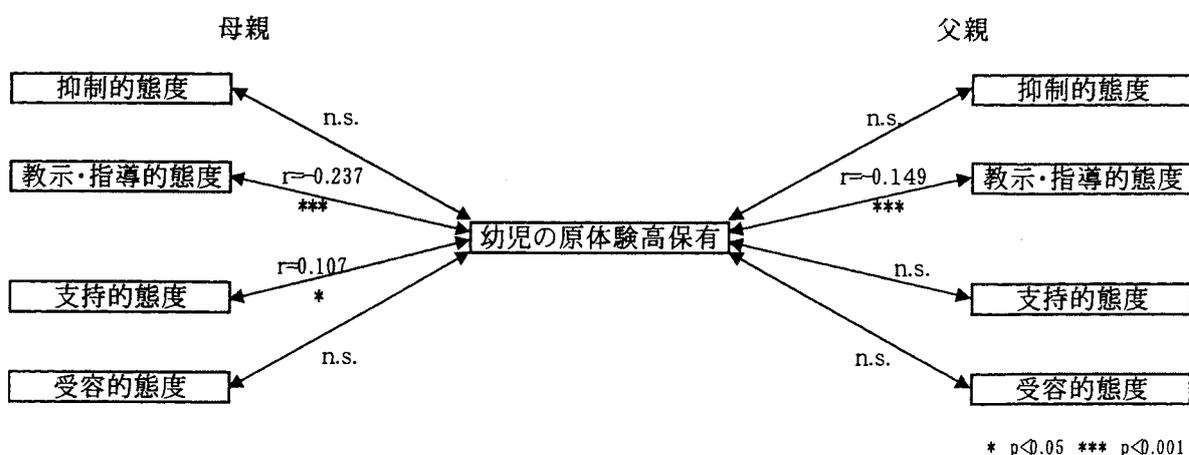


図3-4-3 幼児の原体験保有と両親の遊びに対する養育態度(下位尺度ごと)との相関関係

さらに分析を深める為、原体験得点を25%レンジで4層(得点の低い順に、A群、B群、C群、D群)に分類し、4群間の両親の遊びに対する肯定的養育態度にどのような差異が認められるか、一元配置の分散分析を行った。なお、多重比較はLSD法を用いた。

その結果は、表3-4-3に示すとおりである。父親については、有意な主効果が認められなかったものの、母親については、遊びに対する肯定的養育態度、教示・指導的態度、支持的態度において有意な主効果が認められた。多重比較の結果、多くの原体験を保有している群は、低い群と比べ、母親は遊びに対して肯定的養育態度、支持的態度であり、教示・指導的態度が少ないことが明らかとなった。また、父親に主効果が認められないことから、父親以上に母親の影響が強く、母親の支持的な関わりや指導性の少なさが豊富な幼児の原体験につながっていることが推察される。

表 3-4-3 幼児の原体験保有と両親の遊びに対する養育態度尺度の一元配置の分散分析

尺度		A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較 (LSD 法)
		(N=104)	(N=115)	(N=109)	(N=105)		
遊びに対する 肯定的養育態度	平均値	33.7	34.1	35.0	35.7	10.141***	A 群<C 群・D 群 B 群<D 群
	SD	2.59	3.04	2.88	3.31		
下位尺度		A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較 (LSD 法)
		(N=107)	(N=116)	(N=111)	(N=107)		
抑制的態度 (4 項目)	平均値	18.5	18.3	18.2	18.3	0.743	n.s.
	SD	1.41	1.35	1.42	1.75		
教示・指導的態度 (3 項目)	平均値	6.4	6.1	5.7	5.4	5.69**	D 群<A 群・B 群
	SD	1.90	1.69	1.86	1.88		
支持的態度 (3 項目)	平均値	10.6	10.5	10.9	11.2	3.57*	B 群<D 群
	SD	1.72	1.49	1.55	1.92		
受容的態度 (2 項目)	平均値	5.9	6.1	6.1	6.3	0.747	n.s.
	SD	1.34	1.45	1.32	1.45		
尺度		A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較 (LSD 法)
		(N=105)	(N=113)	(N=114)	(N=106)		
遊びに対する 肯定的養育態度	平均値	35.1	35.5	35.8	36.4	2.46	n.s.
	SD	3.72	3.52	3.36	3.65		
下位尺度		A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較 (LSD 法)
		(N=106)	(N=114)	(N=115)	(N=106)		
抑制的態度 (4 項目)	平均値	17.2	17.2	17.5	17.1	0.73	n.s.
	SD	2.40	2.00	2.34	2.19		
教示・指導的態度 (3 項目)	平均値	6.3	6.1	5.9	5.6	2.30	n.s.
	SD	2.20	2.06	2.17	1.85		
支持的態度 (3 項目)	平均値	10.7	10.8	11.0	11.0	0.91	n.s.
	SD	1.65	1.97	1.68	1.78		
受容的態度 (2 項目)	平均値	5.9	6.0	6.1	6.1	0.39	n.s.
	SD	1.45	1.36	1.48	1.45		

* : P<0.05 ** : P<0.01 *** : P<0.001

注 1) 抑制的態度、教示・指導的態度は逆転項目である。

注 2) 幼児の原体験保有の低い群から A 群・B 群・C 群・D 群としている。

④ 幼児の原体験と両親の原体験を妨げている要因に関する意識の相互関連性

母親、父親それぞれの原体験を妨げている要因に関する意識と幼児の原体験との相互関連性を検討する為、ピアソンの積率相関係数を算出した。

その結果、両親において0.1%未満の有意な負の相互関連性が認められた(図3-4-4)。このことから、両親の原体験を妨げている要因に関する意識は、幼児の原体験保有の低さに関連することが明らかとなった。また、原体験得点と原体験を妨げている要因に関する意識尺度を下位尺度別に相関分析を行った結果、父親の「不安感」、「幼児多忙感」の下位尺度を除き、他すべてに有意な負の相互関連性が認められた。(図3-4-5)。このことから、両親の原体験を妨げている要因に関する意識の低さが、幼児の豊富な原体験と関連することが明らかとなった。

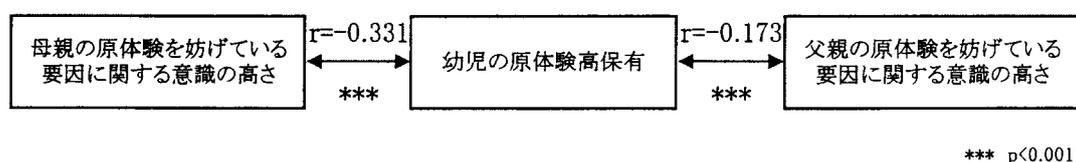


図3-4-4 幼児の原体験と両親の原体験を妨げている要因に関する意識との相関関係

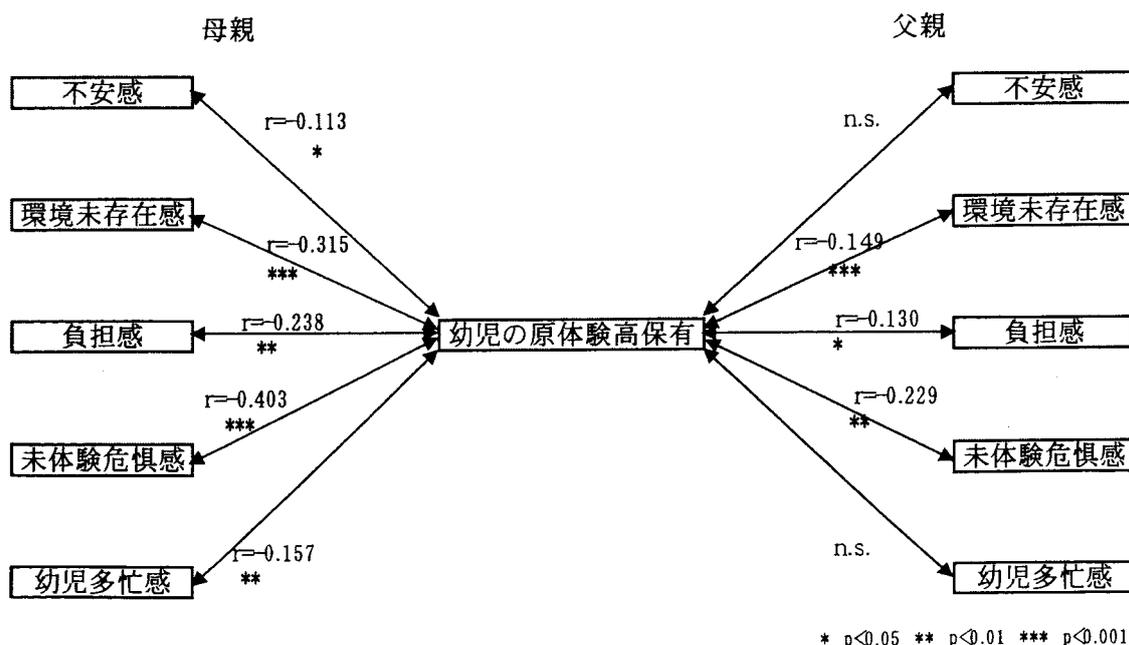


図3-4-5 幼児の原体験保有と両親の原体験を妨げている要因に関する意識(下位尺度ごと)との相関関係

さらに分析を深める為、原体験得点を25%レンジで4層（得点の低い順に、A群、B群、C群、D群）に分類し、4群間の原体験を妨げている要因に関する意識にどのような差異が認められるか、一元配置の分散分析を行った。なお、多重比較はLSD法を用いた。

その結果は、表3-4-4に示すとおりである。母親については、不安感を除くすべての項目において有意な主効果が認められた。父親は、環境未存在感、未体験危惧感のみ有意な主効果が認められた。多重比較の結果、多くの原体験を保有している群は、低い群と比べ、母親の環境未存在感、負担感、未体験危惧感、幼児多忙感の意識が低く、父親については環境未存在感、未体験危惧感の意識が低いことが明らかとなった。

表 3-4-4 幼児の原体験保有と両親の原体験を妨げている要因に関する意識尺度の一元配置の分散分析

尺度		A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較(LSD 法)
母親	原体験を妨げている 要因に関する意識 ($\alpha = 0.75$)	(N=101) 平均値 46.5 SD 8.53	(N=111) 平均値 50.1 SD 8.05	(N=111) 平均値 51.5 SD 7.92	(N=105) 平均値 54.6 SD 8.91	16.39***	A 群<B 群・C 群・D 群 B 群・C 群<D 群
	下位尺度	A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較(LSD 法)
	不安感 (4 項目) ($\alpha = 0.87$)	(N=106) 平均値 10.2 SD 2.94	(N=114) 平均値 11.0 SD 2.50	(N=114) 平均値 10.7 SD 2.94	(N=106) 平均値 11.3 SD 2.94	2.63	n.s.
	環境未存在感 (5 項目) ($\alpha = 0.81$)	(N=105) 平均値 12.4 SD 3.34	(N=114) 平均値 13.4 SD 3.11	(N=113) 平均値 14.2 SD 3.23	(N=107) 平均値 15.1 SD 3.53	12.19***	A 群<C 群・D 群 B 群<D 群
	負担感 (4 項目) ($\alpha = 0.77$)	(N=103) 平均値 9.9 SD 2.45	(N=114) 平均値 10.0 SD 2.55	(N=113) 平均値 10.5 SD 2.37	(N=107) 平均値 11.4 SD 2.81	7.73***	A 群・B 群・C 群<D 群
	未体験危惧感 (2 項目) ($\alpha = 0.91$)	(N=105) 平均値 4.7 SD 1.70	(N=115) 平均値 5.7 SD 1.57	(N=113) 平均値 6.1 SD 1.46	(N=106) 平均値 6.6 SD 1.53	4.00**	A 群<B 群・C 群・D 群 B 群<D 群
	幼児多忙感 (3 項目) ($\alpha = 0.73$)	(N=105) 平均値 9.5 SD 1.84	(N=114) 平均値 10.0 SD 1.70	(N=114) 平均値 10.1 SD 1.68	(N=107) 平均値 10.2 SD 1.68	16.39***	A 群<C 群・D 群
	尺度	A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較(LSD 法)
	原体験を妨げている 要因に関する意識 ($\alpha = 0.75$)	(N=103) 平均値 52.1 SD 8.53	(N=109) 平均値 55.7 SD 9.40	(N=111) 平均値 54.9 SD 8.84	(N=104) 平均値 56.6 SD 8.35	5.16**	A 群<B 群・D 群
	下位尺度	A 群	B 群	C 群	D 群	F 値	多重比較(LSD 法)
不安感 (4 項目) ($\alpha = 0.87$)	(N=105) 平均値 11.9 SD 2.83	(N=111) 平均値 12.7 SD 2.74	(N=112) 平均値 12.3 SD 2.85	(N=105) 平均値 12.4 SD 2.58	1.46	n.s.	
環境未存在感 (5 項目) ($\alpha = 0.81$)	(N=104) 平均値 13.9 SD 3.14	(N=111) 平均値 14.9 SD 3.69	(N=112) 平均値 14.8 SD 3.49	(N=105) 平均値 15.6 SD 3.12	4.47**	A 群<D 群	
負担感 (4 項目) ($\alpha = 0.77$)	(N=105) 平均値 10.6 SD 2.38	(N=111) 平均値 11.3 SD 2.88	(N=112) 平均値 11.2 SD 2.79	(N=106) 平均値 11.6 SD 2.55	2.80	n.s.	
未体験危惧感 (2 項目) ($\alpha = 0.91$)	(N=105) 平均値 5.7 SD 1.57	(N=112) 平均値 6.6 SD 1.54	(N=112) 平均値 6.6 SD 1.41	(N=106) 平均値 6.7 SD 1.38	9.86***	A 群<B 群・C 群・D 群	
幼児多忙感 (3 項目) ($\alpha = 0.73$)	(N=104) 平均値 9.9 SD 1.98	(N=112) 平均値 10.3 SD 1.58	(N=111) 平均値 10.1 SD 1.87	(N=106) 平均値 10.3 SD 1.59	1.51	n.s.	

** : $P < 0.01$ *** : $P < 0.001$

注) 幼児の原体験保有の低い群から A 群・B 群・C 群・D 群としている。

第五項 幼児の原体験と住環境

幼児の原体験と住環境については、原体験得点を25%レンジで4層（得点の低い順に、A群、B群、C群、D群）に分類し、4群と住環境との関連について χ^2 検定によって分析を行なった（表3-5-1）。

① 幼児の原体験の「住宅形態」

「住宅形態」は、「集合住宅」に住む幼児が、「A群」が51.4%と最も高く、「B群」43.4%、「D群」40.1%、「C群」31.6%という順であった。また、「一戸建て」に住む幼児が、「C群」が68.4%と最も高く、「D群」59.9%、「B群」56.6%、「A群」48.6%という順であった。（ χ^2 値(3) 10.915, $p < 0.05$, Cr 0.158）。これは、一戸建てに比べて、集合住宅付近には、個人で所有する庭がなく、また人工的な遊び環境が整備されているため、原体験をしにくい状態であることが考えられる。また、山本ら（1992）によると、集合住宅の高階層に住む幼児は、1人で外出することが減り、親と共に外出することを明らかにしている¹⁸⁾。さらに新田（1981）によると、低階層より高階層に住む母親の方が、子どもの外遊びに対する不安が高いことを明らかにしている⁴⁷⁾。さらに、母親が、子どもの遊びに付き添うことで、子どもの遊びへの関与が増し、多様な体験を阻害している可能性を指摘している。このことから、集合住宅に住む幼児にとって、多様な原体験がある遊び環境が少なく、集合住宅の高階層に住むことで、親からの干渉を受けやすくなり、原体験がしにくい状況が考えられる。

表 3-5-1 幼児の原体験と「住宅形態」

		A 群	B 群	C 群	D 群	χ^2 検定
		N=107	N=117	N=115	N=107	
「住宅形態」	集合住宅	51.4	43.4	31.6	40.1	$p < 0.05$
	一戸建て	48.6	56.6	68.4	59.9	

注 1) 表内の数値は%を示す。

注 2) 幼児の原体験保有の低い群から A 群・B 群・C 群・D 群としている。

② 幼児の原体験の「立地環境」

「立地環境」について、「農業地域」に住む幼児は、「D群」と2.8%と高く、次いで「C群」であった。「旧住宅地域」に住む幼児は、「A群」46.7%と最も高く、次いで「B群」、「C群」、「D群」という順であった。「新興住宅地域」に住む幼児は、「A群」が最も高く、次に「B群」、「C群」、「D群」という順であった。また、「商工業地域」に住む幼児は、「A群」が9.5%と最も高く、次に「C群」、「D群」、「B群」という順であった (χ^2 値(9) 32.296, $p < 0.001$, Cr 0.157)。

木下(1992)は、農村部と都市部の子どもの自然との接触頻度の比較調査において、子どもにとって農村部は都市部に比べて、自然の接触頻度の高い場所であると述べる一方で、例外的に都市部でもある程度の自然環境が子どもの身近にあれば、自然との接触は保たれることを述べている⁴⁸⁾。このことから、新興住宅地域に住む幼児はK幼稚園出身者が95%を占めるため、K幼稚園付近の開発されていない田んぼや、林などの自然的な遊び環境が幼児の生活圏内にあるため、原体験が可能となっていることが考えられる。

このようなことから、幼児の原体験は、自宅の住宅形態や立地環境に大きく関連していることが明らかとなった。

表 3-5-2 幼児の原体験と「立地環境」

		A群	B群	C群	D群	χ^2 検定
		N=107	N=117	N=115	N=107	
「立地環境」	農業地域	0.0	0.0	0.9	2.8	$p < 0.001$
	旧住宅地域	46.7	36.4	27.2	17.8	
	新興住宅地域	43.8	59.1	65.8	73.8	
	商工業地域	9.5	4.5	6.1	5.6	

注 1) 表内の数値は%を示す。

注 2) 幼児の原体験保有の低い群から A 群・B 群・C 群・D 群としている。

第六項 幼児の原体験と生活背景の共分散構造分析

これまでの結果において幼児の原体験保有は、心身の健康状態、遊びの状況、親の幼少期に体験した原体験、親の遊びに対する養育態度、親の原体験を妨げる要因に関する意識と相互に関連性が認められた。次に、幼児の原体験保有の生活背景を探る為に、共分散構造分析を行った。統計の手続きとして、Amos5を使用した。「幼児の原体験」、「母親の原体験」、「父親の原体験」、「母親の影響」、「父親の影響」、「遊びの状況」、「住環境」を潜在変数として、潜在変数間における因果的な影響力の検討を行なった。潜在変数「幼児の原体験」に対する観測変数として、嶋崎（2004）の研究を基に幼児の「日常の原体験、非日常の原体験」を設定した⁴⁹⁾。また、潜在変数「母親の原体験」、「父親の原体験」に対する観測変数も、それぞれの「日常の原体験、非日常の原体験」を設定した。潜在変数「母親の影響」に対する観測変数として、母親の遊びに対する養育態度尺度の「支持的養育態度」と原体験を妨げている要因に関する意識尺度の「未体験危惧意識」を設定した。潜在変数「父親の影響」に対する観測変数として、父親の遊びに対する養育態度尺度の「支持的養育態度」と原体験を妨げている要因に関する意識尺度の「未体験危惧意識」を設定した。潜在変数「遊びの状況」に対する観測変数として、「屋外遊び時間（時間）、屋外遊び仲間人数（仲間）、屋外遊び場（空間）」を設定した。潜在変数「住環境」に対する観測変数として、「住宅形態、住宅地帯」を設定した。

モデルの修正を繰り返し、結果添付の図に示すモデルを採択した（図 3-6-1）。採択したモデルにおける適合度指標は次のとおりである。 χ^2 値=214.206, $p < 0.001$, GFI=.945, AGFI=.916, CFI=.940, RMSEA=.060, AIC=296.206であった。モデルの採択する基準として χ^2 値が一般的によく用いられるが、サンプル数が多いほどモデルを棄却してしまう可能性が指摘されており、本研究のモデルを採択する基準としてGFI, AGFI, CFIの適合度指標を用いることとした。GFI, AGFI, CFIについては、一般的に0.9以上であれば、モデルはデータをうまく説明していると判断できる。RMSEAは、0.05以下であれば当てはまりが良く、0.1以上であれば当てはまりが悪いと判断する事ができる。AICは、複数のモデルとの比較の際、相対的な評価として用いられ、値が他のモデルより低い方を採用する。以上のことを踏まえ、今回採択したモデルの適合

度指標は十分なものが得られたと判断できる。

共分散構造分析の結果、「母親の原体験」は、「幼児の原体験」($\beta = .45$ $p < 0.001$), 「母親の影響」($\beta = .72$ $p < 0.001$) にプラスの影響が認められ, 「母親の影響」は, 「遊び状況」($\beta = .33$ $p < 0.001$) のプラスの影響を介して, 「幼児の原体験」($\beta = .36$ $p < 0.001$) に間接的にプラスの影響が認められた。さらに, 「住環境」は「幼児の原体験」($\beta = .22$ $p < 0.05$) にプラスの直接的な影響を示すと共に, 「遊び状況」($\beta = .27$ $p < 0.05$) を介して, 間接的にプラスの影響を与えている。一方で「父親の原体験」は, 「父親の影響」($\beta = .50$ $p < 0.001$) のみにプラスの影響が認められた。

このことから, 「幼児の原体験」に因果的な影響力を持つ要因は, 「母親の原体験」, 「遊びの状況」, 「住環境」であり, 「母親の影響」は「遊びの状況」を介して, また, 「住環境」においては, 「遊びの状況」を介して間接的に影響を与えている。

今回の分析の結果から, 幼児の原体験には父親に比べ, 生活を共有する時間の長い母親の影響が大きく, その影響は母親が過去に体験した原体験が, 子どもへの養育態度や遊び方にも反映していることが明らかとなった。

χ^2 乗値=214.206
 p値=.000
 GFI=.945
 AGFI=.916
 CFI=.940
 RMSEA=.060
 AIC=296.206

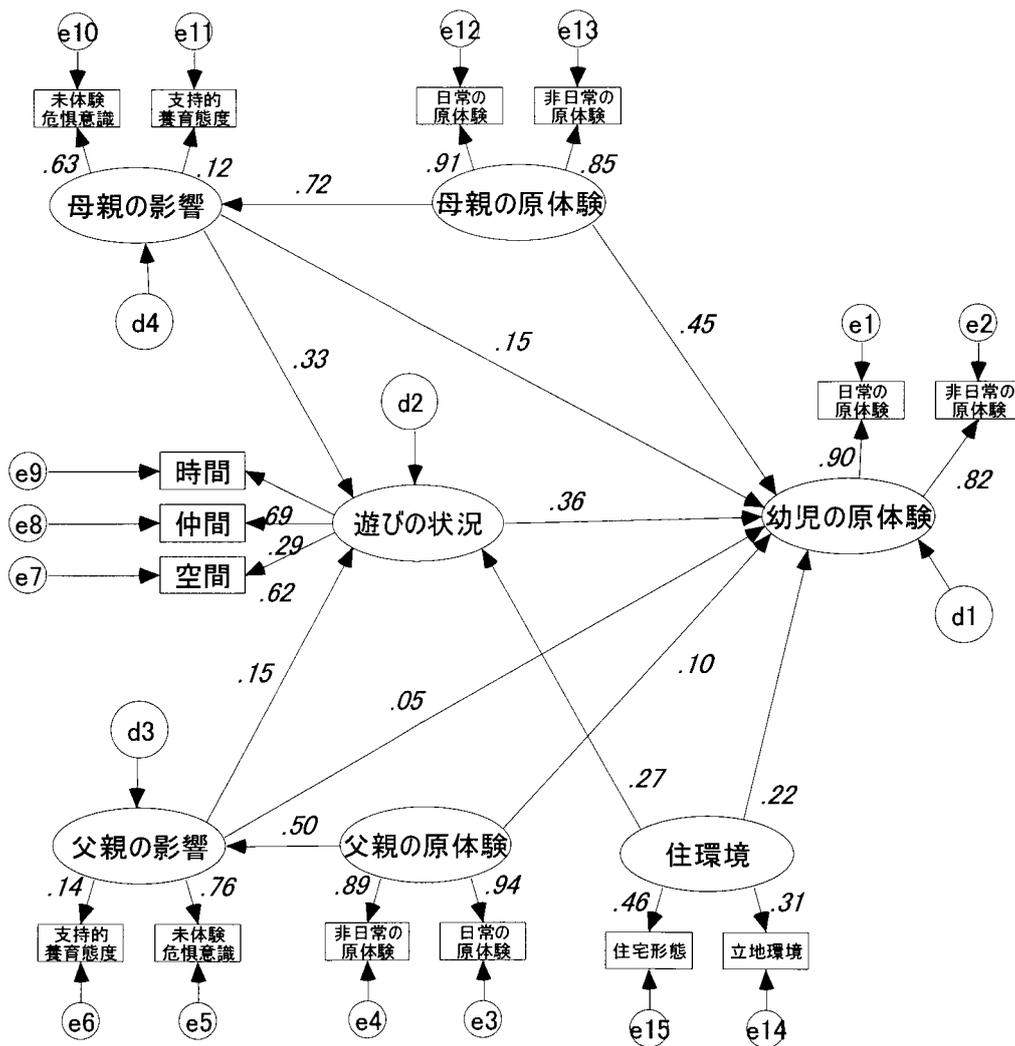


図 3-6-1 幼児の原体験に影響をもたらす生活背景に関するパスダイアグラム

第二節 事例研究の結果及び考察

本節においては、幼児と自然の触れ合いを意図的、計画的に保育に位置付けている幼稚園内での幼児の様子を観察し、どのような学びを得ているのか事例収集を通して探った。

【事例1】自然の事物事象についての観察眼を養う原体験

N 幼稚園 クラブ保育中における原体験 2004年6月9日

飼育栽培クラブの年長児が、田植えの後、園庭の樹木の観察に行く。

- 保育者「これは、サルスベリっていう木で表面がつるつるして、木登りのじょうずなお猿さんも落ちちゃう木なんだよ。さわってごらん」
- 女児A「スベスベや～」
- 女児B「スベスベちゃうやん、ザラザラやん！」
- 保育者A「そんなことはないよ。こっちの桜の木も触ってごらん、ちょっと違うでしょう？」
- 女児B「ホンマや違う。あっちの方がスベスベや。あっちも触ろうな。」
- 女児A「うん。」

2人で観察中いろいろな木に、直に触り始めた。

【事例1の分析及び考察】

この事例は、設定保育中の幼児と木の関わりが、保育者Aの言葉かけで木の原体験に変容している。クラブ保育中の樹木の観察については、保育者Aが1本1本どのような木であるか、またその名前の由来などを説明していく予定だった。しかし、実際にサルスベリの薄くはがれかかった樹皮を触った幼児から「ザラザラやん」と指摘を受けてしまう。しかし、保育者Aの言葉かけで、幼児は触覚を働かせ、表面のゴツゴツした桜の木と対比させることにより、サルスベリの木の名の由来でもある樹皮の「スベスベ感」に気付くことができている。原体験には、煙にまかれて「煙たい」、渋柿を食べて「渋い」という言語に由来して感じるものがある。日本

語では、自然の事物事象についての意味合いを通して様々な言葉が付けられている。このような言葉を、最初に文字で覚えるのではなく、まず保育者が幼児に対して自然と触れ合う機会を作り、その中での体感が言葉と結びついていく。こうした学習が日本語の本質的理解に繋がるであろうし、物事を洞察していく観察眼を育成していくものと考えられる。

【事例 2】素材の特性理解につながる原体験

K 幼稚園 自由時間における原体験 2004 年 6 月 15 日

丸太の滑り台付近に、竹林を越えて若く細い竹が一本急速に成長した。安全管理上、観察者自身を取り除こうとしていた。その際、年中の男児 3 名、女児 2 名が集まってきた。

- 男児 A「先生なにしてるん？」
- 観察者「竹一本だけ違う所に出てきたから折ってるの。折ってみる？」
- 男児 A「やるやる～」

他の幼児も男児 A と共に竹を折ろうと一本の竹の取り合いとなる。男児 A がまず一番となり、力任せにいろいろな持ち方で折ろうとするが折れない。

- 観察者「こうやって、ここの節の所で折ってごらん。」

観察者が 1 回実演してみる。竹は柔らかい音を立てて折れた。

- 男児 A「折れた～ 分かった～」

男児 A は、両手と膝を使い、節の所を折ってみる。そして、「ポン！」と軽快な音が鳴って二つに折れた。

- 男児 A「ホンマ、折れた～」

女児 C、男児 B が、それぞれ割れた竹を折ろうとしてみる。また、「ポン！」と軽快な音が鳴って、二つにそれぞれ折れた。その後、観察者と共に竹林の傍の側溝に破棄して幼児は他の遊びに移行していった。

【事例 2 の分析及び考察】

事例 2 では、安全管理のために取り除こうとした若い竹を中心として、観察者の働きかけにより、幼児が竹を折ろうと試行錯誤する中、素材の特性に気づき、特性に合わせた手の加え方を学んでいる。普段から竹林を見かけているので、竹については認識しているが竹の持つ特性についてまで体感する機会は少ない。通常幼児が、勝手に折ることは禁止されていた。本事例の竹は、まだ若くて細く、年中児でも竹の繊維の通り方さえ理解しておれば、容易に折れるも

のであった。しかし、年中児は力任せにあらゆる方向から力を加えてみるが折ることができない。そこで、観察者が実演し、竹の特性である「節」の説明をして、力の掛け方を実演すると、年中児は皆竹を折ることに成功している。

原体験として、素材に対して試行錯誤しながら関わることで幼児は素材の持つ特性に合った技術力を学んでいくと考えられ、自然界の多様な素材特性の理解につながるものと考えられる。

【事例3】充実感・満足感を促す原体験

K 幼稚園 園の行事（親子参観日）における原体験 2004年6月12日

かつて在園していた小学生の女の子Cが、現在存園している弟と共に親子参観に参加して、イタドリ笛を作っていた。その際、隣にあった笹舟コーナーの水をイタドリ笛の中に入れて、音の変化に気付いた。

- 女の子C「ねえ、園長先生、この中に水を入れると音が変わるんだよ。聞いて。」

園長にその気付きを誉められた後、女の子Cはイタドリ笛コーナーに戻った。

- 女の子C「ここの中に水入れてごらん、音が変わるんだよ。」

女の子Cは、イタドリ笛コーナーにいた女の子Cの弟や園児にこのことを教えて、すべての参加者が1度水を入れて見て、違う音を出していた。

親子で興味を持っての参加もあり、園児が先に音ができるように、母親が音を出せないケースもあった。

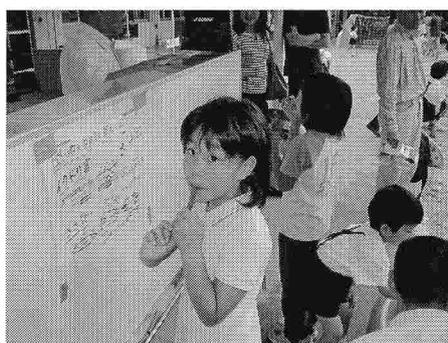


写真 3-2-1 親子参観のイタドリ笛コーナーの様子

【事例3の分析及び考察】

K 幼稚園の親子参観では、外部から指導者を招き、家族で参加できる牛乳パックなどの廃材を利用したおもちゃ作りと笹舟づくりとイタドリ笛といった、生活素材や自然物によるおもちゃ作りが行われた。外部の指導者は、事前に保育者に対して、手作りおもちゃの指導の講習を行い、各コーナーに保育者を配置していた。その中の1つに保育者が配置されていない、イタドリ笛コーナーがあった。

女の子 A は、最初様々な長さ、太さのイタドリ笛を試していた。たまたま、笹船のビニールプールの中に沈んでいたイタドリ笛を吹いてみたことからこの音の違いに気付いた。また、その違いの発見を園長、弟や他の者に知らせ、仲間に遊びの応用方法を広げていった。また、親子で吹き比べ、園児が親より先に音を鳴らし得意気になる姿も見受けられた。

このような原体験による発見やそれに伴う仲間との共有、さらにそれを信頼しうる他者に認められたり誉められたりすることにより、自己肯定感や自己効力感が得られ、それが充実感、満足感を生む契機にもなると考えられる。

【事例 4】危機回避能力を育む原体験

K 幼稚園 クラブ保育中における原体験 2004 年 9 月 22 日

飼育栽培クラブの年長児が、どんぐり拾いに K 幼稚園の隣の公園に散策に出掛けた。予想以上にどんぐりが少なく、形も悪かったので、公園を散歩して帰ることとなった。その際、観察者が公園内の覆い茂る笹を取って、笹笛を吹いた。

それを見た幼児は、皆こぞって近くの背丈の低い、うっそうと茂る笹を取り、笹笛に挑戦した。24 人中 2 人ほどの幼児から音が鳴った。鳴っていない幼児は、鳴った 2 人の真似をして、試行錯誤を繰り返していた。笹笛を吹き歩きながら幼稚園の門まで来た際、男児 C が保育者の下に唇を見せながら寄ってきた。笹の毛で、唇を切っていた。保育者 B に励まされ、他に負けじと男児 C は再び笹笛を吹くことを始めた。

- 保育者 B 「みんな、笹を中に持って入って、吹く練習しましょう！ 誰が吹けるようになるかな？」

保育者 B と幼児達は、笹を持って自分のクラスへ戻っていった。



写真 3-2-2 K 幼稚園児の公園散策の様子

【事例 4 の分析及び考察】

K 幼稚園の隣には、大型の公園があり、そこには様々などんぐりの木が生えていた。しかし、度重なる台風から例年の季節に合わせてどんぐりが落ちておらず、取ることも散策することに重点が置かれた。その際、観察者が“ふと”行った笹笛が幼児に広がり、皆で笹笛に取り組みだした。

笹笛は、笹をリードにして音を鳴らす。笹の毛が唇に当たり切れることがある。男児Cも必死に吹く練習をしていたため、唇を切ってしまった。保育者Bの励ましにより、男児Cは再び吹き始める。また、身近な笹を使った笹笛は、手先の器用さと息をリードに吹き込む技術が必要となる。また、笹の毛のせいで唇を切る可能性もあるため非常に扱いが難しい。しかし、ここで2人の幼児から笹笛の音が鳴ったため、自分も鳴らせたいと皆が努力する姿が見られた。その中で、唇を切った男児Cも、切ってからやる気を失うのではなく、素材の取り扱いに注意を向けながら音をならす努力が見られた。自然物を使った原体験の遊びは、遊びの創造性が広げ、持続力の育成、手先の巧緻性に寄与する。一方で、自然物の扱い方を間違えると大きな事故や怪我につながる。幼児を取り巻く環境の悪化により養育者側が過剰に安全を意識するようになった。しかし、過剰な安全意識による幼児の囲い込みは、幼児の自律的な安全管理能力を養うことにつながらない側面がある。本事例における原体験を通じたネガティブな体験によって、男児Cはその取り扱いに配慮する姿勢が見受けられた。こうした点を考えると幼児にとっての原体験は大きな怪我を未然に防ぐ危険回避能力の育成のために重要な体験と考えられる。

【事例 5】 既成概念を砕く原体験

K 幼稚園 クラブ保育中における原体験 2004 年 11 月 4 日

飼育栽培クラブの年長児が、順番に木臼で一握りずつ脱穀していた。木臼を回した後、上の木臼を取り外し、息を吹きかけ、籾殻を吹き飛ばしてお米を 1 つずつ取り、保育者に手渡していた。また、順番待ちをしている幼児は、指先で籾殻を取っていた。

- 観察者「このお米食べてみたい？」
- 男児 E「このままじゃ、食べれへんよ。」
- 観察者「食べれるよ、ほら！」

観察者が男児 E の目の前で、籾殻は取って食べてみせる。

- 男児 E「うわ！ ホントに食べた～」
- 観察者「ねっ食べれるでしょ？ 食べてみたら？」

男児 E も籾殻を取って食べ始める。

- 男児 E「ホンマや食べれる！」

周りの幼児もそれを見て、本来籾殻を取って集めるべきお米を食べ始める。また、食べている様子を見ていた年少児も集まって来る。

- 年少女児 F「私にもちょうだい・・・」
- 男児 E「食べたいの？ じゃあちょっとだけね。」

男児 E は、自分で籾殻を取ってやり、年少児に配り出した。



写真 3-2-3 K 幼稚園での木臼による脱穀の様子

【事例 5 の分析及び考察】

K 幼稚園の飼育栽培クラブでは、事例 4 で取り上げた N 幼稚園と同じく、敷地や多くの手間のかからないミニトマトの栽培ではなく、日本の日常の食生活に欠かせない米作りを 6 月の苗のしつけ、9 月のスズメ対策の網と案山子の製作、11 月の脱穀、米でのおにぎり作りという一連の流れで時間をかけて保育を行っている。脱穀については、機械を使わず、K 幼稚園自作の木臼を用いて原始的な方法で幼児自身が行っている。しかし、木臼が 2 つしかないため、他の順番を待つ幼児は手で脱穀を行っていた。

観察者は、長時間待ち集中力の切れてきた男児 E に対して、お米がそのまま食べられるかどうか聞き、観察者はお米を食べてみせた。当初、男児 E は既成概念に捉われ、炊飯しなくては食べられないと思っていたが、自分自身で食べる事により自分の扱っているものは、炊飯器を使わなくても食べることのできる物であることを認識した。またこれが周りで見えていた同年代や年少児にも伝わっていった。年少児に関しては、後に年少児の担任保育者が「年長になったらクラブでお米作りができるからね。」と、説明を行った。

苗のしつけから機械を全く使わない農耕体験は、原体験の要素を多く含み、体と五感すべてを使う活動である。しかしここで考えられる原体験で幼児が得られることは、普段食べ慣れたお米は、これだけの手間や時間がかかり、また炊飯しなくても食べられるものであると気付くことと考えられる。生活が豊かとなり飽食の時代の昨今、店頭で並べられている加工済み食品の 1 つ 1 つに幼児は出来方や原材料を生で食べることについて知ることが少ないと考えられる。お米をそのままの状態で食べるということは稀ではあるが、本事例を通しての気付きは、幼児の普段の生活で築かれた当たり前という既成概念を壊すことに寄与すると考えられる。

【事例 6】 自立や自律を育てる原体験

K 幼稚園 園外保育（芋掘り）における原体験 2004 年 10 月 26 日

サツマイモ畑において、年長児が芋掘りを行った。年長児はサツマイモを一人一人に割り当てられた場所からスコップや手を使い掘り出していた。

- 女児 G「先生手伝って～」

女児 G は、スコップでは歯が立たないことから、自分の手は使わずに観察者に助けを求めた。

- 観察者「手で掘って見たら？」

- 女児 G「できへん～」

さらに、スコップで掘り返そうとするがすぐにあきらめてしまう。

- 女児 G「先生、できへん～手伝って～」

今度は、保育者 C が駆け付けサツマイモを女児 G と共に掘り出した。保育者 C がその場を離れた後、女児 G は他のサツマイモをスコップで掘り出そうとするが、すぐ手を止めてしまう。

- 女児 G「誰か手伝って～」

女児 G は、周りに手の空いている保育者を見つけようとして、助けを求め続け、自分で掘り出そうと一切しなかった。



写真 3-2-4 芋掘りの様子

【事例 6 の分析及び考察】

K 幼稚園で行われる年長児の芋掘りは、幼稚園所有のバスに乗って幼児の生活圏外のサツマイモ畑で行なわれた。年長児のほとんどは、スコップで掘ろうとするが、土壌の性質上どうしても歯が立たない所があり、手とスコップを使い分け、時間をかけて芋掘りを行っていた。しかし、女児 G は、スコップで掘れないことが分かると常に周りや大人を探し求めて、手を動かそうとしなかった。このことから女児 G は、芋掘りをしたくはあるが、自分の手を汚してまで、根気強く芋掘りをしようとしていなかったと考えられる。小林ら（1989）は、原体験と自主性に関連があることを報告している⁽⁵⁰⁾。本事例においては、女児 G は土に触れる原体験を拒絶してしまっている。このことから、女児 G にとって不快に感じる原体験を自分の力で問題を解決しようとすることや、自分の意思でサツマイモを掘り出そうとする意欲を持たなくては、女児 G 自身の成長につながらないことが考えられる。

大人の過干渉や過剰なサポートは、幼児自主性や問題解決能力を育むことを阻害すると考えられる。すなわち、与えられるものが過剰になると、返って幼児自身の体験に基づいた学びを減少させることに繋がる。保育者は、教師としての専門性を活かし、これまでの生活経験不足を配慮し、幼児の成長を見据えて課題を乗り越えられるよう援助する必要がある。「依存」から「自立」や「自律」へと援助していく必要性があり、原体験にはそうした大人と幼児の相互作用が豊かに内包されていると考えられる。

【事例 7】生命感覚を育む原体験

K 幼稚園 自由時間における原体験 2004 年 6 月 29 日

観察者が、幼稚園に向かう途中に見つけたミヤマクワガタを虫好き男児 F を含む男児 3 人に見せていた。

- 男児 F 「これ知ってる、ミヤマクワガタやろ？ 触らして！」

観察者は男児 F にミヤマクワガタを手渡し、男児 F の手や腕を這い回るミヤマクワガタを他の男児が見入っていた。その際、ミヤマクワガタのカギヅメが食い込み、男児 F は思わず振り落としてしまう。落ちた後も這い回るミヤマクワガタを、再び 3 人が見入った。

- 男児 G 「これって電池？」

観察者は、この発言に驚く。

- 観察者 「これは、生きてるんだよ。」

観察者は、男児 G に応答したが、男児 G は返答せず、ミヤマクワガタに見入っていた

【事例 7 の分析及び考察】

クワガタの中でも、ミヤマクワガタは大型で幼児にとって人気のあるクワガタムシである。虫好きの男児 F は、まだミヤマクワガタを飼育したことが無いようで、早速触ってみた。しかし、ミヤマクワガタに触らず、ただ見ていただけの男児 G にはそのクワガタは見慣れたものではないらしく、大型のクワガタが振り落とされてもリズム良く這い回る姿を見て。「これって電池？」と発言したようである。

男児 G にとっては、ミヤマクワガタが活着しているという生命感覚はあまりなく、普段見かける電動おもちゃと同じ発想で、ミヤマクワガタに対しても電池で動いていると考えたと推察される。

岡田ら（2001）の行った都市地区と農村地区における子どもの「虫取り遊び」の多様性に関

する事例研究では、農村地区と違い、都市地区の子どもたちは虫を持ち帰ると、「死ぬとかわいそうだから」や「どうせ死んでしまうから」といった死を忌避する理由から家に持ち帰り飼育など行わないと報告している⁽⁵¹⁾。しかしながら、幼少期の飼育活動は生死を実感し、命を感じる大変重要な意味を持つ活動である。本事例のみならず、こうした報告が後をたたない現状において積極的な飼育活動を推進させるべきだろう。虫と関わり、遊び、観察や飼育経験を積み重ねる中で培われる原体験は、幼児の生命感覚の育成へと繋がることが考えられる。

以上の幼稚園における原体験を通して、①自然の事物事象についての観察眼を養う点 ②素材の特性理解につながる点 ③充実感・満足感を促す点 ④危機回避能力を育む点 ⑤既成概念を砕く点 ⑥自立や自律を育てる点 ⑦生命感覚を育むといった学びにつながることを確認された。

坂元（1964）は幼児の自然との関わり方について、自然に親しんだり感動したりする感情的な態度と事実を認識し、法則を把握する自然科学的態度があると述べている⁽⁵²⁾。小谷（2003）は、5歳児の自然にかかわる保育において、幼児教育の独自性と小学校教育の連関性を考えた上で、現在の5歳児の保育が感情的態度の育成に重きを置いていることを指摘した上で、感情的態度と自然科学的態度を偏りなく両立して育てることの必要性を述べている⁽⁵³⁾。現状の保育中、幼児の原体験においてもこれらの態度を養うことが可能と考えられる。

本研究結果から幼児の降園後の様子を勘案すると、幼稚園は原体験を展開しやすい絶好の場であることが考えられる。人、場、物が整いやすい幼稚園において、生活の当たり前を見つめ直すチャンスを保育者が環境として整え、クラスの仲間が原体験共有し、多様な学び合いを展開していくことが望まれる。

第三節 幼児の原体験と保育課題

本節では、第三章の第一節、第二節の結果及び考察を踏まえた上で、幼稚園における保育課題について考察し、提言を行う。

第一節では、現状の幼児の原体験には、世代間で差異が認められ、親世代より減少していることが明らかとなった。また、幼児の原体験は、遊び状況や住環境などの生活背景などの影響を受ける共に、とりわけ母親の幼少期の原体験が幼児の原体験に直接的、間接的に影響を与えていることが明らかとなった。そこで、幼児の原体験を妨げている要因に関する母親の意識について、項目別に意識の動向を外観してみた。その記述統計量の割合から「あてはまる」、「まああてはまる」を合算して、母親、父親別に表 3-Ⅲ-1 から表 3-Ⅲ-5 を示した。

母親の『不安感』については、図 3-Ⅲ-1 に示すとおり、「お子様に交通事故などの不安があるため」、「お子様が犯罪などに巻き込まれる恐れがあるため」、「お子様に怪我などの不安があるため」で 40%以上が「あてはまる」、「まああてはまる」と回答しており、幼児の生活圏の交通事情や不審者の問題の急増が、こうした意識に繋がっていると考えられる。このことから、母親は幼児の降園後の遊びに過度な不安を抱き、幼児の主体的な遊びを囲い込んでしまいがちになり、結果として原体験を縮小せざるを得ない状況が推察される。

このような不安の意識から幼児の原体験の促進を考えると、母親が幼児を安心して送り出し、安全な環境下で遊ばせることができる幼稚園内での活動が現実的に有効であり、必要であることが推察される。

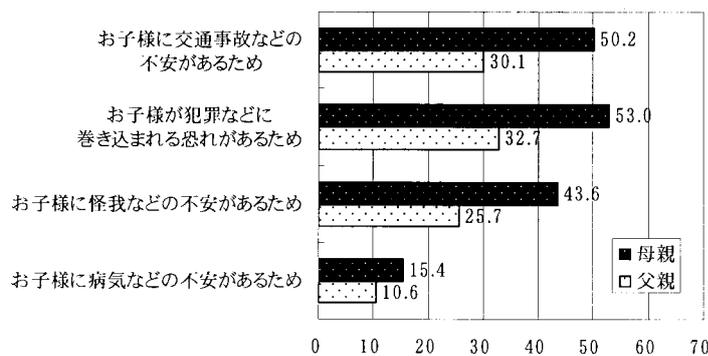


図3-Ⅲ-1 原体験を妨げている要因に関する両親の不安感 (%)

また、母親の『環境未存在感』についての意識は図 3-III-2 に示すとおり、「自然体験を教え合う年上の子ども達が近所にいないため」、「身近に自然体験をする場所がないため」、「自然体験をする上での適当な指導者がいないため」で 40%以上が「あてはまる」、「まああてはまる」と回答しており、幼児に原体験をさせたくとも、そうした場や人の存在が充分でないことが伺える。

このような幼児の周辺環境の状況から考えると、降園後に原体験の機会を得るとは考えにくく、園内の自然環境を整備し、専門性を持った保育者が、異年齢集団との関わりの中で原体験を促進できるような環境構成や計画を立案することの重要性が見えてくる。

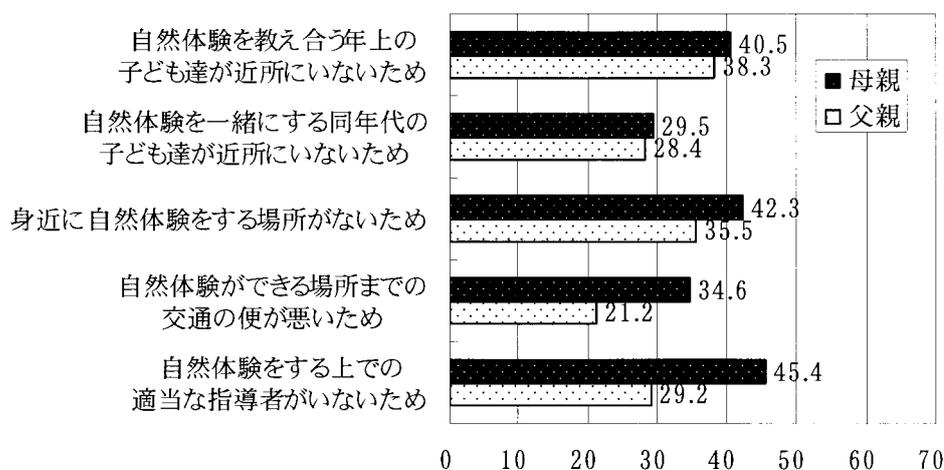


図3-III-2 原体験を妨げている要因に関する両親の環境未存在感 (%)

さらに、母親の幼児の原体験を促進していくことに対する『負担感』については、図 3-III-3 に示すとおり、「保護者ご自身の時間的余裕がないため」、「保護者ご自身の手間がかかるため」で 50%以上が、「あてはまる」、「まああてはまる」と回答しており、金銭的余裕のなさや、肉体的負担に対しては、約 30%の訴えが認められる。幼児の原体験を進めるにあたり、金銭的、肉体的、精神的負担感が大きい、現状が見てとれる。

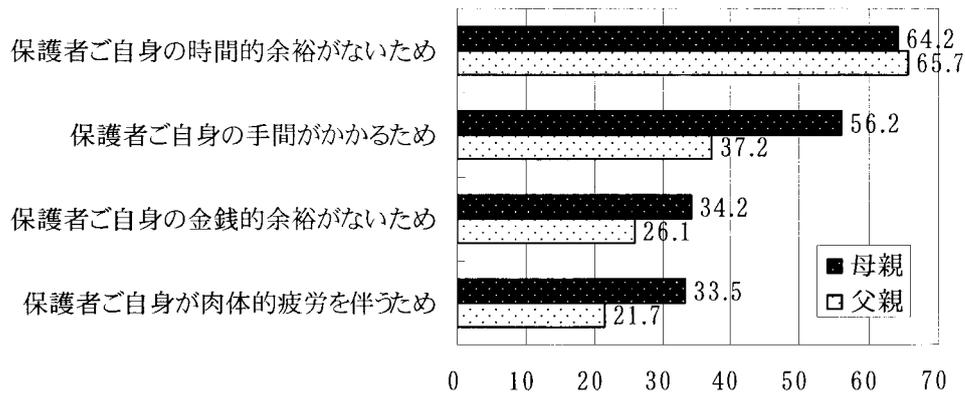


図3-III-3 原体験を妨げている要因に関する両親の負担感 (%)

母親自身の『未体験危惧感』については、図 3-3-4 に示すとおり 30%前後が知識や体験量そのものに不足を実感している。

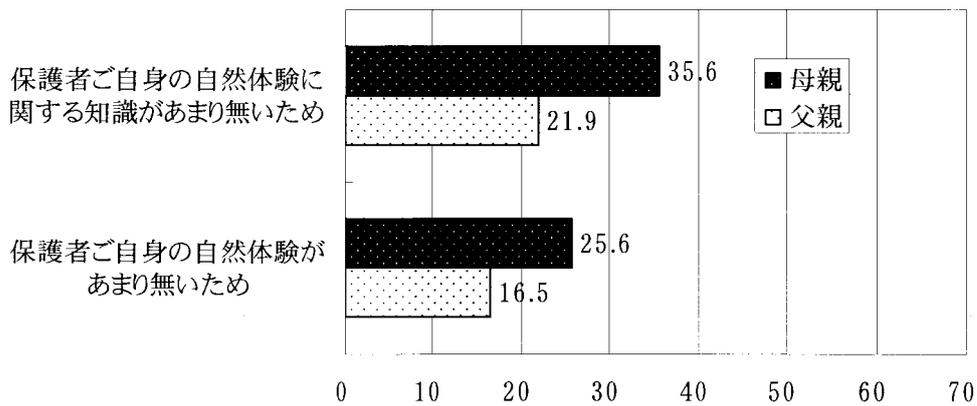


図3-III-4 原体験を妨げている要因に関する両親の未体験危惧感 (%)

最後に、母親の『幼児多忙感』については、図3-Ⅲ-5に示すとおりであり、10%強が幼児の忙しさを感じているが、これまでの項目と比べ、それほど強く感じているとはいえない。

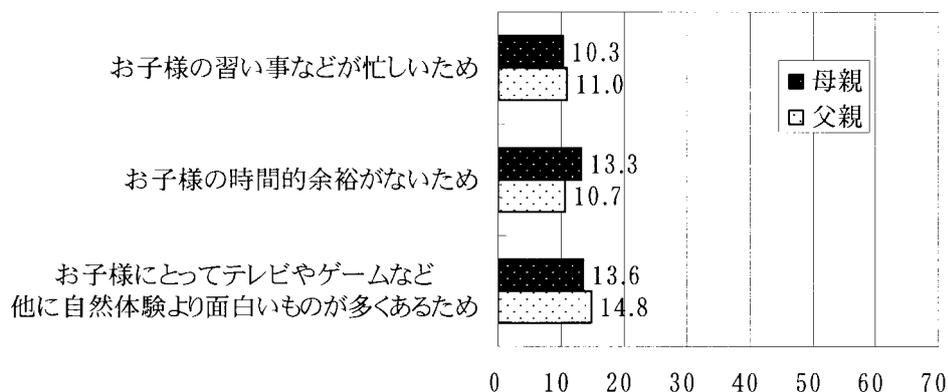


図3-Ⅲ-5 原体験を妨げている要因に関する両親の幼児多忙感 (%)

以上の母親の意識をみると、全体の3~5割の母親が幼児の原体験に伴う怪我などの不安や環境悪化や指導者不足の問題を意識しており、幼児に原体験を保障する上での時間のなさや肉体的疲労などの負担感を感じている。さらに、3割前後が自身の原体験の不足や知識のなさについて意識をしている状況がある。

本来であれば、日常の接触頻度の多い母親と共に幼児が自然と関わり多様な原体験を獲得していくことが望まれるが、母親の意識の実態を勘案すると、母親がやらせたくてもそれが出来にくい現状が浮上する。

一方で、第三章第二節の園環境での事例検討から、幼児は園内で多くのことを学んでいる状況が確認され、園という場がそれを保障する可能性を内包していると考えられる。嶋崎(2003)は、降園後に幼児が友だちと触れ合い活発に遊ぶ状況を作り出すことは実質不可能であると指摘し、保育機関がその状況を作り得る唯一の「場」であることを述べている⁵⁴⁾。

本研究でこれまで挙げてきた、現代の実態に即して幼児の原体験保障を考えた時、幼稚園という保育現場が大変重要な学びや体験の場であることは間違いない。このことから保育現場が、幼児の原体験の保障の場として、機能していくことが重要な保育課題となってくる。すなわち、

幼児の原体験をどのように、保育の中に位置づけ、幼稚園において幼児の原体験をどのように保障していくか具体的に考える必要がある。以下に、本研究の結果を踏まえて幼稚園でどのような点に留意して原体験を展開、促進する必要があるのか提言を行いたい。

① 保育者自身の原体験を充実させる

幼児の家庭で出来ない原体験を保障する上で、その専門性を有した保育者が必要となる。保育者自身が、幼児に保障する必要がある原体験を把握した上で、保育の中にそのような原体験を組み込み、計画を立てる必要がある。しかし、保育者自身にとっても希少な体験である原体験もあるため、体験活動と指導のあり方に関する調査研究委員会（2004）の報告において山田は、専門家を招いて行うことも必要であると述べている²⁶⁾。しかし、その際保育者は指導を専門家に丸投げするのではなく、共通理解のもと計画を立てた保育を展開する必要がある。このような専門家との連携の下、保育者自身が体感し、技術、技能を習得して幼児に原体験を促進していくことが必要であると考えられる。

② 園内環境を充実させる

小林ら（1993）は、原体験をさせる上で、安全面に配慮した活動に必要な広さや活動の素材になるような自然物が多くある場作りの必要性を述べており⁵⁵⁾、この上で小林ら（1992）は、市街地の幼稚園でも可能な、原体験を取り入れた保育の実践事例を報告している⁵⁶⁾。この実践では、園内の登園してくる園児と保護者が必ず通る所に自然コーナー設け、その上に動植物を置き、動物1種と植物1種を日替わりで展示している。ここでの展示物は、保育者のみが用意するのではなく、園児自らが登園の際に持参したものを展示することができることとなっている。この実践では、四季に応じた自然物が、幼児全員の目に止まる所に展示されており、その自然物と幼児、保護者が関わるができている。このように、園内での活動に工夫を加えることで幼児の原体験は拡大していくことが考えられる。

一方で、園庭の環境を変えることによって原体験を充実させることも考えられる。小谷ら（2001）によると園内の環境に樹高3m以上の木が多く植えられており、グラウンドを芝生で覆っ

た園内環境ほど幼児の原体験の頻度は多くなることを述べている⁵⁷⁾。このことから、幼児に多くの原体験を保障するためには、実りのある多様な樹木を幼児が1人でも行けるところに多く配置し、グラウンドなどの裸地に芝生や雑草の生えた状態にすることも1つの方法と考えられる。

また、原体験を充実させるため園庭に多様な生態系を水辺に呼び込むことの出来る、ビオトープ作りがある。大澤ら(2003)は、ビオトープを実際に幼稚園に作り、日本の古来種の魚、小動物、植物をビオトープに定着させている⁵⁸⁾。また、このような多様な生態系がいるビオトープを保育に生かすことや、ビオトープに親子が関心を向け、幼児の遊びや普段の生活に深く密着し、関われるようにすることの重要性を述べている。

このように、幼児が普段の家庭の環境の中で体験する事のできない原体験を、園内の環境を変えることによって、促進させることが可能と考えられる。原体験を多く保有する環境を継続的また持続的に関わりを持てる場所に安全を留意した形で置き、幼児の園内での生活で日常化し、保育によって発展していくことが望まれる。

③ 集団による学びの連鎖をつくる

幼児は、降園後の遊びにおいて、多くの遊び仲間や異年齢集団で構成される異年齢の群れ集団を形成することが難しい現状がある。このような状況下、年少、年中、年長児で構成された異年齢の群れ集団が保障された幼稚園において、異年齢の群れ集団を意図的に作る必要があると考えられる。原体験は一人や同年代の遊び仲間においてもすることが出来るが、1つの原体験を群れ遊びの中において行うことで、仲間同士の相互作用が生まれ、学びの連鎖が生じてくる。また、異年齢の群れ遊びを通して年長児が体験した原体験を年中、年少児に伝えることができるため、学びの連鎖が広がることが期待される。

④ 不快体験やゼロ体験を保障する

原体験の中で小さい怪我やリスクを伴うネガティブな体験、不快体験やそれを我慢する体験

が不足している傾向が見出された。両親が過度に干渉することで幼児から、ネガティブなものを禁止し、隔離し、制御することで、幼児のこのような原体験がより一層縮小することが考えられる。幼児自らが安全な生活を作り出す為には、家庭でできないことを幼稚園の保育中に、幼児自らの身体で体験する必要がある。当然、保育者は大きな怪我が発生しないように留意する必要はあるが、小さい怪我、不快体験やリスクを伴う体験は多くの学びに繋がる。幼児自らが、危険や不快体験を予知する力を養うためには、保育者が幼児を囲い込むことの弊害を意識する必要がある。幼児の主體的な遊びを保障する中で、このような原体験を行う過程は、まさに自らの身体で思考する体験である。現在、この身体で思考する体験が、幼児から奪われているのではないだろうか。保育においてこのような原体験を最低限できるようにすることは、幼児の脆弱になっている身体で思考する機会を保障することにつながると考えられる。

⑤ 親との共有体験機会の提供を意識的に行う。

幼児の原体験は両親、特に母親影響を受けていることから、両親と幼児が共に原体験を行える機会を提供する必要があると考える。この機会の提供により、両親が原体験を体感し、幼児と共に興味関心を持つことが第一に必要だと考えられる。その後両親自身が、体験を基に幼児が行う原体験についての関わり方を学んでいくことができると考えられる。両親に原体験を推進することについて幼稚園に求める要望の自由記述には、「親子で参加できる園内での自然体験活動」や「親子遠足・親子キャンプ」の推進などが挙げられている。幼稚園の保育において、行事を通して親子でできる原体験の機会を提供する事が、幼児の原体験を促進する1つの方法だと考えられる。

⑥ 農耕飼育体験を積極的に導入する

農耕飼育体験には、触臭味覚を伴った原体験が数多く内包されている。しかし、昨今高まる清潔志向や飽食の時代、都市化などの身の回りの環境の変化によって、幼児の日常生活は農耕飼育体験をしにくい状態である。

このような状況下、幼児の日常の生活の一部である園において、幼児自らが土に触れ農作物を栽培し、収穫したものを食べる必要があると考える。その中で、幼児は農作物に必要な水、土、肥料、農作物について知覚していくことが考えられる。また、水、土、肥料、農作物に触れ興味、関心を持つことで、四季おりおりに変化するものを日常の遊びの中でも積極的に取り込むことができると考えられる。また、飼育体験を園で行うことによって、生き物との触れ合いや飼育経験により生命感覚の育成や自然の生態系の理解に繋がるものと考えられる。

⑦ 園外保育を推進する

両親に原体験を推進することについて幼稚園に求める要望の自由記述には、「普段行くような公園だけではなく、ハイキングやキャンプなどをして欲しい」というものがあった。保育者は幼児の家庭において、また普段の保育や幼稚園内で補えない原体験について、散歩、遠足、お泊まり保育などの園外保育を行い保障する必要があると考える。なお、幼稚園で多様な原体験を行うためには、幼稚園の周りの植生や環境についての基礎知識やその安全性について、保育者が予め知っておく必要があることは言うまでもない。しかし、それには限界があることから、幼稚園周辺の地域の方々の連携の下で情報収集を行い、希少体験が出来る場を設定すれば幼児の学びはより拡大されることが考えられる。また、幼稚園が、地域や民間活力を導入することで補強することも1つの方法である。子ども白書（2003）では、子どもに必要な体験として、地域や民間団体が連携しての「参加・行動の学習」といった自然活動を述べている⁵⁹⁾。このような幼稚園外の団体で行っている幼児キャンプ実践としては、川村ら（2004）や北尾ら（2004）の報告があるが、このような活動と幼稚園が連携を取って、幼児にとっての非日常の原体験を日常の原体験にしていくことが望まれる^{60) 61)}。このように、幼稚園は、専門性を持った者との連携の上、幼児にとって非日常の原体験をできるようにすることが必要であると考えられる。

終章

結論及び今後の課題

本研究は、①幼児の原体験実態を把握すると共に、②心身の健康状態との相互関連性を検討し、③幼児の原体験に影響すると考えられる、日常の遊び状況、住環境、取り分け両親の影響力についてその生活背景を共分散構造分析により検討した。さらに、幼稚園での関与観察を行い、量的調査、質的調査の双方から幼児の現状の問題点を探り、健やかな発達を保障する保育課題を明らかにすることを目的として実施した。

調査は、機縁法により兵庫県私立 K 幼稚園と N 幼稚園に対して行った。質問紙調査は、両幼稚園の保護者（K 幼稚園 411 名と N 幼稚園 305 名）を対象に無記名で、2004 年 6 月 30 日から 2004 年 7 月 6 日に行った。また、質的調査として両幼稚園に 6 月中旬から 11 月初旬にかけて関与観察を行った。

本研究で得られた知見は、以下の通りである。

1. 幼児の原体験には、日常の体験であるものと希少体験となっているものがあり、「石体験」、
「水体験」、「草体験」、「動物体験」、「ゼロ体験」の項目に男女差が認められ、世代間比較
においても多くの差異が認められた。
2. 幼児の原体験と幼児の心身の健康状態は、相互に関連することが明らかとなった。
3. 幼児の原体験と幼児の日常の遊び仲間人数、屋外遊び時間、屋内遊び時間、テレビ視聴時
間、遊び場は、相互に関連することが明らかとなった。
4. 幼児の原体験は、両親の原体験保有、遊びに対する養育態度、原体験を妨げる要因に関す
る意識と相互に関連し、特に母親との関連性が強いことが明らかとなった。
5. 幼児の原体験は、住環境と関連性があることが明らかとなった。
6. 共分散構造分析の結果、①「母親の原体験」②「遊び状況」③「住環境」は「幼児の原体
験」に直接的な影響を与えている。また、「母親の原体験」は、「母親の肯定的養育態度」
に影響し、それが「遊びの状況」を媒介として「幼児の原体験」につながることを明らか
となった。

関与観察の結果、幼児は原体験を通して、①自然の事物事象についての観察眼を養う点 ②素
材の特性理解につながる点 ③充実感・満足感を促す点 ④危機回避能力を育む点 ⑤既成概念

を砕く点 ⑥自立や自律を育てる点 ⑦生命感覚を育む点について学びを得ていることが確認された。

以上の結果より、降園後の幼児の実態や母親の意識等を現実的に勘案すると、園という場が幼児の原体験それを保障できる非常に重要な場であることが確認された。そうした観点から幼児の原体験保障における保育現場の課題を考える時、以下の7点が抽出された。すなわち、①保育者自身の原体験を充実させる ②園内環境を充実させる ③集団による学びの連鎖をつくる ④不快体験やゼロ体験を保障する ⑤親との共有体験機会の提供を意識的に行う ⑥農耕飼育体験を積極的に導入する ⑦園外保育を推進する点を意識して保育を展開することが望まれる。

今後の課題として以下の4点が挙げられる。

第1点として、本研究は機縁法により実施したが、より正確な実態を掴む為には、サンプリングを工夫し、多様な地区から抽出する必要があるだろう。第2点として、原体験の体験率によって、実際に幼児の自然などの事物事象の認識、行動特性に差異が認められるかどうか検討を加える必要があるだろう。第3点として、保育者の差異が幼児の原体験に及ぼす影響についても検討が必要であると考えられる。最後に本研究で提言した7点の保育課題を通した保育を実施、展開し、それを評価することによって、幼児の原体験保有に保育がどう反映しているのか、その効果を検討する必要があるだろう。

引用文献

- 1) ベネッセ教育研究所. 第2回幼児生活アンケート報告書. ベネッセ教育研究所, 2000:62-71.
- 2) 中村和彦. 特集1子どもの「運動離れ」と「体育嫌い」—子どものライフスタイルから見えるもの—運動離れは何をもたらすのか—. 体育科教育, 2002; 50(3):10-13.
- 3) 仙田満. 子どもとあそび—環境建築家の眼—. 岩波新書, 1992
- 4) 子どものからだと心・連絡協議会. 子どもの心と体白書 2003, 2003
- 5) 吉田伊津美, 杉原隆, 近藤充夫, 森司朗. 幼児の運動能力の年次推移. 体育の科学, 2002; 52(1):29-33.
- 6) 杉原一昭. 何が子どもを変えたか. 体育の科学, 1999; 49(1):4-8.
- 7) 前橋明. 子どものからだの異変とその対策. 体育学研究, 2004:197-208.
- 8) 谷村雅子, 松井一郎, 林龍哉, 小林登. 幼児・小学生へのテレビの影響の実態と家庭の態度. 小児保健研究, 1995; 54(3):376-384.
- 9) NHK放送文化研究所. この10年で伸びた幼児のテレビ視聴時間～2001年6月「幼児視聴率調査」から～. 放送研究と調査 2001.10, 2001:74-81.
- 10) 服部伸一, 足立正, 嶋崎博嗣, 三宅孝昭. テレビ視聴時間の長短が幼児の生活習慣に及ぼす影響. 小児保健研究, 2004; 63(5):516-523.
- 11) 森上史朗. 特集・変わる社会 変わる保育・子どもをとりまく環境の変化と保育の課題. 発達, 1992; 50(13):1-6.
- 12) 生涯学習審議会. 生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ—「青少年の[生きる力]をはぐくむ地域社会の環境の充実方策について」答申. 1999
- 13) 中央教育審議会. 「子どもの体力向上のための総合的な方策について」答申 2002
- 14) 文部省. 幼稚園教育要領. 1998:2.
- 15) 中央教育審議会. 「新しい時代を拓く心を育てるために」—次世代を育てる心を失う危機—「幼児期からの心の教育の在り方について」答申. 1998
- 16) 文部省. 幼稚園教育要領解説. フレーベル館, 1999:91-107
- 17) 神宮英夫. 子どもの戸外活動の実態及び教育効果に関する学術研究. 伊藤忠記念財団調査

研究報告書，1996；32

- 18) 山本清洋，三宅紀子，斉藤次郎，木村信之，高橋勇悦，内藤裕子．大都市と子どもたち ―遊び空間の現状と課題―．日本評論社，1992；78-79.
- 19) 萩原元昭．幼児の近所遊びに関する基礎調査．多賀出版，1990；127-207.
- 20) 梶木典子，瀬渡章子，田中智子．都市部の子どもの遊び実態と保護者の意識．日本家政学会誌，2002；53（9）：950.
- 21) 平野吉直，篠原菊紀，柳沢秋孝，根本賢一，田中好文，寺沢宏次．子どものキャンプ経験が脳活動に与える効果―go/no-go 課題による抑制機能への影響―．野外教育研究，2002；6（1）：41-48.
- 22) 岡村泰斗．キャンプにおける環境教育・冒険教育プログラムが小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果．筑波大学大学院 体育科学研究科 博士論文，2000；202-209.
- 23) 若杉純子，川村協平，山田英美．幼児における自然体験と感性の関わり．日本保育学会第50回大会論文集，1997；690-691.
- 24) 東京学芸大学野外教育実習施設．環境教育辞典．東京堂出版，1992；75-78.
- 25) 小林辰至．原体験を基盤とした科学的問題解決学習のモデル化に関する研究．兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 博士論文，2000；16-17.
- 26) 体験活動と指導のあり方に関する調査研究委員会．「少年期に必要な体験活動と指導のあり方」―少年・少女が一人前になるための体験活動―．国立信州高遠少年自然の家，2004；44-101.
- 27) 赤木敏之．乳幼児における原体験に関する研究（I）．聖和大学論集，1991；19；143-156.
- 28) 岡村はた，赤木敏之．乳幼児の野外あそび調査研究―基礎調査結果とその考察，論議―．聖和大学論集，1992；20；155-188.
- 29) 本間玖美子．幼稚園の自然環境と園児の自然体験についての検討．目白大学短期大学部紀要，2000；37；203-213.
- 30) 亀山秀郎，嶋崎博嗣，渡部努，石井正邦．幼児の原体験に関する研究．幼年児童教育研究，

2004 ; 16 : 45-53.

- 31) 山田卓三. ふるさとを感じる遊び辞典. 農文協, 1990 : 344.
- 32) 峰松修, 田尻由美子, 関文恭, 峰松康世. 幼児行動活性度指標に関する研究. 九州大学健康科学, 1985 ; 7 : 91-100.
- 33) 藤田静作. 自然体験に関する幼稚園保護者の実態と意識. 秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学部門, 2002 ; 57 : 55-65.
- 34) 射場光好. 幼児教育のなかの自然環境 幼児と大学生の(環境)「熱」への関心度調査より. 四天王寺国際仏教大学短期大学部紀要, 1993 ; 33 : 82.
- 35) 増山陽子, 木村香織. だるまこ遊びを日常生活に取り戻すために. 公衆衛生情報, 1998 ; 5 : 42-43.
- 36) 射場光好. 幼児教育のなかの自然環境続編 幼児と大学生の(環境)「水」への関心度調査より. 四天王寺国際仏教大学短期大学部紀要, 1993 ; 34 : 75
- 37) 川村学園女子大学子ども調査研究チーム. 子どもたちの体験活動等に関する調査研究まとめ. 川村学園奨励研究, 2004 : 8.
- 38) 正木健雄. 正木健雄選集. 希望の体育学 農文協, 2002 : 71-73.
- 39) 前橋明. 最近の子どものおそびと生活習慣. 幼少児健康教育研究, 2004 ; 12 (1) : 10
- 40) 賀川昌明. 幼児の運動能力発達に関する研究－園における活動状況や家庭環境との関連からの分析－. 鳴門教育大学学校教育実践センター紀要, 2003 ; 18 : 224.
- 41) 安藤正隆, 松本直司. 都市内公園の水景施設における子供の遊び行為と空間条件の関係－名古屋市内公園での調査分析－. 2000 年度第 35 回日本都市計画学会学術研究論文集, 2000 : 640.
- 42) 落合進. むしの好きな子嫌いな子 その実態と原因の考察(1). 日本保育学会大会抄録, 1996 : 64-65.
- 43) 落合進. むしの好きな子嫌いな子 その実態と原因の考察(2). 日本保育学会大会抄録, 1997 : 692-693.

- 44) David L. Gallahue. Development movement Experience for children, John WILEY & SON, 1982 : 3-19.
- 45) 宮丸凱史. 幼児の遊びとからだの育ち 子どもの遊びとからだ・こころ研究会第1回シンポジウム報告書, 1988 : 78-80.
- 46) 後藤ヨシ子, 立花由紀子, 藤川知香. 少子化時代の幼児の生活と遊び. 長崎大学教育学部紀要 教科教育学, 1999 ; 32 : 93.
- 47) 新田米子. 高層住宅団地の子どもの遊び環境に関する研究(第2報) - 千里竹見団地の場合 -. 岐阜聖徳学園大学紀要, 1981 : 185-191.
- 48) 木下勇. 都市との比較からみた農村の児童の自然との接触状況 - 児童の遊びを通してみた農村的自然の教育的機能の諸相に関する研究(その1) -. 日本建築学会計画系論文報告集, 1992;431 : 107-118.
- 49) 嶋崎博嗣, 亀山秀郎. 幼児と保護者の「原体験」保有に関する世代間比較 - 兵庫県 K 市公立幼稚園の調査を通して -. 日本幼少児健康教育学会 第23回【秋季:京都大会】プログラム・発表抄録集, 2004:84-85.
- 50) 小林辰至, 山田卓三. 原体験と自主性との関連について. 日本科学教育学会 年会論文集, 1989 ; 13: 123.
- 51) 岡田幸恵, 中村攻, 木下勇, 齋藤雪彦. 都市地区及び農村地区における子供の「虫取り遊び」の段階と多様性に関する事例研究. ランドスケープ研究, 2001 ; 64 (5) : 883-886.
- 52) 坂元彦太郎. 幼児教育の構造. フレーベル館, 1964 : 167-176.
- 53) 小谷宜路. 「5歳児にふさわしい保育」の特性とその具現化に関する研究 - 幼児教育の独自性及び小学校教育との関連性を手がかりに -. 兵庫教育大学大学院修士論文, 2003 : 126.
- 54) 嶋崎博嗣. 郊外地区に在住する幼少児の遊びに関する研究. 身体運動文化研究, 2003 ; 10 (1) : 89.
- 55) 小林辰至, 山田卓三. 環境教育の基盤としての原体験. 環境教育, 1993 ; 2 (2) : 28-33.
- 56) 小林辰至, 雨森良子, 山田卓三. 理科学習の基盤としての原体験の教育的意義. 日本理

- 科教育学会紀要, 1992 ; 33 (2) : 55-58.
- 57) 小谷幸司, 大谷哲生, 柳井重人, 丸田頼一. 幼稚園における園庭の自然修景と園児の自然体験との関連性. 環境情報科学論文集, 2001 ; 15 : 197-202.
- 58) 大澤力, 濱田彩希, 菊池健夫, 中村信也, 越尾淑子, 湯山隼之助, 宮澤弘二, 浅川真理, 亀井裕幸. 幼児教育における身近な自然作りの一考察－東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園におけるビオトープ作りの検討－. 東京家政大学博物館紀要, 2003 ; 9 : 113-136.
- 59) 日本子どもを守る会. 子ども白書 2003. 草土文化, 2003 : 226-227.
- 60) 川村協平, 永吉英記, 正武家重治, 中村織江, 山田亮, 矢木郁子, 松浦隆浩. 幼児キャンプの企画と運営～25年目を迎える幼児キャンプ実践を通して～. 日本野外教育学会第七回大会プログラム・研究発表抄録集, 2004 : 82-83
- 61) 北尾岳夫, 嶋崎博嗣, 三宅孝昭. 保護者の事後アンケート調査からみた幼児キャンプの教育効果. 日本幼少児健康教育学会 第23回【秋季:京都大会】プログラム・発表抄録集, 2004 : 88-89.

卷末資料

1. 質問紙調査依頼文
2. 母親用質問紙
3. 父親用質問紙
4. 遊び日記
5. 調査結果報告書
6. 幼児の原体験と親の影響相関表
7. 質問紙調査自由記述集

自由記述質問内容

- Q1. お子様の遊びについて気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。
- Q2. その他にお子様の様子について気がかりなことがありましたら自由にご記入ください。
(母親のみ)
- Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。
- Q4. その他にお子様にならざる自然体験をさせられない理由がありましたら、ご記入ください。
- Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。
- Q6. 最後にお子様が自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

保護者の子育てとお子様の自然体験に関する アンケートについてのお願い

子ども達は、自然の中で多くのことを学びます。しかし、近年の生活環境の変化により、子ども達はこのような自然との触れ合いが出来にくい状況になっていることが考えられます。

そこで、本アンケートは、お子様の自然体験の現状や保護者様自身の自然体験及び子育てに関する意識調査を通して、お子様の心身の健康を促進すると考えられる自然体験のできる『環境づくり』について考えていきたいと思っています。

つきましては、お忙しいとは存じますが、お母様、お父様のご協力をよろしくお願い致します。

なお、保護者の子育てとお子様の自然体験のアンケートは「お母様用アンケート」、「お父様用アンケート」、「お子様の遊び日記」の3つにしております。

- お母様、もしくはお母様に代わる方には、「お母様用アンケート」と共に、お子様と生活する時間が多いことを考え、「お子様の遊び日記」のご記入をお願い致します。日記については、1週間とご苦勞をかけますが、お子様の現状を捉える上で大変重要ですので、よろしくお願い致します。
- お父様、もしくはお父様に代わる方には、「お父様用アンケート」のご記入をお願い致します。

以上3つのアンケート用紙は、ご記入後、一括して元の封筒に入れ7月6日(水)までに担任の先生に渡していただきますようお願い致します。

なお、このアンケートについては、お子様の秋以降の自然に関わる生活に生かして頂けるよう、この結果を10月中にご報告したいと考えています。

また、アンケートは無記名で統計的に処理しますので、個人にご迷惑をおかけすることは、一切ございません。ご面倒をおかけしますが、どうか率直なご回答・ご協力をお願い致します。

○アンケートについて、不明な点や質問がありましたら、下記までご連絡ください。

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 幼年教育コース 亀山秀郎
兵庫教育大学 幼年教育講座 助教授 嶋崎博嗣
[連絡先]

〒673-1415 兵庫県加東郡社町下久米 942-1

兵庫教育大学 国際交流会館 A-103 亀山

TEL: 090-1717-5789 / 0795-44-0109 (アナウンス後 358)

EMAIL: kameyama3@hotmail.com

お母様用アンケート

以下の項目について。お母様のご記入の方よろしくお願ひします。

* 適当な番号に○をつけてください。

Q1 記入者について教えてください。 1. お母様
2. その他()

Q2 お母様の年齢についてお尋ねします。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 20歳未満 | 5. 35～39歳 |
| 2. 20～24歳 | 6. 40～44歳 |
| 3. 25～29歳 | 7. 45～49歳 |
| 4. 30～34歳 | 8. 50歳以上 |

Q3 お子様について教えてください。(○は1つ)

- 1)性別……1. 男 2. 女
2)年齢……満()歳()か月
3)お子様は()人きょうだいの()番目

Q4 お子様に対するお母様の子育てに関してお尋ねします。

	そうは しない	あまりそう はしない	どちらとも いえない	たいてい そうする	いつも そうする
子どもが友達に乱暴なことをしたら、厳しく注意する	1	2	3	4	5
子どもが危ない遊びをしたら、厳しく注意している	1	2	3	4	5
子どもが一人で遠くへ行かないようにしている	1	2	3	4	5
やってよい遊び、悪い遊びの区別を教えるようにしている	1	2	3	4	5
子どもが誰かと遊ぶかは、親が指導している	1	2	3	4	5
子どもが友達と遊ぶよりは、知的活動をするように励ましている	1	2	3	4	5
子どもが遊びの中で、うまくできないことがあるとすぐに手助けするようにしている	1	2	3	4	5
子どもが一人で遊ぶより、他の友達と遊ぶように気をつけている	1	2	3	4	5
子どもを作ったものや、書いたものは、なるべくほめるようにしている	1	2	3	4	5
子どもをつれて、近くの公園などで、よく遊ぶようにしている	1	2	3	4	5
子どもがけんかしても、あまり注意しないようにしている	1	2	3	4	5
子どもが一人で遊んでいる時は、なるべくほうっておくようにしている	1	2	3	4	5

Q5 お子様の遊びについて気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。

Q6 お母様から見たお子様の様子をお伺いします。

	ほとんど ない	少ない方	ふつう	やや多い	きわめて 多い
積極的に自分の要求や気持ちを相手に言葉で伝えようとする	1	2	3	4	5
言葉による働きかけをお子様からしてくることが多い(あいさつ場面などで)	1	2	3	4	5
他の人から言語的働きかけにさっと応答しようとする	1	2	3	4	5
遊びやグループ活動のなかで、みんなにわかるような元気のよい声がだせる	1	2	3	4	5
課題へのさそいに許諾の反応がさっとできる(したいのかしたくないのか、はっきりしないような関わり方が少ない)	1	2	3	4	5
笑顔がよく認められる(表情が豊かである)	1	2	3	4	5
友達がよく加わってくるような面白い遊びを思いつく	1	2	3	4	5
友達の動きによく対応できる (たとえば、困っている友だちなどを気づかう余裕があるなど)	1	2	3	4	5
課題への集中力や持続力がある	1	2	3	4	5
ひとつの遊びに深くかかわり、十分に遊びぬくことができる(こちらのあそびからあちらの遊びへと短時間で移り歩いたり、参加していても、いつのまにか遊びからはずれてぼんやりしているようなことが少ない)	1	2	3	4	5
次の作業(遊びや課題)に、短時間で無理なく自然に移行できる	1	2	3	4	5
いろいろな課題や遊びに積極的な興味を示す	1	2	3	4	5
毎日きまっていることは、自分からさっとできる(食後の食器の片付けや歯磨きなど)	1	2	3	4	5
友達の遊びをよく見て、積極的に参加しようとする	1	2	3	4	5
食事の好ききらいがない	1	2	3	4	5
食欲旺盛である	1	2	3	4	5
顔の血色がよい	1	2	3	4	5
カゼなどの病気にかかりにくい	1	2	3	4	5
薄着でいても平気である(寒がりでない)	1	2	3	4	5
遊びの活動範囲が広い (ごろごろした状態や、室内になんとなくとどまっているような状態をほとんどみかけない)	1	2	3	4	5
目的をもった活動をすることが多い (ぼんやりと人の遊びを見たり、ぶらぶらしたりすることが少ない)	1	2	3	4	5
そと遊びに、さっと出る(体を大きく動かす遊びを喜ぶ)	1	2	3	4	5
身のこなしに、弾むような躍動性が認められる(たとえば、急いで歩くときにふと思わずスキップをしたり、楽しい時ふと鼻唄がでたりするようなこと)	1	2	3	4	5
ある程度の距離(1~2km)を疲れても訴えずに歩きとおせる	1	2	3	4	5
朝、すっきりめざめている	1	2	3	4	5
メソメソした不機嫌な状態を見かけない	1	2	3	4	5
昼寝の寝つきがよい	1	2	3	4	5
思いどおりにならなくて不機嫌になっても、それを早くきりかえることができる (すねてしまうことが少ない)	1	2	3	4	5
昼寝からの寝おきがよい	1	2	3	4	5

Q7 その他にお子様の様子について気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。

Q8 下に示した事柄をお子さんは、どの位体験していますか。また、お母様は幼児期(おおよそ、小学校低学年頃)を振り返り、以下の事柄をどの程度ご体験されましたか。

お子様、お母様それぞれに○印をつけてください。

	お子様				お母様			
	全くない	少しある	よくある	大変よくある	全くない	少しある	よくある	大変よくある
マッチで火をつけたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
たき火をしたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
火の暖かさを感じたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
石を投げて遊んだことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
いろいろな色や形の石を集めたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
地面に石で文字や絵を書いたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
素足で土の上を歩いたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
土のぬくもりや冷たさを感じたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
泥遊びをしたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
雨に濡れながら遊んだことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
湧き水を飲んだことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
水かけ遊びをしたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
草花で遊んだことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
草のおいをかいだことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
草で手を切ったことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
木の葉や木の実を集めたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
木の実をとって食べたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
木をおもちゃにしたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
虫取りをしたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
虫の飼育したことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
虫の声に耳をすましたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
おなかが減ったのを我慢したことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
日の出を見たことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
真っ暗闇を歩いたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
鳥肌を立てて、寒さに震えたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
ひたいから汗がダラダラと流れたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
腐った匂いをかいだことがある	1	2	3	4	1	2	3	4
排泄物の匂いで、くさかったと感じたことがある	1	2	3	4	1	2	3	4

Q9 お母様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

--

Q10 自然体験をお母様がお子様にさせてあげられない理由についてお尋ねします。

	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
保護者ご自身の手間がかかるため	1	2	3	4
保護者ご自身の時間的余裕がないため	1	2	3	4
保護者ご自身の金銭的余裕がないため	1	2	3	4
お子様の時間的余裕がないため	1	2	3	4
お子様の習い事などが忙しいため	1	2	3	4
お子様にとってテレビやゲームなど他に自然体験より面白いものが多いため	1	2	3	4
お子様に交通事故などの不安があるため	1	2	3	4
お子様が犯罪などに巻き込まれる恐れがあるため	1	2	3	4
お子様に怪我などの不安があるため	1	2	3	4
お子様に病気などの不安があるため	1	2	3	4
自然体験をする上での適当な指導者がいないため	1	2	3	4
自然体験を教え合う年上の子ども達が近所にいないため	1	2	3	4
自然体験と一緒にする同年代の子ども達が近所にいないため	1	2	3	4
保護者様の配偶者、親戚や友人などの協力が無いため	1	2	3	4
保護者ご自身が肉体的疲労を伴うため	1	2	3	4
お子様の服などが汚れてしまうため	1	2	3	4
自然体験ができる場所までの交通の便が悪いため	1	2	3	4
身近に自然体験をする場所がないため	1	2	3	4
保護者ご自身、自然体験をする場所についての情報が不足しているため	1	2	3	4
保護者ご自身の自然体験があまり無いため	1	2	3	4
保護者ご自身の自然体験に関する知識があまり無いため	1	2	3	4

Q11 その他にお子様に自然体験をさせられない理由がありましたら、自由にご記入ください。

--

Q12 お母様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

Q13 最後にお子様が自然と積極的に関われるようにするために、お母様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

お父様用アンケート

以下の項目について。お父様のご記入の方よろしくお願ひします。

* 適当な番号に○をつけてください。

- Q1 記入者について教えてください。 1. お父様
2. その他()

Q2 お父様の年齢についてお尋ねします。

- | | |
|------------|------------|
| 1. 20 歳未満 | 5. 35～39 歳 |
| 2. 20～24 歳 | 6. 40～44 歳 |
| 3. 25～29 歳 | 7. 45～49 歳 |
| 4. 30～34 歳 | 8. 50 歳以上 |

Q3 ご家族の住環境について教えてください。

1) お住まいの種類をお聞かせください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|--|--|
| 1. 一戸建て | 3. 二世帯住宅
<small>(二世帯同居だが、世帯別に生活できるように設計された住宅)</small> | |
| 2. マンションアパート | 4. その他(具体的に) | |

2) お住まいの周辺はどのような地域ですか。(○は1つ)

- | | | |
|---|---------------|--|
| 1. 古くからの住宅地域 | 4. 商業地域 | |
| 2. 団地 | 5. 工業地域 | |
| 3. 新興住宅地域
<small>(およそ10年前から整備され始めた住宅街)</small> | 6. 農業地域 | |
| | 7. その他(具体的に) | |

Q4 お子様に対するお父様の子育てに関してお尋ねします。

	そうは しない	あまりそう はしない	どちらとも いえない	たいてい そうする	いつも そうする
子どもが友達に乱暴なことをしたら、厳しく注意する	1	2	3	4	5
子どもが危ない遊びをしたら、厳しく注意している	1	2	3	4	5
子どもが一人で遠くへ行かないようにしている	1	2	3	4	5
やってよい遊び、悪い遊びの区別を教えるようにしている	1	2	3	4	5
子どもが誰かと遊ぶかは、親が指導している	1	2	3	4	5
子どもが友達と遊ぶよりは、知的活動をするように励ましている	1	2	3	4	5
子どもが遊びの中で、うまくできないことがあるとすぐに手助けするようにしている	1	2	3	4	5
子どもが一人で遊ぶより、他の友達と遊ぶように気をつけている	1	2	3	4	5
子どもを作ったものや、書いたものは、なるべくほめるようにしている	1	2	3	4	5
子どもをつれて、近くの公園などで、よく遊ぶようにしている	1	2	3	4	5
子どもがけんかしても、あまり注意しないようにしている	1	2	3	4	5
子どもが一人で遊んでいる時は、なるべくほうっておくようにしている	1	2	3	4	5

Q5 お子様の遊びについて気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。

Q6 下に示した事柄をお父様は幼児期(おおよそ、小学校低学年頃)を振り返り、以下の事柄をどの程度ご体験されましたか。

	全く しない	少し ある	よく ある	大変 よくある
マッチで火をつけたことがある	1	2	3	4
たき火をしたことがある	1	2	3	4
火の暖かさを感じたことがある	1	2	3	4
石を投げて遊んだことがある	1	2	3	4
いろいろな色や形の石を集めたことがある	1	2	3	4
地面に石で文字や絵を書いたことがある	1	2	3	4
素足で土の上を歩いたことがある	1	2	3	4
土のぬくもりや冷たさを感じたことがある	1	2	3	4
泥遊びをしたことがある	1	2	3	4
雨に濡れながら遊んだことがある	1	2	3	4
湧き水を飲んだことがある	1	2	3	4
水かけ遊びをしたことがある	1	2	3	4
草花で遊んだことがある	1	2	3	4
草のおいをかいだことがある	1	2	3	4
草で手を切ったことがある	1	2	3	4
木の葉や木の実を集めたことがある	1	2	3	4
木の実をとって食べたことがある	1	2	3	4
木をおもちゃにしたことがある	1	2	3	4
虫取りをしたことがある	1	2	3	4
虫の飼育したことがある	1	2	3	4
虫の声に耳をすましたことがある	1	2	3	4
おなかが減ったのを我慢したことがある	1	2	3	4
日の出を見たことがある	1	2	3	4
真っ暗闇を歩いたことがある	1	2	3	4
鳥肌を立てて、寒さに震えたことがある	1	2	3	4
ひたいから汗がダラダラと流れたことがある	1	2	3	4
腐った匂いをかいだことがある	1	2	3	4
排泄物の匂いで、くさかったと感じたことがある	1	2	3	4

Q7 お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

Q8 自然体験をお父様がお子様にさせてあげられない理由についてお尋ねします。

	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
保護者ご自身の手間がかかるため	1	2	3	4
保護者ご自身の時間的余裕がないため	1	2	3	4
保護者ご自身の金銭的余裕がないため	1	2	3	4
お子様の時間的余裕がないため	1	2	3	4
お子様の習い事などが忙しいため	1	2	3	4
お子様にとってテレビやゲームなど他に自然体験より面白いものが多いため	1	2	3	4
お子様に交通事故などの不安があるため	1	2	3	4
お子様が犯罪などに巻き込まれる恐れがあるため	1	2	3	4
お子様に怪我などの不安があるため	1	2	3	4
お子様に病気などの不安があるため	1	2	3	4
自然体験をする上での適当な指導者がいないため	1	2	3	4
自然体験を教え合う年上の子ども達が近所にいないため	1	2	3	4
自然体験と一緒にする同年代の子ども達が近所にいないため	1	2	3	4
保護者様の配偶者、親戚や友人などの協力が無いため	1	2	3	4
保護者ご自身が肉体的疲労を伴うため	1	2	3	4
お子様の服などが汚れてしまうため	1	2	3	4
自然体験ができる場所までの交通の便が悪いため	1	2	3	4
身近に自然体験をする場所がないため	1	2	3	4
保護者ご自身、自然体験をする場所についての情報が不足しているため	1	2	3	4
保護者ご自身の自然体験があまり無いため	1	2	3	4
保護者ご自身の自然体験に関する知識があまり無いため	1	2	3	4

Q9 その他にお子様に自然体験をさせられない理由がありましたら、ご記入ください。

Q10 お父様は自然体験を通して何をお子様にご期待しておられますか。自由にご記入ください。

Q11 最後にお子様を自然と積極的に関わるようにするために、お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

お子様の遊び日記

この用紙には、1週間のお子様の遊びの状態についてご記入ください。記入に当たっては、お子様の生活に詳しいお母様もしくは、お母様の代わりになる方をお願いします。1週間に渡る記録で、ご面倒をおかけしますが、どうか率直なご回答・ご協力をお願いいたします。

Q. 記入者の方について教えてください。

1. お母様
2. その他 ()

質問内容	6月30日(水)	7月1日(木)	7月2日(金)
Q1. 今日、何時頃幼稚園から帰宅しましたか？	およそ () 時 () 分頃	およそ () 時 () 分頃	およそ () 時 () 分頃
Q2. 今日、降園後に屋外でどのくらい遊びましたか？	およそ () 時間 () 分	およそ () 時間 () 分	およそ () 時間 () 分
Q3. 屋外のどこで遊びましたか？ <u>(1日の中で一番よく遊んだ場所の番号に○を、その次によく遊んだ場所の番号に○をつけて下さい)</u>	1. 自宅の庭 2. 友だちの家の庭 3. 公園 4. 近所の路地や道路 5. 駐車場 6. 団地の遊び場 7. 幼稚園・児童館等の運動場 8. 空き地・河原・土手・野原等 9. その他 ()	1. 自宅の庭 2. 友だちの家の庭 3. 公園 4. 近所の路地や道路 5. 駐車場 6. 団地の遊び場 7. 幼稚園・児童館等の運動場 8. 空き地・河原・土手・野原等 9. その他 ()	1. 自宅の庭 2. 友だちの家の庭 3. 公園 4. 近所の路地や道路 5. 駐車場 6. 団地の遊び場 7. 幼稚園・児童館等の運動場 8. 空き地・河原・土手・野原等 9. その他 ()
Q4. 屋外で誰と遊んでいましたか？ <u>(当てはまる番号すべてに○をつけて下さい)</u>	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. 友だち 7. 親戚 8. お子様1人 9. その他 ()	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. 友だち 7. 親戚 8. お子様1人 9. その他 ()	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. 友だち 7. 親戚 8. お子様1人 9. その他 ()
Q5. 屋外で何人くらいと遊んでいましたか？ <u>(当てはまる番号に○をつけて下さい)</u>	1. 0人 2. 1人 3. 2~3人 4. 4~5人 5. 6人以上	1. 0人 2. 1人 3. 2~3人 4. 4~5人 5. 6人以上	1. 0人 2. 1人 3. 2~3人 4. 4~5人 5. 6人以上
Q6. 今日、降園後に屋内でどのくらい遊びましたか？	およそ () 時間 () 分	およそ () 時間 () 分	およそ () 時間 () 分
Q7. 今日、テレビをどのくらい見ましたか？	およそ () 時間 () 分	およそ () 時間 () 分	およそ () 時間 () 分

質問内容	7月3日(土)	7月4日(日)	7月5日(月)	7月6日(火)
Q1. 今日、何時頃幼稚園から帰宅しましたか？	およそ()時()分頃	およそ()時()分頃	およそ()時()分頃	およそ()時()分頃
Q2. 今日、降園後に屋外でどのくらい遊びましたか？	およそ()時間()分	およそ()時間()分	およそ()時間()分	およそ()時間()分
Q3. 屋外のどこで遊びましたか？ (1日の中で一番よく遊んだ場所の番号に○を、その次によく遊んだ場所の番号に○をつけて下さい)	1. 自宅の庭 2. 友だちの家の庭 3. 公園 4. 近所の路地や道路 5. 駐車場 6. 団地の遊び場 7. 幼稚園・児童館等の運動場 8. 空き地・河原・土手・野原等 9. その他()	1. 自宅の庭 2. 友だちの家の庭 3. 公園 4. 近所の路地や道路 5. 駐車場 6. 団地の遊び場 7. 幼稚園・児童館等の運動場 8. 空き地・河原・土手・野原等 9. その他()	1. 自宅の庭 2. 友だちの家の庭 3. 公園 4. 近所の路地や道路 5. 駐車場 6. 団地の遊び場 7. 幼稚園・児童館等の運動場 8. 空き地・河原・土手・野原等 9. その他()	1. 自宅の庭 2. 友だちの家の庭 3. 公園 4. 近所の路地や道路 5. 駐車場 6. 団地の遊び場 7. 幼稚園・児童館等の運動場 8. 空き地・河原・土手・野原等 9. その他()
Q4. 屋外で誰と遊んでいましたか？ (当てはまる番号すべてに○をつけて下さい)	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. 友だち 7. 親戚 8. お子様1人 9. その他()	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. 友だち 7. 親戚 8. お子様1人 9. その他()	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. 友だち 7. 親戚 8. お子様1人 9. その他()	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. 友だち 7. 親戚 8. お子様1人 9. その他()
Q5. 屋外で何人くらいと遊んでいましたか？ (当てはまる番号に○をつけて下さい)	1. 0人 2. 1人 3. 2~3人 4. 4~5人 5. 6人以上	1. 0人 2. 1人 3. 2~3人 4. 4~5人 5. 6人以上	1. 0人 2. 1人 3. 2~3人 4. 4~5人 5. 6人以上	1. 0人 2. 1人 3. 2~3人 4. 4~5人 5. 6人以上
Q6. 今日、降園後に屋内でどのくらい遊びましたか？	およそ()時間()分	およそ()時間()分	およそ()時間()分	およそ()時間()分
Q7. 今日、テレビをどのくらい見ましたか？	およそ()時間()分	およそ()時間()分	およそ()時間()分	およそ()時間()分

子どもの自然体験・遊びと親のかかわり

—子どもの豊かな体験を求めて—



本年7月に実施しました「保護者の子育てとお子様の自然体験に関するアンケート」の結果がまとまりましたので、皆様にご報告させていただきます。

この調査報告書は、子どもたちの自然体験や遊びに両親のかかわりがどう反映しているかについてまとめました。

この調査報告書を、今後の子どもたちの豊かな体験が、それぞれの子どもの成長に活かされるようご参考にしていただければ幸いです。

なお、不明な点がございましたら下記までご連絡下さい。

(データから分かる範囲でお答えします。)

本調査のご協力、ありがとうございました。

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 幼年教育コース 亀山秀郎

兵庫教育大学 幼年教育講座 助教授 嶋崎博嗣

[連絡先]

〒673-1415 兵庫県加東郡社町下久米 942-1

兵庫教育大学 国際交流会館 A-103

TEL: 090-1717-5789 / 0795-44-0109 (アナウンス後 358)

EMAIL: kameyama3@hotmail.com

目次

1. 調査概要	1
2. 子どもの自然体験	1
3. 子どもの遊び	3
①遊び仲間	3
②遊び時間	4
③遊び空間	5
4. 子どもの自然体験と親のかかわり	6
5. まとめ	7

【調査の概要】

本調査は、2004年7月、尼崎市と神戸市北区の2つ幼稚園の520名の親子から協力を得て、行ないました。

【子どもの自然体験】

今の皆さんの生活圏内は、都市化し、便利な生活を送れるようになってきました。しかし、昔なじみの自然環境は着実に失われつつあると考えられます。そして、最近の子どもたちはお母さん、お父さんが昔していた、自然体験ができなくなっているとも考えられます。

今回は、山田卓三氏が唱える「原体験」(memo1 参照)を基にして、図1に示すとおり今の子どもと親が子どもだった頃の自然体験の世代間比較をしてみました。

【memo1】

「原体験」とは・・・

「生物やそのほかの自然物、あるいはそれらによって醸成される自然現象を触覚・嗅覚・味覚の基本感覚を伴う視覚・聴覚の五官(感)で知覚したもので、その他の事物・事象の認識に影響を及ぼす体験」

具体的には・・・

「火体験」: 熱さを感じる、モノの焦げる臭いを嗅ぐ、煙たさ、火をおこす、火を保つ、火を消す

「石体験」: 投げる、積む、綺麗な石を探す、石で書く、石(石器)を砥ぐ、火打石で火をおこす

「土体験」: 素足で土に触れる、土の温もりと冷たさを感じる、掘る、こねる、土器作り

「水体験」: 雨に濡れる、自然水を飲む、水かけ遊び、浮かべる、海で泳ぐ、川を渡る

「木体験」: 木に触れる、木の臭いを嗅ぐ、棒を使いこなす、木の葉、実を集める、おもちゃを作る

「草体験」: 草むら歩き、抜く、草をちぎる、臭いをかく、食べる、草で遊ぶ

「動物体験」: 捕まえる、触れる、臭いを嗅ぐ、飼う、観る、声を聴く、食べる

「0体験」: 暗闇を歩く、日の出を見る、林を歩く、飢え、渴き (出典: 山田卓三(1990)「ふるさとを感じる遊び辞典」農文協)

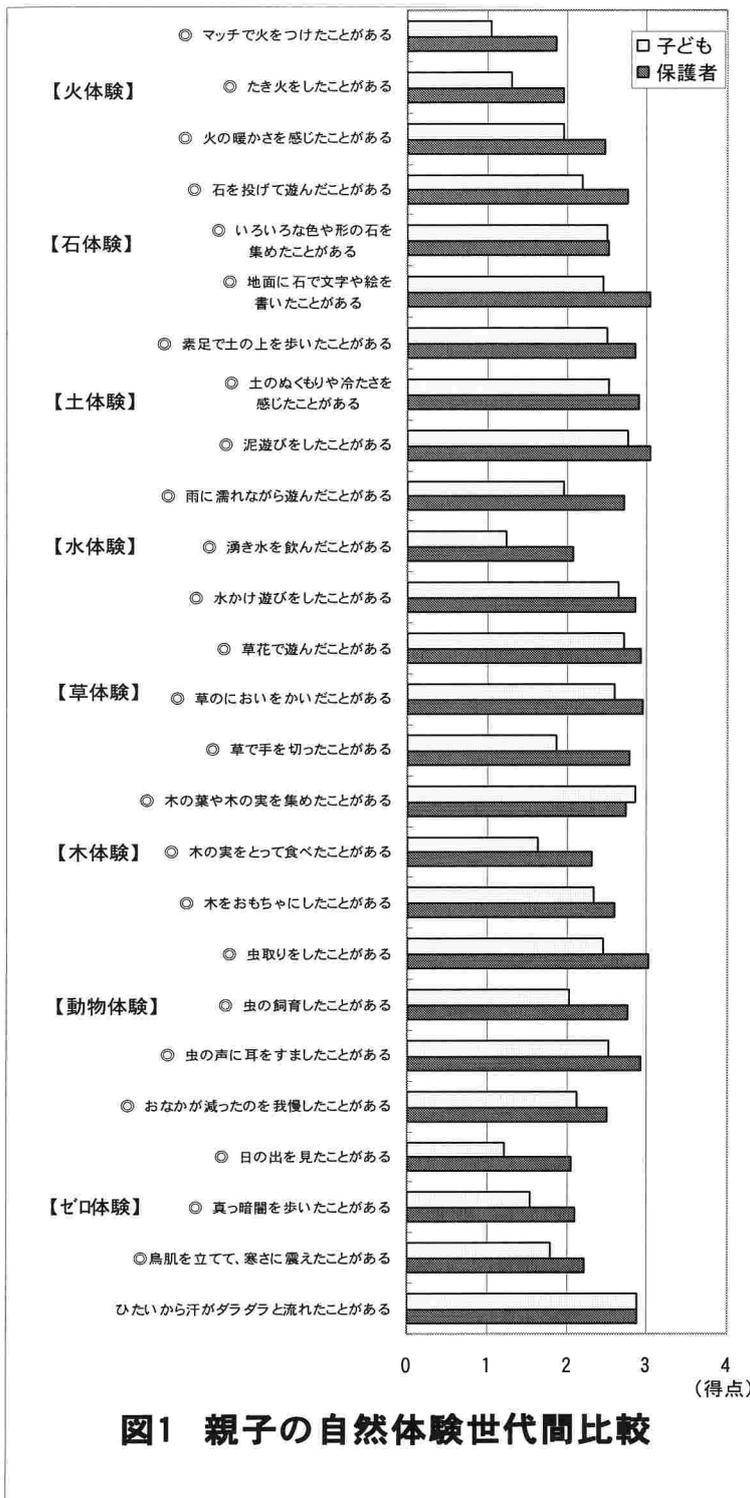
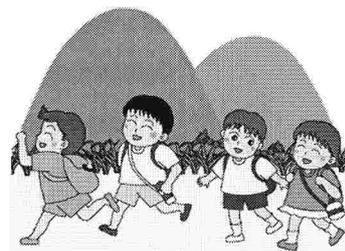


図1 親子の自然体験世代間比較

【表の見方について】

- ・子どもの自然体験については、親からのインタビューや生活の様子から回答していただきました。
- ・保護者の自然体験については、幼少期(小学校2年生程度まで)の体験を思い出して回答していただきました。
- ・「全くない-1点、少しある-2点、よくある-3点、大変よくある-4点」として、項目ごとに自然体験得点を算出しています。
- ・自然体験得点が高いほどそうした体験が多く、逆に少ないほど体験量が少ないことを示しています。
- ・項目の左横に◎印がついているものは、統計学的に違い(有意差)があった項目です。



その結果、多くの項目で自然体験量に違いがあることが見出されました。ほとんどの項目において、親世代より子ども世代の体験量は減少していることが窺われます。こうした状況を考えると、今の子どもたちは自然と触れ合う中で、身体感覚や感性を通して自然と触れ合う機会が少なくなっていることが心配されます。

【子どもの遊び】

子どもの遊びには、「からだや運動能力」、「知識や知恵の能力」、「情緒や社会性の能力」を学習していく絶好の場です。このような子どもの活発な遊びを屋外で成立させるためには、「仲間」、「空間」、「時間」という「三間」が必要とされています。しかし、子どもたちのライフスタイルの変化や少子化、都市化などによって、この「遊びの三間」が失われつつあるとされています。そこで、今回の「三間」についての調査結果を1つずつ見ていくこととします。

①遊び仲間

まず、降園後の遊び「仲間」について見てみましょう。

図2に示すとおり、平日・休日問わず、『4人以上で遊んでいる子』は約30%です。しかし、平日・休日において『誰も遊ばない子ども』が5%みられ、『2～3人で遊んでいる子ども』が半数以上である現状が明らかとなりました。子どもは多くの仲間と共に群れ遊びをする中で、いろいろな体験を共有したり、社会性を身に付けたりします。しかし、こうした現状を考えると、現在の子どもの多人数で遊べる場が降園後には成立しづらく、幼稚園内がそれを保障する場として機能しなければならないと考えさせられます。

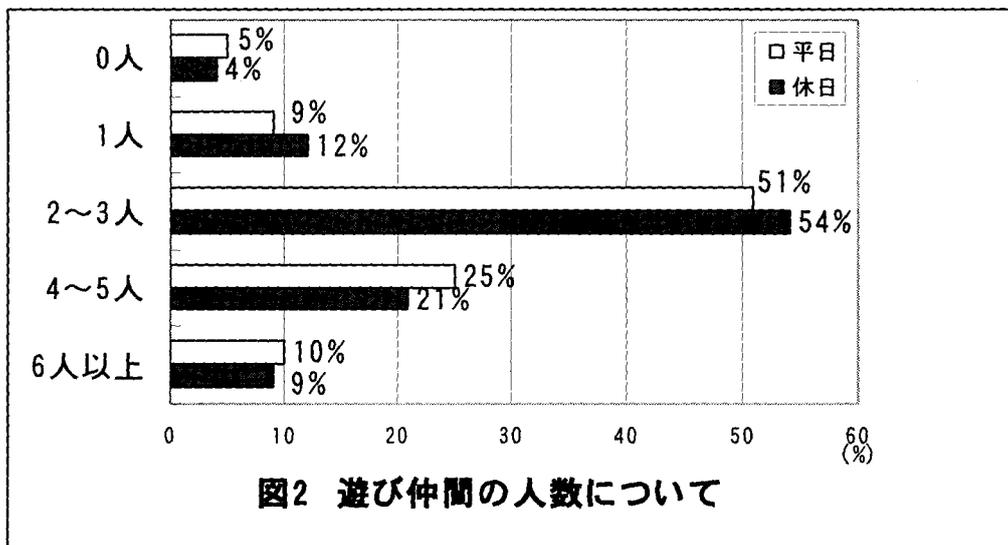
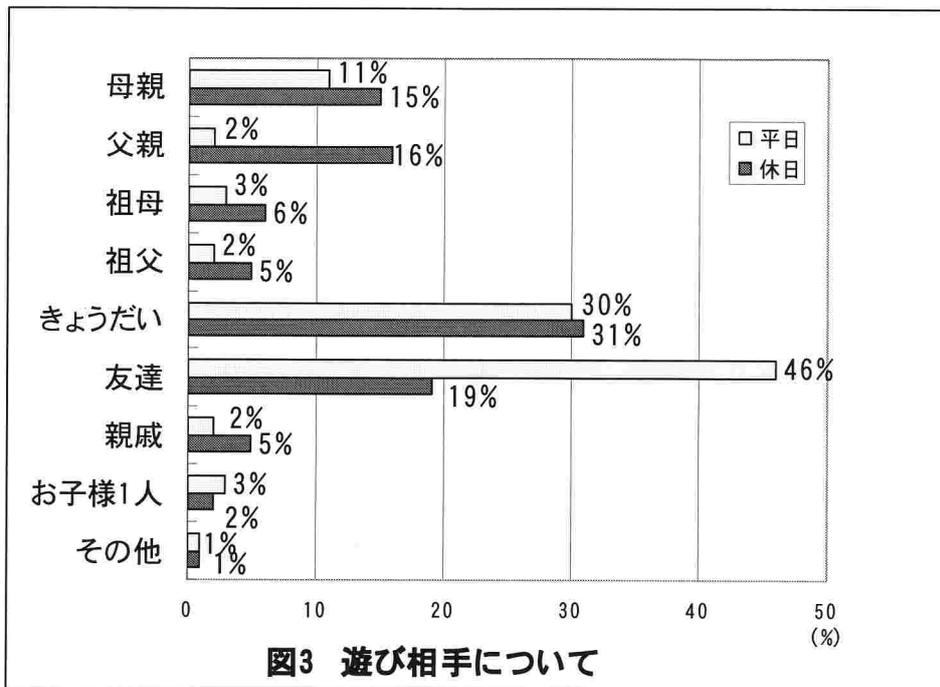


図2 遊び仲間の人数について

また、降園後の遊び相手について聞いたところ、図3の様な結果となりました。

平日は半数以上が『子ども同士』で遊んでおり、次いで『母親』の割合が高くなります。休日については、平日に比べ『友達』の割合が減り、『母親』より『父親』の割合が増えてきます。

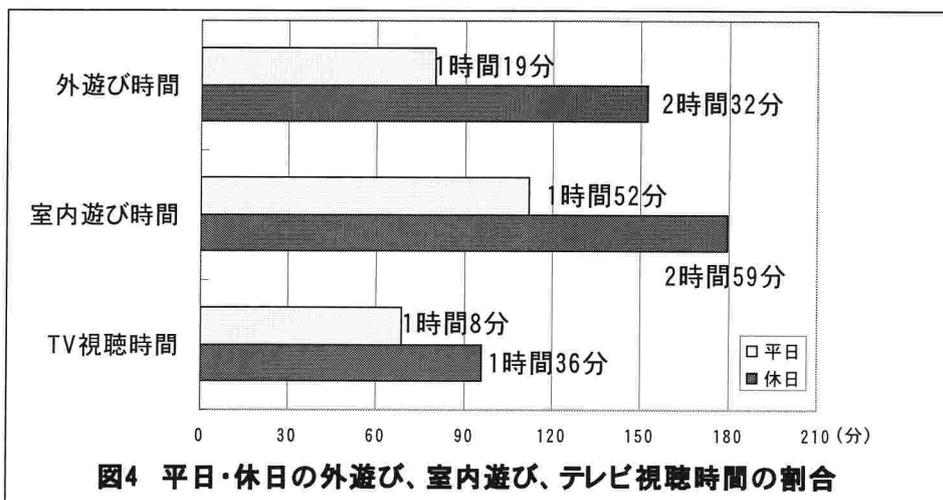
ベネッセ教育研究所が実施した「幼児生活アンケート報告書(2000年)」によると、6歳児の平日の遊び相手が母親である場合が、1995年に比べて増加し、友達である場合が減少しています。今後一層少子化が進む中、大人が子どもの遊びへ関わっていく割合が増えていくことが考えられます。こうした状況で、大人は子ども同士の群れ遊びをどう維持し、また拡げていくかについて考える必要がありそうです。



②遊び時間

次に降園後の遊び時間について、見てみましょう。

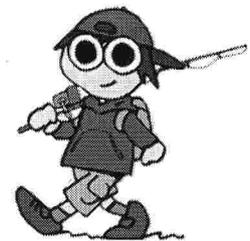
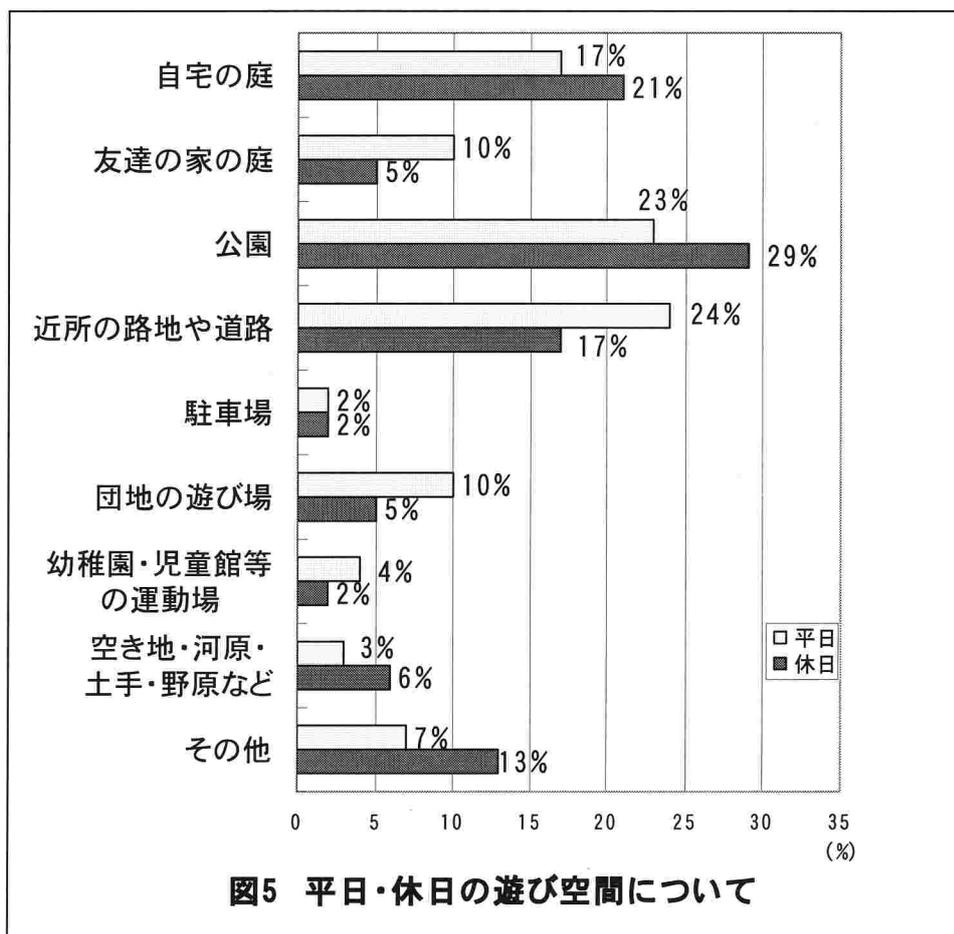
図4に示すとおり、平日・休日に関わらず『室内遊び』の時間が最も多い状況です。本調査を行った際、天候は一週間を通して雨は降っておらず、季節的にも外遊びを行なうのに適した時期でしたが、『外遊び時間』が『屋内遊び時間』や『テレビ視聴時間』に割かれている現状が明らかとなりました。今後、小学校に進学すると様々な塾や習い事が開始されることが考えられます。それによって、子ども同士で時間の都合が合わせられなくなり、遊びを共有できる時間がより一層少なくなることが考えられます。幼児期は”動く時代“ともいわれます。そこで、子どもの外遊びを拡げていきたいものです。



③遊び空間

最後に降園後の遊び「空間」について、見てみましょう。

図 5 に示すとおり、平日・休日問わず公園や道路などの『人工的な遊び場』が最も多く、次いで『自宅近辺』となっています。逆に、『空き地・河原・土手・野原など』の『自然的な場所』を遊び場にしている子どもの割合は 5%程度でした。山梨大学の中村和彦氏が 1999 年に行なった遊びの世代間比較調査によると、30 歳代の親が子どもだった頃、最もよく遊んだ場所は『自然的な場所』であり、その割合は 40～50%でした。この結果と今回の調査を比較すると、今の子どもの身近な生活圏に自然の場所が大幅に減少したと考えられますので、身体全体をダイナミックに使って思いっきり遊べる空間を今の子どもにも与えたいものです。



以上“三間”の結果を見てきた訳ですが、多くの仲間と身体全体を使ってたっぷり遊ぶことが難しくなりつつあることが見えてきます。子どもは遊びを通して様々な能力を獲得し、活発な身体運動量から良好な心身の健康状態を維持することが出来ます。また、このような遊びを自然の場において行なうことによって、多様な自然体験や感性、対人関係能力の向上も期待できます。子どもの健やかな成長のために我々大人が、子どもたちの遊びの価値を理解し、「遊びの三間」をできるだけ増やしていくことが必要だと考えさせられます。

【子どもの自然体験と親のかかわり】

ここでは、子どもの自然体験に及ぼす両親のかかわりについて見て行きます。なお、子どもの自然体験と親のかかわり(子どもに自然体験をさせられない意識の低さ、親の子どもの頃の自然体験、遊びに対する養育態度)の関連を見るために、相関分析という統計的手法を用いて、相互関連性を分析しました(図6)。なお、矢印の太さは分析による関連性の強さを示しています。

その結果、『子どもの自然体験』は、『子どもの心身の健康状態』及び『遊びの三問』と密接に関連しています。

次に両親との関連で見ていくと、『子どもの自然体験』は、『親の子どもの頃の自然体験』と最も関連性し、父親よりも普段から多く関わっている母親の方が、すべての面において強い関連があることが分かりました。また具体的にみていくと、『親の子どもの頃の自然体験』が『遊びに対する肯定的養育態度』や『自然体験をさせられない意識の低さ』とかかわっていました。

このような親の体験、態度、意識が日常生活に反応し、遊び仲間、遊び空間、屋外遊び時間などの子どもの遊び状況とも関わってきているようです。このような親の体験、態度、意識が、子どもの多様な自然体験を展開していけるサイクルとなっているようです。

もちろん子どもの遊びや自然体験は友達の存在や居住している立地条件等の人的・物的環境が影響することが考えられますが、同時に両親のかかわりが強く子どもに反映していることも本結果から見えてきます。

このような点から、子どもが自然体験を出来る状態であっても、両親のかかわりによって促進されたり、抑制されたりする可能性が考えられます。

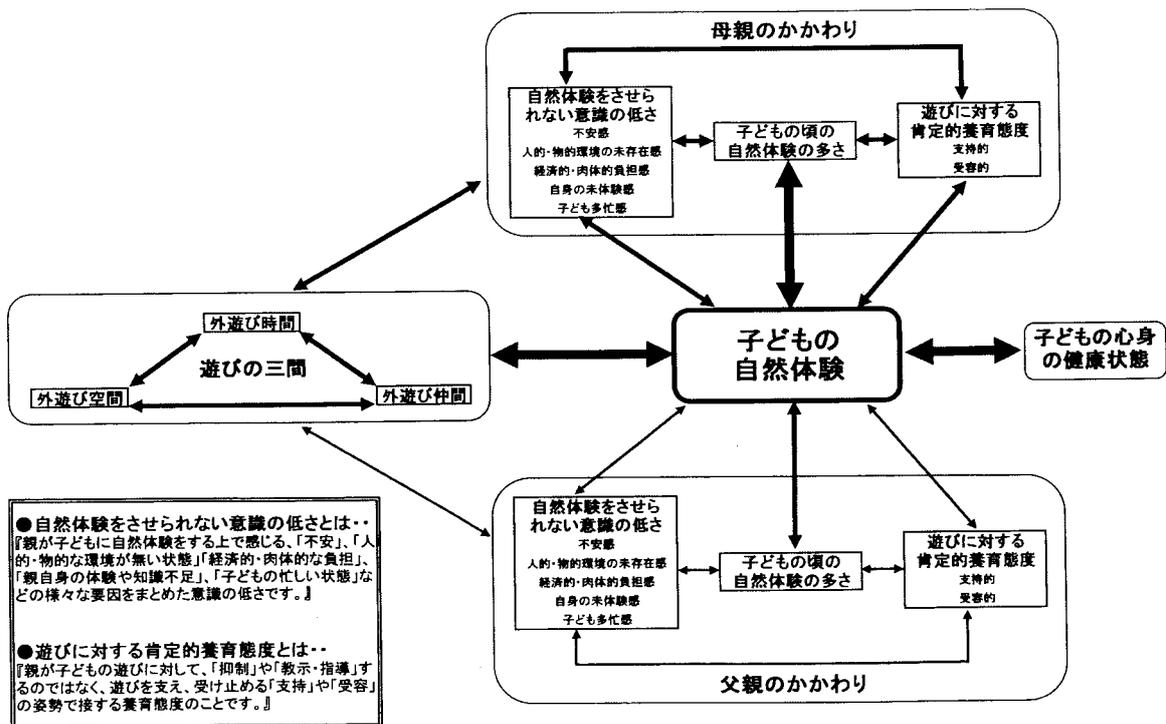


図6 子どもの自然体験と親のかかわり

【まとめ】

子どもの自然体験の現状は、親の世代よりも体験量や場所が減少し、降園後の普段の遊び状況も屋内(メディア視聴を含む)で、長時間、少人数での遊びになっていることが見られます。

子どもに心身の健康に深くかわり、多様な学びをもたらす自然との関わりを、是非我が子に体験させたいと思われている保護者は多いと思います。そう願いつつも、現在の状況からそれが難しいことが事実だと思います。実際、自然体験をもたらすためには、暮らしの中で安全性をどう確保するのか、身近に自然の場が少ない状態をどうするかなど、個人で変えることが難しい問題が多く存在します。しかし、思い出してみてください保護者の皆様が幼少の頃、多くの仲間と自然の場で缶けり等をする中で体験した多様な学びは、今に生きているものと思います。だからこそ、子ども期に子どもらしい暮らしを体験させてやりたいと考えています。

本調査の結果分かるように、物的環境も子どもの遊びに反映しますが、親の意識、行動など人的環境も遊びを大きく左右します。家庭で体験することが難しいものについては、家庭、幼稚園(教育機関)、地域と連携することによってそれが可能になって来ると考えられます。子どもの真の成長を考え、家庭、幼稚園(教育機関)、地域がつながり、多様な体験をさせることが今とても大切なのではないのでしょうか。



Q1.お子様の遊びについて気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。

K 幼稚園	年少	父親	自分でやっている遊びが上手くいかない時に泣き出す。
K 幼稚園	年少	父親	物を大切にしないことがある。
K 幼稚園	年少	父親	みなさんお忙しそうで遊びたてないような気がします。
K 幼稚園	年少	父親	興味を持ったことに対しては、没頭し、周りが見えなくなる。
K 幼稚園	年少	父親	色々な年令の子と遊ばせてあげたい
K 幼稚園	年少	父親	ちょっとイヤな事があれば、すぐに、やめてすねてしまう点。
K 幼稚園	年少	父親	1つの遊びに集中できない。 虫などの生き物を恐れている感じがする。
K 幼稚園	年少	父親	まだまだこれをしたらこうなるという先を考えた行動がほとんどできない。
K 幼稚園	年少	父親	気が短いと思われる（イラチ） 手先が不器用かも？
N 幼稚園	年少	父親	自主性がなく、自ら友達を引率して遊ばない。
N 幼稚園	年少	父親	多少のけがは全然気にしないが、目とかつかうような物が気をつけて欲しい
N 幼稚園	年少	父親	自由にのびのびと育てたいと思っているので、範囲を超えない限り、ほっておくようにしている。
N 幼稚園	年少	父親	一般的に家庭が裕福になり、おもちゃやTVゲームなどはらんしている。
K 幼稚園	年少	母親	一人遊びをしていて思い通りにならないとグズグズと泣いたりする。
K 幼稚園	年少	母親	友達の好き嫌いがあるようで”○○ちゃんはきらい” ”すき” とはっきりいうので困っている。
K 幼稚園	年少	母親	幸いな事に、近所に同じ年を始めたとする多くの年齢層の子供が複数いるので、毎日、遅くまで遊んでいます。 が、陽が長い事もあってか、なかなか帰宅しなからずけいじめがつかない所が悩みの種です。 子供は遊ぶのが仕事だとは思っていますが・・・。
K 幼稚園	年少	母親	ひとりっ子なのですが・・・ひとり遊びも好きだし・・・友達ともうまく遊んでいるようなので・・・まあまあ安心かな・・・と思っておりますが決まったお友達しか遊ばないので・・・もっといろんなお友達と遊んでほしいと思います。
K 幼稚園	年少	母親	戦いごっこをするのが好きで、幼稚園でもふざけてよく顔などにキズができて帰ってくるのですが、まだ手加減ができないので、大きなケガをしないか少し心配です。
K 幼稚園	年少	母親	友達と遊ぶよりも私（母）と遊びたがる。
K 幼稚園	年少	母親	あまり、外で遊びたがらない。
K 幼稚園	年少	母親	子供の遊び、友達同士の遊びに親（私）はなるべく介入しない様にしているが、他の親との関係もあるので、むづかしい。
K 幼稚園	年少	母親	男の子は、木のえだのおれたものが好きでよくひらってチャンバラの様にふりまわしたり、あぶない遊びを楽しむのですが、いつも注意しているのですが、注意ばかりしていると、あまりよくない事なのかと迷う事があります。
N 幼稚園	年少	母親	遊びについて気がかりとゆうより、固定して毎日のように遊ぶ同年代の子がいないのでよその家に行ってもおもちゃを見る回数が少ないから物欲にかけるのか心配な時があります。 おもちゃなど買ってとねだる時もありますが、うちの家ではたまにしか買っていません。「お金がない」と言ってたまにしか買いません。それで、ちゃんと我慢してくれているので助かってます。紙とペンははきみで親子で工夫して色々遊んでいます。時には卵パックなど使ったりして、たまに友人宅でごうかなおもちゃがあるとすごく喜んで帰る時もおもちゃを使えなくなるので大泣きです。（最近、公園へ行くより室内遊びの方が多いです）
N 幼稚園	年少	母親	父親と2人だと、1人遊びするが、母親と一緒にだと甘えて、1人では遊ばない。
N 幼稚園	年少	母親	普段あまり一緒に遊んでやれないので、幼稚園でのお友達とのかかわり方などがうまくできているかどうかかわからない事が気がかりです。
N 幼稚園	年少	母親	一人っ子のせいかわ、一人芝居のようなことをよくしているのが少し気になることがある。 得意ではない遊びでは、自分であまりしようとはせず、すぐにやらせようとする事がある。
N 幼稚園	年少	母親	両親が仕事をしている為なかなか公園などに連れて行ってあげる事ができないので友達との接し方がうまくできているのかどうか心配です。
N 幼稚園	年少	母親	お友達に手を出す姿を見ると、本当は自分の力で仲直りして欲しいのですが、つつい口を出してしまいます。
K 幼稚園	年中	父親	遊ぶ場所がなくなってきているように思います。 特に家の近所に、治安にも不安があります。
K 幼稚園	年中	父親	本人はともかく、友達に気がおけない（親のしつけがなっていない子が回りに多いと感じる）
K 幼稚園	年中	父親	テレビゲーム等屋内で遊ぶ子供が多く、小学校の中、高学年になると公園で遊ぶ子供が少ない気がする。
K 幼稚園	年中	父親	自転車に乗ることに興味が無いようだ。
K 幼稚園	年中	父親	数人で遊んでいる友達の所へ、一緒に遊びたいという気持ちがあるようだが、進んで入っていきとしない。
K 幼稚園	年中	父親	・自分自身の思い通りに物事が通らないとおこる。
K 幼稚園	年中	父親	交通事故、犯罪等が心配で遠方（親の目の届かない所）へ子供だけで行かせられない。
K 幼稚園	年中	父親	戦いごっこなど、たたくまね、けるまねなどする事。
K 幼稚園	年中	父親	年上の友達が多いので、無理な遊びが多くのが気がかりです。
K 幼稚園	年中	父親	・特定の相手としか、あまりしゃべったり、遊んだり出来ない。
K 幼稚園	年中	父親	あまりない事ですが、路上遊びの時の飛び出しが唯一の気がかりです。
K 幼稚園	年中	父親	子供の遊びよりも、子供の遊ぶ環境に保護者の目が必要と感じる様な事件が発生する社会の方が問題だと思います。

Q1.お子様の遊びについて気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。

K 幼稚園	年中	父親	近所の子供とはよく遊ぶが、幼稚園の友達とあまり遊びたがらない。
K 幼稚園	年中	父親	公園周辺に池があるので危ない。
K 幼稚園	年中	父親	最近少し町から外れた所に引越してきたので、今はあまり感じないが、以前は大阪市内に住んでいたため、その頃は自然と触れ合いが少ない（できない）と思っていた。
K 幼稚園	年中	父親	・幼稚園から帰った際、友達と遊ぶ事が少ない。（一人で遊ぶ事が多い） ・少し過保護に育てているかもしれない。友達との輪の中で、うまくやっているのか心配。
K 幼稚園	年中	父親	おもいっきり楽しく遊んでいるか？友達や自然、動物等を大切にしているか？
N 幼稚園	年中	父親	テレビゲーム等で遊んでいる時、人とのコミュニケーションができないのではと少し心配になります
N 幼稚園	年中	父親	今の環境でいいものかと思うときがあります。 地域的な事で他に引越したと思います。
N 幼稚園	年中	父親	多少のけがは全然きにしないけど目とかつくようなものがった物は気をつけて欲しい
N 幼稚園	年中	父親	パパとあまりあそんでくれない
N 幼稚園	年中	父親	テレビゲーム等に夢中にならないか気がかり。 今買いたえていないが、将来欲しいと言われた時にどうするか
N 幼稚園	年中	父親	今のところ特に気になる事は有りません。家での遊びは、兄の友達と遊ぶことが多いので、もう少し同年代の友達と遊ばないとと思うくらいです。 特に危険な遊びをしている様子でもありませんので、このまま元気に遊んでくれれば良いと思っております。
N 幼稚園	年中	父親	近くに同年代の子供がいらないため年上の子供と遊ぶことが多く少し行動等で気になる。
N 幼稚園	年中	父親	周囲が道路に囲まれており交通事故に気を付ける様教育して行きたい
N 幼稚園	年中	父親	気が多く、一つの物を大切にしない。
N 幼稚園	年中	父親	特にないがゲームボーイ等のテレビゲームを数時間もする時がある。
N 幼稚園	年中	父親	内気で仲間に入って行けないので、まわりと一緒に遊んでほしい
N 幼稚園	年中	父親	近所の子供との遊びで多少協調性がないのが気がかりですが、相手が男の子なので、この時期はしょうがないのかなと思っております
N 幼稚園	年中	父親	特にないです。元気でいつもあそんでいます。
N 幼稚園	年中	父親	特に今のところ遊びについて気がかりなことはありませんが、子供には色々な経験させてあげたいと思います。 最近屋外で遊ぶ事が多くなってきてますが、たまに新聞・報道等で不審人物による子供達の事件があるとやはり少し気がかりになります。
N 幼稚園	年中	父親	なにをいっているのかわからないことが多い
K 幼稚園	年中	母親	子供にとっては、遊びの中で事で、悪気はなかったにしろ、誤ってケガなどをさせて（相手のお友達）しまう事がないかをいつも気にしています。
K 幼稚園	年中	母親	平日は殆どマンション内の広場で遊ぶ事が多いです。 同年代の子供さんが多く、お友達が沢山いて、恵まれていると思います。家では上の子の影響かTVゲームをしたがるので、冬や雨の日は、時間が長くなり困ります。
K 幼稚園	年中	母親	お友達との遊びでは、自分のやりたいことを言えない。がまんをした遊びが多い。その分、妹には、自己中心でしか、一緒に遊べない。
K 幼稚園	年中	母親	家の近くに川があり、時々遊びに行っているけど、子供たちだけで、こっそり行ってしまわないか心配。一応、大人がいない時はダメと注意してあるし、1度、子供だけで行ってしまい、厳しくしかったので、大丈夫とは思いますが、やはり心配。 又、子供たちで自転車に乗り回って、車と接触するのでは、と気がかり。
K 幼稚園	年中	母親	あまり変わらないですが、自由にのびのびと遊べる場所がこれほどないものかと思ってしまいます。
K 幼稚園	年中	母親	帰ってすぐから（習い事が終わってすぐ）明るい間遊び続けている事。（ほとんど外ばかり）
K 幼稚園	年中	母親	幼稚園に通う年齢になると、子供達だけで遊ぶとともに、行動範囲も自然に広がっていくべきだと思いますが、昨今の悲惨な事件を考えると、どうしても親の目の行き届く範囲に限定させてしまいがちです。それが子供の成長や自立のきまたげになってしまう為、どうすべきか悩むところです。
K 幼稚園	年中	母親	公園にガラスの破片があったり、動物の糞があったりする。
K 幼稚園	年中	母親	暗れた日は元気いっぱい外で遊んでいるので特になし。
K 幼稚園	年中	母親	もっと公園や自然の中で遊ばせてやりたいが、なかなかできない。
K 幼稚園	年中	母親	公園でゲームをしている子供（特に男の子）が多いのが気になります。年長児と遊ぶことはたまにあります。大きい子は小さい子を子分というか、上から押さえつけるような云い方で命令していることが多く思います（特に女子）
K 幼稚園	年中	母親	姉妹でよく、おにごっこやかくれんぼをするのですが、じゃんけんしても、自分が勝つまでじゃんけんをして、おにになろうとはせず・・・少し、負けず嫌いな所がある。 2才の妹は、誤わからず言いなりになっていますが、幼稚園でも友達どうしてそうなのか、心配です。
K 幼稚園	年中	母親	危ない遊び、悪い遊びの基準が人によって違うので、子供の友達とそのお母さんといっしょに遊ぶ時は少しハラハラする。私は、少しくらい高い所へのぼったり、ジャンプしたりするのは、近くで見ているら良いと思うし、おもちゃのとりあいも、していいと思っているけれども、他の人は、『危ないからやめなさい』という。それは、それで正しいと思うし、人の育て方に口に出すつもりもないけど、ふだんおとなしい子がうちの子につれられて、やんちゃな事した場合、あの子といっしょに遊ぶと、乱ぼうになるから、いっし

Q1.お子様の遊びについて気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。

			よに遊ばせないようにしようと思われるのはさみしいです。うちの子はかなり行動的なので、最近小学生2~3人と遊んでいます。
K 幼稚園	年中	母親	家の近くには友達（同じ年代の子）がいないので、大体姉と遊んでケンカしています。
K 幼稚園	年中	母親	悪質な事件やいたずらが増加している世の中、車社会の世の中、子供たちだけで自由に遊んで欲しいと願う一方、子供たちだけで外出することに不安を感じる。
K 幼稚園	年中	母親	ある一定の友だちとしか遊べない。他の友だちはこわいと言う
K 幼稚園	年中	母親	わりと物がなくて遊べないように思います。おにごっこやかけっこをしない。
K 幼稚園	年中	母親	公園に行ってもあまり他の子供と遊ぼうとしません。特に戸外では、一人で自由に動き回って遊びたいのですが・・・
N 幼稚園	年中	母親	虫をよくつかまえる。みさかえなく・・・
N 幼稚園	年中	母親	犯罪に巻きこまれたくないので子供の年齢に関わらず外で子供達だけで遊ばせる事ができない。
N 幼稚園	年中	母親	物の取りあいなどがあるので上手く教えていきたいんですけど、なかなか上手く教えていけない。
N 幼稚園	年中	母親	家の前が車の通りがはげしく、自転車をかってあげたもののこの6ヶ月間ベランダと少し外で乗っただけで、もっと自由に自転車が小さな子供でも乗れる場所があれば・・・
N 幼稚園	年中	母親	長男にくらべ二男はなにかと放ったらかしにしてしまいがちでそれがいい面も悪い面もあるように思う。 誰と遊ぶかや、何で遊ぶかは本人に決めさせるようにしている。一人遊びも友達と遊ぶのも両方いいと思う。 けんかもあまり口出ししないようにしている。けんかには双方の言い分があり、どちらが悪いと言えないことのほうが多いから。ただ最後に必ず仲直りはするようにする。
N 幼稚園	年中	母親	おっちょこちょいな所がある。 自分勝手な所
N 幼稚園	年中	母親	幼稚園に入るまでは1人遊びをする事が多かったです 家では姉と遊んだりしますが基本的には1人がいいみたいです
N 幼稚園	年中	母親	1人っ子なので家で遊ぶ時おもちゃを相手に1人で答えて1人でしゃべってあそんでいるといいのかなあーと思う。
N 幼稚園	年中	母親	お友達の輪になかなか入れず遠まきに見ている事が多い。
N 幼稚園	年中	母親	けがが多い。
N 幼稚園	年中	母親	家で一人で遊ぶことが多い。大人が相手をする事が多くがまんすることやゆずったりすることが出来ない。 公園で知っている子がいれば、遊ぶが知らない子ばかりだとあまり遊べない。
N 幼稚園	年中	母親	・おちつきがない ・まだ死と言う物がよくわからず生き物の世話を知れる ・たまに一人ごとを言う
K 幼稚園	年長	祖母	安全に自由に遊べない 友達と遊ぶことが少ない
K 幼稚園	年長	父親	得になし。悪い事、あぶないことを含めて、何でもしたらいいと思う。その上で、色々な判断が出来る様になれたらいいと思う。
K 幼稚園	年長	父親	車の交通量が多く、外で遊ぶのが気がかり
K 幼稚園	年長	父親	外で遊ぶ時間が少ないと思う。
K 幼稚園	年長	父親	・ファミリーコンピューター、ゲームボーイ等、家内で一人または二人で遊ぶ道具が増えている。 ・小学生の低学年から学習塾、習字等の習い事が多い。 ・公園や小学校校庭で、ドッチボール、野球、隠れんぼ、鬼ごっこなど、子供たち人勢で遊ぶ事が少ない。 幼稚園、小学校では、大勢遊ぶ事をもっとさせたい。中学校、高校ではドッチボール隠れんぼ、鬼ごっこ等は出来ないと思います。
K 幼稚園	年長	父親	・遊び方を知らない。遊び場で上下関係が少ないように思います。
K 幼稚園	年長	父親	石を投げて遊ぶのは、あまりよくない！
K 幼稚園	年長	父親	道具の進化（ゲームとか）は、当然のことと思っているが、小学校3年生位から、いじめ（村八部）の様な部分が見えている。特に、女の子が強くなっているのがそうなるのかなと思われる。
K 幼稚園	年長	父親	ビデオ・TVを長時間見る時がある
K 幼稚園	年長	父親	上学校や幼稚園等、子供の放課後安全に遊べる場所を開放して欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	他の友達が遊んでいる場所に、自らは入っていきたくない点が、多少気になりますが、遊びの中身自体について気がかりな事は有りません。
K 幼稚園	年長	父親	とくにはありませんが、多少スネることが多いかと思っています。
K 幼稚園	年長	父親	友達と遊ぶとき、たまに物（おもちゃ）を投げてこわして遊ぶときがある。そういうときは、「こんなことしたらこわれてしまうよ」と注意するが、それでいいものか考える。
K 幼稚園	年長	父親	子供同士なのに気をつかってる所
K 幼稚園	年長	父親	近所の子達とうまく遊べているか少し気になっている。
K 幼稚園	年長	父親	友達との遊びの中で、頭やお腹などをたたく、ける等の乱暴な事。
K 幼稚園	年長	父親	最近の親は、ケンカを満足にさせてもらえない。ケンカの仕方を知らない子供が多いのが気になる。
K 幼稚園	年長	父親	遊ぶ友達を限定する傾向があるので、広く友達を作れるよう配慮して頂けるとありがたいです。
K 幼稚園	年長	父親	祖父母にねだって買ってもらったコンピューターゲームに熱中し、かなり長時間やっていることもあるようです。妻の話だと、家に

Q1.お子様の遊びについて気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。

			友だちが来ている時にも、自分のしたい(得意な)ゲームをして、友だちをほったらかしという状態になることがあるらしく、一緒に遊ぶことが面倒といった感じになりはしないか、気になります。
K 幼稚園	年長	父親	コンピューターを使った仮想現実的な遊びが多すぎる。特に対戦型のソフトは問題。たぶん、アメリカの10年後を確実に歩んでいる。教育と遊びを本気で親たちは考えるべき。
K 幼稚園	年長	父親	最近では子供対子供というよりも、子供と親がセットとなっているような気がする。うちの家では、子供は子供同士がよいと思う。
K 幼稚園	年長	父親	土砂だけの広場がない。コンクリートやアスファルトの場所ばかりで自然的なクッションである広場が少ない。
K 幼稚園	年長	父親	・遊びを知らない。遊び場で上下関係が少ないように思います。
K 幼稚園	年長	父親	・もっと外で遊んでほしい
K 幼稚園	年長	父親	テレビ、パソコン、ケイタイデジワなどが身の回りにあるので、つい家の中で遊ぶことが多くなる。目が悪くなる。
K 幼稚園	年長	父親	自然を利用した屋外での遊び方をあまり知らない
K 幼稚園	年長	父親	川や海などで魚を採ったり、山で虫を採ったり、自然体験をする場所、機会を与えてほしい。子供の視線での活動が必要と思う!
K 幼稚園	年長	父親	昔は地面を使った遊び(ビー玉、国取り、丸かき)をよくやったのですが、そんな遊びが今の子供たちに伝えてやればと思います。
N 幼稚園	年長	父親	トラブルに弱い。(強い子供に対して自分の意見をうまく言えない)
N 幼稚園	年長	父親	外であそぶ場所(山、川、たんぼなど)が、へっているので、友達と家で物をつかって遊ぶ事が多い
N 幼稚園	年長	父親	私達が子供の頃は、自然の中に生活がありました。が往環境に自然を求めて休日等家族で動く事が良くあり公園等で日常的に利用する事がなくなった事について身近な遊びが個立している様に思います。
N 幼稚園	年長	父親	他人のものをとる。(おもちゃなど) 親に注目してもらいたいと思っているようです。
N 幼稚園	年長	父親	外で遊ぶより、ゲームで遊ぶことがすこし気がかりである
N 幼稚園	年長	父親	友達の輪に溶込難い時もある。
N 幼稚園	年長	父親	すぐに調子に乗り過ぎるところがあり、遊んでいる姿をみて、とても危険に思う事が時々ある。
N 幼稚園	年長	父親	家でゲームで遊ぶより、外で遊んで欲しいと思うが、最近の治安の悪さを考えると、一人で遊んでこいといいにくい。
N 幼稚園	年長	父親	おもちゃで遊んでも、かたづけがあまりできません。
N 幼稚園	年長	父親	最近の子供はあまり外で遊んでいないと思います 外にいてもほとんどの子供はゲームやカードなどで遊び、走り回っている感じがしない。
N 幼稚園	年長	父親	あまり積極的な方でないので、遊びに慣れるまで少し時間がかかってしまう。
N 幼稚園	年長	父親	外で遊ぶ場所がない。また、色々な意見の安全が確保されていないので、どちらかと言えば家内での遊びが多く、外での色々な遊びの知恵、工夫を考える力が弱いかなと思う。
N 幼稚園	年長	父親	幼児期(3才~6才)の年齢で独りで外で自由に遊ばせられない世の中になった事が不慣れに思います。
N 幼稚園	年長	父親	最近少し乱暴になってきています。
K 幼稚園	年長	母親	自分が出来ない遊び(登り棒、こまなし自転車など)を友達が始めると1人で遊び、苦手な事をやろうとしない。
K 幼稚園	年長	母親	同年代の友達よりも年上の友達と遊ぶことが多い。
K 幼稚園	年長	母親	遊びを教えてくれる上下関係が希薄なため昔ながらの遊びや遊び方を知らない(親がいつも一緒に遊びを教えているように思う)
K 幼稚園	年長	母親	自分の子供も、そうですが、他の子供も、すぐ、家の中で遊ぼうとします。 「約束」と言う言葉を使いたいのか、幼稚園から帰ったら「〜ちゃんと約束した」と言っでは、近所の友達でも、すぐに家に入れたがります。 家がすぐ近くなら、外で遊べばと思うのですが・・・
K 幼稚園	年長	母親	親から見たら危険だったり、衛生的でなかったりする遊びが、子どもにとっては楽しい事があり、どこまで禁止してよいか悩みます。
K 幼稚園	年長	母親	遊び自体ではなく、誘拐や犯罪等の子供の安全を考えると遊ぶ場所が家の中や公園位に限定されてしまうのが悲しい。
K 幼稚園	年長	母親	どちらかと言うと、親があまり遊んで欲しくない子(放ったらかしの家庭の子)などと、遊びたがる事もあるのですが、そういう時、『あの子と遊んでダメ!』と言って良い物かどうか。
K 幼稚園	年長	母親	車などの危険なこと
K 幼稚園	年長	母親	長い時間テレビゲームをしたがる。目が悪くなりそう。
K 幼稚園	年長	母親	兄と2人兄弟なので仲良く、兄や兄の友達と遊ぶ事が多い。 昨年幼稚園に行くようになってから同年代の友達が2~3人(近所)でき、遊ぶようになってきた。・・・が兄の存在が大きく、兄が友達と遊ぶとなると、気になり、自分の友達との約束は断る事もある。
K 幼稚園	年長	母親	集中力がない事がある
K 幼稚園	年長	母親	・外遊びが好きなので、ケガをしないか心配です。
K 幼稚園	年長	母親	おもちゃのとり合いなどでも親が先に口を出してとめるので子供がケンカして自分達で仲直りするという場がなかなかない
K 幼稚園	年長	母親	最近では3才くらいのお友達と良く遊ぶので、木の枝でターザンしたり、高い所に登ったり今までにはない遊びを始めました。マンションの敷地内ですし、危険ですので注意はするようにしているのですが、自分の子供の頃を振り返ると「少しくらい多目に見てやっても・・・」と考えてしまいます。どう対応していいかわかりません。
K 幼稚園	年長	母親	最近治安が悪く、どこに行くにも親がついていかなければならず、親の都合に合わせて遊ぶ日、時間が決まること。
K 幼稚園	年長	母親	外遊びをしていても、1つのことに集中できない。 サッカーをしたと思ったら、すぐに、キャッチボール・・・フルスビー、バトミントン・・・等々。ひと通りやると(全て、短時間)

Q1.お子様の遊びについて気がかりなことがありましたら、自由にご記入ください。

			<p>休憩。集中力がなくて心配です。</p> <p>良く言ってくれる人は、好奇心が旺盛なことよ。つ言ってくれますが・・・</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>家の中での遊びですが、ゲームが中心になっている事に気がなっています。時間を1時間と決めているのですが、他にも興味をもってほしいです。</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>少人数で遊ぶ時はまじって遊ぶ事ができる人が多くなるほど1人で遊ぶ事が多くなる。</p> <p>自分から積極的に友達の中に入れない。</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>遊びを教えてくれる上下関係が希薄のため、昔ながらの遊びや遊び方を知らない。(親がいつも一緒に遊びを教えているように思う)</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>公園で友達と遊んでいる時、私がいけない時は、友達と楽しく遊んでいても、私が公園に少し遅れて出たら(私の顔を見たら)すぐに、いろいろな面で甘えてくる。</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>・世の中、あぶない事件等多すぎるので不安。</p> <p>・環境が悪い所もある(近所の公園はあるが、砂場にペットのウンチ、公園にはガラスの破片、木がしげりすぎて・・・)</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>室内での屋外でも楽しくあそぶ事ができますが、同年代のお友だちとのあそびより、上の子(長女の)のお友だちや、長女とあそぶ事が多い。</p> <p>たまに、ご近所の同年代のお友だちに、誘われても”しぶしぶ”あそぶ、という感じです。表面で楽しそうにしてる、という感じです。</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>時代なのでしょう、小さい頃より室内で遊ぶ(テレビゲームなど)子供が増え、集団というより、2、3、人での少人数もしくは1人で遊び、幼稚園生ですら、複数の習い事をかけもち、遊び時間が自由にとれない子供が多い。</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>公園とかでよくあそぶが草木がある草原?みだいな木の実や虫をとる場所が近くにない</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>お天気の良い日は、外で元気に遊んで欲しいのに、家の中でゲームしたがる事が有る。自分の子には注意するが、一緒に遊ぶ子がゲームをしたがる子の場合、ゲームをさせるべきか、他の子と遊ばせるべきか心の中でかっとうがある。</p>
K 幼稚園	年長	母親	<p>近くに適当な公園や広場がないので自宅前道路でよく遊ぶ。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>小さいのに、上の子がゲームをしていると、自分もまげずにゲームに熱中する。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>体を使った遊び・頭を使う遊びについて親が差別化するのはではなく、子供がその両方を取り込んで遊びを楽しむ環境を作って行きたい。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>化粧品のおもちゃがあるので、ほしがるので、買うかどうかまよっていたが、ほとんどの子が持っていたので、おどろいた。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>6月に2人目が産まれたので母が相手できないので、父、両方の祖父母に遊んでもらっています。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>自転車で勝手に遠くに行ってしまう</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>輪の中に入れて、輪の中に入れてあげられない。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>幼稚園の高学年になるにつれて家庭内での言葉遣いが荒くなった。これも成長の過程なんだろうね・・・</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>幼稚園ごっこが好きで、自分は先生役になって遊んでいるのですが、いつも友達にもしようよと言っています。幼稚園から帰ってまた幼稚園と同じような事やられてお友達はイヤじゃないのかなあと気がかりです。一応お友達に聞いて「いいよ」って言ってもらってから遊んでるそうですが・・・</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>外で一人で遊ばす事には危険もあり、自由に遊ばせてあげる事ができない。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>公園などで遊んでいる時(今週は行ってませんが・・・)一緒に遊んでいるお友達が他の子と遊びはじめると、その子とも一緒に遊んだら良いのに一人ですねてしまう。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>・自分のものは貸せないのに人のものは貸してもらいたがる言葉がきついで友人があまり来なくなった。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>幼稚園のお友達が多勢集まる公園には、よく泥酔者がいます。</p> <p>いつもは数人でお酒を飲みながら話しているだけなのですが、時々子どもにかかわりを持ちトラブルになることがあります。子どもだけで遊びに来ている幼稚園児もいますが、私は心配でまだまだ手離すことができません。安心して遊ばせることのできる場所が本当に欲しいと思います。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>子供たちだけで遊びに行かすのも最近こわいのであまり行かしたくありません。(暑くなると親もバテしんどいので)どうしても家の中で遊ばしてしまいます。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>3人目(姉・兄)のせい、降園後ほぼ毎日いろんな友だちの家に遊びにいき、又は、家で呼んでいるため特に危険なこと以外は注意せず自由にしている。又は、公園へも友だちで決め、お母さま方と交替で過ごすため、次女を通しての母子、兄弟関係、近所関係が良好、けんかや乱暴なことも姉兄のみで友人とは上手くいき、片付けをして戻るところまで出来ている様子。ただし、PM5時に必ず迎えにいき子のペースで戻っている。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>誰かの家に入ってTVゲームをしたりとかすぐに目をはなすとします。他には、言葉使いがらんぼうな感じがします。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>近所に同じ年頃のお友達がいないので、降園後に外で遊ぶという事があまりありません。昔は、近所にたくさん子供がいて外に出るとだれかと遊べるという環境でした。そういう遊びの中で学べる事がたくさんあったのに、自分の子供には、そういう経験が少なくなくて、かわいそうだし、遊びを通して学ぶ経験が少なくて心配です。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>自分から声をかけられない。</p> <p>自分の物を取られても、なにも言えない。</p> <p>友達と遊んでも、イヤな事があるとすねて遊ばなくなる。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>一人で公園等で遊ばすのは最近のかんきょう(事件)などがとても心配である。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>わりと誰とでも遊べるが、多勢の中の公園で遊ぶのが嫌な時があります。</p>
N 幼稚園	年長	母親	<p>心配な事はあまりない。2人目で、兄がいるので、大きい子と遊びたがる。下の子の面倒が見れない。</p>

Q2. その他にお子様の様子について気がかりなことがありましたら自由にご記入ください。
(母親のみ)

K 幼稚園	年少	質問項目を見ていて”この年代(幼稚園児)は昼寝をするのが普通なのか・・・?”と思った次第です。うちの子は、よほどの事が無い限りお昼寝はしないので。
K 幼稚園	年少	日中はちゃんと一人でトイレに行くことができるが、夜寝る時はまだおむつがとれないので、いつになるとパンツをはいて寝れるか少し気がかりです。
K 幼稚園	年少	未だに幼稚園へ行くときに「ママがいないから行きたくない」とごねる。帰りはごきげんですが。
K 幼稚園	年少	もうすぐ4才になりますが、言葉の発音が(ら・さ)行がはっきりしないのですが。(なんでも話しますが。)
N 幼稚園	年少	#1 私は主人を粗末にしているつもりはないのですが、子供が私にべったりで主人が淋しそうな時があります。外に遊びに行く時や私が仕事などでいない時は仲良く遊んでるようですが・・・ #2 子供にも気の合う、合わないがあるみたいで、気に入らない子には公園など砂場でおもちゃを貸してあげる事を嫌がります。
N 幼稚園	年少	マイペースな性格なので、幼稚園で、お友達と仲良く遊んでいるかな・・・?という事が気がかりです。
N 幼稚園	年少	祖父、祖母がいれば、口が悪くなるので心配です。
K 幼稚園	年中	苦手な事への努力が出来ず、さっとやめてしまう こちらの提案、はげましを受けずねてしまう事が多い・・・が、すぐ切り換えは出来る。
K 幼稚園	年中	下の子ができて(4歳下)今までより、甘えることが多くなり、私と離れる時、とても悲しそうになるようになった。今までできていたようなことも(降園時にバスに乗る)も、嫌がるようになっていたりしている。やきもちとか、スネているとか・・・でも、下の子に故意に意地悪はしていない。
K 幼稚園	年中	疲れていても大丈夫だと時間いっぱい遊ぶところ
K 幼稚園	年中	・夜中に急に理由もわからずに泣きわめく事がある。
K 幼稚園	年中	指しゃぶりがなかなかとれない。 何かと物を口にしてしまう。
K 幼稚園	年中	最近、〇〇ちゃんが悪いとか、パーカとか言う事が多いように思う。なんで悪い?と聞くと、自分の思いどおりにならない事から、本当に〇〇ちゃんがいじわるをした事までさまざまだが、良い、悪いの区別ができるようになってきたのか。わがままか・・・。とりあえず、パーカは悪い言葉だから、使わない方がいいよ。とはおしえているのだが・・・。
K 幼稚園	年中	何人かの友達と一緒に楽しく遊べることもできるが、1人でもくもくと遊びに熱中していたり、1人遊びの様子を見ていると友達と遊んだら?と声かけあた方がいいのかそのまま1人で遊ばせておいていいのか迷うときがある。
K 幼稚園	年中	お友達をたたいたりすること
K 幼稚園	年中	好き嫌いが多く、かなり偏食
N 幼稚園	年中	思いどおりにならないとすぐに不機嫌になる。いつもは和やかだが、時には乱暴な口調で激しく怒る。
N 幼稚園	年中	なかなか寝ない。他の人に聞くと、早くから寝かしているが、まっくらにしても寝ないし、休みの日も早くおきるので、すいみんが足りているか心配。
N 幼稚園	年中	弟に対しての口調など
N 幼稚園	年中	給食が苦手なようで、毎日何度も”明日の給食なに?!”とか”給食嫌”といます。
N 幼稚園	年中	積極的じゃない。(内気な所)
N 幼稚園	年中	怒られる事を極度に嫌がる。TVで生徒が怒られるシーンは耳をふさいで「怖い」と叫び部屋からでていったりする。
N 幼稚園	年中	スネたりすることがとても多い よく泣く
N 幼稚園	年中	親、年上の人にはいやなことといえやといえるのに、年下の子にはそれが出来ない。 自分がこの子年下かな?とかってに判断したらその子のいいなりなのです。それっていったいなんなのか?やさしなのか?なんなのかわからない。
N 幼稚園	年中	すぐに手を口を持っていく(爪をかむ)
N 幼稚園	年中	友達と遊ぶことが少ないので、たまに遊ぶと一緒に協力しあって何かをしたりということが上手く出来ていないようです。自分が友達に対して悪いことをしてもあやまる事が出来ない。乱暴な子がいると逃げるようにその場から離れる。
K 幼稚園	年長	年上の子と遊びたいと思っけていても、うまく、とけこむ事が出来ない。
K 幼稚園	年長	思い通りにならない事があると泣いたりたたいたりする事がある。 下の子がうまれてから多くなった。がまんしなければならぬ事が増えたせいかもしれない。
K 幼稚園	年長	よく外で遊ぶ子ですが、眠たくなると不機嫌になりぐずぐずとなるのが悩みです。疲れてきてから、家でゆっくりしてくれるといいですが、お友達と外で遊ぶのが大好きで困ります。
K 幼稚園	年長	おちつきがない
K 幼稚園	年長	兄を見ているので、要領が良くしたいの事は、教えずに自分で観察し、学んでいる。なんでもすぐできるが、出来ない事に対する努力が嫌いで、すぐ諦めてしまう事が多々ある。・・・が、自分で「これ!」と思った事は、納得のいくまで、取り組む時もある。
K 幼稚園	年長	食事をあまりとらない。(食が細い)
K 幼稚園	年長	基本的な生活習慣がなかなか身に付かないので困っている。 自分からは顔やハミガキ、洋服をしまったり、着替えたりをしようとしません。
K 幼稚園	年長	・いじめられた時などに、メソメソしている事がよくある。もっと強くなれるよう望んでいます。

Q2. その他にお子様の様子について気がかりなことがありましたら自由にご記入ください。
(母親のみ)

K 幼稚園	年長	Q5 と重複しますが、あそぶ場所・内容うんぬんではなく、誰とあそぶか・・・という面で、心配する事があります。
K 幼稚園	年長	ケンカしてもすぐに謝りの言葉がでない。
K 幼稚園	年長	公園とか道路とかでおにごっこやかくれんぼなどの遊びが少なく年令が違う子とか男の子と女の子と遊ぶことが少ない。遊んだとしてもすぐ遊ばなくなる。昭和 40 年代は男の子も女の子も年令が違ってもかくれんぼ、おにごっこをたのしんでいたが孤立している。男の子や年令が違う子のところへ入っていかない。
K 幼稚園	年長	昼寝はまったくしません
N 幼稚園	年長	2~3 才の頃は人とのまじわりを苦手とする様子が見られましたが次第に人の遊びを真似し始め、現在は特に心配する点はありません。
N 幼稚園	年長	お友達にたたかれても、なかなか「ヤメテ」と言えない。
N 幼稚園	年長	うちの子どもは生まれつき身体が丈夫でなく慢性喘息があるため、健康なお子さんと比べると戸外で遊ぶ機会がほとんどありません。
N 幼稚園	年長	1 人っ子なので、物のゆずり合いができない。
N 幼稚園	年長	すぐにかんしゃくをおこして、自分の思っている事したい事の要求を上手く言葉で伝えることが不得意、他人の事をうらやましいと思う気持ちが強くてこまる。
N 幼稚園	年長	お友達がいないければ 1 人で遊べない
N 幼稚園	年長	好き嫌いが多いが、全給食の幼ちえんで頑張っている。家では最近牛乳 1 杯一気にのめるようになった。あとは小 1 で担任と上手くいけば良いと思います。
N 幼稚園	年長	自分が思っている事を相手に伝えられない・・・。 すぐイライラして怒る 家の中と外では態度が違う。
N 幼稚園	年中	遊びの道具はちがうが遊び方は同じと思う
K 幼稚園	年長	自由にのびのび育ててほしいです

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

K 幼稚園	年少	父親	昔と違って危ないところがすくない。自分で危険と感じて欲しい
K 幼稚園	年少	父親	自然が無くなったため、体験すべきものがなく、買ってしか得られない。探して得るのではなく、購入して得る。
K 幼稚園	年少	父親	私は田舎育ちで、田畑や溝、池が近くにあり、自然の中で育った。遊んだ印象が強いが、子どもはその体験が少ない。実家に行った時はなるべく自然の中で遊ばせるようにしている。
K 幼稚園	年少	父親	昔は海で真黒に焼いたものですが、最近は日焼けをしないように気にしている子が多い。外で遊ぶことが有害になってきている昨今を可愛そうに感じる。
K 幼稚園	年少	父親	木に登ったり、はだして走り回ったり、カッターやはさみなどもよく使ったが、(ケガも多かった。)子供は、あまりそのようなことをしない。というよりも、親の都合でさせていないのかもしれない。
K 幼稚園	年少	父親	自分の時は、ケガして覚えたことが多くあるが、自分の子には、ケガする前に教えることが多く、体験した経験数自体違う
K 幼稚園	年少	父親	・家の中で殆んど遊んでいた記憶がなく、もっともっとアウト・ドアで、いろいろな体験をいっしょにしたいと感じる。
K 幼稚園	年少	父親	私は田舎育ちの為、自然がたくさんあったが、都会はコンクリート、アスファルトに囲まれており、自然体験しにくい。川でも壁にかこまれている場所が多く感じる。自然の生き物の種類が少なくなった気がする。
K 幼稚園	年少	父親	自分が幼少の頃のように、近所に親しい友だちや年上の人たちが少ないため、いろいろなことを教えてもらうことが少ない。
K 幼稚園	年少	父親	自分のその当時の体験は、ほとんど忘れてしまっているが、恐らく、自分の子供なので、その通りの行動をしていると思う。これはまだ教育云々の以前の問題で、その子が持って生まれた性格のものだと思う。違いについては今のところわからない。
K 幼稚園	年少	父親	私達の幼児期は自然の道具を使い遊ぶ事が多かったが、今の子供達は家の中で、おもちゃ、テレビゲーム等で遊ぶ事が多いと感じます。
K 幼稚園	年少	母親	遊ぶ場所が少ない。 1人で行けるきよりに公園がない。
K 幼稚園	年少	母親	外遊びは1人で行かせるのは安全面で大変不安なので、自分の幼児期のように1人で外へ遊びに行かすことはできない。川の水も昔に比べてかなり汚れたりしているので連れて行くのは嫌。車の量も昔に比べて増えているので事故等も不安です。
K 幼稚園	年少	母親	とにかく虫が嫌い！アリでも怖いよ～と言う。
K 幼稚園	年少	母親	私は田舎育ちなので自然に体験しているが今の子供はあまり外で遊ばない気がする
K 幼稚園	年少	母親	私が小さい頃は友達だけでの屋外遊びをよくしたのですが、最近はやはり子供たちだけで遊ばせるには危険がありすぎる(犯罪等に巻き込まれる)様に思います。ですから、日曜日など家族でできる限り自然体験をしようと試みてます。平日は仕事があるのでどうしても無理が生じます。
K 幼稚園	年少	母親	時代の違いを強く感じる。現代は共働き、犯罪者、車の量も多くなり、私の幼児期より子供同士(子供だけ)で遊ぶ経験があまりないように思う。そうなれば、自然体験も減るのではないのでしょうか。
K 幼稚園	年少	母親	昔に比べると不審者も多くなり、近所の目も少なくなり、つい「危ない」と思って、外あそびを子供だけでさせることができなくなっていると思う
K 幼稚園	年少	母親	戸建てで、庭や畑があった幼少期とコンクリートで土までなかなかたどりつかない生活、8Fで虫のいない生活で全くことなります。私は、大家族で祖父母に暮らをはがしておこられたり・・・雑草と花・植木の区別も教えるにくい環境です。
K 幼稚園	年少	母親	私が育った場所が、今、住んでいる場所よりも都会でしたので、子供たちの方が、いろいろな遊びをしている気がします。
K 幼稚園	年少	母親	常に大人が一緒でないと、いつ、何に巻き込まれるかわからないので、子供達だけで探検ごっこなど、外でのびのび遊べない。昔は、もっと好きに、どろんこになるまで遊べたのに・・・
K 幼稚園	年少	母親	私が子供の頃は、欲しい物があってもなかなか買ってもらえず、たまに欲しかった物を買ってもらえる機会に恵まれたら、天にも昇る気持ちになり、嬉しくて嬉しくて、肌身離さず持ち歩いていたのですが、拙宅の子供達は買ってもらったその時点で満足し、欲しいと言った割には物を大事にしません。ガマンするという事も私の子供時代と比べて少ない気がします。祖父母、曾祖父母が健在で、それなりに自由になるお金ももっているせいか。親が買ってくれないのなら祖父母に・・・とあからさまに人を使わけている所も私の子供時代には考えられない事です。
K 幼稚園	年少	母親	私の幼児期には、家庭(家族)で、バーベキューを(外)でした事がなかったけど子供には、庭でバーベキューや、お弁当を作って、遊びに行ったりしています。もう少し大きくなったらキャンプとかにも連れて行ってあげようと思っています。(主人ともども)
K 幼稚園	年少	母親	私の育った環境はあまり自然にふれる機会が少なかったが、今住んでいる所は緑も公園も多く、色々な虫や植物を目にする事ができて都会ではできない様な遊びができ非常によいと思う。
K 幼稚園	年少	母親	生き物にふれるチャンスが少ないように思います。
K 幼稚園	年少	母親	日が暮れるまで、ひとりですと外へ出て真っ黒になっていたことが多かったが、子を付きそいなしで外に出すのは、不安なので、家の中で遊ぶことの方が子は多い。
K 幼稚園	年少	母親	マンションに住んでいるため、遊ぶ範囲が決まってしまう。もっとたくさんの事を経験させてやりたいと思っています。私が小さい頃はもう少し自然が多く、行動範囲も広がったように思います。
K 幼稚園	年少	母親	自分は小さい頃住宅に住んでいたため、親がある程度目を離しても、友達と一緒にならば安心だったと親から聞いているが、今は、大きな道路もあるし、不審者の心配もあるので絶対に子供だけで遊ばせることが私にはできない。
K 幼稚園	年少	母親	川での魚とり、ザリガニとり。 今は、子供達が入れる様な小川が近所には無い。 子供達だけで公園に行ったり、友達の家に行ったりできない。(変質事件が多いため)

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

K 幼稚園	年少	母親	地域のお母さん方が有志で3、4才児（未就園児対象）対象に月3回“散歩クラブ”というものをされていて毎回かなりの距離を歩き畑で作業、たき火、川遊び、山登り etc. を体験させて下さっていて、私の息子も昨年の6月～3月御世話になり、私がしたことのない自然体験を数多く大いに楽しんでやっていました。
K 幼稚園	年少	母親	・子供達だけで、外に出せない。 ・冷暖房が行き届き、いつでも快適に過ごしている。 ・子供社会に縦の関係が少ない。 ・あまり叱られていない（特に他人から）
K 幼稚園	年少	母親	自分が小学生の頃は、今みたいに物騒でなかった為、1人で又は友達と行動する機会が多かったのですが、現在どこにいても安心できない時代になっているのはとても不安です。
K 幼稚園	年少	母親	子供は男の子ですので、木や虫が多く、私は花や絵を書く事が多かった様に思います。
N 幼稚園	年少	父親	子供の頃は特に変化はないと思う。
N 幼稚園	年少	父親	虫の居る場所が近所になくなった（緑が減った）為、屋外で遊ぶ機会が減った様な気がする。
N 幼稚園	年少	父親	自分の小さい時は、ビデオ等は無かったので、外で遊ぶ事の方が多かった様な気がするが、今の子供達は選択肢が非常に多いと思う。それが悪いとは思わないけれど。
N 幼稚園	年少	父親	おもちゃが現在は充実している。
N 幼稚園	年少	父親	食べ物をありがたと思わない。特に、ケーキ、すし、お菓子、アイスクリーム、ジュース
N 幼稚園	年少	父親	外で遊ぶ事が少なくなっているような感じです。
N 幼稚園	年少	母親	私の小さい頃は、専業主婦のお母さんが近所に多く、同年代の子も多かったのでいつも5人以上で毎日外で遊んでいました。近くに田んぼや川があったので土をいろう事も多かったです。公園にいなくても近くで色々遊びました。うちの子は、私が働いているという事もありますが、私が休みの日連れて行ける時に公園などで遊ばせています。
N 幼稚園	年少	母親	昔は空地や路地で遊べたが今は公園などの整備された所に行かないと遊べない
N 幼稚園	年少	母親	友達の家とか道路でみんなで遊ぶ事が毎日の様にありましたが、今は親と一緒にいないと危ないし、遊ぶ場所も減ってるし、家の中での遊びが増えていると思う。
N 幼稚園	年少	母親	高い所からジャンプしたり、虫をさわったりは私の幼い頃の記憶にはなく、やはり男の子と女の子の違いなのかなあとと思います。
N 幼稚園	年少	母親	自分が子供の頃は田んぼがたくさんあり危険なところも少なく外でたくさん遊べた。今は事件、事故など心配でつきっきり。
N 幼稚園	年少	母親	子供の方が、積極的に自然と関わっているように思う。（こわいもの知らず・・・？）
N 幼稚園	年少	母親	私達の時代は道路はアスファルトではなく、土でした。なので、家の前で泥ん子遊びや、団子などをつくって裸足で遊んでいました。かたつむり、だんご虫などをとって遊んでたのですが、今は、アスファルトだし、公園の上もガラスなどゴミも多く、犬のフンなど裸足で遊ばせることができません。公園の遊具ぐらいいか遊ばせていません。保育所の園庭開放では、夏場は、裸足で水遊びをさせてもらっていました。
N 幼稚園	年少	母親	なるべく自分が体験してきた事を子供にも体験させるようにはしているが土いじりや、自然にふれあう場所がちかくない。
N 幼稚園	年少	母親	今は子供達が安全に遊べる環境が少なくなっている気がする。 また、近所に同年代の子供も少なく、お友達と遊べるのも幼稚園の中がほとんどではないか。 私が子供の頃はそこら中が遊び場だったし、学校の外にもお友達がたくさんいたように思う。
N 幼稚園	年少	母親	昔は近くに田んぼなどがあったが最近ほとんどないために虫や草花にふれるのが少なくなったかと思います。
N 幼稚園	年少	母親	私はいなか育ちなので毎日、山や田んぼで走りまわって自由に遊んでいましたが、都会の子は、そういう体験が少ないのでは？ 今は、外で遊ぶのも危険が多いし、一人ではなかなか行かせられません。
N 幼稚園	年少	母親	家に庭があり、菜園や焼き場がありましたが、自宅（子供）にはない。田んぼや川で遊ばせなくなった。
N 幼稚園	年少	母親	町並みや自然環境が違う為、公園や山などに行ってもふれあえる虫や草花などにどうしても違いがある。
N 幼稚園	年少	母親	ビデオやテレビゲームは、私が幼児期の頃にはしていなかった。
N 幼稚園	年少	母親	私の幼い頃にどれ位の子供をねらった犯罪があったのかは、分かりませんが今はとてもよく聞き、のびのびと外で自然に触れさせて育てたいとは思いますが心配の方が多いです。
N 幼稚園	年少	母親	空き地など近所に広場がなくなっているので自然な遊びができなくなっている。
N 幼稚園	年少	母親	私が育った場所は、もっと田舎であった為、すぐ近くに小川などがあった。
K 幼稚園	年中	父親	もっと自然な遊びをして欲しい。 動物や虫との触れ合いがない
K 幼稚園	年中	父親	・時代や地域の違いから友達10～20人で遊ぶ事がなくなっている。変な大人がニュース等でよく見るので、長時間外で子供だけで遊ばせる事ができない。
K 幼稚園	年中	父親	遊び道具などが多く自分達で考えたりすることが少なくなっている。
K 幼稚園	年中	父親	性別の違いはあるが、もっと放任されていた。
K 幼稚園	年中	父親	我慢、忍耐の差と自然とのふれ合いの差が大きい
K 幼稚園	年中	父親	私の子供の頃は、近所づきあいがもっと密で、よく近所の同学年や高学年の友達と虫とりに行ったり、少し遠くまで探検に行ったりしていたが、今は危険が多く、あまり自由に遊べないと思う。
K 幼稚園	年中	父親	・山や川、その中で生きる生き物と触れ合う機会が少ない大勢の友達と遊ぶことが少ない。
K 幼稚園	年中	父親	・私達が育った環境と、現在の子供達が育つ環境とが根本的に違う。

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

			・自動車の交通量が増大している等、危険な要素が多くなっている。それゆえに、制限される遊びも多い。
K 幼稚園	年中	父親	・近くの田んぼで遊ぶ→現在の家の近くの田んぼで遊ぶと注意されるとのこと。
K 幼稚園	年中	父親	女の子ですので自分の体験を全く考えたりしてません！自分の子供の時は良く父とキャッチボールなどしていましたが、女の子ですのでさせたくない気持ちが出してしまいます。
K 幼稚園	年中	父親	家の近くに田畑、池が無いので草花・昆虫等に触れる機会が現在は少ないと感じます
K 幼稚園	年中	父親	山・川等が近くにないため、自然に親しむ機会が少ない。
K 幼稚園	年中	父親	近くに山や川がない。
K 幼稚園	年中	父親	住んでいる環境が違う為比べられない。
K 幼稚園	年中	父親	昔は今の様な習い事なく、もっと遊ぶ時間があった。
K 幼稚園	年中	父親	昔ながらの遊び（ビー玉、バッター、タコあげ、コマ回し、いご板）等のおそびをしている子供をあまり見かけなくなった。
K 幼稚園	年中	父親	毎日のように山や川で遊んでいたが子供は公園でよく遊ぶ程度で自然体験が少ない。
K 幼稚園	年中	父親	遊具が最近多いのでよく遊んでいる
K 幼稚園	年中	父親	あそびかたがちがう
K 幼稚園	年中	父親	育った環境が全く違うので体験も違う。
K 幼稚園	年中	父親	最近、世の中が物騒なので子供どうしあまり遠くに行けないので、親の目の届く範囲でしか遊ぶことができない
K 幼稚園	年中	父親	自分は、次男だが、幼稚園の息子は長男である事。
K 幼稚園	年中	父親	私たちの主な遊び場は山、田、川とまさに自然そのものですが、子供にはそのような機会がありません。
K 幼稚園	年中	父親	田舎で育ったため、新興住宅街での遊びと異なっている。（特に、田んぼと神社でよく遊んだ。）
K 幼稚園	年中	父親	自然体験とは違いますが、私は滋賀県で生まれ育ち祖父母と両親と生活しておりました。又、幼なじみも沢山おり、見知った顔ばかりの中で生活していましたが、私は、転勤を何度かしている為子供には祖父母と暮らす生活をさせてやれず、又、友達ができても別れるという経験をさせています。幸い人見知りをしていない子なので、今の生活にもすぐ馴染んでいるので一安心です。
K 幼稚園	年中	父親	虫取りや魚釣りをするのに適当な場所が少なくなった。
K 幼稚園	年中	父親	保護者の目の届かない環境で、子供同士で遊んでいた。今の子供、公園等では常に親の目を意識しながら遊んでいると感じることがある。
K 幼稚園	年中	父親	私の子供の頃は、自然が多くあったが今は本当の自然が少ない。
K 幼稚園	年中	父親	外で木登り等をせず、家の中でゲームをする事等が流行しているので屋外での危険を体験する事が減っているので、危険予知する能力がおちていると思われる。
K 幼稚園	年中	父親	遊びの行動範囲が非常にせまい。 子供会や自治会の活動が少ないので、遊びの集団性が少ない。
K 幼稚園	年中	父親	子供同士で目の届かない場所で遊ばせることに対して多少の抵抗感を持つこと。その理由は昔と違い、身近に犯罪を感じる為。
K 幼稚園	年中	父親	おもちゃが多様になっている。リモコン、ケータイ電話、TVゲームの普及等機械操作への適応は私の時代とは比べものにならないくらい早い。
K 幼稚園	年中	父親	私の幼少期には、環境が田舎だったこともあり、自然に触れる機会が多く、また遊び自体もTVゲーム等がなく、電子機器に触れる機会は殆どなかった。出来るだけ自然に触れさせよう気を使っているが、現代では既に人工的に提供されたものが多く、自分で考えることが少ない（想像力の低下）ことが懸念される。
K 幼稚園	年中	父親	男女の違いがあるので単純比較はできませんが、私の子供の頃は、山に行ったりしていました。
K 幼稚園	年中	父親	今は、ゲームなどが増えて、外で遊ぶ子供が少なくなった気がする。
K 幼稚園	年中	父親	自然の中で遊んでいた、かけっこがメイン、家の中で遊ぶといたらゲームなどしたが。
K 幼稚園	年中	母親	自分が4才の時はすでに親がいなくても外で（10才くらい年の差があっても）10人位と遊んでいたが、自分の子供は、いつもつきっきりでいる。
K 幼稚園	年中	母親	・近所に体験するような場所がない。 ・野花など勝手に採れるような環境でなくなっている。
K 幼稚園	年中	母親	私は、田舎で育った為、自然に開かれ花を採ったり虫をつかまえたり木に登ったりと自由にのびのび育ててもらいました。子供達もマンションの敷地内で虫をさがし花を摘んだり工夫して友達と遊んでいます。しかし、集合住宅でのルールも多くどうしても子供にダメを言う機会が増えてしまい残念です。
K 幼稚園	年中	母親	子：遊ぶ範囲が限られている。家の回りで遊ぶ（それ以外は、この頃は不審者が多くあまり外へ出ない様に心がけているから） 親：行動範囲はもっと広く、親がいなくても、年上のものがいっしょに遊んでいて、助けあって遊べた様に思う。
K 幼稚園	年中	母親	自分自身、幼児期に両親からしてもらった体験が、大人になった今でも忘れられない楽しかった思い出なので、自分自身にとってよかった事を子供にもしてあげようと思っております。
K 幼稚園	年中	母親	自分の幼い頃は、神社、公園、田んぼが遊び場でしたが、今はコンクリート、虫とりもよくしますが、マンションの土手なので、人工的な感じがします。色んな場面で親がかかわりすぎている気もします。
K 幼稚園	年中	母親	私は、毎日家の前が堤防だったので、かけ上ったりドリたり、走りまわっていました。子供は、そういう場所が少ないので、町内でのたまねぎはりや、ハイキング、自然体験（だいこんぬき、山あそびなど）をする、幼児教室など、小さい頃から、自然を体験させていました。
K 幼稚園	年中	母親	あまり変わらない。

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

K 幼稚園	年中	母親	昔私達の時代の方が自然にふれる機会が多かった。親があまりうるさく言わなかった。
K 幼稚園	年中	母親	自分が楽しくできた事は、是非伝えたいと思いますが、自分が苦手だった事も一とおり子供に教えたいと思います。
K 幼稚園	年中	母親	時代によって、周りの環境が違うので、比べることがむずかしい。
K 幼稚園	年中	母親	家の前があまり車が通らないので、子供だけでも遊べるところ
K 幼稚園	年中	母親	家の外で親の監視なく良く遊んでいたが、今は、親が付いていないとあぶない世の中になった。
K 幼稚園	年中	母親	今、外に出る時は必ず親がついて行っている。
K 幼稚園	年中	母親	・今住んでいる所のまわりは田んぼだらけなのですが、子供は最近、降園後友達と一緒におたまじゃくしやザリガニ釣りを楽しんでいます。
K 幼稚園	年中	母親	私(母)が育った環境は、とても自然が多い所でした。現在住んでいる所もわりと自然が多いです。子供を育てる為この自然豊かで子供がのびのびと、生活できる現在の場所に、わざわざ引越してきたので、子供もとても自然に親しんでいると思います。
K 幼稚園	年中	母親	核家族の世帯が増え、二世帯、三世帯の家族との関わりが、うすれてきた様に思います。又、何においても現在は購入できるので、自然のものを利用して、あるものを利用しての物づくりも低下してきている様に思います。
K 幼稚園	年中	母親	虫、泥んこ等よごれるのを嫌がる人が多いので、初めの一步に時間がかかる。体力がない。
K 幼稚園	年中	母親	私達の頃は、いつも近所の年上の子は年下の子と一緒に遊んでいました。そして、時にはいろいろと教えてもらったりと、大人からではなく子供同士でいろいろ学んでいった事が多い様に思います。しかし、今の子供達はそういった経験が少ない様に思います(習い事などで忙しいのかもしれませんが)
K 幼稚園	年中	母親	・自転車のコロナしを子供は4才 私は7才で体験できるようになった。 ・私は山の近くで育った為、たんぼの中の虫やおたまじゃくしなどをよくとっていた。
K 幼稚園	年中	母親	家のすぐ近くに川があったので、ザリガニをとったり、カエルをつかまえて遊んで遊んだことがよくあったが、子供は近くにそういう場所がないので、あまりそういった遊びをしたことがない。 デイキャンプをしたときに、川遊びをさせたら喜んでたが、そういった機会が少ない。
K 幼稚園	年中	母親	私自身、田舎育ちなので、近くの家を自由に行ったりきたりしたりカエルつり、虫とりをおじいちゃん、おばあちゃんたちに教えてもらいながらよくしたものです。今は、親同士が勝手に庭に入っちゃいけないとか、親にもゆとりがないように思えます。 お隣でも週2、3回しか顔を合わさないような状況です。
K 幼稚園	年中	母親	「時代が違う」というのでしょうか？昔は自然に虫などがいたけど今はどこかに行かなければいけないし人工的な自然が多いのではないのでしょうか？
K 幼稚園	年中	母親	自然環境が悪くなっている中、わき水や、木の実など、安心して与えられないし、子供自身不安をもっている為、体験することは難しい。 また、虫に触れる事もない為、何もかもが害虫で、共存という考え方を全く持っていない。
K 幼稚園	年中	母親	いなかで育ったため、家の周囲に田んぼが多く、花をつんで、飾りものをよく作っていたが、子供達には、そういう体験をさせてあげられていない。
K 幼稚園	年中	母親	私の生家は田舎なので、遊び場は、山や小川、畑等でしたので、子供に比べたら、虫や草花にふれるチャンスは多かったと思いますが、だからといって、私の幼少時代とくらべて、どうかという事は別に思いません。子供はどこにいても、楽しい事を見つけてくるものです。
K 幼稚園	年中	母親	現在住んでいる所はかなり自然が残っているのですが、私の子供の頃したカブト虫取りを子供はまだしていません。
K 幼稚園	年中	母親	田舎の自然のありふれた中で育った為、おもちゃも買ったものではなく、周りにあるもので作ったり工夫したりして遊んでいました。アンケートに答えているうちに子供にあたりまえの自然体験を今ではその機会を与えてあげなければできにくくなったんだな・・・と感じました。子供が変わったのではなく大人が変わったんでしょうね。
K 幼稚園	年中	母親	山、川、海に囲まれた所で育ったためいろんな所を友達と探検し歩き回った覚えがある。今の子供達の用に母と一緒に公園に行かなければ友達と遊べないという環境ではなかった。もっと自由に何でもしていたように思う。つつい子供に対してかまひすぎなのかもしれない。危ないからダメという言葉でしぼっているのかもしれない。
K 幼稚園	年中	母親	今の子供は私たちの子供時代より過保護になっている気がします。”危ない”というのが先にたって体験させる事も少なくなっているように思います。
K 幼稚園	年中	母親	私は水着を着て川で泳いだりしていた。 近くに川がないのでさせてやれない。 水をこわがるのでいきたがらない。
K 幼稚園	年中	母親	田舎育ちでは、すぐそばに、田んぼや畑があり、山もあり、川もあり・・・で身近な所で、いろいろな遊びが、体験できる。何にでも、ふれて、感じる事ができる。 住まいによって、子供には、全く身近になく、遊びも公園だけに限られてしまっている。
K 幼稚園	年中	母親	私の子供の頃は、自然があふれていて、誰に教えられることなく、毎日自然体験していました。子供が自然体験をする所と言えば、公園ぐらいしかなく、かわいそうだな、という気がします。(その場所まで移動しないといけなはかわいそうな気がします。)
K 幼稚園	年中	母親	自然にふれていることが少なくなっていると思います。これからはもっともっと自然とふれあう遊びをしようと思います。
K 幼稚園	年中	母親	自分の幼少期には、友達と子供たちだけで公園で遊ぶことが多く、行動範囲が広がったが、自分の子は、子供たちだけで遠くで遊ぶことはしていない。 幼児を狙う犯罪が増加している今の時代、親の目の届かない場所で遊ばせることにとても抵抗を感じる。

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

K 幼稚園	年中	母親	ビデオやゲームなど情報などすぐにはいって行くので何でもはやくに知っている。
K 幼稚園	年中	母親	自分があまり遊ばせてもらったことがないので、子供にはたくさん遊びを通して学んでほしい。
K 幼稚園	年中	母親	私は、兄がおり、虫をつかまえたり、飼育することもありましたが、娘は虫にかかわることが少ない。
N 幼稚園	年中	父親	私が子供のころもそうですが、体験の違いというのは生きていく時間が子供と私では違うのであたりまえのことではないでしょうか。 このアンケートの意図じたい理解しかねます。
N 幼稚園	年中	父親	子供は、子供と遊んでたような気がします。親が公園にいなかったような気がします。
N 幼稚園	年中	父親	私にはない事ばかり体験していると思う。
N 幼稚園	年中	父親	私の幼児期には田んぼや原っぱが近くにたくさんあり、自然とふれあいがら遊べたが、近所はそういうものがなく、他の手段を考えざるを得ない。
N 幼稚園	年中	父親	生活環境や育った場所、遊び道具の違い
N 幼稚園	年中	父親	時間を制限しているのではないと思うが、TVゲームは面白いようです。
N 幼稚園	年中	父親	虫とりやかえる、おたまじゃくしとり等、生き物のふれあいが、今の環境ではしにくくなっている。
N 幼稚園	年中	父親	生活の豊かさが違う。
N 幼稚園	年中	父親	・テレビ、ビデオを見る機会が多い。
N 幼稚園	年中	父親	私自身もあまり自然体験が多い方ではありません。 ただ、今の子供達よりは近くに自然があったと思います。川原や空き地が多かった様に思います。 今は公園程度しか有りませんので出来るだけ時間を作って山や川に連れて行ってあげたいと思っています。
N 幼稚園	年中	父親	家の中でいる時間が多い 遊ぶ場所が少なすぎる
N 幼稚園	年中	父親	今の子供は「土」にふれる機会が全くない。その辺が私と違う。
N 幼稚園	年中	父親	公園等で遊んだ事に関しては違いはあまりない様に思う。ただ、公園以外身近に自然を感じられない。(例えば、あそべる空地や身近にある草木)
N 幼稚園	年中	父親	交通量が多くアスファルトの道が多く土の道がない 一人では遊びにいかされない。自然が無くなってきている
N 幼稚園	年中	父親	携帯電話やパソコンがある。
N 幼稚園	年中	父親	私の幼児期と現在では、環境があまりにもちがいますと思う。 田舎と都会のちがひ。
N 幼稚園	年中	父親	自然環境(緑)が少なくなり生き物、虫等との触れ合いが乏しくなった。
N 幼稚園	年中	父親	私の子供の時は、野球、サッカー等ほとんど外で遊んでいたが、子供はテレビゲーム等をよくする。
N 幼稚園	年中	父親	・周りが自然ばかりで、公園などの遊具はなかった。
N 幼稚園	年中	父親	極力公園に連れていってやるので、家で閉じこもることの多い、今の子供とは違って、私の子供の頃とあまりかわりないように思っております。 これからも気をつけて、そのようにできればと考えております。
N 幼稚園	年中	父親	実家が山や川の近くにあり自然を肌身で学べたことを体験できてないこともあり、虫には拒否反応がある
N 幼稚園	年中	父親	今の子供はテレビゲームやパソコンゲームがあるのでたいへんうらやましいです。ぼくらの時代にはなかったからですね。
N 幼稚園	年中	父親	近所に子供がいない。
N 幼稚園	年中	父親	私の幼少期には、殆ど屋外で遊ぶことが多かったと思います。 今の時代は色々な品物が豊富で安価で手に入ることもあり、屋内で遊ぶ子供達が多く感じられます。
N 幼稚園	年中	父親	どうなのでしょう
N 幼稚園	年中	父親	私自身田舎で育った為、遊ぶ環境が全然違うので夜空でたくさん星を見たりとか、大自然の中で遊んだりとかという事がないと思います。
N 幼稚園	年中	父親	場所ががざられている。
N 幼稚園	年中	父親	身近な所に昆虫等が少なくなっている。又、子供だけで遊べる野原などが無い。
N 幼稚園	年中	母親	昔は、近所のおばさん、おじさん達におこられながら、いろんな事をまなんだが今の時代はそうゆうのがない・・・緑が少なく、ゲームなどがなかったから、外でばっかり、あそんでいたのに・・・今は、家の中ばっか(今の子)は。
N 幼稚園	年中	母親	今の子供達は、上にふれることが少なく、それをカバーしようとしても環境的に無理がある！！
N 幼稚園	年中	母親	子供の頃は、田舎で育ったため、今の環境とは全然ちがうので、自分の子には、同じような体験はさせられないです。
N 幼稚園	年中	母親	私たちの小さかった時は親がいなくても遊べたというか、遊ぶ場所がたくさんあった。今の子たちの遊ぶ場所といたら公園や学校などとがざられている。テレビゲームの大きなえいきょうがあると思います。 私たちの時はゲームなんかなかったし外で遊ぶことがなによりたのしみでした。だからいろいろな悪いこともしましたし、またいっぱいおこられたりした。今の子は大人に(親以外)おこられたりすることも少ないんじゃないかなあと思います。 公園に行くのにも親がついていかないとけない。
N 幼稚園	年中	母親	やはり子供は男の子なので、私が小さい頃していた遊びとは違う点が多いです。虫には大変興味があるのには、少し母親としては抵抗があります。

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

N 幼稚園	年中	母親	自由に遊べる場所が少ないなくなっている公園なども最近はあぶない気がする。
N 幼稚園	年中	母親	子供は泥遊びや素足など、手足が汚れる事を嫌う。
N 幼稚園	年中	母親	私の子供の頃は、外でもおもしろい遊びの環境でした。
N 幼稚園	年中	母親	昔はまわりに田んぼなどがたくさんあり、春になるとれんげ草などが身近にあったので、みつをすったりして遊べたし、近くの空き地や公園でも一人で行って友達と遊んでいた。
N 幼稚園	年中	母親	私は、田舎で育ったので、都会で育っている娘とは、環境も、生活スタイルもちがう。 環境でやるのがとても違うと思う。
N 幼稚園	年中	母親	生活環境や育った場所、遊び道具のちがいが
N 幼稚園	年中	母親	私が小さい時は、兄妹、友達だけで公園に遊びに行っていたのですが、今では子供だけで遊びに行かすのは、ちょっと怖い。もし子供だけで「行きたい」と言われても、行かせないと思う。
N 幼稚園	年中	母親	現在の住環境はマンションというだけで庭や道路で遊ぶ場所が限られてしまう。お花畑もなければ、山川もない。 広い空地もなく、子供は公園でしか遊べない。 私の小さい時と何が変わったのか、はっきりと言いきれないが、もっと自由でもっと安心感のある環境だったと思う。(犯罪も多いので子供だけで公園に行かせる事すら不安を感じる)
N 幼稚園	年中	母親	・今の環境で(自然が身近にない)自然体験をさせてやるのは難しく、そのような機会があれば積極的に参加させてあげたいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	私は学校の帰りに田んぼのあぜ道を通ったり草花をとりながら遊んだり、外に出るとどこでも遊べたが子どもは公園以外ではあぶなくて遊ばせることが出来ず、自然に触れる機会も少ないと思う。
N 幼稚園	年中	母親	事故や犯罪、きけん等のため、近所(公園)に、遊ばせられない・友達同士だけでも遊ばせられない・買い物(おつかい)を1人でさせられない。 出取り(せみ・バッタ)などが身近にいないため、見かけたら怖く感じられる
N 幼稚園	年中	母親	家のまわりに田んぼやあき地がなく、今では目の前の川の中やどぶに入るような光景は見えないし、自分の子供にも、田んぼや川であそぶような事は体験させられない事。
N 幼稚園	年中	母親	自然体験をしなくても、近所の人達と家の前でバーベキューやいろんなパーティーが家の前でできることが違うかな。
N 幼稚園	年中	母親	私は姉妹で育った為、自分の子供達(長男、二男)の行動に違いを感じることもある。 また、男の子なので多少大胆な行動や、汚れることでもしろかたないと思っている。
N 幼稚園	年中	母親	私は、近所の子供たち数人で年い関係なくよく外で遊んでいましたが、今は、子供の人数が少ないため、2、3人で遊んでいるすがたをよく見ます。たくさんいた方が、ケンカをしたり、遊んだりきっと楽しいだろうなあと思います。
N 幼稚園	年中	母親	自分の子供時代とまわりの環境が違う様に思います。 近所のお兄ちゃんお姉ちゃんはその子の面倒をみるというの今はなく家の近くで安全に遊んで虫とりなど出来る所も少ない様な気がします。
N 幼稚園	年中	母親	昔は空地が多くよく外で遊んだが、今はないので自然で遊ぶ機会が少ないと思います。 子供が可愛いあまり、こうしたら危ない、こうしたら風邪ひく・・・など先回りして子供にそういう体験をさせていないと思いました。
N 幼稚園	年中	母親	私は保育所に行っていたのでどろ遊びやばだしで歩いたりよくしました 今はあぶないからといってくつやサンダルをはいているしあまりどろ遊びもしないと思います。うちの子はどろ遊びは好きですけどね。
N 幼稚園	年中	母親	たしかに外であそぶことが少ないと思う。 外というより、自然であそぶことが少ない。
N 幼稚園	年中	母親	TVゲームがありふれてるので外で遊ぶことが減っている
N 幼稚園	年中	母親	時代と環境があまりにも違い過ぎて比較にならない。
N 幼稚園	年中	母親	自然が回りに(身近)にあるのとなのであそびが全然ちがう
N 幼稚園	年中	母親	昔は、どこにいてもたくさん子供(あそびなかま)がいたのに今はない。 あそび物がつがってきている。 虫とかがない。(自然)がない。
N 幼稚園	年中	母親	子供はほとんど自然の中でおもしろい遊びをしていないと思います。(草花がいっぱいの所がない。)
N 幼稚園	年中	母親	外遊びが少なくなった
N 幼稚園	年中	母親	昔はよく外で遊んでいた様な気がします。 今の子供は外での安全が悪くあまり、外では遊ばせづらいです。
N 幼稚園	年中	母親	私が子供の頃は、家の中で遊ぶことはほとんどなく、家に帰ると毎日のようにゴム跳びや、ボール遊び、かくれんぼ等外で遊んでいたように思います。 でも今はゲームが流行しすぎていたり、子供が犠牲になる事件が多すぎて、外で体を使って遊んでいる子供が少ないような気がします。
N 幼稚園	年中	母親	子供達だけで遊ぶ事が少ない。 外にある物を工夫して遊ぶ事が少ない。
N 幼稚園	年中	母親	草花のさいている場所、石投げできる場所、虫のいる場所が今は少なくなっている。素足で歩けば、ガラス片があたったり、木

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

			の实をみかけない。
N 幼稚園	年中	母親	私の実家に庭があり、近くの同年代の友達とよく泥だんごをつくったり、花を摘んだり虫をとったりしていましたが、子どもは、習い事も多く、時間があまりないということもありますが、外で何かをするという機会がすごく少ないです。
N 幼稚園	年中	母親	私は幼稚園ぐらいから友達同士で公園へ遊びに行っていました。子ども一人で行きたいと言っていますが、最近怖い事が多く。やはり一人では外に行かせるのはムリだと。子供同士で楽しい遊びが出来ないのはかわいそうだが危険な目に合わせたくないで仕方ないと思いますが残念です。
N 幼稚園	年中	母親	自分の嫌いな思いをしたことやこういしたことばさせていない
K 幼稚園	年長	?	今の親は服を汚すことを極端に嫌う
K 幼稚園	年長	祖母	自然にふれ一人遊び特に外遊びが少ない。時代の違いを感じる。
K 幼稚園	年長	父親	子供は女の子の為（まだ小さい）自然体験にも限界があると思う。色々な所へ連れて行くが、子供が興味をしめしたら、また連れて行く様になっている。私は子供のころ友人とザリガニをつかまえて食べたり、しじめをとってみそしるにしてみたり、カブトムシやクワガタをつかまえて都会のペットショップへ売りに行ったりしていた。子供を連れて山へアケビ、カキ、ツクシ、ノビル、カンゾウ、フキのトウ、タラの芽、キクラゲ取りに行った。川で泳がせたこともある。ウシガエルをつかまえてやると大よるこびで、だっこして遊んでいた。
K 幼稚園	年長	父親	ゲームの割合が自分の頃より増えているような気がする
K 幼稚園	年長	父親	体験自体には、あまり違いがあるとは思いませんが体験のための道具に違いがあると思います。虫かごがこわれた時、今はすぐ新しいのを買いたえてますが、私の子供の頃はなおしたり、作ったりしていました。
K 幼稚園	年長	父親	遊びの種類が少ない。
K 幼稚園	年長	父親	女の子なので、家の中にいるのが多い。（自分に比べて）
K 幼稚園	年長	父親	〔山、川〕へ遊びには、子供は行かせていないが、昔は、遊びといえば「山・川」でした。
K 幼稚園	年長	父親	私の子供の頃は「テレビゲーム」は普及されておらず外で遊んだ記憶しかありません。
K 幼稚園	年長	父親	親が、子供によく「何々は危険だから止めなさい。何々は、してはいけません。」と言っているのを見かけます。これは、親が、子供に過保護になっている場合と、本当に危ない、してはいけないと注意している場合が有ると思います。幼稚園、小学生にもなる子供には多少は、「危険だから止めておこう、何々は、してはいけない。」等の判断は、付くと思うので、もう少し子供たちを自由（子供の判断に任せる）にさせても良いと思います。（親としては、自由にさせるという事は逆に勇気がいらします。）その時、仮に「危ない目に遭った、してはいけない事だ」と自分で、体験した時、とても大切な、先輩や親からの助言と受け止め、尊敬する事につながると考えます。また、子供も一つ成長します。
K 幼稚園	年長	父親	・テレビゲームなどデジタル系の遊びではありませんでした。
K 幼稚園	年長	父親	自然にふれることが少なくなった。 昔やっていたことが今は危険ということあまり取り入れられていない。
K 幼稚園	年長	父親	今の子は自然にしたしむ事が全く無い
K 幼稚園	年長	父親	私が幼少の頃は、少し年の離れた兄貴分がいて、全てその兄貴分から学びました。我が子を見てると、同い年の友達か年下の弟分と連れ立って遊ぶことが多いらしくそういった意味で少し不安があります。
K 幼稚園	年長	父親	今の子供は、ハングリーな気持ちがないような気がします！
K 幼稚園	年長	父親	生活環境がまったく違う。私は田舎の農家生まれで、水道は無く山の水、風呂は「ゴEMON風呂」、といった感じで現在の子供達にはわからない事ばかり。小さい頃から、マッチはよく使っていた様に思う。風呂をわかしたり、いろいろところで。そういう意味では、火事になったりする重大な責任感、小さい頃から持っていた様に思う。いわゆる”いたみ”を知って大きくなっていたのですね。 今の子供達にも、教えていかなくては、と思います。
K 幼稚園	年長	父親	家内でのゲームタイム！ ゲームを禁止すると、友達が少なくなる。
K 幼稚園	年長	父親	子供の頃の、育った場所の違いから、自然体験（動物、魚等の生き物）及び、樹木等が子供の環境が（日々の）無い。毎日の自然とのふれあい。また、自ら学ぶものが、周囲には無く、人工的に作り出されたものと子供は遊んでいる様だ。
K 幼稚園	年長	父親	虫を嫌うが女の子なので問題とは思わない
K 幼稚園	年長	父親	自然の中で遊ぶ事が普通で有り、ザリガニやカエル、昆虫等も遊びの道具で有った。
K 幼稚園	年長	父親	川遊びや山遊びは、犯罪や危険が伴うので昔程できなくなっている。限られた場所での（公園等）遊びに限られている感じがする。
K 幼稚園	年長	父親	遊具が多い（種類）
K 幼稚園	年長	父親	小さい時には、テレビゲームやメール等がなかったが、今の子供たちは、電子技術を駆使した玩具が多い点とそれで遊び方も違ってきていると思います。
K 幼稚園	年長	父親	自分が子供の頃は、よく外で遊んでいたが、最近の子供達は、低学年から塾に行ったりして子供らしく生活が出来ていないと思う。小さい時ほどムダな遊びややりたいことを、させることが大切ではないかと思う。基礎的な勉強も大切だと思うが、それはもう少し大きくなってからでも良いのではないかな。
K 幼稚園	年長	父親	子供は住宅地の道路で遊んでいる。父は近くの山に入って遊んだりしていた。
K 幼稚園	年長	父親	広場が少ない、有ってもいろいろ規制があり、自由に遊べない。学校のグラウンドでも自由に使用する事ができない。

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

			習い事をしている子供が多い。子供同士が遊ぶ時間が合わない。習い事があたりまえになっている。
K 幼稚園	年長	父親	私の子供のころは広場（空地）がたくさんあってそこで遊んだものですが、最近は公園（人間が作った空間）や道の上でしか遊べないですね。 昔はドブ川やぬかるみの原っぱがあちこちにあってドロダラケで走り回ってましたが、子供はドロによごれるのが嫌なようです。
K 幼稚園	年長	父親	自分達の頃は家で遊ぶというのはいまなかった。団地住まいで目の前に大きな公園もあり同年代の子もたくさんいたので自然とそこに集まるという感じでした。 遊べる場所（スペース）の違いはかわいそうとも思います。 住んでいる地域が全然違うので比較はしにくいです。
K 幼稚園	年長	父親	自分で何か作ったり、他の物で欲しい物の代用にするなど、想像して遊ぶ事をしている姿をあまり見かけない。
K 幼稚園	年長	父親	場所、人等昔の人の考えと今の考えの違い、場所についても、おもちゃについても
K 幼稚園	年長	父親	空地がすくなくなったせいか、基地ごっこをする所がない。あと、友達が習い事している子供が多いから遊べる子が少ない
K 幼稚園	年長	父親	私達の幼児期は、自然の道具を使い遊ぶ事が多かったが、今の子供達は、おもちゃやテレビゲーム等、家の中で遊ぶ事が多いと感じます。
K 幼稚園	年長	父親	住環境が変わり、昔のように田舎暮らしを体験することがなくなったように思います。好奇心と体験とのバランスが崩れ、とんでもないコトをしないか心配に思います。危ないコト、悪いコトをしっかりと理解させてやりたいのですが・・・。
K 幼稚園	年長	父親	生活の中に自然が多かったように思われます。
K 幼稚園	年長	父親	環境の違い
K 幼稚園	年長	父親	まず生活環境が全く違う（農村部の一戸建てと都市近郊の集合住宅）ので、違いはあってしかるべしだと思います。時代も違うわけですし、ただ、可能な限り、自分の幼少期に体験し、意味があったと思えることは、少しでも体験させてやるよう心掛けています。虫や草花の名前やその特徴、つかまえ方、それを用いて遊び（竹トンボを作ってやったり、ドングリでコマを作ってやったり）を機会をとらえては実際に示してやりながら教えるようにしています。
K 幼稚園	年長	父親	おもちゃ遊び体験の頻度が違う（子どもの方が多い）
K 幼稚園	年長	父親	あまりにも、物があふれている。何でもそう。遊びについての想像力が欠乏している。いろいろな体験ができるが、子供には、少々刺激が多すぎ、親は子供に情報量をセーブする必要あり。
K 幼稚園	年長	父親	海に山にと遊べる場所が遠いような気がします。環境的に恵まれていない。
K 幼稚園	年長	父親	遊び等環境が今と昔では違うので、常に違いを感じる。
K 幼稚園	年長	父親	山、田んぼや川遊びで良く遊んだ様に思うが、今はそういう所も少なく、すぐに「危ない」ということになってしまいがちである。
K 幼稚園	年長	父親	危険な遊び（山や川）などで遊ぶのが少ない
K 幼稚園	年長	父親	昔は少し入れば、クワガタやカブト虫がいたが、今はその場所には高速道路が通っていたり、新興住宅街になっている。 全く草まみれの未知の奥深い場所ではまむしなどが心配で入れない。安心な普段から状況の把握できている安心な場所がない。
K 幼稚園	年長	父親	・テレビゲームなどデジタル系の遊びはありませんでした。
K 幼稚園	年長	父親	ゲームの立体感が違うと共に、ローラーシューズなど体験した事が無い遊具を目にする事がある。時代の流れで、便利さが内容が変わりつつ有る商品が売られ、うらやましく感じる事がある。
K 幼稚園	年長	父親	・我々の子供の頃は防犯の心配があまり無かった
K 幼稚園	年長	父親	母親が子供達のする事に対して口出しすぎていると思う。いい事、悪い事を自分で経験して学ぶ事が大事！
K 幼稚園	年長	父親	完全な自然の中で自由に遊ぶのが少ない。昔は子供だけで遊んでいたが今は、危険なので心配である。
K 幼稚園	年長	父親	今よりおもちゃがなく自分の手でつくることが多かった。 兄妹といっしょに外や森林の中で草花、木の実、木のぼりなどよくあそんだつくったものを大切に。草花や木の実の既成のおもちゃとちがっている工夫して作ることができいろいろな作品ができる。
K 幼稚園	年長	父親	私が子供の頃は、近所で世代を超えた遊びのグループがあり、そのお兄さんたちを通じて、様々な遊び体験ができましたが、今（子供の場合）はそうではありません。
K 幼稚園	年長	父親	最近、テレビゲームなどで家で遊びが多いのではと思う。また、家ではエアコンが有り汗も流さずに熱中していることが多い。やはり子供は外で元気に走りまわり汗をたくさん流すべきと思う。
K 幼稚園	年長	父親	家で遊ぶ物が増えた。
K 幼稚園	年長	父親	昔はかたつむりが家のまわりがたくさんいたが、今は少ないように思う。なめくじは多いのですが、周囲の環境が違うからでしょうか？
K 幼稚園	年長	母親	今の子供は公園に1人で行く事がしにくくなっている。昔は日曜なら朝から1人で公園に行ったり、夕方暗くなってから1人で家まで帰ったりしてたと思う。親に過保護になっているので仕方ないか・・・。
K 幼稚園	年長	母親	子どもだけで、公園で遊ばせるのは、今の時代怖い情報をたくさん聞くのできない。
K 幼稚園	年長	母親	私が子供の頃キャンプ等の野外活動を家族でした事がなかったが、今はしているので、子供はいろいろな経験をしていると思う。
K 幼稚園	年長	母親	昔は、外遊びが中心だったが、今はビデオ、おもちゃがたくさんある為、恵まれている。
K 幼稚園	年長	母親	山へよく遊びに行きましたが今の子供は整備された公園で遊んでいる。
K 幼稚園	年長	母親	田舎で育ったので、田畑をよく走り回ったりはだして、田んぼの中にはいろいろな虫をつかまえてり花火でも家の前で、よくやりましたが、地域のきまりなどでできないこともふえたり、虫でもよくこわがるので、やっぱり住んでる場所によって体験で

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

			きることも少ないなど感じました。
K 幼稚園	年長	母親	今の公園の砂場は、ビンなどのわれた物が落ちているため素足で遊べない。
K 幼稚園	年長	母親	昔は、屋外で身体を動かして遊ぶのが楽しかったですが、今は、屋外の遊びよりもテレビゲーム等の遊びが楽しく感じるようです。(昔は、ありませんでした)
K 幼稚園	年長	母親	私達の頃は危険な遊びもよくしていたが今の子達には全くさせない様にしている様に思う。
K 幼稚園	年長	母親	別に違いはありません。 カニやセミをとって飼育して楽しんでいます。
K 幼稚園	年長	母親	私の小さい頃は、家から少し離れた公園でも親がいなくても遊んでいましたし、もっと草や木、花 etc...自然のもので遊んでいました。 今の子供は、(最近、子供をとりまく、事件が多いせい)親の目の届く範囲でしか遊べない様な気がします。そして、必ずと言っていい程、家から持って来たおもちゃ(特に男の子は、〇〇レンジャーの剣、キャラクターカード etc...) によって遊んでいる様な気がします。
K 幼稚園	年長	母親	子供の時は、一緒になって私の母と遊ばなかった。 今は、子供と色々な事をして遊んでいる。
K 幼稚園	年長	母親	子供が男の子なので多少ちがいはあると思いますが、大きなちがいは私がテレビゲームやゲームボーイなどのゲームをしなかった事でしょうか。外で友達とままごと、おにごっこ、かくれんぼ、人形あそびなんかよくやりました。
K 幼稚園	年長	母親	日々の遊びは、子供は造られた遊び場で遊ぶ事が多いと思う。 私は、自然のまま山で遊んでいた。(斜面をすべったり、秘密基地をつくったり...)
K 幼稚園	年長	母親	学年をこえ、近所の子供が集まって遊んでいたが、現代では、あまりみかけないし、自分の子供も体験した事がない。
K 幼稚園	年長	母親	私の小さい頃はいろいろな年令の子どもが多勢集まって、ひとつの遊び(おにごっこ、ドッチボール等)をしていた。年下の子どもは独自のルールを作って判定を甘くしたりしていた。今は同じ年令の子どもとしか遊んでいない。
K 幼稚園	年長	母親	色々な草や木の花びらを取ったりできない。
K 幼稚園	年長	母親	この辺りは結構自然に恵まれていて虫取り、ザリガニ取り、野球、サッカーも出来る場所があり子供達にとって楽しい場所みたいです。私達が子供の頃体験してきた程の川や森はないけどゲーム等に熱中もせず、毎日泥団子作ったりして子供達は今の時代の楽しさを満喫しているようです。
K 幼稚園	年長	母親	小さい頃からキャンプに連れて行き、自分達の小さい頃より、親子で一緒に遊ぶ時間を多く作っている。(親子でトランプなどのゲームをする)
K 幼稚園	年長	母親	・私は、両親が共働きであった。 ・自分の事は小さな時から自分でやった。 (靴洗い、川で洗たく等) ・公園などなく、田んぼ、畑、山、川で子供だけで遊んだ。 ・年の違う近所の男の子、女の子が仲よく遊んだ。
K 幼稚園	年長	母親	私が小さいころは、川遊びによくつれて行ってもらいかにや、おたまじゃくしなどをよくとったが、今は、行く機会がない。 春はつくしをとったり夏は、せみとりしたりしたが今はしない。
K 幼稚園	年長	母親	小さい時には山の中に入ってグループでハイキング等体をよく動かし、自然を近くに感じていたが子供には身近な公園で遊ばせる事が多い。
K 幼稚園	年長	母親	今のようテレビゲームなどがなく、自然の中で自然の物を使って遊んでいました。私が育った環境は山にかこまれた田舎で田畑で家の手伝いをするのも遊びの1つでした。もちろん、今の子供と同じように家の中でゲーム(市販のもの)をしたりごっこ遊びもしていましたが...家族が皆仕事をしているので近所の子供(年令はバラバラ)だけでのびのびと遊んでいました。親の育った環境によって、自然の中で遊ぶことを知らない人が増えているので、子供も遊ばなくて当たり前だと思います。
K 幼稚園	年長	母親	自分が子供のときの様な体験は環境の変化などで同じことを子供にさせるには無理なこともある
K 幼稚園	年長	母親	私(母)は両親が昼間に働いていたので、現在の我が子と同じ様な体験をしていたとは考えにくい。時代も育ってきた環境も違うし...。 私の母も忙しい人だったので、休日でも自然を体験する様なところにつれていってもらった記憶もほとんどない。 私と子供が同じ様な自然を感じる体験をすることはあり得ない様に思うし。別にそれでもいいのではないと思う。個人は個人だと思う。
K 幼稚園	年長	母親	昔の様に、子供だけで遊ぶところも、年上の子等異年齢の子供とたくさんで屋外で遊ぶこともあまりないのでかわいそうだなと思います。昔は、子供だけで、いろいろな遊びをし、自然も多かったので、草花で遊んだり、探検したり、年上の子から学ぶ事は、多かったと思います。 自分が経験して面白かった事は、子供にもさせたいと思っています。
K 幼稚園	年長	母親	私は、とにかく自然の中で友達と遊んでいました。 息子は、私が連れて行ってあげる機会がないので(同居なので自由にできない)なかなか、自然に触れる事ができない。 4年前に、大阪寝屋川から北区鹿の子台に引越し、自然がいっぱいの環境で生活できるだけすくいな?
K 幼稚園	年長	母親	マンション住まいの為、子供達の遊びに規制がありすぎる。

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

K 幼稚園	年長	母親	私たちの小さい頃、とくに私は山口で育ったので、もっと身の回りに生活がたくさんあった。友人の家にいくと、トイレがため式だったり、簡易水道の地区があったり、海辺に魚がたくさん干してあったり、虫や小動物ももっとたくさんいたし。道路も舗装されていないところもあったし、海は自然の埋め立てのしていない海岸だったし。今は住んでいる所が田舎でも住宅地は整備されていて、自然との接点がない。
K 幼稚園	年長	母親	遊び場が少なくなっている上、小さな頃からゲームなどがあえられて外で遊んでいる子供が少なくなっている。
K 幼稚園	年長	母親	自然にふれ合う機会が少ないかも、しれません。
K 幼稚園	年長	母親	山道を歩いたり、川で遊んだりと周りに自然が減った為、その様な場面を見かけなくなりました。
K 幼稚園	年長	母親	私の小さい頃は、親が子供の遊びに口を出してきた記憶はありませんが、今の子供には周りの子供への影響を考えてか口を出す親が多いようです。
K 幼稚園	年長	母親	近所でもっと同年代、他世代の子どもたちと遊べたらいいのと思う。 つい同じメンバーで遊んでいるようにおもう。
K 幼稚園	年長	母親	今は、あれがダメ、これがダメと言う親が多いですが、私達の時代は無かったように思う。痛い経験があったからこそ、キケン予知もできる。言われないと出さない子になる事が多いのでは。
K 幼稚園	年長	母親	私達の時代は、自然と親しんだという事を誰かに教わる事もなく、友達と海や山へ行っていました。今の子供達は、時代背景もあり、大人と一緒にでないと危険な事も多く、必然的に、自分で学ぶ機会が減っていると思う。
K 幼稚園	年長	母親	・昔は、落ち葉を集めてたき火をして焼芋を食べたりしていたが今は、そういう場所がないのが残念 ・友達どうしてドブに入って探検したりしたが今は、そういう事をしていない様です。
K 幼稚園	年長	母親	私より土遊びを良くしている
K 幼稚園	年長	母親	いつも近所のおばちゃん達（大人・誰か）が子供の遊ぶ場所にいたように思います。 子供の年齢にとわず大きい子供から小さな子供一緒に遊んでいたように思います。
K 幼稚園	年長	母親	バッタを取ったりすることは、日常できているけども水の中の生き物とふれあう機会は、少ないと思います。 家の近くに小川がない為ですが・・・。
K 幼稚園	年長	母親	自分が子供のころは、外でよくあそんでいました。子供もよく外で汗をかきながらあそんでいるのですが家の中であそぶ事も多く（ゲームなど）自分たちの子供のことよりかはお金がかかるかなあーと言う感じです。
K 幼稚園	年長	母親	1人で遊びに行ける範囲に、自然がたくさんあった。（田んぼやため池等）
K 幼稚園	年長	母親	家の周りの環境により、体験出来るものに限りがあると思います。 川遊びなども、わざわざ出掛けて行かなくてはならないし、そうすると、時間などの都合によりなかなか出来ない。
K 幼稚園	年長	母親	私自身は小学校低学年位の頃、近所にとても自然が多く、夕方暗くなる迄自然とふれあって過ごした良い思い出がありますが、今の近所には自然はあまり無いので遊びの制限が随分と多いと思います。
K 幼稚園	年長	母親	自分が子供の頃住んでいたのは団地→一戸建（いなかの土地） 子供はマンション→一戸建てで環境による違いがでるのは当然。マッチはほとんど使わずチャッカマンが多い。
K 幼稚園	年長	母親	私が幼児期の頃は、田や畑が家の近くにたくさんあり、上級生に遊んでもらうこともよくありましたが、今の子供は、同じ年のお友達をテレビゲームをして、遊んでいる事が多いように思います。 公園での遊びも、一部のお友達と、どろんこ遊びや水遊びをしています。
K 幼稚園	年長	母親	私達の時代は地面が土のままの所があり、泥だんごあそびや雑草を使って遊んだりしましたが、今はアスファルトが多くわざわざ自然体験をするためにどこか行かなければならなくなっていると思います。昔は身近にあったことが今はちょっとしたイベントのような感じになっていると思います。
K 幼稚園	年長	母親	家のまわりにも自然がたくさんあり、家に帰ると外で元気に走り回って遊び草や虫たちを取ったりよくした。今の子供達はあまり身近に自然にふれることが少ないと思う。
K 幼稚園	年長	母親	小さい頃自分のしていた事を子供がしようとしていたがつい止めてしまった。危ないからと先にとめてしまう事が多い
K 幼稚園	年長	母親	昔は、屋外で身体を動かして遊ぶのが楽しかったですが、今は屋外の遊びよりテレビゲーム等の遊びが楽しく感じるようです。（昔はありませんでした）
K 幼稚園	年長	母親	たくさん遊べる友達がいるのに、思い切り遊べる安全な場所が少ないため友達宅や庭にたくさん子供がおしかけたりして、親同士も気を使う事が多い。 公園も今や安全な場所ではなくいちいち親がつきそわなければならないのでわずらわしい。兄弟の行事や習い事に（立地条件上）車で移動せざるを得ず、用事のない子もそれにつきあわされて、思うように遊ぶ時間がとれなくなる事も多い。
K 幼稚園	年長	母親	昔は1人で気軽に外へ出れたと思う（安心して）
K 幼稚園	年長	母親	日頃から、自分の子どもの頃と、今の子どものあそび方のちがいは気が付いていますが、どうしても一番と今の子どもをとりまく環境のちがいが心配で、日の行きとどかない所では、あそばせにくいです。それが、いい事か悪い事か・・・という事も日々考えてはいるのですが・・・
K 幼稚園	年長	母親	私は都会育ちでしたが、庭があったので、虫に出会う機会は多くありましたが、公園などは少なく、友だちと遊ぶよりも兄弟どうして遊ぶ事が多かったです。 私の子どもはすぐ近くに公園があり、毎日のように友達と約束をしてくるので、屋内、屋外を問わず、良く遊んでいます。また近隣の農家とふれあう機会があるので、私よりも多く、上にふれる機会があります。

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

K 幼稚園	年長	母親	1項目のマッチに~よりいくつもの項目において自然と家の手伝いをする上で経験する事が多かったように思う。具体的には、マッチはお風呂は、小学生高学年まで、マキでわかしていたからだ。虫の採集や石あつめ等も、特別な場所へ行く事なく(家で)体験できた。今は、身近な場所での体験がむつかしい様に思う
K 幼稚園	年長	母親	私自身は、毎日、暗くなるまで外で遊んでいましたが、今は、子供1人で外で遊びさせるのは心配(犯罪が増えているため)で、室内で遊ばせることが多いです。
K 幼稚園	年長	母親	Q7にかいたことがQ9の内容ににっています。今は公園がゲームで遊ぶことが多く自然にふれることが少なくなったりごっこ遊びやおにごっこがめつきりすくなくなりました。子供の人数がいるのに遊ばなくなりました。
K 幼稚園	年長	母親	現在比較的自然の多い場所に住んでいるのであまり違いは感じませんが、近所に迷惑をかけないという観点から、行動に制約は多いと思います。
K 幼稚園	年長	母親	アンケートに○印を入れると、改めて、昔と今の普通の生活が変わってきている事に気がついておどろきました。ある程度、安全で自然に遊べる場所が減ってきているように思う。私は田舎暮らしをしていたのを、今思えばよかったのだと思う。家の前が土の道だったり、浅い川が流れていたり、虫がたくさんいたのを思い出します。そういう、昔のような体験を全くさせていないことに気がつきました。危険が多すぎるのだと思います。
K 幼稚園	年長	母親	今、住んでいる所は、自然が多く、虫もたくさんいます。私が子どものころは、もう少し、都会に住んでいたもので、今の私の子どものように、自然に接する機会は多くありませんでした。
K 幼稚園	年長	母親	私が、子供の頃は近所で蛙やざりがにを捕まえたり、自宅の庭を耕し野菜を作り収穫するのが楽しみだったりと身近に自然に触れる機会がたくさんありました。 今は団地住まいなので私ができる自然と触れ合いながらの生活はあまりされてやれていません・・・速くはわざわざ芋掘りにでかけたり、落ち葉を集めて画用紙に貼り付けて絵にしたり・・・今年の夏はキャンプに参加したいと思っています!
K 幼稚園	年長	母親	虫取りを全くしない(娘は大嫌いなため)
K 幼稚園	年長	母親	子供のころ木登りをよくしたが、子供の登れる木がまわりにない。 夏(秋?)の草刈りのあと、よく焚き火をしていたが、今はしない。
K 幼稚園	年長	母親	今は人工的な自然体験場所はあるが、本当の自然は少なくなっているため、安全ではあるが、生きる力としては劣っていくのではないと思う。田や畑、山といった田園風景はないし、木登りすることもできない現在では、何もかも違う。子供の好奇心は同じなのに・・・。
N 幼稚園	年長	父親	自分の時より、自由に遊んでいる時間が少なくなったと思う
N 幼稚園	年長	父親	子供1人だけで外であそぶには少し不安世の中だ。
N 幼稚園	年長	父親	虫取り、川遊びなどを行なうことは無くなったと感じます。
N 幼稚園	年長	父親	今の子供はいなや自然を直接感じるチャンスがなくなってかわいそうな所がある。
N 幼稚園	年長	父親	自然のない都には意味がない!!
N 幼稚園	年長	父親	あそんではいけない区域が多すぎる。
N 幼稚園	年長	父親	古き社会と自然の生活から子供は車の移動、自然、外食と変わって来ており私達の体験した事をさせてやりたい時は、いつもいっしょにやってあげて教えていますが便利さが勝つようです。
N 幼稚園	年長	父親	川遊びや虫取りがやりにくくなり、TVゲームやビデオなど外で遊ぶことが少なくなり自然とのふれ合う機会がだんだん少なくなっています。 昔は近所の子供たちが集まって野球したり、学年関係なしに遊んでいたような。
N 幼稚園	年長	父親	・草花を育てる、生物を育てる。青い空・白い雲・緑への感動が少ない。(自然への感覚) ・他人のために泣いたこと。
N 幼稚園	年長	父親	友達と寝食を共にした幼児キャンプ(あの時のカレーライスは忘れられない)
N 幼稚園	年長	父親	基本的に今の子と遊び方が違う
N 幼稚園	年長	父親	外に出て遊ぶことがすくなくなった。
N 幼稚園	年長	父親	・外で遊ぶ時間が少ないと思いますが、私の時間とは違い子供に対する犯罪が多発している為保護者が付いていないと不安なので時間が取りにくいです。
N 幼稚園	年長	父親	私自身、もう少し田舎で育った為、すぐ近くに小川、山などの自然がもっと身近にあった。
N 幼稚園	年長	父親	田舎育ちなので、都会の子と遊びが違う。
N 幼稚園	年長	父親	今の子供は遊び方をあまりよく知らないのと、よい遊びにしても、悪い遊びにしても、昔は親や年上の子供達がいろいろとおもしろい遊びを教えてもらったものだが今は、教えてくれる人がいないと思う。かわいそうな事だと思うのですが。
N 幼稚園	年長	父親	子供の数が少なく、外での遊びが少ない。
N 幼稚園	年長	父親	子供のまわりには物がありすぎて物を大事にする気持ちがたりない。
N 幼稚園	年長	父親	自然の中で育った自分とは、環境が相当異なっています。
N 幼稚園	年長	父親	最近昔と比べて、衛生的に優れているので、子供達の免疫力が低下している様に思います。難しいことですが、もっと積極的に自然体験をし、色々な事を自分で考え、身体的にも精神的にも成長して欲しいものです。
N 幼稚園	年長	父親	私達の時は、自然が町中にも十分あったし、交通、火事しても、現場を見たりして、そこから何を注意しなければいけないのかQ6の内容の事も色々したが、そこから何を学ぶか、また度そこでした時に大人達が注意してくれた。
N 幼稚園	年長	父親	まわりに自然がすくない

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

N 幼稚園	年長	父親	大差は無いと思います。
N 幼稚園	年長	父親	当時は田畑が家のまわりにありましたが現在の住居のまわりがほとんど住宅になっている。
N 幼稚園	年長	父親	自然とふれ合う事がない
N 幼稚園	年長	母親	・今は豊になりすぎて、子供自身考えることがない。 昔みたいになんでも考えて遊ぶ時代ではない。思いつきなどで考えて遊んでと言う事をしない。家の中だと、ゲームなどがあるし～根性も体力もないと思います。 ・他人の事を考えない子供がふえすぎている。
N 幼稚園	年長	母親	私の幼児期に比べると、自然の中で遊ぶということもわざわざしない機会が与えることができにくいように思います。
N 幼稚園	年長	母親	今の子供達は、親と一緒に公園へ出かけて行き遊ぶというのが主となっているが、私が子供の頃は、わざわざ公園へ出かけるという事は少なく、近所の田んぼでかけ回ったり、草花で遊んだり虫とりをして遊ぶというのが主でした。
N 幼稚園	年長	母親	子供を事故にあわせて以来、過保護とわかりながらも視界から子供の姿が見えなくなる事を恐れ、少しでも子供から危険を遠ざけようとする余り、様々な「体験」をさせる事ためらいを感じます。
N 幼稚園	年長	母親	私の時代の時は、自然が沢山あったけど今の時代の子供は、外で自然を覚えてくることが少ない。 だから毎年、6月にホテルを見に連れて行って一緒に虫、カエル、花を見たりして楽しむ。
N 幼稚園	年長	母親	外での遊び場が昔にくらべて少なくなっている。 生物をあまり目にしない。
N 幼稚園	年長	母親	自分が子供の頃は外で虫や草花で遊んだり、～ごっことかする事が多かったが、今の子供は家の中で遊びたがる（おもちゃやゲーム）又、作ったり、書いたりする遊びが少なく、できあがっている物（型形、もけい）をつかう事が多い。
N 幼稚園	年長	母親	子供だけで外に出す事ができない世の中になっているので、大人といっしょじゃないと外出できないので、子供だけの行動ができない。
N 幼稚園	年長	母親	自分が小さい時は近くに畑があったり、川が流れてたりしたので、自然とふれあうことが多かったが、今はみじかにこういう所がないので、遊ぶことがきまってくるような気がします。
N 幼稚園	年長	母親	私に比べると少し過保護かな？看護婦だった母と出張の多かった父との生活で、夜中でも急看があると眠い目をこすりながらよく病院まで歩いて行ったのを覚えています。もし私が今、母の立場なら、はたして寝ている子を起こし、仕事場まで連れていくことできるかと思うと考えてしまいます。また私達の時代と違い、近所の年上の人が年下の子の面倒を見るということが少なくなったため、いいことも悪いことも教えてもらえない子供が増えているような気がします。
N 幼稚園	年長	母親	私は、小さい時には虫とりをした事はありませんでしたが、子供は虫が好きなので家でカブトムシのせわをしました。
N 幼稚園	年長	母親	約束をしないと遊べない。遊んでいる中に入れない。 夏冬は家で遊ぼうとする。子供のおもちゃのやりとりについて親が口を出してしまう。私の時代はいろいろな事に、自由に遊んでいました。
N 幼稚園	年長	母親	子供にはついつい手を出してしまい。体験させていないことが多々あります。
N 幼稚園	年長	母親	私が子供の頃は、自分の家の鍵を持っていて、親が留守でも家に入れたが、子供には持たしていない。
N 幼稚園	年長	母親	子供達だけで遊べる場所が少なくなってる。車も多いし、不安がある。
N 幼稚園	年長	母親	私の方が子供より自然体験が少ない。 自宅の庭でガーデニングをしているため、一緒に土をさわったり、花や野菜を育てたり、虫で遊んだりしている。
N 幼稚園	年長	母親	自分達の子供の頃は自然が多く、自然の中で遊ぶのが日課のようなものだった。今の子供達は制限が多く、かわいそうに思う。
N 幼稚園	年長	母親	あまり大きな違いはないように思います。ただ今の住まいがマンションなので、家を出てすぐに土に触れる事ができないのが、かわいそうに思います。上じりは好きなようです。私も好きでした。
N 幼稚園	年長	母親	今は公園に行くのにも遠く、子供だけで行かすのが、不安！ 昔は近くに広場みたいな所や学校の校庭で遊べたので、楽しく友達と遊べた。アスファルトは少なく土が多かったので、ドロ遊び、地面に絵を書く、その他色々遊べた。 今は近くに、同じ年頃の子供が少ない。
N 幼稚園	年長	母親	社会の違い、現代はキケンな事が多すぎる。 その度幼児期の屋外遊びは、子供達だけでは不安です。早く帰宅させる。私達の時代は遅くまで遊んでいたように見えます。
N 幼稚園	年長	母親	体験したい気持ちはいっぱいだけど、私達の子供の頃は自然あいてに遊ぶのはあたり前で自分達で山や川で遊ぶ時は責任を持ってやっていた気がするし、上の子（上級生）が下の子供達をよくまとめてくれて安心して遊べた気がする。 我が子や今の子供達は自然も制限されているし、上の子は下の子をけむたがって、いじめたり、目をむける対照がちがってたり（いたずら目的）など、子供達だけで安全に安心して遊ばせる事ができないし、子供心が育たない気がする。
N 幼稚園	年長	母親	テレビや幼児用の教材（ベネッセや学研など）により、子どもは、自然についての知識は豊富です。が、実際に、見たりふれたりした事は、ほんの少しだと思います。私の頃は、知識としては、少なかったかもしれませんが、自分で体験して、自分で感じた本物を持っていたように思います。
N 幼稚園	年長	母親	今のように犯罪におびえることもなく近くの子供達は集まって外で遊んでいたのですが、今は何かと心配することも多く何でも一人できせるのが親自身臆病になってしまっているのも原因の一つだと思います。
N 幼稚園	年長	母親	近所に有る自然がどんどん少なくなっている為自分が体験できた事が子供には体験できない。
N 幼稚園	年長	母親	テレビゲーム

Q3. お母さま・お父様のされたご体験とお子様のしている体験の違いについて何かありましたら、ご記入ください。

N 幼稚園	年長	母親	私の小さい頃は地区の子供会などがあって、親といっしょにいろんな所に遊びにいった思い出があります。この辺には地区の子供会もなく少しさみしいです。(南七松町)子供会を作ってほしいです。
N 幼稚園	年長	母親	自分が子供の頃は遊びひとつとっても、身の回りにある物で済ませていたものですが、今の時代は物が整いすぎているような気がします。かえて、頭でっかちにばかりになって、体の方が退化しそうな不安があります。
N 幼稚園	年長	母親	私の子供の頃は、近くに空き地があり草花虫など豊富で駆け回っていました。夏休みの出品はクラスで何人も昆虫採集でした。今は虫といえばあまり良いイメージではなくなり、故郷で土、山、川、虫、鳥、草、花、湧き水、田んぼ、畑、木、木の実たくさんを経験させたのは随分前です。都会ではムリなので、小学校で遠足(遊び・体験)で、山の方に連れていってくれたらと思う。
N 幼稚園	年長	母親	昔は、がまんがあったり、近くに何もなかったけど今では、近くに大手スーパーやゲームセンター大きな公園があり子供が親に「連れて行ってくれてありがとう」という気持ちや言葉が失われています。 何でも好きな物がすぐ近くにある事です。
N 幼稚園	年長	母親	農家で育ったので土とか草花はよく遊びました。 まわりに公園とかなかったの、田んぼの中を走りまわっていました。
N 幼稚園	年長	母親	家の前の畑で花をつんで首かざりを作ったり、畑と畑の間のみぞでざりがにやおたまじゃくしをつかまえたりする事ができない。 私の時にはテレビゲームをした事がない。
N 幼稚園	年長	母親	私達の小さい頃は近くに空き地がたくさんあって、そこで基地を作って遊んだり、粘土山で粘土を取ってママごとしたり、“たにし”を取ったりと自分で創造して遊んだ楽しい思い出があります。 最近、空き地もなく、子供達だけで遊ばせるには、心配な事がたくさん有って友だちも近所にいなくてという風に遊びの体験がすごく少なくなっています。
N 幼稚園	年長	母親	自分達の頃は、子供達だけで色々な事をする事が許されたし、許されるかんきょうだったけど、今はぶっそんな事件とか多いので、保護者付きでないと、不安が多い事もあり、付いていける時間をとるにも、なかなか余裕がなかったりと、行動が、せばまっていると思う。
N 幼稚園	年長	母親	私達の子供のころにくらべると入れる田畑がへった。昔は田畑に入ったりして虫など草花をとったり自然のものにふれる事が今以上に出来た。
N 幼稚園	年長	母親	住まい環境の違い 子供の方が自然体験が低いです。
N 幼稚園	年長	母親	木に登った事がない。木などでできたアスレチックの様なものが今は少ないと思う。
N 幼稚園	年長	母親	ほとんど同じである事におどろきました。私の出身が、とても田舎なので、自然が多く残っています。山へ行ったり、川へ魚とりに行ったり、雪で遊んだり、小さい頃から普通にさせてきました。 日の出は残念ながら、まだ見せていません。思いつきませんでした。男の子なので、小さいうちに、多く関わってあげたいと思っています。そのうち、お父さんじゃないと、手におえなくなりそうなので。

Q4. その他にお子様にも自然体験をさせられない理由がありましたら、ご記入ください。

K 幼稚園	年少	父親	自然体験しています。 あなたはしたことありますか？子供と遊んでいますか？
K 幼稚園	年少	父親	自然が無いから。(人工のものはあるが)
K 幼稚園	年少	父親	良い年頃になってきたので、これからは自然体験の機会を多く作ってあげたいと思う。
K 幼稚園	年少	父親	家族でキャンプやバーベキューなどしたいのだが、下に？人兄弟がいるので、まだ小さいうちはできそうにないから。 なかなか仕事の都合で休日がないため。
K 幼稚園	年少	父親	自然体験をする情報をどこで入手出来るかわからない。 水等が以前と比べて汚ない(汚染されている)と思うので、少し悪い。
K 幼稚園	年少	父親	まだ下に小さいこども(2才)がいるため。
K 幼稚園	年少	父親	自然体験は大いに歓迎！私自身、幼少の頃より、親に連れられキャンプ、山登り、虫取り、川遊び等々・・・自然を通しての人間形成が出来るものだとつくづく思います。これからも、毎年うちの恒例のキャンプ及び自然体験は続いていく次第です。
K 幼稚園	年少	母親	自然体験はいろいろとさせての方だと思います。 しいて言えば小さい妹がいるのでいつもいつもとはいきませんが・・・。
K 幼稚園	年少	母親	下の子が幼ない為(0歳)、下の子に手が掛かるから。 私自身が虫等が苦手な為。
K 幼稚園	年少	母親	虫(特に、ハチ)を見ると、逃げてその道を通らない。
K 幼稚園	年少	母親	現況お産間近のため遠出できない
K 幼稚園	年少	母親	下に？才兄と0歳児がいるので、行動に制限があるため。また、自然体験をさせようと思っても、協力者がなかなかいないため。
K 幼稚園	年少	母親	この地域へ引越してきてまだ1年あまりなので情報不足という理由。
K 幼稚園	年少	母親	・姉の習い事に振り回されている。 ・子供達だけで外へ出せない(近所のみ、OK.)
K 幼稚園	年少	母親	どういふふううに体験させてあげたらいいのか、わからない
K 幼稚園	年少	母親	夏はキャンプやいろいろな自然体験を毎年していますのでうちの所は親子共、自然体験をすすんで(好んで)しています。
N 幼稚園	年少	父親	特にない、できるだけ多く、自然にふれさせたい。
N 幼稚園	年少	父親	普段から、魚釣り、虫取り等、笹の葉で船を作ったりさせているので、この質問には問題ないと思います。
N 幼稚園	年少	父親	環境汚染が進み自然が破壊されているため
N 幼稚園	年少	母親	時期的に昼間は暑い
N 幼稚園	年少	母親	公共の場が、少し危険になってきているように思う。公園にいても、ゴミはたくさん落ちていて・・・。
N 幼稚園	年少	母親	うちはなるべく外で遊んで欲しいと思っているので、昨今の乏しい自然の中でも、虫を捕ったり、魚釣りをしたりなるべく自然に親しむようにしています。
N 幼稚園	年少	母親	園生活になれていないのが降園後には眠ってしまう為、外遊びの時間がなかなかとれない。その為、週末には、別荘の庭や畑での自然体験をするように、心がけている。
N 幼稚園	年少	母親	・両親ともに共働き(パートでなく正社員として)
N 幼稚園	年少	母親	ヒフが弱くすぐかぶれだす 走り回るとぜんそくが出る
K 幼稚園	年中	父親	特に無し。どんどんさせます。
K 幼稚園	年中	父親	環境が身近にない
K 幼稚園	年中	父親	自分の知識が無い事とありますが自分の行動力が無いのも理由だと思います。
K 幼稚園	年中	父親	世の中が物騒になってしまった。
K 幼稚園	年中	父親	私達の時代、年上の友達より、教えてもらいながら、様々な遊びを覚えたが、そのような環境にない。
K 幼稚園	年中	父親	子供達だけで遊ぶことに近所の保護者が注意する。反面、事件などに巻き込まれる不安もある。昔は、通園するのに親等の保護者はいませんでした。現在はあたりまえになっている点からして、子自ら自然体験する機会が減っていると思う。
K 幼稚園	年中	父親	仕事の都合で時間がとれないのがあり、少しでもあったら努力したいです。
K 幼稚園	年中	父親	子供が自分で行ける範囲に自然が少ない。
K 幼稚園	年中	父親	Q8の質問は子供に自然体験をさせていないと決めてつけているのか？ 自然体験の範囲はどこまで考えるのか？都市圏ならいざしらず、近くに緑の多い公園や山があるのだが・・・。
K 幼稚園	年中	父親	海(外海)が遠いため
K 幼稚園	年中	父親	上記のように子供どうしでは、なかなかいかせることができない。
K 幼稚園	年中	父親	お答え致しかねます。 理由①「自然体験」の定義があいまい過ぎます。人工的に作らせる「自然体験」施設もそうなのではないでしょうか？住宅街の片隅みに垣間見る「自然」はあてはまらないのでしょうか？ 理由②このようなあいまいな「自然体験」を、あたかも「させられない」という前提のアンケートには答えに困ります。
K 幼稚園	年中	父親	ここで言われている自然体験とは何でしょうか？

Q4. その他にお子様にも自然体験をさせられない理由がありましたら、ご記入ください。

			この設問では、キャンプ場などを自然としてとらえ、日常に存る。自然な環境を意識していない様に感じます。
K 幼稚園	年中	父親	家のまわりには、自然がたくさんあり、普段の生活で十分体験出来ていると思う。Q8 は、体験させていないということを前提にした質問で、とても失礼だと思う。
K 幼稚園	年中	母親	下の子に手がかかる。
K 幼稚園	年中	母親	※自然体験とは具体的にどういう事を指すのか、質問の意味がわかりません。
K 幼稚園	年中	母親	主人が平日にしか休みがなく、週末にゆっくり出掛けられない。 近場で、出掛けるが、昔とはやはり違う気がします。
K 幼稚園	年中	母親	下の子(9ヶ月)が、まだ小さいため、決まった時間になると寝てしまったり、まだ、手がかかるため。
K 幼稚園	年中	母親	保護者(希望者)が自由参加できるような機会を設けてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	両親ともに仕事をしている為、なかなか時間をとってゆっくりとそういった体験をさせてあげることができない。
K 幼稚園	年中	母親	私たちは、なるべく多くの体験をするようにしています。
K 幼稚園	年中	母親	女の子なので、まだ”危険”という主人の考えが強い。 あと、安心してまかせる団体、場所がない。
K 幼稚園	年中	母親	最近、少年による犯罪が多すぎて、子供達だけで戸外で遊ぶという事がさせにくくなっていると思います。いつも親と一緒に出かける事も難しく昔より少なくなっているのかも知れません。
K 幼稚園	年中	母親	私が田舎育ちだからそう思うのかもしれませんが、山や海等につれて行かないと、自然を感じられないというのがおかしいと思います。動・植物は、身近にたくさんありますし、上いじりもできます。登山や、キャンプは、家の庭ではムリですけど・・・。 私たちのまわりにも自然はありますよ。
K 幼稚園	年中	母親	自然体験は「させる」「させない」という感覚がはっきりいってありませんでした。私が幼い頃は遊びの中で自然に体験しているものでした。 今のように公園で遊ぶということより草むらや海岸などでのびのび遊んでいたのが、環境に大きな違いはありますが。
K 幼稚園	年中	母親	主人の仕事が土日もあるため
K 幼稚園	年中	母親	両親共に、都会育ちな為自然体験をあまりした事がない。
K 幼稚園	年中	母親	家の周りに自然がたくさんあるため、充分体験している。
N 幼稚園	年中	?	わからないことがあれば辞書や百科辞典などで調べたものだが、子供はインターネットで調べると言う。
N 幼稚園	年中	父親	仕事及び時間におわれて、なかなか体験させられませんが親として最大限体験させられるようにしたいと考えております。
N 幼稚園	年中	父親	私達の夏休みなら外で汗をかきながら、何時間でも虫をつかまえるのに無中になつたりしていたけど、近年では、紫外線の問題なども気がかりになり、長時間外遊びをするのは控えさせたい。
N 幼稚園	年中	父親	・近くに自然が少なくなっているのと、交通事故等があり、少し不安点がある。
N 幼稚園	年中	父親	正直時間に追われる事が多いので、子供達には申し訳ないと感じています。出来るだけ時間を作って近くの公園でも良いと思うので、一緒に遊んであげる様にしたいと考えております。
N 幼稚園	年中	父親	自然体験とは具体的に?
N 幼稚園	年中	父親	親自身が自然に対する知識(もうじゅう、毒ヘビ等)がないのでどうしても消極的になる
N 幼稚園	年中	父親	昔と比べると近くに公園や大きな芝生が少なくなったような気がします。
N 幼稚園	年中	父親	少なくとも生活活動範囲に自然にふれる場所がない。
N 幼稚園	年中	父親	なんなんでしょう
N 幼稚園	年中	母親	下の子にまだ手間がかかるため
N 幼稚園	年中	母親	最近は一人で外へ出せない程治安が悪化してしまっていると思う。
N 幼稚園	年中	母親	今の治安に問題がある。今は一人で遊ばせていたら、誰かにつれていかれたり、いたずらされたり、心配でいろいろと連れていけない。
N 幼稚園	年中	母親	虫が嫌い(恐い)なので・・・。
N 幼稚園	年中	母親	公園はもちろん、家族でもほりなど自然体験は十分しているつもり
N 幼稚園	年中	母親	交通事情、どこに行っても、車がひっきりなしに通るためあぶない 今は遠くまでいかないと、自然体験すらできない。
N 幼稚園	年中	母親	あまり場所がない。昔のように近所の人たちと集まって行く事もなく、学生時代の友だちとはアウトドアで遊ぶ事が多かったが、みんな結婚して遠くへ行ったり、私学へ行っていたので同じ駅や周辺に昔からの友人が少ない。
N 幼稚園	年中	母親	小さい子がいて、つれていけない。
N 幼稚園	年中	母親	最近、小さな子供を狙った悪質な犯罪が多すぎて、子供だけで外で遊ばせることが難しく、ずっと付きっきりで見守ることも難しい。
N 幼稚園	年中	母親	やっぱり、3人連れて行動すると疲れる為
N 幼稚園	年中	母親	毎年、キャンプに行っているのですが、特にはないです。
N 幼稚園	年中	母親	公園以外にもっと自然体験できる場所がほとんどなく遠出しなければいけない。

Q4. その他にお子様にも自然体験をさせられない理由がありましたら、ご記入ください。

N 幼稚園	年中	母親	降園後は習い事で時間をとられるので出来ない。習い事が無い日も下の子が生まれたばかりなのであまり外に出られない。休みの日はたまに父親と公園などに行くのが電車が好きなので、電車に乗って大阪駅などに行って見ていることが多く、自然体験をさせられないでいる。
K 幼稚園	年長	祖母	必ず同伴しなくてはならないこと
K 幼稚園	年長	父親	子供たちだけで田畑や川に行かせるのはこの時世おかしな大人も増えているのできびしいですね。家族での自然体験は時間とお金の余裕があるかぎり、させてあげようとしているのでQ8の問いは答えにくいです。
K 幼稚園	年長	父親	バーベキューが好きなので、シーズンごとに海、山、川等、色々いっているのですが、させられてないということは、あまりないかと思えます。
K 幼稚園	年長	父親	公園以外の場所は、昔と違い私有地としての管理がきつくと、出入りにくい。
K 幼稚園	年長	父親	毎年、田舎に帰り、自然体験をたくさんさせています。現在住んでいる場所も、自然が多いので、心配はしていません。
K 幼稚園	年長	父親	特になし。自然にふれ合っている方だと思う。
K 幼稚園	年長	父親	自分の仕事から、休日が少ないため少し遠出する時間がないので、もっと自然とふれあえる場所につれていけないのが悔やまれる。
K 幼稚園	年長	父親	場所に規制が多い
K 幼稚園	年長	父親	自分が幼少の頃の自宅近くには山も川もあったので、あえて体験する訳ではなく自然とそこで遊んでいたが、現在の自宅周辺には自然が見当たらない。 人（親）に言われて体験する事ではないとも思います。
K 幼稚園	年長	父親	子供自身が興味を持ってくれないと、難しいコトだと思います。
K 幼稚園	年長	父親	泥んこになってもその服の泥を落とせる場所がない。例えば農家では近くにきれいな小川があるとか、井戸水を溝横で作って服の泥を落とすような施設がない。
K 幼稚園	年長	父親	もっと自分自身に季節の感覚を把握する必要があり、時間のゆるす限り自然と向き合いたい。
K 幼稚園	年長	父親	しゅうへんでの自然環境のなさ。
K 幼稚園	年長	父親	仕事の休みがサービス業の為子供の休みと一致しにくい。夜も遅く疲れきっている。
K 幼稚園	年長	母親	・場所的に少し不可能かもしれないです。 ・もう少し大きくなってからでも・・・と思っている。
K 幼稚園	年長	母親	家の近くで自然体験できる場所の情報が不足しているため、兄弟（下の子がまだ小さいため）周りがあるため、これだめとイヤかましい。
K 幼稚園	年長	母親	大気（環境）汚染や紫外線など身体に悪い影響がある情報があるため
K 幼稚園	年長	母親	・衛生面（ベットのふんが、道端や公園にちかっています。公園の砂場で遊んでいて、ベットのオシッコやウンチの臭いがしてきたら、次からは行きたくないです。） ・公園があまり魅力的でない。
K 幼稚園	年長	母親	子供達だけで自由に遊ばせたいけど、やはり不審者情報など多々あり目の届かない所へ行かせるのは心配。 日頃、気軽に行ける場所がない。
K 幼稚園	年長	母親	我が家の子供達は、祖父母の家が田舎だし、住まいも自然に恵まれているので、ある程度の自然体験していると思います。
K 幼稚園	年長	母親	私自身、小さい頃によくキャンプや川遊びにわかれた色々な体験をしました。最近では、子供を自由にさせにくい環境になってますが、今も昔も子供の生物や自然に関する興味は同じですから、是非少しでも多くの生物や自然に接する機会を教えて頂ければ幸いです。
K 幼稚園	年長	母親	時間があれば、一緒に草をつんだり、公園で遊びますが、時間がないのが現状です。
K 幼稚園	年長	母親	子供自身がいろいろな事に興味があるため、自然体験にこだわり、重きをおくのもどうなのかなと思う。
K 幼稚園	年長	母親	上の子供の習い事の送迎で、時間がとれない。
K 幼稚園	年長	母親	昔より川が汚れている等自然環境の変化や開発中の新興住宅地に住んでいる為、危険箇所が多い
K 幼稚園	年長	母親	大気（環境）汚染や紫外線など身体に悪い影響がある情報があるため
K 幼稚園	年長	母親	兄弟が多いとその子供の年齢差によってやりたい事が違ってきたりする。休日は車が渋滞したりして疲れが増す。 自然体験という割にお金がかかる事が多い。作られた自然も多く「自然体験の場」と言いながら主旨の異なる所もある。
K 幼稚園	年長	母親	正直言いますと、私自身が虫や、草むらが苦手な事があります。主人がたまに、子どもに自然体験（という程でもないですが）をさせてくれますが、私はどちらかというと苦手なので・・・
K 幼稚園	年長	母親	川が汚染されていて、川遊びを思う存分に楽しめない。
K 幼稚園	年長	母親	危険が多すぎる。川の水もよごれていたり、自然な感じの広場などが少なくなっている。あったとしても、不審者がいたり、安心してどこにも行けない。木の突（柿など）を昔は人のうちのものでも、イタズラとしてとったりしていても、ゆるされたり、していたけれど、今の人と人の関係もイタズラだけでは済まなくなっているように思う。心の余裕が少なくなってきたのではないかなと思う。
K 幼稚園	年長	母親	特になし。結構している方だと思う。
N 幼稚園	年長	父親	自然がないから。

Q4. その他にお子様にも自然体験をさせられない理由がありましたら、ご記入ください。

			わざわざ時間をかけて出費してする価値もどれほどあるか、と思う。（せっかくの休日、他にやるものはあると思う）
N 幼稚園	年長	父親	環境汚染が進み自然環境が破壊されているため
N 幼稚園	年長	父親	生活空間の中に自然がなく、ビデオやテレビ、おもちゃがあふれているため。
N 幼稚園	年長	父親	過保護、甘やかせすぎな親の増加しつけや教育に無関心さ / 育て意識の低下等
N 幼稚園	年長	父親	子供自身で、行ける遊び場が無い。家では、山や川、海などへは行っている。（キャンプ等）スキー。
N 幼稚園	年長	父親	今の子供は昔と違って自然体験する場所が近くに無くなってとてもかわいそうだ。 親としては、少しでも自然体験をさせたい気持はあるのですが、安心して自然体験する場所が近くに無いです。
N 幼稚園	年長	父親	自然が少なくなってきたりしている。
N 幼稚園	年長	父親	子供と時間が合わない為
N 幼稚園	年長	父親	身近に自然が少ない事がどうしても自然体験の機会が少なくなると思います。
N 幼稚園	年長	父親	今の町には空き地などが無く遠くへ時間をかけて行かねばならない。また、道路、家なども土や木造ではなく虫たちも住みにくい環境ではない。
N 幼稚園	年長	父親	設問の仕方に不備があると思います。
N 幼稚園	年長	母親	ニュースでよく幼児が殺されたり、いろいろ耳にすることが多く、もしも自分の子供が何かあったら、と不安なことも考えてしまう。
N 幼稚園	年長	母親	大人がついていかないとダメなので、なかなか行動できません。
N 幼稚園	年長	母親	2才頃から、父・義父（2人共死亡）の看病と、現在も、義母の看病で時間的・経済的に余裕がなく子供達も少なからず犠牲になっている。「友達と遊びたい〜」という子供に「今日はおばあちゃん病院連れて行くから、また今度ね」という日々がこのところ多々・・・。 しかし、時間的・経済的に余裕に少しでも余裕があれば行きたい所へ連れて行き（遊園地等）開園から閉園まで遊んで、普段のストレス解消させています。
N 幼稚園	年長	母親	交通事故や犯罪等から子を守るため。ずっと付きっきりでいなくてはならず、親の負担が大きい。
N 幼稚園	年長	母親	子供と父親がすべての生物が恐いため
N 幼稚園	年長	母親	私自身あまり自然体験がなく、川遊びなんか楽しめたらなあと思うのですが大人になって連れて行ってあげられますが、もちろん危険な場所とかもありますよね？（スベリやすい所とか）そういう危険なところを私が知らないのを、教えてあげられない所があります。 両親を悪く言うようですがもっといろいろ自然のあるところに連れて行って欲しかったと今になってつくづく思います。
N 幼稚園	年長	母親	近所にもあるが全て親がついていかないとキケンを感じる多いのもうすこし大きくなってからと！
N 幼稚園	年長	母親	時間、お金に余裕がないため。
N 幼稚園	年長	母親	近くに公園はあるものの、どうせなら自然にこだわりたい。その為には体力、気力、がついていかない。子供達がかわいそう。
N 幼稚園	年長	母親	田舎へ帰ることはもうありません。（両親父母亡）昨年は旅行（大分）へ行き、山の自然に少しですが、触れたかも？！ プールで水に触れさせる（毎年）（海）→（あまりできない）
N 幼稚園	年長	母親	普段の日は、外で遊ぶ近所のお友達がいないので、土、日ぐらいは外で思いっきり遊ばせたいと考えているのですが、なかなか行けないのが現状です。父親が忙しかったり、天気がよくなかったり暑かったりということ。
N 幼稚園	年長	母親	少しアレルギーを持っており微生物の排泄物など、木から出る樹液などでしっしんが出たりするので気を使う
N 幼稚園	年長	母親	仕事している為毎日時間的に余裕がありません
N 幼稚園	年長	母親	兄弟でなく、多くの友達と、体験できたらすばらしいと思う。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様にご期待しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年少	父親	命の大切さ、ケガに対するバランス感 自分がたのしいからしています。
K 幼稚園	年少	父親	・草花や虫について慣れ親しみ、自然を大切にすることを養ってほしい ・外で活動する事の楽しさを感じる子供になればいいと思う。
K 幼稚園	年少	父親	全ての理を知る。全ての共存を知る⇒物の価値を知り、大切さを学ぶ 例) 水 ・水道から出る=X ・雨が降り地に吸収され湧き出たものを集めて使う。=○
K 幼稚園	年少	父親	水の中の動物や陸の上の小動物あるいは植物と子どもも同じ生物である。動植物の恵みを受けて人は生きている。感謝の気持ちとむやみに自然を壊さないようすべしと伝えたい。また米や野菜づくりを通じてその楽しさと生産者の苦勞を感じることで、人や食物への感謝の気持ちを持たせたい。 人は一人では生きて行けず、協力しあいながら生きるものであると。
K 幼稚園	年少	父親	草花、虫などの生命に触れることにより、人間味あふれる感性が養っていけばと思います。全ての生命は尊いものであることを理解してくれればと思います。
K 幼稚園	年少	父親	その時々するべき事の判断をできるようになってもらいたいです。
K 幼稚園	年少	父親	自然を通して、生きものを慈しんだり、尊いと思えるようになってほしい。ひいては、お友達に対しても、おもいやりのできる子になってほしい。
K 幼稚園	年少	父親	自然の中で工夫する力
K 幼稚園	年少	父親	"見る、わかる、行う、できる、わかち合う"と言う脳力開発と感動。
K 幼稚園	年少	父親	どのような生き物がどのように生活している等を感じとってもらいたい。 自然はすばらしいものと感じて欲しい。楽しんで、また行きたいと思ってもらえればよい。
K 幼稚園	年少	父親	・自然の楽しいことや怖さを知ってほしい。 ・いろいろなことを積極的にやってみてほしい。 ・自然の中でのびのびと時間を気にせず過ごしてみることも経験してほしい。
K 幼稚園	年少	父親	・自然の大切さの認識 ・危機管理能力の育成
K 幼稚園	年少	父親	命の大切さ、他人の痛み、思いやり、生きるという意味、生きる喜び、等々自然といっても、環境の自然だけではなく幼稚園、学校内での友達(人間)同志の自然或いは先生との自然関係、それをおさえつけないで、のびのびと自由にさせてあげたい。(放任主義ではないが、締めるところは締める!!)
K 幼稚園	年少	父親	おもちゃで感じ取ることのできない植物、動物等の命の大切さ、自然の恐さ、楽しさ等を身に染みて感じてほしい。
K 幼稚園	年少	母親	命の尊さ、自然で遊ぶ楽しさ、危険な事がわかれば・・・
K 幼稚園	年少	母親	自然の中で遊ぶ楽しさを感じてほしい。鳥、虫などの小動物にも触れ合ってくれたらと思います。 その中から危険な事も学んでくれたらいいなあと思います。
K 幼稚園	年少	母親	自然のすばらしさ、生き物も、人間と同じように一生涯生きていくことを教えてやりたい。
K 幼稚園	年少	母親	①きれいな空気、水、土は人が守っていかなければいけないこと。魚つりを楽しむなら水を汚さない様、キッチンの蛇口から考える。環境保護を子供にも分かるように話し、かんたんなことから感じてほしい。(ゴミをばいばい捨てないとか。)と思っています。 ②虫や鳥、犬・・・動物たちも自然の恵みを得て共存していること。人間が勝手に自然を破壊してはいけないこと。自分さえよければいいという大人になってもらいたくないので他のものに思いやりを持ち広くいろいろな事を考えられる想像力を養えたらいいなと思っています。(山や海を見て全てに感謝できる様になるにはまだまだ長い道のりですが)
K 幼稚園	年少	母親	身近なものを利用して楽しんでほしい。
K 幼稚園	年少	母親	草花や小さな生き物などにふれて感性を豊かにしてもらいたい
K 幼稚園	年少	母親	精神的、肉体的成長
K 幼稚園	年少	母親	自然の恐ろしさや楽しさを知って自分の趣味や興味を見つけること
K 幼稚園	年少	母親	おもちゃなどがなくても、自然の中で、いろんな物(草・花・虫)の発見をしたり、いろんな年代の友達と遊んで、人との関わり方を学んでほしい。
K 幼稚園	年少	母親	親以上の年代が、ごく"あたり前"に知っている事柄を今の子供達は、知らないまま育っていくような気がする。その"あたり前"の知識を得て欲しいと共に、草花や虫等に生命がある等、自然の尊さを知って欲しい。
K 幼稚園	年少	母親	土のにおい、季節ごとの風のニオイの違い、草花を使つての遊び方等。その昔には、特別ではなく"当たり前だった事"を子供達には体験して欲しいと思っています。なので、夫の実家が農家で、車で自宅から10分程にあるのを活用し、春は野焼き、種まき、夏は野菜の収穫、秋はお米の収穫、冬は味噌作りを体験させる様にしています。 田園地帯に住む両親の気持ち、隣接する地域に住んでいるからこそできる事だとは思いますが・・・。
K 幼稚園	年少	母親	人間だけではなく、生き物には、みんな"命"がある事! 相手の事を考える、気持ちをもって人にやさしく(生き物にも)してあげられる子供(人間になってほしいです)
K 幼稚園	年少	母親	自然体験ができる環境に住んでいるのだから、もっと植物を手にしたり、虫などを恐がらずに採集などをしてほしい。 キャンプなどに積極的に連れて行き外で遊ぶ事の楽しさをこれからもっと体験してほしいと思っています。
K 幼稚園	年少	母親	生命の尊さや、強さ、弱さなどを学んで欲しい。日本の美しい四季を感じ、やさしい心をもった人間に成長して欲しい。
K 幼稚園	年少	母親	・動、植物(生きとし、生けるもの)へのおもいやりなど、子どもなりに感じてもらえればよいと思う。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年少	母親	体験を通して、友達どうしの付き合い方、順番などルールがあること・・・また思いやる心を持ってくればと思っています。
K 幼稚園	年少	母親	四季の移り変わる様 いろいろな生き物に触れる
K 幼稚園	年少	母親	自然のおそろしさや美しさ、楽しさを知り、自然をうやまう気持ちをもってほしい。 地球上の他の国の人が飢えているのに自分たちの周りは飽食という状態がいかに不自然なことか気付いてほしい。 地球上に住む全ての人に地球を大切にすること、「大切に作らせてもらう」という気持ちが大事だということを知ってほしい。
K 幼稚園	年少	母親	・自分以外の生物、植物、すべてに命がある事、その大切さ。 ・感動する事 ・創造力 ・お友達といっしょに遊ぶ楽しさ。
K 幼稚園	年少	母親	海の水は、しょっぱいのかとか いろいろな花、草、木などさわったり、臭ったり、あそんだり、泥々になるまであそんだり、とか もっともっと自然にふれてあそばせてあげたいのですが、妹が小さい為、行動はんいは、限られてしまいます。
K 幼稚園	年少	母親	遊びの楽しさ、自然の気持ち良さ、大切さ、優しさ、子供を大きく育ててくれる。なんとも言えない表現しづらいものがある。それを理解することはむづかしいが、自然とのふれ合うことで得ることができる。
K 幼稚園	年少	母親	・強くたくましい体づくり ・生活する上での知恵を身につけること
K 幼稚園	年少	母親	・想像力が豊かになる ・視野が広がる ・友達との協調性が生まれる ・自立心を育てる
K 幼稚園	年少	母親	何気なく生きているのではなく自然の植物の成長や、動物や魚たちの生きている様子を見て、自分も共に生きている事を実感してほしい。
K 幼稚園	年少	母親	私も主人も子供は自然でせいいっぱい遊ぶ事が大切であり、それにより、友達との交流、虫や自然との関わりを通して、健康で、やさしく。又、たくましい子に育ってくれる事を期待しています。
K 幼稚園	年少	母親	自然（風、太陽、月、草、土、火など）を通して自分が生きている事かせられていることを学んでほしい。 虫など死ぬこと、カエルがバッタを食べたりすることなどを通して自分の目で見て、ふれ、いろんな体験をしてほしい。いろいろ考えてほしい。！度失敗した経験からこういう事をする危険だからやめようとか、危険から自分自身守る事も学んでほしい。 どこでも生きていける習性を身につけてほしいです。
K 幼稚園	年少	母親	協調性、虫を怖がらない、自然の大切さ
K 幼稚園	年少	母親	アンケートに答えながら自然体験を用意して準備して子供にあつらえる今の環境は少しおかしいですね。 公園で子供だけで遊んでいる子供は草むらに入っていて裸足で泥にまみれになってバッタをつかまえています。わざわざ親が連れて行かなくても、子供なりに体験しているのでは一。
N 幼稚園	年少	父親	自然の厳しさ、すばらしさ、自分自身で考える力、知恵、健康的に育てて欲しい。
N 幼稚園	年少	父親	自然（環境）を大切に人間になって欲しい。
N 幼稚園	年少	父親	自然という不思議さ、偉大さなどを感じて欲しい。
N 幼稚園	年少	父親	自然の大きさ、美しさに感動出来る感性を育てて欲しい 生物に対して優しい心を持って欲しい
N 幼稚園	年少	父親	・生き物と接して、命の尊さを知って欲しい。 ・木の実など、非常食（魚貝類等）の捕り方。
N 幼稚園	年少	父親	虫の音、花の匂い、気温、草の緑、五感を通して季節の移り変わりを敏感に感じて欲しい。そこに命の移り変わりがあることを感じて欲しい。
N 幼稚園	年少	父親	都会では無い物を感じてほしい。
N 幼稚園	年少	父親	木の温もりや動物や昆虫の命の大切さをわかってほしい。 自然を守る人間になってほしい！！
N 幼稚園	年少	父親	世の中の常識（例えば、滑り台で順番に並ぶとか、蜂やうるしには気をつけるとか・・・）を学んで欲しい。
N 幼稚園	年少	母親	うちの子は、こけたりしてすり傷が出来ると大泣き、風呂に入る時もしみるといって痛がり屋さんです。私の小さい頃は、こける事なんてしょっちゅうだしけが多かったです。何がしたいかとゆうとけがして痛みを分かってもらいたい、少しの事で泣かない強い子になって欲しいです。
N 幼稚園	年少	母親	自然の大切さ理解できたら
N 幼稚園	年少	母親	まだ小さいので特別に期待することはないが、暑いとか寒いとか、いい香りがするなど体で感じてほしい。
N 幼稚園	年少	母親	動物や植物に接する事により、やさしさを持ってほしい。 そうすると、友だちや、きょうだいに対しても、やさしくなれるのではと思っている。
N 幼稚園	年少	母親	子供の頃に人に教わる事だけではなく、自分自身で考えて想像して遊ぶ事も大切だと思う。そういう意味ではあたえられた物ではなく、自然の中で自分達で遊びを考えていあない様になってくれたらいいなあと思います。
N 幼稚園	年少	母親	手、足に触れる感触や、様々な発見をしてもらいたい。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年少	母親	草花の育ち方や生き物の生き方などを学んでもらいたいです。
N 幼稚園	年少	母親	男の子なのでもっとそとで元気に遊んでほしい。 田舎にあるような自然を知ってほしい。
N 幼稚園	年少	母親	自然のすばらしさをわかってほしい。 すべてのものに、生命がある事も知ってほしい。 あと、きれいなものを「きれい」と言うような、素直な心を持ち、表現も豊かになればいいと思います。
N 幼稚園	年少	母親	おたまじゃくしからカエルになるところや、お外で自分達で遊びをつくりながら、おもいっきり、疲れるまでお外で走り回ったりしてほしいです。
N 幼稚園	年少	母親	心のゆたかさ 野菜、果物などがどういふふうに育つのかどこに実をつけるのかとか知ってほしい
N 幼稚園	年少	母親	何事にも積極的に楽しく取り組んでほしい。
N 幼稚園	年少	母親	生物に親しんで欲しい、自然の中の楽しみまた危険などを知って欲しいと思っています。
N 幼稚園	年少	母親	・何でも手に取ってふれてほしい。 ・自然のもので何か使ってほしい。
N 幼稚園	年少	母親	子供の頃にしかできない遊びや、子供の目線で見えないものを自然の中でみつけて、強くて、虫や自然に対するやさしい心のもてる子供になってほしいです。
N 幼稚園	年少	母親	のびのびとしたおおらかな心、動植物を通じての命の尊さ、体をおもいっきり動かせる喜び
N 幼稚園	年少	母親	草花の美しさ、生物の命の尊さ、自然の恐ろしさ、偉大さ、等を体験し、自分で考えられるようになること。 人間は自然からどのような物を与えられているのか、どのように自然と共存していかなければならないかを将来的に考えられるようになること。
N 幼稚園	年少	母親	幼児期に自然体験から人間の相対的な感覚が得られればと思います。 清潔な環境だけで育てば、きれい好きですが、自分で汚いものにふれられませんが、汚いものをきれいにすることもできません。 子供には、土や虫、小さいものやよごれているものにふれながら、きれいなものをみながら獲得する努力もひつうだと思えます。 又、花びらのやわらかさや川の水のつめたさなど、好奇心でやったことで体験した感動は、とてもたいせつなことだと思います。 そのことで、のびのびとした、やさしい心などがそだつことを期待しています。
N 幼稚園	年少	母親	情緒豊かな子に育つこと
N 幼稚園	年少	母親	色やにおいなどの感覚を体験してほしい。
N 幼稚園	年少	母親	色々な生物にも命がある事や草花などを通しての四季、大らかな気持ちをもってほしい。
N 幼稚園	年少	母親	おもちゃが無くても、遊べる事 のびのび広い所で遊んでほしい 自然にふれてほしい 花など見て感動してほしい
K 幼稚園	年中	?	元気にのびのび育ってほしいと思います。
K 幼稚園	年中	父親	協調性
K 幼稚園	年中	父親	・親に何から何まで教えてもらう事なく、子供自身が、自分なりに考え、自分のやりたい事をのびのびと遊べるようにさせてあげたい。何もかも親に教えてもらうのではなく、自分で考える事ができる体験をたくさんつむ事により、仮に学歴が無くても、人間らしい大人にさえ育ててくれれば良いです。
K 幼稚園	年中	父親	・命の大切さ、自然の大切さ ・豊かな表現力 ・人としてのやさしさ
K 幼稚園	年中	父親	自然の摂理の修得
K 幼稚園	年中	父親	・友達とのコミュニケーション
K 幼稚園	年中	父親	・自然の大切さ、命の尊さ等を考えられる力を身に付けて欲しい
K 幼稚園	年中	父親	心身ともにたくましく育って欲しい。
K 幼稚園	年中	父親	・自然が削り出す風景の素晴らしさを感じ、心に刻み付けてほしい。 ・自然の植物や生き物と触れ合うことで生活体系やその不思議さを感じてほしい。
K 幼稚園	年中	父親	・生命の尊さ、何が危険で何が安全か、何をしたらいけないかを身をもって体感しながら憶えて欲しい。
K 幼稚園	年中	父親	日常生活で体験できない自然とのふれ合いを体験させてやりたい。
K 幼稚園	年中	父親	心身共に元気で健やかな子供(人間)に育ってほしいです。又、いろんな物に対して興味をたくさん持つ人になってほしいです。
K 幼稚園	年中	父親	心・情緒の発達
K 幼稚園	年中	父親	自然の不思議さ、奥深さを体感してほしい。 シンプルな生活(不便な生活)を体験してほしい
K 幼稚園	年中	父親	健康な体作り、やさしい心を持ち、自然とのふれあいを大切にすることを。
K 幼稚園	年中	父親	地域社会との交流 四季の素晴らしさと厳しさ
K 幼稚園	年中	父親	自然の大切さとおもしろさを学んでほしい

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年中	父親	・自然のきびしさ。 ・自然の神秘さ。
K 幼稚園	年中	父親	いろいろな体験をさせてあげたい。（昔、自分がした事などを含めて）
K 幼稚園	年中	父親	命の大切さを学ぶこと やっぴいこと、悪いことの分別ができること 友達と仲よく遊ぶことができること。また、多くの友達ができること。
K 幼稚園	年中	父親	はだしで歩いてみてほしい やさしいキモチ 絵をかいてほしい
K 幼稚園	年中	父親	生命の大切さを感じとってほしい。
K 幼稚園	年中	父親	自然の中には、色々な植物、動物がいるのかを知ってもらいたい 又、どのように成長するのか自分でさったり、見たり調べたりしてもらい自然を通して、いろんなことを感じてもらいたい
K 幼稚園	年中	父親	・自然の原理
K 幼稚園	年中	父親	・いろんな事に興味を持ってほしい。 ・虫が苦手な子供にはなってほしくない。
K 幼稚園	年中	父親	のびのびと成長 自分で考えること
K 幼稚園	年中	父親	「全人類が滅亡の危機に類しても僕だけは生き残るぜっ」というぐらいたくましくなって欲しい。
K 幼稚園	年中	父親	命の尊さを学んで欲しい。
K 幼稚園	年中	父親	伸び伸びと育ててほしい。
K 幼稚園	年中	父親	自然（海・空・風・土・生物など）がそれぞれ他の影響を受けつななる様に存在している。人も同じ。周りの影響を素直に受け、同時に自己のおもむくままに動いていく。 そんな「自然体」を学んで欲しい。
K 幼稚園	年中	父親	生命を感じとる力 自分で考える力を身につけること 子供の頃から、そして現在も、どちらかというと田舎で育っていますので、ここで問われている「自然」という言葉に、違和感があります。
K 幼稚園	年中	父親	外で遊ぶ楽しさを身につけてほしい。
K 幼稚園	年中	父親	生命の尊さや、人と協力し合う事の大事さ、色々な体験を通じて五感を磨き、おもいやりのある優しい心を育ててやりたい。
K 幼稚園	年中	父親	山、川、海と自然環境のふれあい体験。
K 幼稚園	年中	父親	・いろいろな事を体験し、自分で何かを感じて欲しい ・便利な生活だけに慣れてほしくない
K 幼稚園	年中	父親	自然の中でいっぱい遊んでまっ黒になって、太陽の光をいっぱいあびて元気に育ってほしい。
K 幼稚園	年中	父親	自然の大切さや楽しさを学んで欲しい。
K 幼稚園	年中	父親	・木、花、昆虫等実際の触感、音、匂いを感じとりながら覚えてほしい。 ・季節毎の匂い、花、野菜、昆虫等を通じて自然の不思議さ、偉大さを感じとってほしい。 ・雨が降れば川が増水する、風が強く吹けば海の波が高くなる等、自然の恐ろしさというものも知ってほしい。 ・生物の命の大切さを学んでほしい。 ・泥遊びや木登り等の遊びを通しての友人関係を築いてほしい。 ・部屋に閉じこもってはいは得られない、伸び伸びした精神を築いてほしい。
K 幼稚園	年中	父親	別に何を期待しているという訳ではないが、自然を通して、何かを感じてくれれば良いと思っている。 親が何かを期待して、自然体験させるのではなく、子供が自然体験等を通して成長しているのを親はサポートするだけである。
K 幼稚園	年中	父親	昆虫や魚がどこに住んでいるのか、野菜や果物がどのように育つのか、要は動物園や水族館、スーパーマーケットにいるのではなく、自然環境で共存していることを認識してほしい。 また、現代では与えられることの方が多く、創造力、発想力が低下しやすい。自然体験を通じて、新たな発想や工夫を身につけるとともに、自然を大切に考える取っ掛かりになってくれれば良い。
K 幼稚園	年中	父親	虫や魚を自然の中で見てほしいと思います。
K 幼稚園	年中	父親	自然を大切にすることが、大事であることをわかってほしい。
K 幼稚園	年中	父親	自然体験とは何をイメージされているのか、例えば、アウトドアのイメージ、山の中に車で行き、バーベキューしたり、川遊びをしたり・・・というイメージだろうか。私自身、田舎で育ったせい、家の外＝戸外で遊ぶというイメージより、自然の厳しさ、暖かさ、変化を直接体験することだと思う。その中に生きる知恵を身につけることだと思う。さらに、いつか自分を自然の一部であると、実感することにあると思う。
K 幼稚園	年中	父親	動植物に対する興味や、それを通して自然や動植物を大切にすることを身につけてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	親以上の年代が、ごく”あたり前”に知っている事柄を今の子供達は、知らないまま育っていくような気がする。その”あたり前”の知識を得て欲しいと共に、草花や虫等に生命がある等、自然の尊さを知って欲しい。
K 幼稚園	年中	母親	子供には動物や生き物の中から生命の大切さを感じてほしいです。
K 幼稚園	年中	母親	体を動かし、体で感覚を習得していくこと、考えたり、くふうが出来れば良いと思う。そして1番におもしろいという実感をも

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

			つこと。
K 幼稚園	年中	母親	<p>生きている物の、命の大切さ</p> <p>幼児期の思い出づくり</p> <p>物事に対する想像力、イメージ力</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>色々な生物、植物と共存している事に気付いて欲しい。</p> <p>普段の生活もそうですが、いろんな場面で発見したり、工夫したり、考えたりと、対応できる事を学んで欲しい。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>机の上だけではなく、色々な出来事を体験することによって、知識だけではない。感情を含んだ本当の勉強になること。様々な生物がいることを知り、人を含め、生き物を大事にする心を持ってほしい。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>季節の移り変わりの中で、草、花、虫がいつ、何がどこにいるか、ということや、暑いとか寒い、自分だけでなく、他の子と一緒にどのように感じるか。又、生き物の採り方、育て方、死んだことへの感情やほかの虫の命のこと。そして、年令と問わず、子供たちのルール、社会へのルールの一歩を学んでほしい。良いこと、悪いこと、いたずら、秘密、太陽をしっかりあびてたくましくなってほしい。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<ul style="list-style-type: none"> ・草花を育てて、草やお花も生きているんだということ。むやみにとってはいけないということを知ってほしい。 ・緑多い公園で遊ばせて、のびのびとした子になってほしい。
K 幼稚園	年中	母親	<p>自分から自然にとけ込んで開放感を味わいながらいろんな事を吸収していく。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>五感を通していろいろなことをテレビを見ているだけでは分からない感覚を養ってあげたいと思っています。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>自然体験を一言で申しましても、少し難しく思いますが、幼児期にしか出来ない事は、積極的に取り組んでいくべきと思っています。命の大切さや、自分の足で歩く辛さを実感する事（辛いのは娘だけだと思いますが）が、とても大切な事だと思います。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>初めての事でも自分の力でいったり、発見する喜びを知ってほしいと思います。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>命や自然を大切に思う気持ちを持つ。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>生き物や植物の季節の変化について、自然と身に付けよう体験してほしいと思っています。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>自分で何かをやりとげる。</p> <p>友達と協力してしんらい感を得る</p> <p>山、川、海の自然を体験してほしい</p>
K 幼稚園	年中	母親	<ul style="list-style-type: none"> ・花や草花にふれる事で、においや成長を感じとってもらい、虫や魚などの生き物を育て、生命の大切さを教わってほしい。
K 幼稚園	年中	母親	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの幅（想像力）が広がるので、元気にのびのびと遊んでほしい。 ・動物や虫、花、木など生命の大切さを知ってほしい。 ・自然を体験して、良し悪しの判断が出来る人になってほしい。 ・私もそうだったように、子供には、自分の子にも、自然体験をたくさんさせてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	<ul style="list-style-type: none"> ・私の幼少の頃は、祖父母宅へ行き、自然の恵みにふれ体験する機会が多く、（稲づくり、野菜の収穫、川遊びなど）楽しい思い出が多くあります。現在では、その様な体験は難しいと思いますが、その様な体験が出来るのであれば良いと感じます。
K 幼稚園	年中	母親	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の生死の大切さを学んで欲しい。 ・四季おりの季節感をあじわい、心ゆたかになって欲しい。
K 幼稚園	年中	母親	<ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さ ・いろいろな友達と接する事で人の気持ちがわかるやさしさ。社会のルールたくましさ等を身につけてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外での遊びなどから、小動物や虫などを見つけたら、知ってほしい。
K 幼稚園	年中	母親	<p>自然とふれあうことで、生命の大切さや、季節のうつりかわりの様子などを感じてくれたらよいと思います。</p> <p>私自身、小学生の頃、神戸市少年団の登山教室やサマーキャンプなどで自然の中で過ごす機会を与えてもらい、よい思い出、体験として残っているので、やはり子供にも同じようにそのような機会が施設があれば、させてあげたいと思っています。</p> <p>そのようなことは子供のうちにしかなかなかできないと思うので。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>今の子供たちを見ていると、ゆとりのない子（ギスギスしている。友達への思いやりのない etc）が多いです。自然の中で遊ぶことにより、子供らしさがあふれてくるのではと思っています。</p> <p>今はお店に行けば何でも手に入るし、見ることもできます。季節感を感じられる子になってもらいたいと思います。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>自然の美しさ、大切さを学んでほしい</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>テレビやゲームでは味わえないナマの体験は子供の感性をはくむのではないのでしょうか。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子なので、虫がとてつもなく怖くて、近寄ろうともしませんが、園鑑で、知識を知るより実際に見て、理解出来たら・・・（例えば、おたまじゃくしがかわるになるまでなど）と思っています。 ・おもちゃがなくても、自然の中には遊べる物がたくさんある事も知って欲しい。
K 幼稚園	年中	母親	<p>自然のすばらしさを知り、伸び伸びと成長してほしい</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>創意工夫で色々な事ができる！</p> <p>Ex) 我が子は皿がなければ、何も食べられない。</p> <p>WC も屋外では全くできない。</p> <p>自然の音を知って欲しい。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>明るい元気になってくれればと思っています。</p>
K 幼稚園	年中	母親	<p>虫を採ったり、触ったり、自分と同じように、命ある生き物がいるということ、少し乱暴にすると、その命が失われるということを知り、実感として受けとめて欲しいと思います。また、植物を育てたりして、成長させていく喜びや、花が咲いた時の感動も、子供の心にとてつもなく良い栄養となると思います。</p>

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様にご期待しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年中	母親	特に何も期待はしていない。ただふつうに、田んぼのどろはにゆるにゆるして気持ちいいとか、石の下に虫がいるとか、自分の目と手でふれて、発見するだけで十分だと思います。 私は子供達に、私達も自然の一部なので、外にゴミをポイ捨てしたりしないようにという事と、リサイクルにも力を入れています。遠く山へ行くより、まず、自分のまわりの自然を感じ、大切にしていってほしいと思っています。
K 幼稚園	年中	母親	生きものなどを通して、命の大切さを学んで欲しい。
K 幼稚園	年中	母親	季節のうつり変わりを肌で感じられるようになってほしいです。
K 幼稚園	年中	母親	現在の社会は人間のよりよい生活の為に、人工的なもの、又は整備された物や場所が多く感じられます。無理に自然をおさえつけようとして逆に大きな事故をひきおこす原因になる場合も少なくないように感じます。 生きていくうえで自然とのうまくつきあい方によって上手に快適に過ごすことができると思います。 又、遊びを通して、自然のありがたさ、怖さも少しずつ感じてほしいです。
K 幼稚園	年中	母親	自分で遊びを作っていく楽しさ。
K 幼稚園	年中	母親	季節の移りかわりに気付く子供になってほしい。草花や虫とのふれあいでいろんな事を感じてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	・虫から命の大切さ、やさしさ ・五感の発達 ・友達と体を動かして遊ぶ(協調性)
K 幼稚園	年中	母親	一年を通して、例として、花はどのようにして咲くのか、野菜はどのようにしてなっているのか、虫はどんな風になっているのかということが、自然と頭に残っていくことが大切だと思います。 家の中で遊ぶことよりも、外へ出て、木、草、虫、花いろんなものに、自然とふれていくのが、一番考えています。体を動かし、のびのびと育ていく姿、元気よく走り回っている姿で育ててほしいと思っています。 生き物をさわったりして、身近にいる動物(小さいものから)を大事にしてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	"自然体験"を特別な事と思っていないので、普段から自然にあたりまえにふれていると思う。
K 幼稚園	年中	母親	体で感じるそのままの体験が出来る為、心の成長に非常に結びつく事大。
K 幼稚園	年中	母親	生きている物すべての命の尊さを学び身につけてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	・自然の美しさ、緑の大切さを学んでほしい。 ・生き物の様子や、生命の大切さを学んでほしい。 ・危険な物、場所など学んで事故防止に役立ててほしい。
K 幼稚園	年中	母親	・昆虫など、触ったり、育てたりしながら、やさしさや命の大切さを感じとってほしい。 ・泥あそびや草花などの自然を使った遊びを通して、いろんな発見や遊びの発展を広げてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	生き物や草花のしくみ等を知って、自然を大切にしてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	自然にふれることで自然の大切さを知り、花や木、小さな生き物から命の大切さを学んでほしい。 また、飽食の時代と言われていますが、私たちが口にしていくものには命があり、「いただきます」の本当の意味をわかってほしい。
K 幼稚園	年中	母親	日常では行えない体験をしたり、自然や四季の移りかわりを感じてもらいたい。
K 幼稚園	年中	母親	・いろいろな物を見て、さわって感じてほしい。 ・自然に、いろいろな知識を身につけてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	自然の中で、生きている虫や鳥、木や葉と触れあって心の豊かな(いろいろなことに感動できたりおどろいたり、発見したり)人になってほしい。
K 幼稚園	年中	母親	動物、植物など大切に思う気持ちを育てる
N 幼稚園	年中	?	おいしい空気を沢山吸って、自然にあるもので十分に遊ぶ、学べるが多いことをしてほしい。
N 幼稚園	年中	父親	いのちの大切さ及びかたちあるものはこわれる。 いのちあるものは必ず死というものがある。自然というきびしいものをわかってほしいと思います。
N 幼稚園	年中	父親	・生命の尊さ ・自然のきびしさ
N 幼稚園	年中	父親	四季折々の動植物にふれ合うことで自然の素晴らしさ、命の大切さを理解してほしい。
N 幼稚園	年中	父親	勉強で習うこと以外の事を多く学んでほしい。
N 幼稚園	年中	父親	積極的、たくましさ、いろいろなこと(物)に興味を持って欲しい。 団体行動で、協調性を身に付けて欲しい。
N 幼稚園	年中	父親	・人工的に創られた物と、自然に形成されたものの違い。 ・自分で遊びを創っていく事 与えられた道具で遊ぶのではなく、自然の物を使い自分で道具を作り出していく事⇒創造力の形成 ・変化する自然に対する観察力・洞察力の育成
N 幼稚園	年中	父親	・自然体験を通して、生命というものの大切さをして欲しい。
N 幼稚園	年中	父親	今の子供は直ぐに切れると世間では言われておりますが、自然との触れ合う事で大らかさや優しさ等を学んでくれればと思います。 昆虫や草花など命ある物に触れて小さな命の大切さ知ってくれれば良いなと思います。直ぐに切れないおらかな子供に成長してくれればと思います。
N 幼稚園	年中	父親	あそべる知識を得てほしい。 山に落ちている木一本を使って、どんなあそびが出来るか、又、石ころを集めて、どのような事が出来るか等。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年中	父親	生物への接し方 大切に思う心を持って欲しい
N 幼稚園	年中	父親	・想像力 ・食物の大切さへの理解
N 幼稚園	年中	父親	自分の意志を持ってほしい 何でも一人で頑張れるようになってくれたら。
N 幼稚園	年中	父親	感性の豊かな子供に育てて欲しいです。
N 幼稚園	年中	父親	虫や草花（植物）が生きているということを学んでほしい。
N 幼稚園	年中	父親	自然体験が外で遊ぶ事として、テレビやゲーム等家でばかり遊ばないように・・・
N 幼稚園	年中	父親	命の尊さ 創意工夫
N 幼稚園	年中	父親	日々の生活の中で自然にふれ合う機会がなくてできるだけ多く自然体験を増やして頂きたいと思います。
N 幼稚園	年中	父親	何ごとにも興味を持ってもらいたい
N 幼稚園	年中	父親	・物の大切さ ・季節
N 幼稚園	年中	父親	自然の良さ大らかさを空気を通じて感じてほしい。
N 幼稚園	年中	父親	木や木の枝を使って何かを作る創造力を養ってこれればと思っています。 あと外で、活動することによって、体力もつき、病気に対する抵抗力もつくのではという期待もしております。
N 幼稚園	年中	父親	・生物の命の尊さ ・他の子供達との輪、思いやり ・善・悪の判断
N 幼稚園	年中	父親	子供が元気でびのびと育てられればいいです。
N 幼稚園	年中	父親	幼稚園に行くまでは、いろいろつれていけたが、入園してからは、連れて行けないので自由参加型でいいのでいろいろな企画をして欲しい。
N 幼稚園	年中	父親	自然での体験では目に映るものはすごく新鮮に子供達は感じると思います。どのように感じるかは各人違うとは思いますが、少しでもいい経験になり、思い出になればと期待しています。
N 幼稚園	年中	父親	私は虫が嫌いです。
N 幼稚園	年中	父親	命の大切さや楽しい思い出となること
N 幼稚園	年中	母親	花の成長など美しいと思う心 田んぼなど自然の匂いなど キャンプなどでこれから体験させたいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	たくさんの事を学んでほしいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	草花の育ち方や生き物の生き方などを学んでもらえたらいいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	アンケートの主旨がもうひとつわかりませんが・・・ 自然にかなうものはないと思います。優しいのも厳しいのも自然。近くにないのが一番聞われない理由です。
N 幼稚園	年中	母親	頭では考えられない事が自然の中ではふつうになっている事。 答えがはっきりしないような事が起きたりすごく印象に残る思い出が出来ると思う。
N 幼稚園	年中	母親	自然の恵みへのありがたさを知り、自然を大切にす気持ちを持ってもらいたい。
N 幼稚園	年中	母親	自然とふれ合って、伸び伸びと、育ててくれたらと思います。
N 幼稚園	年中	母親	土で遊ぶ又、木で遊ぶ等して創造力をもっとのばせたらな、と思う。 自然の草花を見て、感動したり、それを友達や周りと共に感ずることができたら素敵なことだと思います。
N 幼稚園	年中	母親	命の尊さや、環境の問題などについて理解してもらいたい。
N 幼稚園	年中	母親	・自分で物事を考えて行動できるようになって欲しい。 ・グループ等で行動をして、協調性を身に付けて欲しい。
N 幼稚園	年中	母親	家がマンションなので、なるべく外遊びに行く様にしています。どちらかというと食べることに興味がないので、おもいっきり遊べばお腹もすいてご飯もおいしく食べれるのでは？というキタイもありますし、太陽の下で身体を動かし、強い身体を作ってあげたい。 一番は子供が楽しく遊んでくれる事。
N 幼稚園	年中	母親	・情緒豊かな子になってほしいと願っています。
N 幼稚園	年中	母親	自然の楽しさを知るきっかけがあれば色々知ってほしい。そして一番に自然の怖さも知ってほしい。
N 幼稚園	年中	母親	手が汚れるのを気にするのはいつもおどろいてしまう。汚れるのを気にせず思いっきり遊んで自分で考える力がつけばいいと思う。
N 幼稚園	年中	母親	植物なども水などが必要だったり、物や命を大切にす心
N 幼稚園	年中	母親	心豊かな子供になってほしい。
N 幼稚園	年中	母親	・自分から進んで何でも行動する意欲 ・友達と協力し合っている達成感 ・人を思いやる気持ち
N 幼稚園	年中	母親	自然体験を通しては、危険なことを自分で判断したり、生き物、草花に命があるということ学んでほしい。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年中	母親	・発想豊かな子になってほしい。
N 幼稚園	年中	母親	自然体験をして、自分で、できることをみつけてほしいです。 風の香りや草花の香りを感じたりしてほしいです。
N 幼稚園	年中	母親	私達が子供の頃あたりまえの様にしてきた。体験で自然を大切にする気持ち生物への興味など子供達にもさせてあげたいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	自然のすばらしさを知ってほしい。
N 幼稚園	年中	母親	幼稚園や学校の勉強だけではなくて自然にふれるのも勉強なので大切だと思っています。自然は大切なんだと知ってほしいです。
N 幼稚園	年中	母親	元気にのびのびと成長すること。 生きものの命を大切にやさしい心が育つこと。
N 幼稚園	年中	母親	家族で時間がある時はなるべく出掛ける様にしています。上の子が二人いますので親が見るより姉妹で遊んでいます。上の子が小6なので一緒に遊びながら危ないとか危なくないとかその時に適確に教えてくれている気がします。親はそれを見て、本当に危険をともしないような時は必ず行動は共にしているつもりです。
N 幼稚園	年中	母親	・生命の大切さ ・四季の移り変わり
N 幼稚園	年中	母親	自主性
N 幼稚園	年中	母親	生命、喜び、美しさ etc ふれさせてあげたいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	色々な物事の良し悪しの判断が自分自身でできるようになってもらいたい。
N 幼稚園	年中	母親	食物を大事に思えること 積極性をつけること
N 幼稚園	年中	母親	別に何も期待していない。 ただ、自然に感じてほしい。 することみたこと自分がどうかんじたか？その気持ちをおしえてほしい。大切にしてほしいかな？
N 幼稚園	年中	母親	・物の大切さ
N 幼稚園	年中	母親	テレビゲームなどにより、自然を通して、自由な発想でいろいろな友達などと遊んでほしいです。 他にも自然の大切さなども知ってほしいです。
N 幼稚園	年中	母親	虫や花に触れる事で子供なりに色々な事を感じてほしい。また学んでほしい。期待せず、子供が楽しんでくればそれでよいと思う。
N 幼稚園	年中	母親	自分自身で何をしたら危ないのかなど学んでほしい
N 幼稚園	年中	母親	感情が豊かで、心の広い人になってほしい
N 幼稚園	年中	母親	テレビやビデオ・ゲームでは体験できない感覚、体を動かすこと気持ちよさや、生き物の温かさ、命の大切さを学んで、心優しい子に育てて欲しいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	良い事悪い事を知り周りの人との関係を自分で作っていきける様に。 大人になってからはなかなか体験出来ない草花や、生き物と触れ合って色々な事を学び、優しい心を育ててほしいです。
N 幼稚園	年中	母親	草花などにも命があるという事 遊びの中にも危険が多い事（水遊びなど）
N 幼稚園	年中	母親	想像力が豊かになれるように。 のびのびと自由な心がもてるように。
N 幼稚園	年中	母親	生命の尊さを知ってほしい。生きものを大切にすること育てることを学んでほしい。
N 幼稚園	年中	母親	・自立して自分の事は自分でできるようにしてほしい。 ・物の大切さや、命の大切さを知ってほしい。
N 幼稚園	年中	母親	手や足や体全体でいろいろな物に触れて感動してほしいです。（例えば海は塩からい味がするとか、川の水は冷たいなど etc）
N 幼稚園	年中	母親	うちの子は”自然児”に育てたいと思います。外に出て活発に遊んでいると思います。四季を感じ、草花にもたいへん興味を持ち少々服が汚れても気にせず（？）汗泥だらけ。このままの状態で育てて欲しいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	自然の良さ・こわざと知ってほしい 草花・虫などの命のある物の大切さ
N 幼稚園	年中	母親	自然の大切さ
K 幼稚園	年長	？	命のはかなさ。弱い者に対するやさしさ。
K 幼稚園	年長	祖母	自然の大切さ、そこからたくさん学べると 생각합니다。
K 幼稚園	年長	父親	自然体験だけではなく、色々な事をして、見て知ってほしい。
K 幼稚園	年長	父親	動物の命の大切さや成長を学んでほしい。
K 幼稚園	年長	父親	なにも期待していません。 ただ子供が大人になって、いい思い出になればと思っています。 私の家族では、私が自然が好きなので、妻と子供が付きあわされている感じですが自然に無関心な家族にも、体験が必要なのでしょうか。子供に期待しないといけなのではないでしょうか。アンケートの前に自然体験の重なり、必要性を教えてください。
K 幼稚園	年長	父親	最近はゲームばかりして、家の中でばかり遊ぶ子がふえているが、できるだけ外に出て、日本の四季を肌で感じさせたい。生き物と接することで、命の大切さを知ってほしい。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年長	父親	自由な発想、おもいやりのある人格形成に役立つ。
K 幼稚園	年長	父親	1.自分一人では、何も出来ない。みんなの協力が必要。自分も協調性が必要であると感じてほしい。(こういう中で、自分は何が出来るのか？自分の役割は何かを考えてほしい) 2.周りの人の有り難さ、物の大切さを知ってほしい 3.自分の思い通りにならない事が多いと判ってほしい 4.自分の知らない世界を体験し、自分を磨き、自己成長してほしい
K 幼稚園	年長	父親	・生物を通じて、生きる事の重要性 ・生物に対する自然の重要性 ・自然を通じた人間のつながり ・自然体験などでの体力増進
K 幼稚園	年長	父親	視野の拡大。物事を自分で考える力を養う。
K 幼稚園	年長	父親	生命の大切さや子供自身のたくましさを期待します。
K 幼稚園	年長	父親	自分のことだけでなく、他人をも思いやる心優しい人間に成長してほしいと強く願っております。
K 幼稚園	年長	父親	知識、認識共豊富な人間になってもらいたい。
K 幼稚園	年長	父親	命の大切さを身につけて欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	豊かな感情(感動や悲しみ)を持ってもらいたい。強い精神。
K 幼稚園	年長	父親	自然の中で、時間の流れや自然の中で生物、植物がどのように成り立っているか、地肌で感じてほしい
K 幼稚園	年長	父親	自然はお金で買えない物であり、それを通じて、心豊かな人間になる様期待している。画一的なものではなく、様々なものを通じ将来経験出来ないものを、人間として学ばせたい。 あと、自然界のものは、全て真似出来ないものばかりなので、知識を身に付けさせる。また、子供自身の「やさしさ」「いたわり」を学ばせる。
K 幼稚園	年長	父親	・店で買った物でなくても、遊ぶことが出来る。 ・自然の恐さを知ることが出来る。
K 幼稚園	年長	父親	子供の頃に体験した事を教え、様々な知識を見につける事。
K 幼稚園	年長	父親	元気で活発な子であってほしい。
K 幼稚園	年長	父親	活発で生物に優しく接しられる子供に育って行って欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	自然体験をして草、木、虫等の生命の大切さ、限度などを学んでほしいと思っています
K 幼稚園	年長	父親	とくに期待をしているということではなく、見たもの、感じたことを自由に発想できればと思います。
K 幼稚園	年長	父親	自然体験を通じて、自然の雄大さ、大切さを学んでほしい。人間は自然から生まれ、(動物、植物、昆虫)やがて帰っていくプロセスを体験し、自然を大切にす気持ちを学んで大人になってほしい。
K 幼稚園	年長	父親	心のゆとり
K 幼稚園	年長	父親	草花や虫たちの生命の尊さを理解してほしい。 TVゲームやパソコン等部屋の中で遊ぶことよりお日様の下で遊ぶことの喜びを感じてほしい。
K 幼稚園	年長	父親	虫や動物とのふれあい
K 幼稚園	年長	父親	人工的でない自然なものの美しさ、おもしろさを実感してほしい。
K 幼稚園	年長	父親	自然の物を使って、何をして遊ぶ、何を作る、いろいろな経験をし、自分で考える力を身に付けてほしい。 物を大切にす事。
K 幼稚園	年長	父親	・植物や動物、虫などにふれ合って命の大切さを知ってほしいため ・人となかよくする事
K 幼稚園	年長	父親	草木の匂いをかぐこと、素足で走りまわること、小さな切りきずをたくさん作ってくること。それが痛いこと自然についたドロや水はきたなくないこと。おもちゃがなくても、いろんな遊びができること、又、それを自分でつくりだせること。
K 幼稚園	年長	父親	自然の良さをわかってもらいたいという本音はありますが、こればかりは自分もそうであった様に年令を重ねないことには無理だとも思う。 あと自然がどうこう関係なちのびのびと遊んで欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	自分で遊びを考える。自分で感じた事を自分の言葉で話せるようになって欲しい。そうすれば自分の子供にも楽しい事を教えるようになってくれると期待しているからです。
K 幼稚園	年長	父親	広い心と感じる心を育てる。自然のおもしろさを知る。
K 幼稚園	年長	父親	自分で何かをするという自主性を学んで生かしてほしい。無い物があってもある物で工夫するように。
K 幼稚園	年長	父親	自然と共存する能力を見につけること
K 幼稚園	年長	父親	おもちゃでは感じ取ることができない、植物、動物等の命の大切さ、自然の恐さ、楽しさ等を身に染みて感じてほしい。
K 幼稚園	年長	父親	難しいコトは考えていません。ただ、あるものを素直に理解し、受け入れほしいと願います。「虫がキラリ」「暑いのはイヤだ」・・・など、快適な環境のみを選んで過ごすようにはなってほしくありません。虫がいるのは当たり前、夏が暑いのは当たり前・・・それを受け入れ、その中で自分がどう過ごすのか？考えたり工夫したりする力をつけてやりたいと願います。
K 幼稚園	年長	父親	・命の大切さ ・思い出
K 幼稚園	年長	父親	豊かな情緒と自然に対する正しい知識・認識を身につけること。体力的に強くなること。生命には必ず終わりがあるということ

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

			身をもって知り、生命を尊ぶ心を自然に身につけること。人間・自分自身も自然の一部として存在している。、生かされているということを学びとること。
K 幼稚園	年長	父親	元気に自然とふれあってほしい
K 幼稚園	年長	父親	自然の中にいて、楽しいと思える人間になってほしい。
K 幼稚園	年長	父親	①厳しさ及び、自分の思い通りにならないという現実。 ②生態系からの学習 ③たくましさ
K 幼稚園	年長	父親	自然体験を通して、アナログ的な変化を体験して欲しい。ある意味自然は楽しくもありそして危険でもある。その中で、実感できるであるかわからないが自分が生きているということを体感してもらいたい。 又、自然を体験することに年齢差はなく、スキンシップの取り方を学ぶことを学んでほしい。
K 幼稚園	年長	父親	遊ぶ事から体力、知識を身につけてほしい。 ・生きものを大切にする。 ・無いものから、ものを作り出す。 ・自然のままを感じる 等 子供が大人になった時その子供に、教えてあげる事ができる様に、体験してほしい。
K 幼稚園	年長	父親	自然のありがたさを実感してほしい。
K 幼稚園	年長	父親	心の広い人間になってほしいです。
K 幼稚園	年長	父親	知識（食べれる草、食べられない草、毒のある生き物、そうでないもの）などを身につけてほしい
K 幼稚園	年長	父親	生物の命の大切さ、自然の大切さを知ってほしい 生物が安全に暮らせる環境を作り考えさせたい。
K 幼稚園	年長	父親	・生物を通して、生きる事の重要性 ・生物に対する自然の重要性 ・自然を通じた人間とおしのつながり ・自然体験での体力増進
K 幼稚園	年長	父親	・生き物や草花の成長の課程を、興味持って見守ることにより、それらの尊さを学んで欲しい。ひいては子供の善悪を正しく判断できる感性を持って欲しい。 ・子供が成長し、私達と同じように大人になり、その子供達に楽しくその体験を伝えるように多くの経験をさせてあげたい。
K 幼稚園	年長	父親	旬を人より早く感じ取り、さまざまな環境を乗り越えと共に素直で元気な子供になってほしい。
K 幼稚園	年長	父親	他人 or 大人他が想像もつかない遊びをみずから考えて自由に遊びをしてもらいたい。又、その中で生命の重みを感じてもらいたい。
K 幼稚園	年長	父親	痛みの分かる子になってほしい。
K 幼稚園	年長	父親	・好きであれ嫌いであれ、まず経験を！
K 幼稚園	年長	父親	生命の大切な、自然の営み、バランス感覚、運動神経等、伸びるように期待する。
K 幼稚園	年長	父親	自分や友達・兄とかかわりながらのしく遊ぶ、作る
K 幼稚園	年長	父親	生物・植物・生命のすばらしさを、今は理解できないでしょうがいずれ気付いて欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	・創造力を養うこと ・生命の存在
K 幼稚園	年長	父親	自然とのふれあい、愛着、興味が生まれれば良いと思っています。 更に、自然の大切さを理解できたらなおベターです。
K 幼稚園	年長	父親	・自然の大切さ、環境美化への協力への気持ち为基础として他人への思いやりのある優しい子供になって欲しい。 ・自然の恐さ（川遊びでの危険等）を通じて、危険に対する意識を深めて欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	想像力 協調性
K 幼稚園	年長	父親	生き物、植物に興味を持ち、自然を大切にしたい気持ちを伸ばして欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	・自然に対する知識・理解を深めること ・物が無い環境での生活というものを考える機会になること ・人との交流が普段以上に必要だということに気付くこと ・楽しいっていいことだと気付くこと
K 幼稚園	年長	母親	植物や、動物など命ある全ての物に対して、優しく大切に接していける心が持てるように期待しています。
K 幼稚園	年長	母親	虫にも弱肉強食の世界がある事。植物も生きているという事。等を理解して欲しい。自分で出来ない事は助けてもらい、人が困っている時は助けてあげるといふ”協力する事”を学んで欲しい。家とは違って、ふざけたり秩序を乱すと危険な事がたくさんあるという事を学んで欲しい。自分の得意な分野を見つけて欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	四季のうつりかわりを体験して覚えて欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	季節の移り変わり、季節ならではのこの行事などを身体で体験し、感じ取ってほしい。 生き物、植物なども、実際に見たりさわったりして、感じてほしい。又、育てることによって、生命の神秘、命の尊さを知ってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	発見する喜び、視野を広げるため。
K 幼稚園	年長	母親	自分で考え、臨機応変に物事に対応できるように成長してほしい。
K 幼稚園	年長	母親	生き物と接する事で命の大切さを知ってほしいです。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年長	母親	・思いっきり体を動かして、外の空気を吸ってほしい。 ・草花・虫たちが生きている！とゆう事がわかる様に
K 幼稚園	年長	母親	自分でもやればできる自信や勇気が身についたらと思います。
K 幼稚園	年長	母親	・同じ年代の子供と遊ぶ事は良い事だと思います。遊びを通して、仲間意識を強く持ってほしいと思っています。ルールも覚えて仲良く遊べる事を学んでほしいです。 ・出来る出来ないを比べるのではなく、やる気をさそいだし、1つの事に持続させる意欲を持ってほしいです。
K 幼稚園	年長	母親	体験して自分の目で色々感じてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	自然を相手にして体験することにより人間性をおおらかに大きく成長してほしい。
K 幼稚園	年長	母親	自分で考える力。ゲームでは得られない自然のぬくもりを感じて欲しいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	特に期待というのはないが自然体験をして楽しさやいろんな事を知ってもらえたらいいなあーと思います。
K 幼稚園	年長	母親	・お友達とたくさん遊ぶ事によって、自然に思いやりの気持ちももてるようになってほしい。（ありがとう、ごめんなさいが素直に言える） ・生き物に対して、いのちの大切さを感じてほしいです。
K 幼稚園	年長	母親	沢山の子供同士で自然体験をすることで、子供達の縦の社会を学んでもらいたいです。 最近、少子化のせいか、（年下の）小さい子供達と上手に遊べない年下の子供が目につきます。他にも、年上の人に、年上とも思っていない様な言葉使いや態度をする子供も、気になります。 遊びを通して、大きな子は、年下の子供に、危険だからしてはいけない事を教えたり、小さい子供は、年上の子が守ってあげなければいけないと言う様な事（意識）も学んでくれたらと思います。（最低、これくらいは・・・） あと、命の大切さも学んでくれればと思います。
K 幼稚園	年長	母親	楽しい遊びはゲームだけじゃなく自然な物を使って遊べるという事がわかればいいなあと思います。
K 幼稚園	年長	母親	普段は感じられない、生き物や植物の様子を通じて心が豊かになってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	生き物を大切に思いやりの心を育ててほしい。
K 幼稚園	年長	母親	・物を大切にすることを養ってほしい。 ・食べ物や飲み物がどこからきているのか。（野菜や果物がどうふうにできているか、水を使うとどこにいくのか等）を知ってほしい。 ・何かするにしても、どこまでが安全でどこから危険かを自分で判断できる様になって欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	自分の目や耳で実際に自然を感じるようになってほしい
K 幼稚園	年長	母親	・大きな怪我をしない範囲で自然の楽しさ、厳しさが分かる。 ・お金をかけなくても、遊ぶことができる又その楽しさを知る。
K 幼稚園	年長	母親	たくましく元気な子であってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	子供達には、TVやゲームで遊ぶより外で遊ぶようにしてきました。 そのせいか毎日毎日幼稚園から帰ってくると公園、空き地、虫取り等に出かけるようになり、ほとんど家にいない子供達です。自然の中で遊び虫や花や土で遊び、ボールを投げて体を動かして体の強い子に体力のある子に、病気に負けない子に育って欲しいです。
K 幼稚園	年長	母親	自ら遊びを工夫してほしい。 （遊具なしで、楽しくあそんでほしい）
K 幼稚園	年長	母親	・想像力が豊かになる ・視野が広がる ・友達との協調性が生まれる ・自立心を育てる
K 幼稚園	年長	母親	自然の生物を大切にす る よごさない
K 幼稚園	年長	母親	・草木や虫等に接する ・心の発達 ・体力づくり
K 幼稚園	年長	母親	自然にふれることで、季節感や感性・生命の大切さ、自然のありがたさを感じたほしいです。 実家が田舎なので、時々つれていって、蛍やかにとり、虫、田植え、茶つみ畑の作業など星を見ること等、興味をもってくれるように心掛けています。
K 幼稚園	年長	母親	生命の大切さ 自分1人のことだけでなく周りのこと、後先のことを考えられる様にしてほしい
K 幼稚園	年長	母親	我が家は家庭菜園で、きゅうり、なす、トマト、とうもろこしなどを作っています。子供にそれらの野菜がどの様にして実をつけるのか知って欲しいという思いもあります。 幼稚園児の段階では、自然体験も大事ですが、他に色々な体験をする事がこれからの人生を送っていく上でこやしになると思いますので、特に自然体験に限らず、いろいろな事に興味を持って、取り組んでいってほしいと思っています。 いろいろな体験をして、心の豊かな人になってくれればよいと思っています。
K 幼稚園	年長	母親	生命の大切さ、思いやり等期待しています。
K 幼稚園	年長	母親	今年も夏休みに家族でキャンプに行きます。テレビも電気もゲームもない、テントで泊まること。自然の中で遊びを見付けて遊ぶ。”遊び道具なんていらぬ遊び”を見付けて、自分で考えてたくましく、なってほしい。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年長	母親	体づくり 心づくり 生命の大切さ
K 幼稚園	年長	母親	自らの体験でして危ない事、楽しい事、草花や動物に対する思いやりを学んで欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	心が豊かになって、心が安定すること。 人間の自然な営みを実感して、人間らしい感情を持ってほしい。 自然を大事にする心を養ってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	自然の物でもいろいろ作ったり、遊べるという事をたくさん経験し、創造力を付けると共に物を大切にしている様になって欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	・植物や、虫などの命の大切さを知って欲しいため。 ・木々がゆれる音などの自然を感じて欲しいため。
K 幼稚園	年長	母親	虫などぜんぜんさわれない子なのできわっても大丈夫な虫がいる事を知って欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	生命の大切さや自然のすばらしさ、恐さなどを知ってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	心の豊かさ、感受性豊かに育ててほしい。
K 幼稚園	年長	母親	自然の怖さ、素晴らしさ。 生命力の強さ。
K 幼稚園	年長	母親	小さな生き物を通して、命の大切さ等を学んでもらいたい。
K 幼稚園	年長	母親	便利な物がいろいろある中で自然の中でくふうをする、考える、みつけると言った事を学べばいいと思う。
K 幼稚園	年長	母親	・自然の空気、音、臭いを感じてほしい。 ・植物や小さないきもの等の命を感じてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	キャンプによく行くので、虫とり、つり、川遊び、夜中の探検等。普段体験できない様な事を中心に過ごしています。 テレビやおもちゃ以外の楽しみが発見できて、貴重な体験だと思います。
K 幼稚園	年長	母親	精神的・肉体的成長
K 幼稚園	年長	母親	創意工夫できる様に、又、協力して何かを作りあげてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	テレビや本、完成されたおもちゃでは想像力が育ちにくいと思うので、自分で見て、触れて、育てて、豊かな心と柔軟性のある考え方ができる様になればと思う。
K 幼稚園	年長	母親	池・川で正しく遊んであぶない事は、あぶないと分かって欲しい。山・林に入って虫をつかまえてかわいがったりもして欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	自由な想像力がつくこと
K 幼稚園	年長	母親	自然にふれあう事により自立心、子供の成長に刺激をあたえられたらいいと思っております。
K 幼稚園	年長	母親	・生き物に対しての気持ち ・楽しさ
K 幼稚園	年長	母親	生き物に優しい心を持てるようになってもらいたい。 新しい発見を常にしてもらいたい。
K 幼稚園	年長	母親	自然体験を通じて自分自身の体でなにごとも体験し、痛さや、きもちよさ、におい、を感じてもらえれば、人に対する気持ち（こうすると痛いだらうなあーとかよるこんでもらえるだらうなあー）をわかってくれるんじゃないかなあー？と思っています。少しぐらいの危ない事は身をもって体験すれば、自分自身痛さもわかり、他人には、こういう事はしてはいけない！とか人を傷つけたりしてはダメ！と言う気持ちを持ってくれればうれしいです。
K 幼稚園	年長	母親	身近な自然を通じて、地球環境の事について、考えることができるようになってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	生き物、昆虫、植物などに対して興味を持ってくれればいいと思う。
K 幼稚園	年長	母親	私自身そうでしたが、時間も忘れて、遊びにぼっ頭する事は、これからの色々な事に対する集中力を養うことにも大事だと思います。何も物は無い自然の中でいかに自分達で創意工夫して楽しい遊びを考え出すかという事は子供の想像力や考える力を養うと思います。今の環境では難しいかもしれませんが、出来るだけ自然の中で子供時代を過ごさせてやりたいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	ハチなど危険な虫などもさわろうとするので、自宅で飼えるものと飼えないもの（さわっていいもの、いけないもの）がいることを知ってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	・自分で考える力、工夫する力、発見する楽しさ ・新鮮な感動等ものにはかえられない思い出を持ち、自分の子供に伝えたり教えたりできる事
K 幼稚園	年長	母親	生きて行く為に、火も、水も、土も役立っていることを年長組のキャンプで、宿泊をしてわかって欲しいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	いろいろな生き物や草花を見つけたり、家の中だけでは知り得ない事を体験してほしい
K 幼稚園	年長	母親	自然を通して、花や木を見て美しいと感じたり、虫など命の大切さなど感じて欲しいと思う。また、それらを通じて友達とあそぶ事により、精神面で強くなってもらえたらと思います。
K 幼稚園	年長	母親	自然を相手にしていろいろ体験することにより、人間性をおおらかに大きく成長してほしい
K 幼稚園	年長	母親	生き物にはすべて命があることを知り、命の大切さを知って欲しい。 実際に見たり、聞いたり、触れたりすることで、本で見るだけでは感じることでできない事を体験し、いろんなことを感じる人間になって欲しいと思う。
K 幼稚園	年長	母親	家の中でこもらず外で走るなどして外での遊びの楽しさを知ってほしい。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様に期待しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年長	母親	最近いろんな事などがあり、自由に一人で行けないようになってきています。その中で、少しでも自然にふれる機会を作っていけるようにしてあげたいと思います。 毎日園から帰って友達や姉妹で外で元気に遊ぶ姿を見ると、とてもうれしく思います。 自然体験が出来る集まりなどがあれば、積極的に参加したりしています。
K 幼稚園	年長	母親	友達とお互いを助け合う心、勇気
K 幼稚園	年長	母親	自然の不思議、生命の不思議を身をもって知る。 子に何かを期待して、自然体験をさせたい訳ではない。 親子で楽しいと感じたりする日常の延長の中に自然体験がある。
K 幼稚園	年長	母親	・生き物の大切さなど分かる子 ・やさしい子
K 幼稚園	年長	母親	・心身共に強くなること。 ・色々なものに命がある事→何でも大切にできる心、何でも感謝できる心を持ってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	外で友だちや年上、年下の子と遊ぶ事で協調性を学んでいけると思っています。また、体力増進にもつながり、元気で明るい子になってくれたらと思います。
K 幼稚園	年長	母親	植物や生き物にも生命があり、大事にしてあげてほしいこと 自然の物を使って自分で遊びを考えてほしいこと
K 幼稚園	年長	母親	自然に目を向ける事により、多くの事を学べる様に思う。畑で、沢山の野菜などを育てている祖父母とふれあう事により、私たちがだけと生活していた子供とは、また違った表情を見る事が出来た。家でのプランターに夏野菜を育てはじめた。子供は、毎日大きくなる野菜を心から喜び、感動し、ありがたく、口にしている。私が、子供にさせてやれる、自然体験は人きい事ではないが、出来るかぎりさせてやりたい。 自然体験で学んだ事は、答えは1つでなく自分で考え行動する力も養ってもらえる気がする
K 幼稚園	年長	母親	草、木、花、空、風など五感で、季節の移りかわりを感じられたいと思います。 どこか遠出するというのではなく、身近な家の周りの自然から、いつの間にか、身に付いてほしいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	男の子も女の子も年齢がちがう子も体をつかって遊ぶそして子供と子供のつながりや楽しい思い出をつくってほしい
K 幼稚園	年長	母親	人間やすべての生物は、水、太陽（光）、空気、木、土に生かされていることを学んでほしい。 そして、その為には今、自分たちのできることは何か考えてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	自然とふれあう楽しさや、自然のこわさを知識として体験を通して知って欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	虫がどのように成長していくのか。花がどのように成長していくのか等、ごく普通のことを知ってほしい。すべて機械化されている今の生活では、理解できないのが自然の方だと感じてしまわないように、色々な事に興味を持ってほしい。最近ではきれいに造成されてしまった土地では、ミミズでもめずらしく、子供にとっては苦手な存在になっているようだ。池にはアメンボがいたり、川には小さな魚がいたり、そういうごく自然な生活があるということを知ってほしい。 星空さえ、きれいに見れていないような気がします。
K 幼稚園	年長	母親	・四季の移り変わりを感じて欲しい ・スリル感を味わって欲しい
K 幼稚園	年長	母親	子供の時の良い思い出、楽しい気持ち、気持ち良さ、生き物とのふれあい、探求心、好奇心、感觸、きれい、におい、とおく、ちかくなどの感覚。お日様にあたること、水にぬれること、きをつけるべき虫や生き物について知ること。
K 幼稚園	年長	母親	人間の持つ五感を目覚めさせ、感性を豊かにさせる事が自然体験には可能だと思うし、子どもには、“気づく”という事で心が広く豊かになって欲しいと思う。
K 幼稚園	年長	母親	ゲームやおもちゃでしか遊べなくなりつつある今の現状から、自然での遊びの楽しさを発見し、体をよく動かし、人との関わり、動植物とのつながりなど、生きていく上で、関わりあっているということを幼少期から自然に身につけてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	いろんな自然体験を通して友達を増やしたり、豊かな感性を作りあげる。
N 幼稚園	年長	父親	心身共に健康になって欲しい。 野菜や果実を栽培することで食物のありがたみを知って欲しい。
N 幼稚園	年長	父親	自然とかそういう事も大事だけでもっと外で遊ぶことをしてほしい。 最近ではケガをさせたらいけないとか親の顔をうかがいながらの教育になってきているような気がする。しつけと暴力のちがいがいなど子供は分かるものだと思います。もっと心をこめてしかってやってほしいです。
N 幼稚園	年長	父親	生き物に対する思いやりを感じてほしい！ 遊びを通して色々なことを学べると思うので外で自分の思う存分遊んでほしい時がある
N 幼稚園	年長	父親	子供のころの楽しい思い出づくりと次世代に自分の経験を伝えてほしい。
N 幼稚園	年長	父親	TVゲームや遊具にたよらず自分で考えて遊ぶ事を覚えてほしい
N 幼稚園	年長	父親	・食べ物大切さ、と感謝の気持ち 野菜や動物を一所懸命育てる人がいるから食べられ大きくなっている。動物は殺されて人間に食べられるから、自分は生きていくことができる。といった感謝の気持ちを持って欲しい。 また、そのためには太陽、雨、土、色々なものに支えられていることを知って欲しい。 (まず不思議に思っただけでいい)
N 幼稚園	年長	父親	虫とかを子供にさわらせてあげたい

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様にご期待しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年長	父親	・友達同士の交流の為 ・自然から学ぶ、メンタル的な事 ・基礎体力
N 幼稚園	年長	父親	子供同士の思い出と協調性
N 幼稚園	年長	父親	草花や小動物との触れ合いを通して、自然の大切さや生命の尊さを、肌で感じ取る事が出来ればいいと期待します。
N 幼稚園	年長	父親	動物や植物、土や川や海も生きているということ、命の尊さ!!を知ってほしい。 自然を守る人間になってほしい。
N 幼稚園	年長	父親	・自然と共に生きる、体や心のリズムを得てほしい。 ・自然から得られている、おだやかな感情を得てほしい。 ・自然についての美への感覚。 ・自然と向き合ったときの忍耐力。
N 幼稚園	年長	父親	自然体験を通して、自分で何が出来るのか自分で課題を見つけ自ら学び、自ら考える力、命の大切さ、思いやりのできる豊かな心をはぐくんでほしい。
N 幼稚園	年長	父親	自然体験を通して色々な動植物を観察しさまざまな生態を知り、現在あるもので工夫し物を作る様な子供であってほしい。
N 幼稚園	年長	父親	日常生活、世の中の常識や道徳（滑り台で順番に並らぶとか蜂やうし等気をつけなければならない動植物）を学んで欲しい。
N 幼稚園	年長	父親	自然の内での本当の協力や個々の自律・・・etc
N 幼稚園	年長	父親	自然体験を通じて、まだ子供には少し難しいかもしれませんが自然のすばらしさを感じ、やさしい心を持った子供になって欲しい。また創造性豊かになり、いやな事柄も自分の力で乗りきれぬ力を持ってほしい
N 幼稚園	年長	父親	生物、植物等の命の大切さ。又色々な物を自分の目で見て、視野を広げて欲しい。
N 幼稚園	年長	父親	生物の生死や物事を深く考え元氣な子供でいてほしい。
N 幼稚園	年長	父親	自然の中で育つ事により、自然の知識を知る事と精神的と肉体的に健全に育ってほしいと思います。
N 幼稚園	年長	父親	やはり、第1に肉体的に健康な子に育って欲しい。 第2に自然体験を通して、命の尊さ、自然の美しさ等、自分で考える力を養って欲しいです。
N 幼稚園	年長	父親	虫とり木登や土でだんごを作ったりし、自然の物で、どの様にしたらうまく出来るか考え、工夫・失敗悲しみ成功すればよろこんだ。そんな自分の心・身体に直々に体験してもらえればよいが・・・
N 幼稚園	年長	父親	自然体験に限らず様々な経験の積み重ねが健全に成長する為に必要だと考えます。
N 幼稚園	年長	父親	大小さまざまな動植物が生きているという事を少しでもいいので知ってほしいです。
N 幼稚園	年長	父親	感情豊かな子になってほしい。
N 幼稚園	年長	父親	ケガの無い様に！
N 幼稚園	年長	父親	親と子の共通の会話、やしゅみを持つことよってのふれあい。 新しい事を、発見する事のよろこび、自然の美しさを知って、自然を大事にしていく、気持ちをもって欲しい。
N 幼稚園	年長	母親	幼い頃にしか出来ない体験を通して感受性の豊かな子供になってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	きれいな物を見てきれいだと思う心。 命の大切さ。 などを感じとってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	自然の変化をTVや本だけでなく、実際にさわったり体験して、感動してほしい。
N 幼稚園	年長	母親	「寒い」「暑い」「熱い」「冷たい」「痛い」「あたたかい」等五感にうたえてくるものを素直に受け止めて欲しい。
N 幼稚園	年長	母親	のびのびとおおらかな心の持ち主になる事と自然を通し体を動かす事で感情豊かに体を動かし汗をかくことの大切さややさしさを身につける子供になる事。
N 幼稚園	年長	母親	草花にも命がある事を知ってほしい。 花を見てきれいと素直に感じる気持ちを育てたい。
N 幼稚園	年長	母親	昨年の夏休みに、木片・木の実細工教室というのが開催され、子どもをつれて行き、公園などでも何がなく落ちている木片でも、たくさんあつめて、アイディアで何かの形にするというとても素晴らしい体験教室でした。子どもも2~3時間の間ずっと目を輝かせ、木片で体の部分を作りどんぐりなどで目を表したり、色々な発想で、一つの作品を仕上げていました。このように自然体験を通し、発想豊かな子供になってほしいなあと思います。
N 幼稚園	年長	母親	・のびのびとした心 ・生き物を大切にする
N 幼稚園	年長	母親	いろいろな物（生物・植物等）に興味をもってほしい。 広い遊び場で思いっきり体を動かして遊び、おおらかになってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	作ったり、収集したりする楽しさや難しさ、物には命があるという事。
N 幼稚園	年長	母親	自然のすばらしさや楽しさ、時には厳しさ
N 幼稚園	年長	母親	自分で考えて行動できるようになってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	家ではできない遊びができると思う。 ・出さがし ・木の実や葉で何か作ったり。 *男の子なので出が大すきです。

Q5. お母さま・お父様は自然体験を通して何をお子様にご期待しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年長	母親	昔のいいところ、不便なところ、現在のいいところ、不便なところをきっちり理解して、現在のテレビやゲーム等にとらわれず、昔のいいところ、現在のいいところを使いこなしてくれるようになってくれたらと思います。 今の子は、飲水といえば→ペットボトルに入っている 売っている。 虫といえば→ペットショップに売っている。死んだらまた買えばいいという発想。そうでなく、昔は湧水があり、井戸がありという発想はなく、虫もどういふふうにどういふところにいるのかさえ知らない子が多いと思います。自然にふれあい、1つ1つのことをもっと深く感じ、もっと深くしてほしいと思います。
N 幼稚園	年長	母親	多数で遊べる様になれたら良いと思います。
N 幼稚園	年長	母親	のびのびと元気に遊び、おおらかな心をやしなってもらいたい。子供らしさをひき出してほしい。
N 幼稚園	年長	母親	たくましく強い子に育ててほしい
N 幼稚園	年長	母親	・やさしい”心”人を大切にする気持ち
N 幼稚園	年長	母親	自然の中での生きものの育ちを知ってほしいです。 最近ボーイスカウトの体験にいかせました。武庫川まで歩いて行ってパンの生地をこねて焼いて食べたそうです。すごく楽しかったそうです。外で自分の手でパンの生地を丸めて焼くという事は自然にとってとてもいい事だと思います。家では、なかなか経験させてあげられない事をボーイスカウトでは自然での体験をさせてくれるので子供にとっては良い思い出になると思います。
N 幼稚園	年長	母親	土いじり、水あそび、泥んこあそびなどは、無心になって集中して、それでいてとても楽しい事だと思います。(大人になっても無心になり集中できるってスバラシイ！！ですね。今の私にはそういう時間はあまりありません。)でも近くに公園がなく、少しはなれているので、親がついていかなければならないという現実になかなかそういうあそびを(時間的に余裕がないので)満足させてあげられなくて、申し訳ないなあと思います。 一人でもあそびに行ける様にもさせたいですが、なにか事件に巻き込まれればともどもありません。近所でも不審者が出たことも1年に2~3回は聞きます。私は”うちにきざって”なんて思いませんただ運よく事故にも事件にもあわずに今までこれだと思っています。これからもそうでしょう。 ちょっと質問の答えには適切な回答でなかったですね。スママセン
N 幼稚園	年長	母親	例えば、小さい頃に感動した体験はそのまま心が体がおぼえており、小さい頃に感動した事に将来の夢へあてはまることが多いため大人が考えるよりまずいろんな事ものにふれさせそのことがどのように感じたかを大切にさせたいと思っています。
N 幼稚園	年長	母親	植物(緑のもの見たりして)などを通して良い空気を吸い、身体が強くなってほしいです。
N 幼稚園	年長	母親	自然の恵みのありがたさ、厳しさを知ってほしい。自分達がどれだけ豊かで恵まれた環境で生活しているか気づいてほしい。
N 幼稚園	年長	母親	自然を理解してほしい。
N 幼稚園	年長	母親	私が自然体験を通して何を学んだか、ということはいませんが、たんぼぼをたくさんつんで、くびかざりを作ったことも、学校帰りにスカンポのくきをかじったことも、ザリガニつりをしたことも、とても楽しい体験でした。時代も地域も違うので無理もありますが、自分が楽しくて楽しくてたまらなかったことを、わが子にも一つでもたくさん体験させてあげればと思っています。
N 幼稚園	年長	母親	・命の大切さ ・物質に頼るのではない創造力 ・体をきたえる
N 幼稚園	年長	母親	尼崎でふだん生活しているとな海川での自然や虫や植物などのふれあいがなかなか出来ないのだからここで出来ない体験はさせたい気持ちは充分あります。
N 幼稚園	年長	母親	私たちの時代とちがって子供も少なく上の子供たちと遊ぶこともあまりないのでかわいそうに思います。 みんなで力を合わせて作ったり遊んだりさせてあげたいです。
N 幼稚園	年長	母親	この世無駄な生物は存在しない、全ての生息物にはその存在価値があるという所から生きる事の意味、命の尊さを感じてほしいです。
N 幼稚園	年長	母親	発見、記憶、心地良さ、感觸、刺激 etc とにかく感じて、楽しんでほしい。危険も知ってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	自分ではできない、いろんな発見や体験をして、人間として、大きくなってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	自分の身近に大きく生物や食物があることを気づき、手でふれ、多くの事を感じてほしいです
N 幼稚園	年長	母親	体力をつける。体を使って遊ぶ。 遊具がなくても、自分で創造して友達と遊ぶ。自然の中で、楽しい経験をたくさんして、自然を大切にしようという意識を持たせる。危険な事の判断をつけさせる。勉強するだけでは学べない心の栄養となる自然体験からたくさん学ぶ。
N 幼稚園	年長	母親	子供らしい、男の子らしい遊びをできるだけしてほしい。
N 幼稚園	年長	母親	自然の良さを知ってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	生き物を育てたりする事によって命の大切さや、思いやりを持たせたい。 自然体験は”遊び”だと思う。多くの自然の中で、たくさん遊んで、遊びを深めていきたい。その中で、勉強へつながる事は多い。ゲームも、子供は大好きですが、より記憶に残っていたり、興味のある事は、外遊びです。楽しいだけでなく、自然の中の、怖さも知ることができ、将来、役立つかもしれない。尼崎は、土や緑が少ない。子供は、なぜ、山が見えないの?と聞いてきました。大きいビルもかっこいいけど、山や川や海的美しさの分かる子供でいて欲しいです。

Q6. 最後にお子様と自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年少	父親	期待していません。親がやる事です。普通にできる事をして下さい。いつもおつかれさまです。
K 幼稚園	年少	父親	園外にも本物の自然は存在せず、犯罪の等のリスクのみ高まる。よって、外に拘執せず、子供が自ら発見し、創り出せる教育を行う。 世間一般に言う「自然」が本当に自然であるかを考え、本物の自然を子供達に体験させられる設備を整える。 (現状のメダカ飼育、竹うま(竹使用) 造り等は良いと思う。) 例) キャンプ=○ オートキャン=× ハイキング=○ サイクリング=× etc
K 幼稚園	年少	父親	適当な場所(川や田畑)があればそこでの体験が良いと思いますが、園庭での裸足の時間や、あさがおやひまわりを植え、育てるなど肌や視覚に訴える方法を取って頂ければと思います。
K 幼稚園	年少	父親	室内での工作も大切であるが、もっと多く自然学習を取り入れて頂きたく存じます。友達と共に色々な体験をし、何かを感じ取ってもらえればと思っています。もっと多くそのような機会を設けて頂ければ幸いに存じます。宜しくお願い致します。
K 幼稚園	年少	父親	私の趣味の釣りです。
K 幼稚園	年少	父親	・家庭ではなかなかできないこと(例:小動物の飼育や野菜などのさいばい、キャンプetc)を体験させてほしい。 ・いろいろな生き物がいることを、教え、小さな命の大切さを理解できるようになってもらいたい。
K 幼稚園	年少	父親	・もっとひんぱんに自然にふれる事が大切、月1回以上は、ハイキングに行くとか、他園児(田舎・地方の)との交流等。
K 幼稚園	年少	父親	自然で採ってきたメダカ、昆虫等子供達に育てさせ、命の尊さを教えてほしい。 また親も一緒に自然体験出来る機会を作ってもらえればありがたい。
K 幼稚園	年少	父親	経験豊富な指導者のもと、いろいろな体験をさせてみてほしい。
K 幼稚園	年少	父親	生物の成長の喜びから、命の大切さを教えてほしい!
K 幼稚園	年少	父親	絶対に束縛はいけないと思う。時には対人関係においてある程度のケガはつきものです。それを少しづつ乗り越えていってはおじめて自然とうまく対話出来るんじゃないでしょうか。確かに悪い事は悪いと教育するのも親の責任ですが、私らの子供時分の教育とは幾分今は、違っていると思います。きつく言えば大海に放り出す様な教育をして欲しいです。時には愛の”ムチ”も必要だと言いたいのはアメとムチの使い分けです。
K 幼稚園	年少	父親	植物、動物等の生命の大切さを知らうため、何かを飼育する事を要望します。
K 幼稚園	年少	母親	もう少し園外保育をしてほしい。 特にK幼稚園は園庭がせまいので広い所でのびのび遊ばせてほしい。
K 幼稚園	年少	母親	自然とふれる中で季節感等感じられる様なことをしてほしい。
K 幼稚園	年少	母親	K幼稚園は、園庭が狭いので、身近にある田んぼや畑に行き、昆虫をつかまえて行ったりしてほしい。
K 幼稚園	年少	母親	たとえば春のいちご狩りや秋のくり拾い、いも掘りなど楽しいじゃないかと思えます。身近な食べ物スーパーのきれいなバックでなく、土と共にあるのはおどろき&発見です。
K 幼稚園	年少	母親	自然のものを利用できる。知識、想像力をつけてほしい。
K 幼稚園	年少	母親	外あそびと室内あそびをバランスよくとり入れる
K 幼稚園	年少	母親	季節や天候に添う遊びを友達と共有できること
K 幼稚園	年少	母親	遠足などで、林間学校のような事をしてもらえたら。 年長でのお泊り保育も、園ではなく、外でできたらいいのですが・・・ もしくは月(1学期)1回でも、園の横の公園ではなく、いつもと違う環境に、年長と年少(年中)がペアになって、遊びに出てほしい。 場所や友達が変わると、新しい発見ができそうなので。
K 幼稚園	年少	母親	幼稚園には”集団行動と個人行動の違い”を学びに行かしているつもりなので、特に、幼稚園に対して、要望はありません。
K 幼稚園	年少	母親	チャンスがあればいろんな事にチャレンジできるように・・・ 季節ごとに(生き物の事とか)おしえてあげてほしいです・・・
K 幼稚園	年少	母親	草花・木など実際に手にとり、それらを使って遊べる事を教えてほしい。 キャンプやハイキングなどをして自然体験をしてほしい。
K 幼稚園	年少	母親	様々なあそびを思う存分楽しめるよう制服ではない、あそび着等の服を作って欲しい。短パンツ、スカート等ではケガが心配です。
K 幼稚園	年少	母親	・いろいろな生き物がいるということ、また飼育などして、体験させてもらいたい。 ・実物にふれて、見る聞く感じるという過程も大切にもらいたい。 「幼稚園で”うこっけい”にかまれた。」とか、「うさぎはびんびんしてたー!!」と話を聞くことがあり、いろんな経験をしているのかなと思う。
K 幼稚園	年少	母親	幼稚園では、いろいろな事経験させてもらい、本人も親も喜んでます。 今後も、家ではできない事を積極的に行ってほしいです。
K 幼稚園	年少	母親	本物の生きもの、植物、景色を、どんどん見せて、ふれさせてやってほしいと思います。
K 幼稚園	年少	母親	お友達と一緒に外遊びの遊び方、歌やルール等教えていただけると、外への興味も、もっと出るといいなと思います。
K 幼稚園	年少	母親	季節の草花の名前を教わったり、自然の中で関わる物の名前を学んでほしい。

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年少	母親	絵を書くとき、花や鳥や虫の図鑑を見て書くのではなく、本物を見て、書かせてほしいです。 園児の割に園庭が小さいのでとなりの公園で思いっきり遊ばせてほしいです。 先生方は、大変だと思いますが、泥んこになって、泥だんごを作ったり、土をほって川を作ったり、トンネルを作ったりして思いっきり、あそばせてあげてほしいです。
K 幼稚園	年少	母親	幼稚園に対して、特に期待はしておりません。 要望と言えば、親子で参加できるキャンプなどを季節ごとに行ってほしい。
K 幼稚園	年少	母親	1つ1つの教室に自然の水の中で生活する生き物を置いてそれをみんなで育てたり観察したりできる様にしてほしい。 はだしでも体験できる授業をしてほしい
K 幼稚園	年少	母親	K 幼稚園はクラブ（飼育）や夏はキャンプファイヤー等、積極的にしていただいています。
K 幼稚園	年少	母親	・どろんこあそび ・田植え ・ざりがにつり ・山登り（葉っぱや虫みつける）
K 幼稚園	年少	母親	・園外活動を増やしてほしい。
N 幼稚園	年少	父親	年に数回は、ハイキング、山登りなどを積極的に取り入れる。（保護者同伴も可）
N 幼稚園	年少	父親	自然の大切さを教える事。
N 幼稚園	年少	父親	遠足や日頃体験しづらい事を希望する。
N 幼稚園	年少	父親	特別にどう、とは思っていませんが、家（屋内）で遊ぶ事、外で遊ぶ事、いずれも同じ様に無理なく楽しめる様であれば良いと思います。
N 幼稚園	年少	父親	自然に関する事は親の努めだと思います。 幼稚園には子供達の社交性、年齢に応じた知識を教えて頂きたいと思っています。
N 幼稚園	年少	父親	虫、植物、小動物の飼育。
N 幼稚園	年少	父親	たくさん外で遊ばせてほしい。
N 幼稚園	年少	父親	体験学習を増やしていただければ。
N 幼稚園	年少	母親	要望も何も、毎日幼稚園へ行かせてもらってるだけで、同年代の子と接してるし、家でも色々話を聞かせてくれて楽しく行っているようです。 期待とか要望というより、今のままで充分ありがたいですし、何とゆうかこれからもよろしくお願いします。
N 幼稚園	年少	母親	草花の大切さなどを教えてほしい。
N 幼稚園	年少	母親	できるだけ外で遊ぶ事ができたらと思います。その中で、友達とどう関わっていったらいいのかを学んで欲しいと思います。 昔、自分自身幼稚園で花の蜜をすった事があります。（サルビア）花を大切にしないといけないとは思いますが、懐かしい体験だったと思います。
N 幼稚園	年少	母親	園庭で裸足で遊ぶ機会を作って欲しいです。
N 幼稚園	年少	母親	なかなか家では生き物を飼ったりできないので、園で体験できればいいな一と思っています。
N 幼稚園	年少	母親	草花のある場所に行ったり、いろいろな虫をさがしてみたりしてほしいと思います。
N 幼稚園	年少	母親	今のままでいいと思います。 自分で芋をほったり、玉ねぎをぬいたり、ふだん体験できない事をさせてもらっていると思います。 お芋は、育てられますが、野菜はなかなかむずかしいですので・・・。
N 幼稚園	年少	母親	農園があったり、外遊びをさせていただいているようなので十分。
N 幼稚園	年少	母親	このあたりは川遊びができるような所がないので、遠足でそのような場所に行けるといいと思います。もちろん、危険も一緒に教えて頂きたいと思っています。
N 幼稚園	年少	母親	・草花をたくさん増やしてもらってふれる時間をたくさん作ってほしい。 ・動物や昆虫なども一緒です。たくさんふやしてほしい。
N 幼稚園	年少	母親	外でのすな遊びや、プール、畑での野菜の栽培など、家では少しできそうにないことなどたくさん教えてほしいです。
N 幼稚園	年少	母親	屋外で遊ぶ時間を増やしていただきたい。子供は、元気に走り回っているのが一番です。
N 幼稚園	年少	母親	草花の種をまいたり、野菜を作ったり、人の口へ入るまでの過程を知り、自然に感謝すること。 自然の物の成長する姿を観察できること。
N 幼稚園	年少	母親	園庭での、草木の葉や花の観察に時間を少しかけることや、自分たちだけでのイモ掘りなどの土との触れ合いなど。
N 幼稚園	年少	母親	・幼稚園には、一緒に遊んでくれる友達ができればと思っています。 ・満3歳で入園している為、まだ集団で遊ぶより一人で遊ぶことが多いので。
N 幼稚園	年少	母親	色んな四季の行事なんかをたくさんしてほしい。
N 幼稚園	年少	母親	土にさわらせてあげる 花などの色々なきれいな物を見る さわってはいけない物、など教えてあげてほしい

Q6. 最後にお子様と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年中	?	元気にのびのびと、子供同志のかかわりをたくさん作って頂ければと思います。
K 幼稚園	年中	父親	自然(草花、動物、虫等)と一体感を味わえる様な体験をさせて欲しい。
K 幼稚園	年中	父親	・遠足等を増やしてほしい。 ・食べ物を作っている農家の人の手伝いなどの学習なども取り入れてほしい。
K 幼稚園	年中	父親	広々とした運動場あれば、遊び方や方法も広がるのではないのでしょうか。
K 幼稚園	年中	父親	(自然の危険性を教えてもらいたいと共に、一方で多少のハメをはずすことを容認して自由に遊べる環境であることを希望する。) ・子供はある意味、生き物に対し残酷な面があります。そこから、命の尊さなど学びとることがあります。 ・木登りや川遊びは危険ですが、楽しいものです。制限をあまりかけずに、自由に遊ばしてほしいし、教えてほしい。
K 幼稚園	年中	父親	・園外保育や小動物(魚類、ハ虫類、昆虫含む)の飼育等 ・大らかな環境の場所への遠足、遊び。
K 幼稚園	年中	父親	山、川へ自然体験のために、行く機会をぜひ設定していただきたい。
K 幼稚園	年中	父親	外遊びや室内遊びを通して、さまざまな経験ができる様にいろんな事を教えてやってほしいです。
K 幼稚園	年中	父親	小動物の飼育
K 幼稚園	年中	父親	花や大人に囲まれた園舎、園庭づくり いも掘りなどの体験学習 エコ教育活動の実施
K 幼稚園	年中	父親	・この辺は自然に恵まれた環境なのでもっとそれらを活かした、自然学習、体験を期待します。
K 幼稚園	年中	父親	園外での活動や行事の機会を増やしてほしい。(保護者同伴でも可)
K 幼稚園	年中	父親	・はだして歩いてほしい ・写生会をさせてほしい(いっぱい)
K 幼稚園	年中	父親	外遊びで自然とむきあう、時間をつくってほしい
K 幼稚園	年中	父親	山登りや川遊びキャンプ等し、子供達に自然にふれてもらいたい
K 幼稚園	年中	父親	たくさんの同年代の友達と泥々になっていっぱい汗をかいて、つかれてるほど遊んでほしい。
K 幼稚園	年中	父親	わからない
K 幼稚園	年中	父親	のびのびと成長
K 幼稚園	年中	父親	田植えや畑の手伝い等を体験させて、食べ物の大切さを教えて欲しい。
K 幼稚園	年中	父親	・昆虫や魚の飼育体験→昆虫や魚の生態や一生について学ばせる。 ・近所の公園などの野外学習
K 幼稚園	年中	父親	子供達の意志(気持ち)を尊重し、のびのびと育てて頂きたい。同時に、それを邪魔する親達、例えば子供同志のケンカに出ていく親だとか、路上遊びの全てに苦言を呈する大人達の、教育のし直しもお願いしたいのは注文が多過ぎるでしょうか。
K 幼稚園	年中	父親	自然との関わりを積極的に持たすことは、家庭・地域の役割と考えます。 その中で、幼稚園は補助的な役割をはたすことが必要なのでは無いでしょうか? 集団教育であることのメリットを生かして、各季節行事を集団で行う、楽しさを教えること期待します。
K 幼稚園	年中	父親	何事も経験なのでいろいろな事を学ばせてほしいと思う。
K 幼稚園	年中	父親	あまり期待はしていない。
K 幼稚園	年中	父親	家族で行く自然体験の楽しさと、幼稚園での子供同士で行く楽しさ多くの楽しさを学んでほしい。
K 幼稚園	年中	父親	"積極的に自然と関わられるように"だけではなく、バランスよく教育してもらいたい。
K 幼稚園	年中	父親	私の子供のころは、川で遊んだり、池で魚釣り等をして遊んだりしていた。できたら、河原で魚を見たり、行で遊んだりして自然を体験してほしい。
K 幼稚園	年中	父親	自然と関わる機会を増やして頂く
K 幼稚園	年中	父親	・保育のカリキュラムに季節に応じた自然体験ができるものを取り込んでほしい。 ・園からもその遊び(自然体験)の危ない点、してはいけない点をよく教えた上で子供たちに遊びをすすめてほしい。
K 幼稚園	年中	父親	十分して頂いています。今のままでいいと思う。
K 幼稚園	年中	父親	安全面の配慮等で、困難なケースが多いかもしれないが、自然と触れ合う機会(海/川、キャンプ等)を設定することは出来ないか。(保護者同伴でも可)
K 幼稚園	年中	父親	今はあるのかわかりませんが、私が子供の頃は、臨海学校や林間学校を行ってみてはどうかと思います。
K 幼稚園	年中	父親	四季の移り変わり、天候の変化を実感させてやってほしい。そのためには、今、行事(七夕、遠足のイモホリ、イチゴ狩り)などを通して、今までの人間が自然の中で生活してきたかを説明してやってほしい。今日の七夕会で子どもと一緒に星を見た。自宅からは見えないので、今度は山の中に行き、見たいと思っている。自然と人間が、関わってきた行事や習慣などで子どもでも簡単にできるものを、体験させる機会をつくってほしい
K 幼稚園	年中	父親	野外活動等をする機会をたくさん持ってほしい。
K 幼稚園	年中	母親	どんぐり拾いや、芋掘り等の体験

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年中	母親	園児数が多い為、園庭がもう少し広ければいいなと思います。
K 幼稚園	年中	母親	公園でも野山でも外へ出る機会をふやしてもらい。その中でも課題を与えず自由に遊ぶ事。服のよごれやけがなどは、気にならないほうなので。(けがもいつかは治るのだし・・・) 遠足は自分の足で歩く!! バス遠足は好きじゃない。目的地に到着した時の気持ちを知る機会、頑張った結果を実感するというのをたくさんあわせてやりたい。
K 幼稚園	年中	母親	野外活動などを増やして頂ければと思います。
K 幼稚園	年中	母親	特別な事よりも、日本の四季や、日々の天候、何気にすぎていく事をふと気づかせる様に少し手助けをしてやって欲しいです。自然の大切さ、さからえない物である大きな物であると感じてくれたらと思います。
K 幼稚園	年中	母親	家庭では出来ない、集団生活における自然とのかかわりと持ってもらえればと思いますが、具体的にはどういったものか、わかりません。
K 幼稚園	年中	母親	季節を感じられること。また、ちょっとえーつと言いたくなるようなどろんこ遊び。(例えば、田んぼのように広いドロドロの中へ全身まいるくらいの。) 園外保育。
K 幼稚園	年中	母親	自然にふれあう所につれて行ってほしい。
K 幼稚園	年中	母親	園外保育の時間を増やす。(いろいろな自然のある所へ行って園ではできない体験をする。)
K 幼稚園	年中	母親	現在の幼稚園を始め世間全体が、だれておりますよね!! ”事なかれ主義”の代表みたいな教育現場、一体どうなっているのかと思います。何かが間違えておりませんか? 最近の先生方・・・もう少し教育という事を見直して頂きたいです。ただ”やさしい”だけが教育ではないと思います。
K 幼稚園	年中	母親	園外ホイクをもっとふやしてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	強制でなく、普段から身近に関わることでできる生活環境を整えて欲しい。(子供が気が付かない時は、なにげなく口添えしてあげる等、園だけでなく先生にも、お願い・・・)
K 幼稚園	年中	母親	外遊びをより長く、園外保育(散歩など)も積極的に取り入れて頂きたいです。
K 幼稚園	年中	母親	家では自然に向き合う時間が少ないので、虫とりや、あさい川などに行き、遊ばせてほしい 自然をうまくつかってしか出来ない遊びを子供におしえてほしい
K 幼稚園	年中	母親	・子供から幼稚園で、小動物、魚などの生き物を観察し、色々な感想を教えて聞かされているので、私としては十分だと思っています。 ・近所の子供さんが公立の幼稚園に通っているのですが、私立と公立とでの外遊びの多少の違いはありますが、子供の肌がいい色に焼けて帰って来るので、いいと思います。
K 幼稚園	年中	母親	専門家の先生などを迎えて Day キャンプなどをやってほしい! 又、自然素材を使って、昔ながらの遊びなども教えてほしい!!
K 幼稚園	年中	母親	・例えば、今の季節でいえば、青いきれいな空など改めて目にする事は毎日とは、ないと思います。その時にだけ感じられない風景などを、画用紙にクレヨンで子ども達が目でみて感じたまま絵に描く様な事もあればと思います。
K 幼稚園	年中	母親	泥んこ遊び等 家庭ではあまり体験出来ない様なことを遊びを通じて学ばせて欲しいと思います。
K 幼稚園	年中	母親	・自然を利用した遊びやこうさく(草をならす、押し花 etc) ・自然を通して食べ物、生き物の大きさを学べるような環境
K 幼稚園	年中	母親	園外保育の増進(通常保育で難しいのならば、夏期休暇等で希望者のみや保護者同伴でもよい)
K 幼稚園	年中	母親	屋外遊びを積極的にしてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	教室の中で絵をかいたり、歌をうたったり、踊ったりするのと同じように外遊びの中で、自然ともふれあって欲しいと思います。
K 幼稚園	年中	母親	園庭ばかりで遊ばせるのではなく、近くの山や川に行き、水をさわったり、どんな動物や植物があるのかを見たりと五感をフルに感じられる体験をお友達とさせてもらえればと思っています。
K 幼稚園	年中	母親	今で充分です。
K 幼稚園	年中	母親	実のなる植物などを栽培し、収穫して味わうといった体験をさせてあげて欲しい。
K 幼稚園	年中	母親	園外保育へ行ったりして、自然の中で遊び色々な発見をして欲しい。
K 幼稚園	年中	母親	山に登ったり、川で遊んだり
K 幼稚園	年中	母親	特にありませんが自然の中で発見することは多いと思うので触れ合ってほしいと思います。子供なりに何か発見すると思います
K 幼稚園	年中	母親	今の幼稚園は色々な体験をさせてくれるのでかなり満足しています。 あえていうなら遊具が良すぎること、できれば丸太の大きなスベリ台やジャングルジム、とにかく木で作られたシンプルな遊具を置いて欲しいです。自分達で遊びを考えられるようになればいいと思います。
K 幼稚園	年中	母親	子供が生物を大切にする様に、考えてもらいたい。 草花であろうと、虫であろうと・・・
K 幼稚園	年中	母親	今、園で飼っているニワトリの世話をだれかがしているのかわかりませんが、毎日のエサやりからそうじまで、園児の仕事にしてもいいと思いますし、園の畑等があるといいですね。がんばって自分達で育てたさつまいもやトマトは、とてもおいしく感じるでしょう。
K 幼稚園	年中	母親	園外学習など

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年中	母親	問 10 では一応解答しましたが、住まいが田園地帯の為他の子よりは、多く自然を体験していると思うので、特に希望はありません。
K 幼稚園	年中	母親	幼稚園の周りにはたくさん果樹があり一年を通して変化を見ることができます。果物は知っていても花や葉を知っている大人も少ないと思いますので、子供達に知ってほしいと思います。 又、田んぼがあるのなら泥んこ遊びもいいのではないのでしょうか。最近、ドロドロ、ベタベタを苦手な子を多く見かけます。抗菌のせいでしょうか？逆によごすの大きな元気な子もいますが、汚れたものを自分で洗うこともいいことではないのでしょうか。 家で教える事はもちろん大事ですが、友達の中でいい刺激を受けできなかったこともできるのではないかと思います。
K 幼稚園	年中	母親	自然と関わるということは、普段の生活の中で、身についていくものだと思う。(庭の水やりや野菜の苗の成長、飛んでくる虫をつかまえる etc) 特別、園にて望むことはないが四季の移り変わり行事をみんなで感じたり、楽しんだりできればいいと思う。
K 幼稚園	年中	母親	緑の多い環境を作ってほしい。 出来るだけ外遊びをさせてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	近頃の公園に歩いてハイキング等の機会が少ないように思います。水(川)あそび等。
K 幼稚園	年中	母親	今の子供は、室内で遊ぶ事が多いので、外で遊ぶ事を数多く、行ってほしい。
K 幼稚園	年中	母親	都会にくらしているわけではないのであえてあらためて自然と”積極的に!” というのもおかしいと思う。
K 幼稚園	年中	母親	園内だけでなく、園外保育ももう少しふやしてほしい
K 幼稚園	年中	母親	木の実などを食べてみる。 生き物にふれ、命の大切さの再認識 植物等を用いた工作や、苗をもって育てる機会も多くしてほしい
K 幼稚園	年中	母親	より多くの課外教室等を取り入れては、その際には、幼稚園に任せきりにするのではなく、参加可能であれば保護者が手伝いに出向く、または積極的な参加を幼稚園側から望んでも良いのではないかと思います。
K 幼稚園	年中	母親	・公園で遊ぶなど、屋外遊びを多くしてほしい。 ・親子で自然体験できる所へ遠足などで行ってみたい。
K 幼稚園	年中	母親	・季節ごとに行なわれる行事を大切に、実際に手にふれることで感じとることも多いと思うので、自然体験のできることをとり入れてほしい。
K 幼稚園	年中	母親	充分してもらっていると思う。
K 幼稚園	年中	母親	他の園の話を聞きますと、一日中裸足で過ごしたり、いちご狩りや潮干狩りに行ったり、週に一度お弁当を持って園外に出かけたリ・・・といろいろされておられるようです。 家庭でも忙しい中、主人がいろいろ努力してくれてはおりますが園のたくさんのお友達と体験する方がずっと楽しいと思います。人数が多いとなかなか難しいとは思いますが、できるだけ屋外で遊ばせてほしいと思います。
K 幼稚園	年中	母親	植物を育てその実を食べてみたり、生物を飼育しその様子を観察するなどして、自然と関わってもらいたい。(既に幼稚園で行なっているようです)
K 幼稚園	年中	母親	家では体験できないようなことを、子供に体験させていただきたいです。
K 幼稚園	年中	母親	家では体験できない田植えや、実になる木をたくさん見せてやりたい。
K 幼稚園	年中	母親	川遊びや山登り等を少ししてほしい
N 幼稚園	年中	?	園外保育を増やして欲しい
N 幼稚園	年中	父親	近くに武庫川などもあり尼崎市内ではまだ自然には関わられる時間は多いと思います。 私としては、自然に関わる行事をふやしていただきたいと思っております。
N 幼稚園	年中	父親	虫、植物、小動物の飼育。
N 幼稚園	年中	父親	・虫などを恐がらない事 ・動物を飼育させる
N 幼稚園	年中	父親	今後も遠足、野菜づくりなどさらなる発展を望みます。
N 幼稚園	年中	父親	自然と接する機会を多く取り入れてあげてください。
N 幼稚園	年中	父親	いも掘り、田植えなどの農業体験を取り入れて頂いており、良いことだと思っています。 管理が大変ですが、山遊び、川遊びなども考えて見て欲しいです。
N 幼稚園	年中	父親	・出来る限り子供の自主性に任せて欲しい。 ・自然は日々変化していく事の教育又それを発見し、体感できる素質の育成
N 幼稚園	年中	父親	・自然と接する機会を作って頂きたい。
N 幼稚園	年中	父親	幼稚園にだけ何か期待、要望するのではなく、私達でも出来るだけ参加して一緒に自然体験出来るようにしたいと思っております。 参加型のイベントを企画、提案していただき、出来る限り協力させて頂きたいと思っております。
N 幼稚園	年中	父親	全くなし。自然にふれあうチャンスはいつでもできる。
N 幼稚園	年中	父親	子供達で仲よくあそぶ事に関しては、幼稚園に期待しますが、自然と関わる事は特にない。
N 幼稚園	年中	父親	動物、植物を育てる、遠足、園外での活動
N 幼稚園	年中	父親	園外授業の増加(自然的)

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年中	父親	もっと外にでて、自然と触れ合ってほしい。
N 幼稚園	年中	父親	年に1~2度はそういうイベントを実施して欲しい
N 幼稚園	年中	父親	山、海、川などのレクリエーションを行ってほしいです。
N 幼稚園	年中	父親	参観日等に特別な授業をするよりも、普段のとおりの内容をして欲しい WEBカメラで授業の様子が自宅に居ながらに見れるといいと思います。
N 幼稚園	年中	父親	今回のアンケートの自然と言う意味がはっきりしない。子供が自由に遊ぶことも自然とするのか、アウトドアで遊ぶことを自然と言っているのかがはっきりしない。
N 幼稚園	年中	父親	昆虫や小動物の観察や遠足などを通じて伸び伸びと成長して欲しい。
N 幼稚園	年中	父親	動物や植物等自然と接する機会を増やしてほしい
N 幼稚園	年中	父親	いろんな物事を、おしえてあげてほしい。
N 幼稚園	年中	父親	安全第一でお願いしたいです。
N 幼稚園	年中	父親	遠足等で幼稚園の外に出ることがあれば、できる限り、自然に触れるような公園、植物園等へ連れて行っていただきたいです。
N 幼稚園	年中	父親	・林間学級（草・花の学習や昆虫採集） ・農業体験（田植やいも掘など）
N 幼稚園	年中	父親	私は虫がとても嫌いです。
N 幼稚園	年中	母親	田うえ時期など子供達にいねとかうえる機会があれば
N 幼稚園	年中	母親	家ではなかなか生き物を飼ったりできないので、園で体験できればいいなあとは思っています。
N 幼稚園	年中	母親	もっと自由に子供の目線で・・・ のびのびとできる時間を少しでも長く作ってあげてほしい。 みんなで何かするのも大事なので遊ぶ時ときちんとする時の差をつけて
N 幼稚園	年中	母親	菜園での野菜の収穫は食への感心が高まりとても良い。 引き続きお願いします。
N 幼稚園	年中	母親	夏は、水遊びが楽しいと思うので、川で遊べるような所で、少しでも、自然とふれ合えれば、子供も喜ぶと思う。
N 幼稚園	年中	母親	野菜を作ったり、又、虫をつかまえたりと野外に出て保育してくれたいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	今、幼稚園で家庭菜園などを行っているが、とてもいいことだと思います。
N 幼稚園	年中	母親	遠足とは別に近所でもいいので公園まで行って色々な遊びや観察等の経験をさせて欲しい。
N 幼稚園	年中	母親	農園はとてもいいと思っております。特に要望はありませんが、晴れる日はなるべく外で遊ばせてほしい。
N 幼稚園	年中	母親	・課外授業などを取り入れて頂きたいです。
N 幼稚園	年中	母親	花でもいきているということ。 育てていく事など花でも大切にしてくれるように指導を望みます。
N 幼稚園	年中	母親	全員泥だらけで遊んだり、家ではなかなかできないことをやらせて欲しい。 制服のままではなく体操服等に替えてどれだけよごれても平気なようにして思いっきり遊んで欲しい。
N 幼稚園	年中	母親	農園で玉ねぎやじゃがいもを収穫してきた時、とてもうれしそうでした。いつも食べている野菜がどういう風に成長して実がなるのかなど子供も興味をもちやすい身近なところから自然にふれていってほしいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	いろいろな体験、課外授業の実施 制服を着替えて、よごれても気にしないような遊びを取り入れてほしい 親子で行ける自然体験ができる場所への案内、情報
N 幼稚園	年中	母親	自然体験できる場所などの情報提供
N 幼稚園	年中	母親	だれとでも、なかよく、心（性格）がやさしい子供になってほしい。
N 幼稚園	年中	母親	・幼稚園の園庭だけでなく、もっと外に出る機会を増やして頂いたらいいと思う。
N 幼稚園	年中	母親	遠足などで、自然を体験できるような場所へ行ってもらえたらよいと思います。 どろんこ遊びなど、たまに、みんなでするのもよいことだと思います。
N 幼稚園	年中	母親	野菜などを育てる事もとても良い事だと思います。野外などに出ている体験が出来れば良いと思います。
N 幼稚園	年中	母親	園庭に咲いている草や花の名前を覚えてもらうことにより、自然に対する興味が出てくれればよいと思います。
N 幼稚園	年中	母親	勉強ばかりではなくて外遊びをたくさんする事が大切だと思います。また、幼稚園の園庭だけではなくて近くの公園でたまには遊ぶとかそういうのも大切だと思います。
N 幼稚園	年中	母親	・遠足の場所 ・絵画教室などではなくて木や草など園庭にあるものを絵にする。
N 幼稚園	年中	母親	園外に連れ出し、自然の多い所で遊ばせる機会を作ってほしい。
N 幼稚園	年中	母親	大根や玉ねぎ、じゃがいもなど収穫させていただいたり、牛乳パックを使つての工作などよく企画してくださり助かっております。
N 幼稚園	年中	母親	園外保育などで自然の虫や草花にふれさせたい
N 幼稚園	年中	母親	自然学習をやってほしい

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年中	母親	花、野菜 etc 育てたり、自然の中へ行ったり（いちご狩り etc）生き物を観察したりと体験できればと思います。
N 幼稚園	年中	母親	1人では上手にできなくてもみんなで努力すれば成し遂げることができるのを理解できるように期待している。
N 幼稚園	年中	母親	家庭ではできない自然遊び
N 幼稚園	年中	母親	別にないけど、なにごとにせっきよくてきにおしえたりふれたりかんじられたりなどのごときかいをあたえてほしいかな。命の大切さ自然のすばらしさ色々おしえてあげたいあげてほしい。おやでもいいが先生の方がよくきてくれそうだし、自分の気持ちもつたえてくれそう。 おやにいえないうことかぜったいあるから、先生ならいえるできると考えがあるのでおしえてあげてほしいかな。 先生もせっきよくてきに子供とかかわってほしいかな？今のこの時代だから・・・。
N 幼稚園	年中	母親	・家では、出来ないことをしてほしいです。 ・例えば、川とか海岸とか
N 幼稚園	年中	母親	安全第一でいろいろ自然を体験させていただけたらうれしいです。
N 幼稚園	年中	母親	園外に連れ出し、自然の多い所で遊ばせる機会を作ってほしい。
N 幼稚園	年中	母親	家庭では教えられない事を学んでほしい
N 幼稚園	年中	母親	家では出来ない大胆な遊びをさせてほしい 泥あそび等
N 幼稚園	年中	母親	ひらがな、カタカナが読み書きできるようになるといいなあと思う
N 幼稚園	年中	母親	自分達で植物を育てたり、園で飼っている動物の世話をする機械を作っていたけると嬉しいです。
N 幼稚園	年中	母親	自然と接する機会が少ないので、草花や動物の世話などを通じて、学んでほしいです。
N 幼稚園	年中	母親	家庭ではなかなか出来ない様な事など。 特別おもちゃがなくても身近に遊べる物が（楽しめる事）たくさんあるという事
N 幼稚園	年中	母親	ミネギのしゅうかくや、大根ほりなど土にふれあう機会をもって下さっています。 子供は土のついた野菜に大よこびしています。 遊びの中でももっと泥んこになったりできるといいなあと思います。
N 幼稚園	年中	母親	降園後はあまり時間がなく自然体験させられないので幼稚園内で自然にふれあう機会を多く作っていただければありがたいです。
N 幼稚園	年中	母親	大変だとは思いますがもっといろんな所につれて行ってほしい。課外授業のように・・・
N 幼稚園	年中	母親	幼稚園でできることは限られてしまうことがあると思いますが、自然の中での遊び方や危険なことなど教えて（子供たちに）いただきたいです。
N 幼稚園	年中	母親	”すくすく元気な子”に育ててくれればうれしく思うし、園でのキャンプは年長だけでなく年中位から連れて行って欲しい。
N 幼稚園	年中	母親	・キケンなこと以外なら関わってほしい ・どんなものにも命がありテレビゲームやゲームあんまりセッティングがきかず死というものを知ってほしい ・小さな生き物にも優しさを持ってほしい 以上要望
N 幼稚園	年中	母親	自然に触れたり、感じたり、考えたりできる時間を多くとってほしい。
K 幼稚園	年長	？	ドロンコになって遊ぶ楽しさを教えてやって欲しい。
K 幼稚園	年長	祖母	安心してのびのびと友人と遊んで欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	得にないが、父親参観等の行事を土曜日に行なわれる事について抵抗がある。
K 幼稚園	年長	父親	集団行動の規律など、家庭では絶対に教えられないことを学んでほしい。
K 幼稚園	年長	父親	幼稚園での生活は、今も昔もあまり変わっていないと思いますので、特にありません。
K 幼稚園	年長	父親	団体行動の大切さや、規則を守るということをきちんと教えて下さい。 自分勝手な行動から事故へつながります。
K 幼稚園	年長	父親	自由、活発な行動が行えるように、指導していただきたいと思っています。
K 幼稚園	年長	父親	幼稚園では、無理かもしれませんが、小学校では実施（要望）期待している事。 現在、何かと便利になっており、必要なものは、昔よりも更に、簡単に全て手に入る、揃う。その為、そのものの有り難さが、判りにくくなっている。このあたりを判る企画が必要、自然と積極的に関わられる様にする企画が必要と思います。 例えば、カレーライスをみんなでつくろう！各グループ分けをする（8名～10名程度） ・飯ごう炊さんの準備 ①マッチを使用し、木新聞等を使い、火を起す。②川の水でお米を洗う。③中火、強火と火加減を行い、ご飯を炊く。④炊けたご飯を皿に移す。 ・カレーの準備 ①野菜、肉など食材をカットする。②カットした食材を油で炒め、調味料を入れる。③水を加え加熱し、その後、カレーのルーを入れ、じっくりと煮込む。④飯ごう炊さんで、炊けたご飯の上にカレーを入れる。みんなで作ったカレーライスをみんなで頂く。 （目的、ねらい）

Q6. 最後にお子様と自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

			①現在の電気製品の便利さを実感（物を大切に）②みんなの協力があって、出来た、まとまりが出来る。（みんなの輪が出来る） ③普段何気なしに食べているご飯、料理作りの大変さがわかる。（先輩、親の偉大さ、大変さがわかる）④自分たちで、カレーライスを作ったという自信がつく。（やれば出来るという自信がつく）
K 幼稚園	年長	父親	・自然の中での遊び方、ルール ・草花。動物などの種類などを教えてほしいと思います。
K 幼稚園	年長	父親	園外での行動・活動。
K 幼稚園	年長	父親	月一度程度は授業の一環として自然学習の時間を設けてほしいと思っています。
K 幼稚園	年長	父親	仕事がいそがしいので子供とあまり時間がないけど、この時代もう少し少しくするようになってほしい気がする・・・
K 幼稚園	年長	父親	今の幼稚園のやり方で十分です。
K 幼稚園	年長	父親	動物や生きものを育てる教育をして欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	自然の中での遊び方や、団体生活での行動等を、身に付けられるような学習をしてほしい。
K 幼稚園	年長	父親	特に園内は、制限があるので、限度はあるが、自然を通じての創造、創出力を主としたもの。例えば何かを素手で、作り上げたり、友達と協力して、育てたり、「大きくなったり、出来上がったり、未来の姿を考える。」事。
K 幼稚園	年長	父親	個々の関わりでなく、みんなで協力し合ったりする友達との和も自然体験の中で、身につければ、ありがたいと考えます。
K 幼稚園	年長	父親	木で物を作ったり川遊び、山遊び等ゲーム等よりおもしろい自然遊びを多く教えていってあげて欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	今のままでよい
K 幼稚園	年長	父親	幼稚園では特に教え込むような事は必要ないと思っています。 友達どうしなどでまなぶことと思います 園内で体験するような事があれば見守るくらいいいのではと思います。
K 幼稚園	年長	父親	現在も、色々なことを体験させていただいているので、満足しています。引き続き、できる限り、子供達に、機会を与えて欲しいと思います。
K 幼稚園	年長	父親	期待として、先生方に、自分たちの教えてやれない（例 子供同士の遊びかたや団体行動）を、教えてほしい。 要望として、半年一回でもいいから、保護者同伴で、半日体験（自然工作といった物）をやしてほしい。
K 幼稚園	年長	父親	農家の田んぼ、畑などの体験学習
K 幼稚園	年長	父親	授業に自然体験学習等を取り入れて下さい。
K 幼稚園	年長	父親	遠足等で身近な所へ行き、自然とふれあえるような行事を多く取り入れて頂くのも良いかと思う。
K 幼稚園	年長	父親	近くの田んぼにカエルの卵を見に行く。山に入って虫とりする等。
K 幼稚園	年長	父親	・物作り、創造性（力）を付ける。 ・形にはまった教育をしない。 ・人と協力する事を教えてほしい。
K 幼稚園	年長	父親	自然の多くある場所に連れて行ってほしい 自然の物を使った、おもちゃや遊びをしてほしい
K 幼稚園	年長	父親	時々外へつれだして走り回らせて下さい。 先生方（大人）が用意した遊びのプログラムだけでなく子供たちが勝手に遊ぶ時間、空間もあればいいです。 どろだらけにする遊びもどろんさせして下さい。汗をかいていても寒さにふるえていても適当に放っておいてOKですよ。
K 幼稚園	年長	父親	現在のかのこさんのやっておられる事でも。「へーそんな事するんやええなあー」という事が多いので特に要望はありません。
K 幼稚園	年長	父親	外でおにごっこでも、虫とりでもいいので体を動かしながらいろいろな事を自分で学べるようにお願いします。
K 幼稚園	年長	父親	園は園での厳しさ、楽しさを教えてあげてほしい。手作り教室のようなものがあれば。
K 幼稚園	年長	父親	一人では無理でも、友達となら積極的に行動できることもあると思います。そこから自然に接する楽しさを学んで欲しい。そのチャンスを与える場となれば良いと思います。
K 幼稚園	年長	父親	植物、小動物等の生命の大切さを知ってもらうため、何かを飼育する事を要望します。
K 幼稚園	年長	父親	”ことなかれ主義”にならず、積極的にいろいろやって頂きたいと思っています。必要なら、親子キャンプとかも良いのではないのでしょうか？子供だけでなく、保護者も積極的に幼稚園と関わることで、身近で意志の通じあう関係ができると思います。 特に父親は母親と違って幼稚園と距離があるため、関われる機会があると嬉しく思います。
K 幼稚園	年長	父親	・自然のふれあいが出来るように、課外授業的なものをしてほしい。

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年長	父親	様々な面（特に危険防止）に配慮する必要があり、なかなか思い切った取り組みを取り入れることが難しい面もあることと推察します。保護者も参加・協力することによって、より多くのとり組みが可能となるのならば、（時間が許す限りになります）どうぞ提案頂ければ、と思います。また、幼稚園のみで完結するのではなく、それを受けて家庭でさらに発展的にすることができるような、きっかけ作り・動機付けになるような取り組みを期待します。
K 幼稚園	年長	父親	子供がたのしいと思うようなことをしてほしい
K 幼稚園	年長	父親	（すでにやっていたいただいているようですが、）生き物の飼育をする体験。また、生き物の自然の生育場所に行くこと。自然公園や博物館などの施設に行くこと。
K 幼稚園	年長	父親	最近の幼稚園の教育能力の低下を感じる。以前、見西宮の松本幼稚園に子供を通わしていたが、ここ神戸とのギャップを痛感する。教育には、王道も何もないと思います。当然、時間と手間がかかりかかものだと考えますし、この時期に教育の簡素化を行なうべきではないと思う。（例えば、”野外実習でトイレの多い子供は参加しないでください”と書面で書いてくる幼稚園の方針がまったく理解できない） 幼稚園の指導者は、将来の子供を育てているという自負を持って望んでもらいたい。そして、常に教育者としての能力をみがき、子供たちに接してほしい。 あまりにも、本当の（プロとしての）教育者としてのふがなさを感じている。
K 幼稚園	年長	父親	出来れば野外授業を増やしてもらいたいが、あまり期待せず、私自身ももっと積極的に、関わるようにします。
K 幼稚園	年長	父親	幼稚園は集団生活に慣れるための予行と考えているので自然体験を期待するより、人とのコミュニケーション、集団での行動等、一般常識を期待します。
K 幼稚園	年長	父親	水、虫、鳥等の色々な音（声）を自然の中でしっかり感じてほしい
K 幼稚園	年長	父親	キャンプなどを通していろいろな体験をさせてほしい
K 幼稚園	年長	父親	昆虫などの生物の種類を教えることはもちろん、いろんな生物が共存できる環境の大切さを考えさせるような教育を期待している。
K 幼稚園	年長	父親	自然体験もそうですが、幼稚園である様々な行事などの中で、友達や先生との関わりを大切に想ってもらいたいし、感じてほしいと子供には願っています。その中で、親の言葉も大切ですが、本人の感じる事を尊重してやりたいと思います。そんな意味でも、友人や先生を大切に思う事ができなければ、他人を思いやる気持ちが、自然と向き合う気持ちへとつながれば、うれしいと思うし、先生や友人の存在ってのは大事やないかと。 幼稚園で何を得るのかは本人次第なので、彼女に伝わる事はないですが、私や家族、先生や友人から伝わる物があれば、いいですね。言葉よりも、自然や、先生の想い、私達の姿勢から、何か伝わればと思います。 大人は、子供に対して、大人の目線から子供に接しがちですが、子供と同じ目線の位置から同じ方向を見てやってほしいと思います。小学校にバスケットを教えたんですが、子供に教えるより、たくさんの子供達から学びました。幼稚園や子供に期待する事より、自分自身が、そうである事で、伝わるものはあるのやと信じています。子供に言葉を発する前に、自分が、子供であった事をふまえて、同じ目線で話せばいいなと思います。たくさんの子供を預かって大変だと思いますが、娘を含め、皆の頑張りを、あたたかく見守ってください。
K 幼稚園	年長	父親	・自然の中での遊び方・ルール ・草花・動物などの種類などを教えてほしいと思います
K 幼稚園	年長	父親	子供達にとっては”触れる”事が大切ではないかと思います。 植物にしろ、生き物にしても、実際にさわらなくてもその様子を間近で観察し、興味が持てるような環境であって欲しいと思います。
K 幼稚園	年長	父親	野外活動、レクリエーション、ハイキング等の行事を増やし、先生方の知識を向上させる事が最優先で教育の立場で子供に対して、情報は多く、子供自身に決断させ、誤りがある場合は、メリット、デメリットを優しく、わかりやすく、指導し、個々の能力を向上させてほしいかな？
K 幼稚園	年長	父親	今の流れの学力思考ではなく、自由な発想で個々の想像力を高める様な生活をおくってほしい。
K 幼稚園	年長	父親	・虫や草花に触れる体験を希望します
K 幼稚園	年長	父親	限られた幼稚園のスペースでは限界があると思う。室内よりも屋外で遊ぶ時間は多ければ多い程いいと思うのですが・・・。
K 幼稚園	年長	父親	遠足を自然の中へ行くようにする。（水族館、とか動物園ではなく）先生方の知識、労力も必要
K 幼稚園	年長	父親	体験学習のとり入れ
K 幼稚園	年長	父親	先生方は私共以上に色々考えておられると思います。・・・ので、これと言って、期待はしていますが、要望はありません。
K 幼稚園	年長	父親	できれば園でそういう場（子供又は、親子が自然体験できる場）を設定して欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	年に1~2回自然体験学習（キャンプ等）を開催してもらえれば有難いと思います。
K 幼稚園	年長	父親	自然に対する好奇心はとても大事でそれを育てていくのはとても素晴らしいと思いますが同時に、自然の恐ろしさ（火や水の恐さ、近寄っては危険な場所、触ってはいけない植物、虫等）も教えて頂ければと思います。
K 幼稚園	年長	父親	・近くの川・山遊び等で自然ふれて欲しい。
K 幼稚園	年長	父親	草花をもちいた遊び
K 幼稚園	年長	母親	集団の中で自然と関わるのは、色々な考えが出てくるのでいい事だとは思いますが、まずは集団生活、集団行動、人とのコミュニケーションを学ぶ場所だと思うので幼稚園には期待していない。

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年長	母親	自分の子供が男の子であるせいかも知れませんがこれから先、男の保育士さんがもっと増えてほしいです。年に何回か程度でいいと思いますが、男の先生ならではの力を発揮して頂き、一緒になって虫とりや魚とり、泥んこになりながら秘密基地を作ってみたりと思いつきアウトドアな保育時間があっても楽しいだろうなと思います。
K 幼稚園	年長	母親	外遊び（年小、年中、年長みんなで） 遠足（年小、年中、年長グループに分けてして、それぞれの年の子と一緒に） 昔遊び（ドッチボール、花いちもんめ等）
K 幼稚園	年長	母親	身近に自然を感じることでできる環境づくりをお願いします。
K 幼稚園	年長	母親	園外保育を増やしたり、自然の中から拾い集めたものでものを作りだす内容を充実させてほしい。大人からあたえられる課題にとりくむだけでなく、子どもたちの中から、わきあがる獨創性、創造性をもとにして、日々の保育展開をしてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	団体生活における、規則正しい生活、けじめをきちんと教えていただきたいです。人の話をきちんと聞き、落ち着いた子になってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	・家から持って行った虫、生き物をみんなで世話して下さっているのが嬉しく思っています。 ・外遊びでも充分してもらい公園にもつれて行ってもらっていますので満足しています。
K 幼稚園	年長	母親	人数も多いし、小さいので何かと目が行きとどかないので大変だと思うので今は外でたくさん遊ばせたらよいのではと思います が・・・たまに、川や虫とりに行ったりするのもいいかなと思います。
K 幼稚園	年長	母親	小学校でも英語が取り入れられるようになってきたので、幼稚園でも英語が関係する歌やゲーム等遊びを通じて学べる様にしてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	今の時代自然とふれ合うことが少なくなり、幼稚園の保育時間に少しでも自然体験が出来るとよい要望します。
K 幼稚園	年長	母親	・自然の中での友達と楽しく遊べる遊び方を教えてほしい ・昔ながらのよい遊びを伝えてほしい
K 幼稚園	年長	母親	質問に対しての回答の仕方が大変むづかかった。
K 幼稚園	年長	母親	・いちご・ぶどう狩り参加 ・アスレチックなど自然の中の公園への遠足
K 幼稚園	年長	母親	家にいると、ついつい子供の行動に口を出してしまいますので、幼稚園にいる時くらいは、のびのび活動的になってほしいと思っています。多少のケガもドロンコもOKです。 その為には、幼稚園にいる間は、体操服で一日中過ごす様にしてほしいです。（お着替えに時間がとられて、大変ですが・・・） それ以外は、満足しています。
K 幼稚園	年長	母親	家庭では、出来ない集団生活、友達のかかわり。大勢で色々な事をする楽しさ、家とは違ったルール。
K 幼稚園	年長	母親	自然の中での遊び方がわかるよう指導してほしい。
K 幼稚園	年長	母親	安全に遊べるように、害のある植物を教えてください。
K 幼稚園	年長	母親	幼稚園は、集団で社会生活を行なう所であり、個人ではできない、自然と関わったときに、守っていくべきこと等を子ども同志で話し合える場を作って欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	園で色々な木々、昆虫などを見せてほしい成長している様子を実際に観察できるとよい
K 幼稚園	年長	母親	・簡単な自然の遊びの情報提供、体験があるといいです。
K 幼稚園	年長	母親	息子の幼稚園では、稲を育てたり、朝顔を育てたり、鶏を飼ったり草花や動物とふれあえるようにしてくれています。園庭が狭いように思うので近くの公園で思いっきり、森の中や基地等を作ったりして遊ばせてあげて欲しいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	月1回程度、徒歩遠足で、近くの山や川で遊ばせてほしい。園外に畑を借りて、畑仕事をさせてやりたい。
K 幼稚園	年長	母親	えんそくで、自然体験出来るような場所につれて行ってほしい。 水族園や動物園は小学校になっても学校から行くし、小さいころは家からも行くので。
K 幼稚園	年長	母親	キャンプや川遊びの楽しさ。自然のこわさ等学び自然に接する機会を与えてほしいです。
K 幼稚園	年長	母親	自然（草・木・虫・生き物）を大切にすること。 自然の恩恵を受けていること。 自然には季節の移り変わりがあること。 稲（米）野菜などを育てる楽しさ、大変さを感じることをクラブ活動でしていただいています。 自然のものを使って何かを作ってみる。 外で遊ぶこと
K 幼稚園	年長	母親	今通っている幼稚園には、特に自然を体験する事を望んで入れたわけではないので要望などは特にありません。山を歩くなどの自然体験をさせたいなら、それを特色にしている幼稚園にいれましたので・・・ 今通っている幼稚園は、動物の飼育もあるし、この間は、園庭のさくらんぼを食べた・・・とも聞いています。お泊り保育ではキャンプファイヤーもするそうなので、そういう体験は子供にとって貴重な体験だと思いますので今のままでも十分な気がしています。
K 幼稚園	年長	母親	クラブ活動、お泊り保育等いろんな行事があるなかで、いろいろな生き物の飼育など積極的にされて、とてもいいと思います。子供も幼稚園が大好きです。
K 幼稚園	年長	母親	虫に興味を持っているので、虫とりとかもさせてほしいと思います。

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年長	母親	鹿の子幼稚園の園周には、色々な木々、草、花、四季おりおりの自然の環境をつくり、園外保育でも自然に触れる事が多く、自然に対してとても大切にしておられるので、引き続き、お願いしたい。 これ以上望むことは、園や先生方の負担が大きくなるので、それ以上の事は、各家庭で充実させるべきだと思います。
K 幼稚園	年長	母親	今まで通りで充分。 (友達(年令差あり)といろいろな遊びの中から自然体験は学んで欲しいと思っている。)
K 幼稚園	年長	母親	ここは田んぼなども沢山あるので、つくしをとりに行ったり、田んぼの近くを散歩するだけでもいい。 ～狩りとかだけじゃなくて、毎日の中に少しでも自然が身近になるといいと思う。
K 幼稚園	年長	母親	時々園庭開放をして頂けると少し安心して遊ぶ事ができると思う。みんなと協力し合って考えたり、作ったりする場をたくさんあたえて欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	・自然がたくさんある広場や公園に連れて行ってほしい。 ・自然のものを使ったおもちゃや遊びをしてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	少し心配では、ありますが、大人の数が多ければ、川遊びをしたり、畑などに行って、野菜がどのようにして出来るかなど知って欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	もっと、自然にふれあえるように、畑の収穫や動物の飼育をしてほしい。 前にいた幼稚園では、園に畑があったため、園児と一緒に大根からじゃがいもやさつまいもを育てたり、幼稚園の中に大きな水そうを作り、色々な魚を、みんなで世話したりと男の先生も多かった為、様々な体験ができました。
K 幼稚園	年長	母親	山登り等、自分の足を使った遠足があれば、いいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	・木登り体験をさせてくれたり、公園や自然の多い場所に連れて行ってやってほしいです。
K 幼稚園	年長	母親	外あそびと室内あそびをバランスよくとり入れる。 植物や昆虫の飼育など。
K 幼稚園	年長	母親	草花、虫と関わる楽しさを教えてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	がだして遊ばせたり、おもいっきりどろにまみれて遊んだりして欲しいです。(家で体験できない事→皆でできる喜びを伝えてやって欲しいです)
K 幼稚園	年長	母親	家では出来ない事をどんどんやって頂きたいです。お友達がいる事で出来ない事でも出来る様になる事もあるのでは・・・
K 幼稚園	年長	母親	すぐ近くの実家が農家なので特に幼稚園には要望はありません。
K 幼稚園	年長	母親	課外授業を増やし、大人数でしか出来ないような遊びを増やしてほしい
K 幼稚園	年長	母親	木の葉や木の実(自然のもの)を使っての遊びを伝えてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	特に要望はないです。 現在、子供が楽しく幼稚園に通っているので・・・
K 幼稚園	年長	母親	田植えの体験や、野菜畑、果物畑の見学など、自分たちが食べている物がどうやって育てられているのかを見て学べるようなプログラムを取り入れてほしい。
K 幼稚園	年長	母親	園外保育を増やし、多少遠くても自然公園等で遊べる時間が増えてもいいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	自然という広い場所には先生の目がいき届かないような気もするので、特にはないです。 でも、もしできることなら、木のぼりやたべることのできる木の実などを食べたりさせてあげたい。
K 幼稚園	年長	母親	素足で、土の上を歩く感触や、泥遊びが、ただ汚いではなくて、道路に見たてて遊んだり、水のしみ込んでいく様子の面白さなど、土のぬくもりも、肌で感じて欲しい。
K 幼稚園	年長	母親	園外での散歩や遠足などを通して自然にふれるようにしてほしい
K 幼稚園	年長	母親	園内であそぶよりもっと園外で(遊具のない公園など) 散歩してほしい。園での行事も大事だとは思いますが、園での生活が行事中心ばかりになるのは、どうかと思います。もっと幼児自身が自由に活動できる様な時間があってほしいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	・自然の中での友達と楽しく遊べる遊び方を教えてほしい ・昔ながらのよい遊びを伝えてほしい
K 幼稚園	年長	母親	今の幼稚園はビオトープがあったり、いろいろな果樹があって食べる事ができたり野菜を育てたりと頑張って自然と関わらせようとしているし、隣に広い公園がある良い立地条件だと思う。 でも、幼稚園という作られたきれいな整いすぎた環境では大人の目からは良く見えても果たして子供にはどうか？ 子供は大人が気づかない事や何でもないような事に目を光らせている。 ただ雑草の生えた小道を歩くとか、少し水が流れている場所などちょっとみんなで「歩いてみる」だけでも大きな発見があったりする。
K 幼稚園	年長	母親	幼稚園には実なる木がたくさんあり、また動物も飼育しています。教室で虫を飼育したりもしている様です。 今、やってくれている事で十分満足しています。
K 幼稚園	年長	母親	外遊びを増やしてほしいです。近くの公園などにも積極的に連れて行ってあげてほしいです。
K 幼稚園	年長	母親	家で体験できない事と、幼稚園に求めすぎるのも、申し訳ない気がするが、自由に何でも体験させてほしい。泥んこになって遊ばせてやってほしい。
K 幼稚園	年長	母親	季節ごとの行事や風習など、家でできないことを教えてほしいです。 遠足は、ハイキングや山登りを取り入れてもいいのではないのでしょうか。

Q6. 最後にお子様と自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

K 幼稚園	年長	母親	園外保育をもっとしてほしい、森林があるところ、それだけでなく自然に近いところにつれていって草花木の葉で遊ぶ経験をさせてほしいです。人数が多いところなのでみんなで遊ぶおにごっこやかくれんぼ、花いちもんめなどをさせてほしい。そうすれば幼稚園に帰ってからも遊びを覚えていて自然に遊びだす子供と子供との楽しいつながりなども室内ゲームをする孤立する遊びがへると思いますので、ぜひ園外保育とみんなで遊ぶ遊びをしてほしいです。
K 幼稚園	年長	母親	幼稚園では制服（ブラウス・つりスカート・ズボン）のまま園庭で遊ぶ場合が多いので、動きやすい服（体操服）に着がえてからの方が好ましいと思っています。
K 幼稚園	年長	母親	現状で満足しています。
K 幼稚園	年長	母親	できるだけ自然にふれさせてあげてください。 園外保育などもあればいいと思います。
K 幼稚園	年長	母親	一日に自然体験といってもいろいろだと思います。ですので、やはり幼稚園には、家庭ではできないことを体験することができたらと思います。 例えば、親と離れて何かするとか、たくさんの友だちと同じ体験を同じ時にできれば、よいのではないのでしょうか。
K 幼稚園	年長	母親	私自身虫類が年を重ねるごとに苦手になってきているため園の方で昆虫などのふれあいの場を作っていただけると有難いです。触れなくても嫌という気持ちが少しでもなくなればと思います。
K 幼稚園	年長	母親	幼稚園での自然体験は限られていると思うので園外近郊に積極的に連れ出して欲しい。園外保育の単調さばかりでは魅力が乏しくなりいきいきした表情が消えていくような気がします。
K 幼稚園	年長	母親	水族館や動物園には各家庭で度々行くので遠足や特別行事として園で自然体験できるカリキュラムを導入してほしい。
K 幼稚園	年長	母親	子供のしつけと集団生活でも”がまんすること”をわからせたい
N 幼稚園	年長	父親	子供に自然での遊び方を教えてほしい。
N 幼稚園	年長	父親	「命の不思議さ、貴さ」を感じさせて欲しい ・種から芽が出、花が咲き、また種が付き、繰り返す。 ・ニワトリが卵を生み、ヒヨコが生まれる、ニワトリは死ぬといった体験を、少しでもさせられれば、良いかと思います。
N 幼稚園	年長	父親	遠足とかを積極的にこなして欲しい。
N 幼稚園	年長	父親	・触れる機会を増やしていただく事 ・物よりおもい出を大切にしてほしい
N 幼稚園	年長	父親	体験学習を増やしてほしい。
N 幼稚園	年長	父親	・草花や生物への愛情をもつこと。（育てること）
N 幼稚園	年長	父親	美しいものや自然に感動する心をもっともっと体験させてあげたい 川や海で泳がせたい
N 幼稚園	年長	父親	部屋で遊ぶ時間より、外で遊ぶ時間を多々作り色々な事を学ばせてほしい。
N 幼稚園	年長	父親	けがをさせないで元気にあそびさせてほしい。
N 幼稚園	年長	父親	幼稚園などでの、出来る範囲があると思うので、友達との協調性思いやりなどを感じてほしい。
N 幼稚園	年長	父親	親としては今の現状子供に自然体験をさせたい気持ちは十分あるのですがとても不十分です。子供が成長していくなかで、自然体験をする事はとても大切な事です。ぜひ、幼稚園の方で自然体験を少しでも関わられる場をつくって下さい。
N 幼稚園	年長	父親	現幼稚園では色々な事をさせており、特に要望はありませんが今以下にしないで欲しい。
N 幼稚園	年長	父親	遠足や遊ぶ時など制服ではなく体操服をもっと着せてほしいです。 休みの日が多すぎる。
N 幼稚園	年長	父親	なるべく外で遊ばせて欲しい（自然の有る所に、定期的に行かせてほしい）
N 幼稚園	年長	父親	限られた時間・空間の中では難しいと思いますが、いろいろ接する時間は必要だと思います。
N 幼稚園	年長	父親	いろいろな生物がいることを知ってほしい。 命の大事さを知って欲しい。
N 幼稚園	年長	父親	最近では、幼稚園からパソコンを習ったりする所がありますが、私自身はそれよりも、遊びを通して、自然を通して、学ばせることが大事にしたいと思っています。幼稚園の方から自然体験学習がありましたら、積極的に参加させたいと考えております。
N 幼稚園	年長	父親	町中の幼稚園に求めるのはムリな話だと思う。行政の町づくりから手をつけなければ、だから幼稚園の自然に対する取組について要望はない。
N 幼稚園	年長	父親	教育は本来、各家庭で行なうものだと考えます。他者に委ねようとは思いません。 団体行動の一環として受け止めています。
N 幼稚園	年長	父親	年に1、2度親子で自然体験出来る場を
N 幼稚園	年長	父親	近くに武庫川や六甲山があるのでそういう場所に連れて行っていただきたいです。
N 幼稚園	年長	父親	色々な経験をさせて欲しい。
N 幼稚園	年長	父親	事故、ケガの無い様に！
N 幼稚園	年長	父親	どんな事をして欲しいかというアンケートをとってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	遠足などでおたまじゃくし取りやメダカ取りなど体験させてやって欲しい
N 幼稚園	年長	母親	泥あそびの保育などとり入れてほしい。園外保育がもう少し増えてほしい。

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年長	母親	園の動物や植物の世話をご子供達のできる範囲で、どんどん参加させてほしい。
N 幼稚園	年長	母親	晴れる日は、みんな外で一緒に遊ぼう声かけて、先生が中心となって遊んでほしい。
N 幼稚園	年長	母親	幼稚園の現況を見る限り、園に全てを求めるのはコクな気がします。「自然」に対する興味のきっかけは親が考えてやりたい。園には今以上を望みません。
N 幼稚園	年長	母親	園外保育をしてほしい。
N 幼稚園	年長	母親	自然が身近にある事をふれさせてほしい。
N 幼稚園	年長	母親	今のままで十分です。畑で野菜をとったり、このような経験はなかなか出来ないと思うので、とてもありがたく思っています。
N 幼稚園	年長	母親	幼稚園外にもっと連れて行ってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	遠足、クラブ活動等色々つくふうされていると思います。
N 幼稚園	年長	母親	季節にあった自然体験
N 幼稚園	年長	母親	人数がいるので、大人が見守って子供だけで体験させてほしい。
N 幼稚園	年長	母親	自然とふれあえる場所に少しでも多くつれていってもらって、いろいろな体験をさせてほしい。
N 幼稚園	年長	母親	友達の中にもいろんな人がいて、病気がちでなかなか会えない子、毎日ケンカする子、仲良しの子、やさしくしてあげないといけない子、等感じてほしい。 そしてその人に対して自分はどうか接すればいいのか考えてほしい。(できれば行動も)。でもいつも他人のことだけを考えるのではなく、時には自分の意見も言い、時にはケンカも・・・いろんなことを体験して悲しい・楽しい・つらい等感情をはっきり親に伝えてほしい。その為に、天気の良い日はやはり運動場で遊んでほしいし、もう少し動物を飼ってほしいです。幼稚園や学校にいるありきたりなわとりやウサギでなく、身近な犬やネコでもいいと思います。今は家でペットを飼えないところが多く、犬やネコを恐がる子供が多いような気がします。幼稚園に犬でもいれば年長クラス位ならグループごとに先生と一緒に散歩させるのもいいような気がします・・・。動物のかわいさ、こわさ、世話たくさん感じることも出来ると思います。
N 幼稚園	年長	母親	自然と積極的に関わられる機会をもっとつくってほしい。先生を増やしたり、自然に詳しい人を参加してもらいたい。(子供にいろいろと教えたり、説明したりして好奇心を伸ばしてほしい) 園庭遊びばかりである。ので不満。
N 幼稚園	年長	母親	幼稚園だとあんしんなのでのびのびとあそびさせてほしい。のとべんきょうなどいろいろ教えてほしいです。
N 幼稚園	年長	母親	待機時間等を短くし、もっと園庭で遊ぶ時間を増やしてほしいです。そうする事で子供達も始まり、終わりのけじめがつかい様に習慣づけになれば良いと思います。
N 幼稚園	年長	母親	もっと外遊びを増やしてほしい。 園外の公園などにも行く回数を増やしていただきたい。
N 幼稚園	年長	母親	自然と関わられる機会をなるべく多くつくってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	・お金を出せば簡単に手に入る時代なので物作りの大切さ、遊びを通して人への苦勞、感謝の気持ちをもつ”心”を育てる園づくりをおこなってほしい。
N 幼稚園	年長	母親	幼稚園では、農園でじゃがいも、大根など収穫などで楽しいことをさせてくれます。要望としては近くの公園で虫とりとか、小川での川遊びなんかさせてもらえると楽しくて良いのではないですか？ 私にはどんぐりひろい、松ぼっくりひろいなんて楽しそうです。 冬は雪のある所で連れて行って、雪あそび・・・いいですよ。
N 幼稚園	年長	母親	人のまねをすることは子供は得意です 先生のまねをさせるのではなく、1つの事に子供達同志でどの位どんな意見がでるのか結果より経過を大切にしてほしい 例えば絵が完成しなくても最後まで本人にまかせるなど！
N 幼稚園	年長	母親	はだしてかけまわり、泥まみれで上にふれ、家に帰るとこてんと寝てしまう程、のびのび自分に遊ばせてほしい。
N 幼稚園	年長	母親	自由な発想のできるような自然体で行動できる子供に教育されてほしいと思う。
N 幼稚園	年長	母親	地域柄、虫とり、木の実あつめ、草花つみ、どれをとっても、それをするためにわざわざ家から離れた所へ連れて行かなければできません。 たんぼぼやしろつめ草などは雑草かもしれませんが、犬や猫のフンで、衛生面で気がかりです。その点、園庭は安心できるので、多少洗濯物がふえてもかまわないので水や土にどんどんふれさせていただけるとうれいします。
N 幼稚園	年長	母親	・広い場所での遊び。園庭が狭ければ公園に連れて行ってでも広い所で遊んだ方が良いのではないのでしょうか ・外遊びの時間を増やす
N 幼稚園	年長	母親	現代的な、大人にとっても便利なもの(エアコンひとつとっても、導入してしまったら子供が外に出て遊ぶ時間が減る事につながると思います。)を安易に導入する事はしないで、できる限り、昔のスタイルで、お年寄りから知恵を受け継ぐように昔のよい所を保育に取り入れてほしいです。
N 幼稚園	年長	母親	当園では農園がありよく土に触れています。クラブで飼育栽培もありますが、鳥インフルエンザでやめました。1年2回の遠足でも大変ですが、もしもできるならもう1回だけどこか公園でも連れて行っていただけたらと思います。
N 幼稚園	年長	母親	今のままでいろんな体験を幼稚園でされているのでじゅうぶんなので要望はありません。
N 幼稚園	年長	母親	時間にきちんとしすぎでは・・・ がんじがれめでまだしたいのにすぐに次の人になってしまったてのしくないまま、終わってしまった。

Q6. 最後にお子様は自然と積極的に関わられるようにするために、お母さま・お父様は幼稚園にどんなことを期待・要望しておられますか。自由にご記入ください。

N 幼稚園	年長	母親	遠足などで連れて行ってあげれば良いと思います。
N 幼稚園	年長	母親	園足など遠方にバスで出掛けなくてもいいので、季節的に出掛けでもよい時期には、近所の公園などに積極的に連れて行って指導者に自然体験をお願いしたい。
N 幼稚園	年長	母親	外に行く機会がもっとあればと思います。よく歩かせたりなど。
N 幼稚園	年長	母親	ケガのないように、子供が楽しめるように自然の良さを教えてもらいたい
N 幼稚園	年長	母親	<p>遠くまで、出かけなくても、近くの公園へ、虫とりに出かけたり、池の魚を見に行ったり、桜を見に出かけたり積極的にして欲しい。できれば、月1回計画を立てて頂いて・・・。積もった雪を見た事がない子供も多いので、雪遊びを親子行事にとり入れたり、しおひがりに行ったりとかも楽しいと思います。</p> <p>七松幼稚園は、畑での野菜の収穫体験をさせてもらえます。私も山舎でさせていますが、園でさせてもらえる所は、あまり聞かないのでとてもうれしい事です。子供も、喜んで調理に参加してくれます。</p> <p>子供達が、生き物を大切に命を大事にできるように、虫や動物を大切に育てて欲しい。必ず、子供達が、分担して、世話をしたり、先生方も、虫をさわれたりできるようになって欲しい。ただ飼っているだけじゃ意味がありません。</p> <p>将来、誰かを傷付けたりするような人にならないように、協力して欲しい。</p>

謝辞

本論文を大学院生活 2 年間で作成する中、ゼミの指導教官として、また人生訓を教えてください。くださる恩師として、修士論文という一生に残る作品作りを休日返上で熱心に、また温かくご指導くださった、嶋崎博嗣先生に心から深く感謝の言葉を申し上げます。そして、同じゼミ生として、本論文での分析指導を仕事の合間にして下さった渡部努先輩、様々な心配りをして下さった石井正邦先輩、そしてゼミの後輩ではありますが、人生の先輩であります山本美須代先生に心から御礼申し上げます。

私の大学院生活を支えてくれた同期生、私自身の研究の方向性に助言を下された、山田卓三先生や原体験研究会の皆様にも感謝しております。

最後に研究調査に協力して下さった、学校法人七松学園の七松幼稚園と鹿の子幼稚園の教職員の皆様と、尊敬する我が祖父、岡野敏雄園長に心から感謝しております。

今回の研究の成果を、幼児教育現場に還元し、健やかな子どもの育ちに役立てるように勤めさせていただきます。

本研究にあたって、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

平成 16 年 12 月 20 日

亀山秀郎